

BANK BOOK-KEEPING

A THEORETICAL AND PRACTICAL TREATISE

BY

FUJINOSKÉ MORRITA,

Formerly Professor at

The Nanking Higher Commercial School,

The Ningpo College of Law and Politics,

The Shanghai Shenchou College of Law and Politics.

日本
守田藤之助著

詳載
銀行簿記

上海
商務印書館代印

Printed by the Commercial Press, Ltd.,

Shanghai.

—
1915.

事 來 到
無 得
別 歸

(蘇
東
坡)

To the Tokyo Higher Commercial School

AND

The "Ta-ko" League of His Fellow Students

(in remembrance of their devoted co-operation in 1909)

This Book is dedicated

by the Author.

序

頃白友人守田藤子助君来リテ其著ハス所ノ漢
文銀行傳記書ヲ示シテ余ニ序文ヲ求ム 君ハ
夙ニ東邦往來ノ重責ヲ次テ自ラ任レ本校在學
ノ當時ヨリ或ハ東亞俱樂部 日華商學會
等ニ幹事トシテ交友甚ク廣ク或ハ單身粵南
燕北ヲ遊歴シテ彼土ノ民凡ニ親マレトヲカメタリ
業ヲ卒エテヨリ二年同學華友ノ聘ニ應シテ南
京寧波上海ノ各北乃門學校ニ赴キ隣邦ノ學

生ノ為メ教鞭ヲ執ルコト六年終始一貫洵ニ眞
摯ナル東亞研究者トシテ推服スル所ナリ

本書ヲ通閱スルニ結構周到ニシテ議論頗銳利
複雑ニ法則ヲ説キテ善ク其理論ヲ探索闡
明スル所大ニ著者一流ノ識見ヲ發揮セリ名詞、
撰定実務ノ手續等ニ至リテハ各國慣習ヲ異ニ
スルヲ以テ余ハ今之ヲ批評スルノ自由ヲ有セスト雖
著者多年ノ經驗ニ照シ其必スヤ現代中國
ノ実情ニ適應スルモノナクコトヲ信セシトスルモノナリ

今や東亞ノ經濟的興隆ハ一層重要ナル意義
ヲ有ス秋ニ方リ本書ノ出テ、金融機關ノ會計
整理法ヲ論ス余亦喜テ一言ヲ題シ世ニ推奨ス
ル所ナリ

於東京高等商業學校

大正四年初夏

法學博士 佐野善作識

中華民國四年三月十八日東友守田君訪予於上海中國銀行辦事室出其所著最詳銀行簿記一書予瀏覽一周見其內容豐富條理井然取精用宏洵於銀行學多所發明裨益良非淺鮮君習於祖國商業學校專攻部者久迨戾止吾邦先後擔任南京四明上海神州各校教務歷有年所以造就人材發明學理爲己任今又出其頻年心得詮次成書其効用不益宏歟茲當刊行丐序於予予不文未能闡發奧義僅就所知用弁數言於簡端云爾

浙江餘姚宋漢章謹識

序

序

親友守田藤之助君ハ夙ニ支那研究ニ志有リ明治四十年七月東京高等商業學校ヲ優秀ノ成績ヲ以テ卒業スルヤ南京高等商業學堂ノ聘ヲ受ケ海ヲ踰エテ西來シ中國學生提撕ノ任ニ當リ次デ寧波及上海諸校ノ教授ニ轉任シ今ニ到ルマデ數年多忙ナル校務ノ傍ラ善ク支那ニ於ケル商業事情ノ通曉ニ勉メ拮据黽勉至ラザル所ナク吾人常ニ其志操ノ強健研究ノ熱心ニ敬服シタリキ曩キニ中國學生并ニ實業家ノ指針トナルベキ完全ナル銀行簿記ノ無キヲ憂ヒコノ欠陥ヲ滿タスベキ著述ヲ企圖セラレタリシガ數ヶ月ノ日子ヲ閲シテ茲ニ上梓セラレントス深奥ナル蘊蓄ヲ傾ケ最新ノ

序

簿記學原理ニ基キ中國ノ現勢ニ適應スベク苦心ノ跡
歴然タルモノアリ其江湖ニ推薦ノ價值アル吾人ノ贅
說ヲ待タザル所ナリ喜ンデ一言ヲ呈シテ以テ序トナ
ス

大正四年三月

上海黃浦灘寓居ニ於テ

兒玉謙次

序

友朋聲氣之感無間遐邇矧以問學相印證其契合自非尋常之交所能擬其萬一游孫游學東瀛獲與守田君共業以科學相切劘數年如一日卒業歸國主江南高等商學教務時於校中特設銀行專修科復延君相助從事既久各以平日所習互相商略底於實用使學子有所依據以成其材至足樂也今與別三年於茲矣君又先後主講寧波四明專門學校暨上海神州大學君於簿記之學識驗優深且能引證吾國舊日之簿記參以世界最新之學說融會而貫通之現將前此所教授者詮次成書以餉來者實爲吾國簿記學之寶鑑也世之操吾業者及研究斯學者其珍重是編爲何如耶游孫獨愧南北奔走羈於所事未能復就君

序

序

分刊鈎稽有所增益回憶櫻花如雪海波照人聯襪踏譌薄
飲輒醉時光景如在目前質之君當亦低徊不能置耳

乙卯孟春

談荔孫識於南京中國銀行

自序

余東瀛人也曩曾卒業於東京高等商業學校本科該校組織本科之外有所謂專攻部者即專爲研究經濟金融學而設也余平生志願以發展經濟爲己任故進而從事於此然未及暮年文部省宣布法令取銷專攻部余心因之悒悒不樂以爲該校取銷專攻部殆因文部省欲推翻我母校十年來所提剋商科大學昇格案而無所藉口耳余遂糾合諸同志力抵文部省之用意始終堅持冀其省悟畢竟收回成命而余願雖償轉覺非計蓋學海茫茫非刻苦潛脩下幃自讀不爲功僅恃此二年專攻亦不過消費光陰增進我學問者殊屬有限余因此決意辭校歸家欲效董仲舒之面壁十年以成初志詎事有未可逆料者甫經一載即有華友數人由江南來書以教授中國學生見招因而翻然改日與其閉門獨學貽孤陋之譏何如來遊是邦資見聞之益且得與諸華友握手一堂而一涉足於平生夢寐縈思之友邦極目曠懷曷云不樂於是即慨然應江南高等商業學堂銀行科主任之聘乃未幾辛亥革命事起避難來滬行色倉皇之際又受聘爲寧波四明專門學校銀行科教授次年移任於上海神州大學銀行科前後六年歲月云邁海外奔馳徒攜鉛槧於學術教育仍無若何之結果對我母校及知友負疚良深乃者勉力蒐集平日所講授稍加修正彙爲數冊

自序

本書卽其一也。要皆提挈銀行簿記之大綱，雖不足稱爲完璧，而以供中國商學研究之需，及商界參考之用，不無小補。敢云心得，聊以解嘲。嗟我東方諸國，往昔皆視商爲賤業，士紳不屑爲之。此亞東諸邦民力凋敝，經濟羞澀之大原因也。以致大好山河實業世界一任泰西商賈蹂躪殆盡。彼蒼蒼者天，旣賦我東方諸國以經濟之物質，豈卽不產我以實業人材乎？所以近日熱忱之士爲之瘡口，嗥音號呼，聲類推廣，國貨獎勵，實業良有以也。西人有云：戰場之輸贏在砲後之人。Men behind the gun。吾東方諸國商戰之場，何日能有大將校卽 Captain of industry 崛起而輩出者耶？言念及此，不禁感慨係之。掬我胸懷而爲之序云爾。

民國四年正月下浣于滬北旅次著者自識

凡例

一本書之作悉憑數年實際教授之經驗而成。務期學理得以明晰。實務得以詳解也。當今東西各國通行之銀行簿記書。皆非中等程度之教本。不過供夜學講習之筆記而已。未免失於簡易。理論不精。所舉事例卑近。又皆不足深造。而於複雜之實務。頭緒紛繁。茫無把握。此學界所同憾。本書雖不敢謂能補其缺。然區區苦心。得蒙識者鑒諒。則幸甚矣。

二本書大綱。雖根據日本現行銀行簿記法。然如會計科目之分類。補助帳簿之樣式。及日締帳之廢棄等。並參以己見。至於卷首複式之原理。其說明法全出于創意。

三本書所定會計科目。不僅可供商業銀行之用。即其他各種特別銀行。亦包括在內。若學校用之爲教本者。則特別銀行之科目。略而不讀可也。

四關於他分行之整理法及結帳法。其手續繁雜。甚難了解。而從來通行之各種說明書。皆失之過簡。本書特詳細說明。當爲識者所首肯。

五中國貨幣未能統一。記帳之法甚爲困難。特於末章編述各種貨幣統一記帳法。以便實際應用。至於補助貨幣統一記帳法。由此尋繹。當可推測解悟。

六本書第三編實踐。本擬將儲蓄銀行。紙幣發行銀行。債票發行銀行。外國匯兌銀行等。皆

凡例

編成例題。惟此等特別銀行。在中國固有之辦法未能完備。且其營業之內情。亦難窺見。一切容俟他日再行修補。

七本書因譯專門名詞。頗費躊躇。蓋所譯名詞。須求與中國固有商業慣例所用名詞適宜。而不失原來之意義爲妙。有時所譯名詞。雖斟酌再四。尙恐於意義不能透澈發明。故每於專門名詞之下。添註英日名詞。爲後日研究外國書籍之一助。

八本書原稿多至六百三十餘頁。因印費過巨。每頁特列十四行。每行三十五字。又將第三編全部。用五號字刊印。約省去二百餘頁。略妨讀者眼簾。尙希諒之。

九與本書同時起稿。尙有外國滙兌及滙業銀行。約五百頁。又銀行論八百頁。銀行實務六百頁。暫存筐底。俟他日再付剞劂。

十本書大綱爲鎮江高君競齋所譯。又請寧波戎君夔向補譯。至資料之配置。辭句之改政。則由神州專門學校畢業生王君叔清。執勞月餘。始告厥成。又本書方付鉛槧時。適著者返國省親之期至矣。一切校對監視刷印之煩累。舉而委諸畏友平井眞次郎君。君本掌上海三井洋行會計。職務繁重。日無寸暇。乃剪燭深宵。而嚴加讎校者。將垂月餘。噫。苟非賴諸友生之情誼。本書幾無出版之望已。特附誌於此。以鳴謝悃。

詳最 銀行簿記目錄

東京高等商業學校校長 佐野博士序文

中國銀行上海分行長 宋漢章君序文

橫濱正金銀行上海支店支配人 兒玉謙次君序文

中國銀行南京分行長 談丹崖君序文

自序

凡例

第一編 緒論

第一章 簿記大意

第一節 複式之原理

第二節 簿記之應用

第三節 銀行簿記之必要

第二章 銀行大意

第一節 銀行之性質及業務

第二節 銀行之種類

第一項 由主要業務而視察之分類

(一) 存款銀行

一八

(二) 不動產抵押之貸款銀行

一九

目錄

一

(三) 動產抵押之貸款銀行.....	一九	(四) 匯業銀行.....	二〇
(五) 紙幣發行銀行.....	二〇		
第二項 由特別利便而視察之分類.....	二一		
(一) 商業銀行.....	二一	(二) 農業銀行.....	二一
(二) 工業銀行.....	二二	(四) 庶民銀行.....	二二
第三項 由法制上而視察之分類.....	二二		
(一) 普通銀行.....	二二	(二) 特許銀行.....	二三
(二) 儲蓄銀行.....	二八		
第三節 普通銀行經營之概況.....	三一		
第二編 銀行簿記法則.....	三五		
第一章 會計科目設定法.....	三五		
第一節 屬於負債之會計科目.....	四五		
第一項 對於內部之負債科目.....	四五		
(一) 股銀.....	四五	(二) 所有物減價填補公積.....	四七
(二) 倒賬填補公積.....	五〇	(四) 有價證券市價變動預備公積.....	五一
(三) 生金銀市價變動預備公積.....	五三	(六) 分紅平均預備公積.....	五四
(七) 一班公積.....	五五	(八) 法定公積.....	五六
(九) 職員酬勞金.....	五七	(十) 股東分紅.....	五八
(十一) 未付前期分紅.....	六〇	(十二) 餘利滾存.....	六一

第三項 對於外部之負債科目.....六三

(甲) 對於公眾者.....六三

(一) 往來存款.....六三

(二) 特別往來存款.....六六

(三) 定期存款.....六六

(四) 通知存款.....六七

(五) 證書存款.....六七

(六) 臨時存款.....六八

(七) 儲蓄存款.....七〇

(八) 匯兌存款.....七七

(九) 流通兌換券.....七七

(十) 應付來匯.....七九

(十一) 暫收票款先選.....八一

(十二) 暫收貸款先選.....八二

(十三) 紙幣收回託存資金.....八二

(十四) 發行債票.....八三

(十五) 未付償還債票.....八三

(十六) 未付債票利息及彩金.....八四

(十七) 承認外國匯票.....八五

(乙) 對於同業者.....八六

(一) 借用款.....八六

(二) 再貼現票據.....八八

第三項 暫定負債科目.....九〇

(一) 未付利息.....九〇

(二) 未經過扣息.....九一

(三) 暫收金.....九三

第二節 屬於資產之會計科目.....九四

第二項 所有權之科目.....九四

(甲) 不動產及其附屬物.....九四

(一) 營業用地基.....九四

(二) 營業用房屋.....九五

(三) 營業用器具.....	九五	(四) 沒收抵押不動產.....	九六
(乙) 有價證券.....			九七
(一) 公債票.....	九七	(二) 財政部證券.....	一〇〇
(三) 公司債票.....	一〇〇	(四) 公司股票.....	一〇一
(丙) 生金銀.....			一〇一
(一) 生金.....	一〇一	(二) 生銀.....	一〇四
(三) 外國貨幣.....	一〇〇		
(丁) 現銀.....			一二二
(一) 現銀.....	一二二		
第二項 債權之科目.....			一二三
(甲) 對於內部之債權.....			一二三
(一) 未繳股銀.....	一二三		
(乙) 對於公眾之債權.....			一二四
(一) 貸款.....	一二四	(二) 過期貸款.....	一二六
(三) 貼現票據.....	一一八	(四) 押匯.....	一二〇
(五) 往來過付.....	一二三	(六) 外國匯兌轉收票據.....	一二三
(七) 有息票據.....	一二四	(八) 收買民國票據.....	一二七
(九) 匯兌預約墊付.....	一二八	(十) 政府貸款.....	一三〇
(丙) 對於同業者之債權.....			一三〇
(一) 有期同業存出款.....	一三一	(二) 即還同業存出款.....	一三一

第三項 暫定資產科目.....一三二

(一) 未收利息.....一三二

(二) 暫付金.....一三三

(三) 創辦費.....一三五

(四) 現建營業房屋.....一三五

第三節 資產負債共通之會計科目.....一三六

(一) 他行 (二) 分行 (三) 總行.....一三六

第四節 屬於利益之會計科目.....一四二

第一項 資金運用上之利益科目.....一四二

(一) 貸款利息.....一四二

(二) 扣息.....一四二

(三) 有價證券利息及分紅.....一四三

(四) 存出款利息.....一四三

(二) 代收費.....一四四

(三) 現錢兌換利益.....一四四

(四) 有價證券經手費.....一四五

(五) 保護寄品費.....一四五

(六) 鑑定費.....一四五

(七) 其他信託業報酬.....一四五

第三項 臨時收入科目.....一四五

(一) 諸手續費.....一四五

(二) 債票中義利益.....一四六

(三) 雜項收入.....一四六

第五節 屬於損失之會計科目.....一四六

第二項 資金收集上之損失科目.....一四七

(一) 存款利息.....一四七

(二) 借入款利息.....一四七

目錄

五

(三) 再扣息.....	一四七	(四) 債票利息.....	一四七
(五) 債票彩金.....	一四八		
第二項 營業直接費之科目			
(一) 通信費.....	一四八	(二) 諸稅.....	一四八
(三) 匯票經紀用錢.....	一四八	(四) 債票紙幣發行費.....	一四九
(五) 營業雜費.....	一四九		
第三項 辦事費之科目			
(一) 薪俸.....	一四九	(二) 賬簿單據費.....	一四九
(三) 旅費.....	一五〇	(四) 修繕及保險費.....	一五〇
(五) 房租及地租.....	一五〇	(六) 水及燈油煤炭費.....	一五〇
(七) 紙墨筆費.....	一五〇	(八) 消耗品費.....	一五一
(九) 事務零用.....	一五一		
第四項 營業援助費之科目			
(一) 廣告費.....	一五二	(二) 調查及團體費.....	一五二
(三) 圖書費.....	一五二	(四) 學徒教育費.....	一五三
(五) 交際費.....	一五三		
第五項 臨時損失科目			
(一) 倒賬損失.....	一五三	(二) 雜項損失.....	一五四
第六節 損益共通之會計科目			
(一) 所有物質賣及評價損益.....	一五四	(二) 有價證券買賣及評價損益.....	一五四

(三) 生金銀買賣及改錯損益.....	一五五	(四) 外國匯兌買賣及評價損益.....	一五五
(五) 債票發行價格損益.....	一五五	(六) 他行匯兌殘額利息.....	一五五
(七) 總行(分行)匯兌殘額利息.....	一五五	(八) 貨幣市價損益.....	一五六
(九) 結賬損益.....	一五六		
第二章 主要賬簿組織法	一五七		
第一節 傳票	一五八		
第一項 傳票之性質	一五八		
第二項 收款傳票及付款傳票	一六一		
第三項 轉賬傳票	一六四		
第四項 傳票之效用	一七一		
第二節 日記賬	一七三		
第三節 附設日記賬	一七九		
第四節 總日元賬	一八九		
第三章 補助賬簿組織法	一九二		
第一節 普通商業銀行之補助簿	一九三		
(一) 關於存款之賬簿.....	一九四	(二) 關於貸款之賬簿.....	一九九
(三) 關於貼現之賬簿.....	二〇一	(四) 關於匯兌之賬簿.....	二〇五
(五) 關於代收票款之賬簿.....	二〇六	(六) 關於他分行往來之賬簿.....	二〇七

(七) 關於證券抵押品保存品等之賬簿	二〇九
(九) 關於出納之賬簿	二二二
(十一) 關於櫃機之賬簿	二二八
(八) 關於匯對票據之賬簿	二二一
(十) 關於庶務之賬簿	二二五
(十二) 關於文牘調查之賬簿	二二九
第二節 儲蓄銀行之補助簿	二一九
第三節 發行紙幣銀行之補助簿	二二〇
第四節 外國匯兌銀行之補助簿	二二九
第五節 英國普通存款銀行之賬簿	二三二
第六節 美國商業銀行之賬簿	二三九
第四章 日計表及月計表製成法	二四三
第一節 日計表	二四三
第二節 月計表	二四五
第五章 他分行往來賬目之整理法	二四九
第一節 他分行間往來及來款之區別	二四九
第二節 利息起算日	二五一
第三節 他分行間暫記與實記之區別	二五六
第四節 匯兌統轄記賬法	二六五
第一項 同行之彼此分行往來	二六七

第二項	分行與他行之往來	二六八
第三項	獨立分行及隸屬分行	二七一
第五節	匯兌尾之處分法	二七二
第一項	對於同一他分行而轉換其往款與來款	二七四
第二項	對於相異之他分行彼此轉換	二七六
(一)	他行與他行之轉換	二七六
(二)	同一銀行分行與分行或分行與總行之轉換	二七八
(三)	本銀行分行與他行之轉換	二八一
第三項	撥現法	二八一
第四項	輸送現銀法	二八四
第六章	利息計算法	二八五
第一節	貸款利息	二八五
第二節	定期存款利息	二八八
第三節	儲蓄存款利息	二八八
第四節	特別往來存款利息	二九〇
第五節	往來存款利息	二九三
第一項	尋常往來存款	二九三
第二項	往來過付	二九四
第六節	存出款利息	二九八

第七節 匯兌殘額之利息	二九八
第七章 結賬法	三〇〇
第一節 各行內部之整理	三〇〇
第一項 補助簿與總日元賬之對照整理	三〇〇
第二項 已到期科目	三〇一
第三項 暫收暫付科目	三〇一
第四項 浮懸科目	三〇一
第五項 所有物科目	三〇二
第六項 債權科目	三〇四
第七項 第一整理日記	三〇四
第八項 第一試算表	三〇五
第二節 總分行間之整理	三〇五
第一項 分行損益之處分	三〇五
第二項 未達往來之挪上記賬	三〇七
第三項 各行殘額之對照確認	三〇八
第四項 第二整理日記	三〇八
第五項 第二試算表	三〇九
第六項 第三試算表	三〇九
第三節 賬簿之結束	三一〇

第一項	主要簿之結束	三二〇
第二項	補助簿之結束	三二〇
第四節	賬簿之接續	三二五
第一項	主要簿之開賬	三二五
第二項	補助簿之開賬	三二八
第五節	損益處分	三二八
第一項	淨利分配	三二八
第二項	淨損處理	三三〇
第六節	營業報告	三二〇
第一項	呈告監督官	三二〇
第二項	報告股東	三二九
第三項	公告社會	三三〇
第八章	雜種貨幣統一記賬法	三三一
第一節	定價本位集中法	三三一
第二節	各地本位分立法	三三八
	(一)末日市價一律法	三三九
	(二)原生市價混用法	三四〇
第三編	銀行簿記實踐	三四三
第一章	事務手續之大要	三四三

第一節	銀行之分課組織	三四三
第二節	事務分掌通則	三五一
第三節	顧客須爲之順序	三五三
第四節	銀行須爲之手續	三五五
(一)	收納課	三五五
(二)	支付課	三五六
(三)	存款課	三五六
(四)	貼現課	三五九
(五)	代收款課	三五九
(六)	貸款課及抵押品課	三六一
(七)	匯兌課	三六二
(八)	他分行課	三六二
(九)	股票課	三六三
(十)	票據匯割課	三六三
(十一)	保護寄品課	三六四
(十二)	計算課	三六四
第二章	簿記實踐之通則	三六五
(一)	記賬上之注意	三六六
(二)	計算上之注意	三六八
第三章	商業銀行第一期營業例題	三六八
第四章	商業銀行第二期營業例題	三九七
附錄一	銀行簿記試驗問題	四一九
附錄二	銀行簿記參考書目	四二五
正誤表		
銀行簿記目錄終		

詳最
銀行簿記目錄終

詳最
銀行簿記 Bank Book-keeping

日本東京 守田藤之助著

第一編 緒論

第一章 簿記大意

簿記之學。當西歐十四世紀。於意大利之都市維尼斯 Venice 福洛倫斯 Florence 始得發見。是即今日所謂複式簿記方法之起源也。但上古未開之時代。人智幼稚。關於財物之授受。金錢貸借等之發生。人民任意摹擬方法而記錄之。以備他日之計算。此固必然之徑路也。西曆紀元前數百年埃及 Egypt 巴比倫 Babylon 之最古國。就其遺跡殘墟。已可測度。當日不過各人隨意。以幼稚之繪畫。或圖樣等短片之記錄而已。非記錄財產全部之變化。且前後顛倒。首尾不能一貫。以是他人不能了解。即有乖謬錯失。亦無由尋究。然至中世紀。意大利都市之勃興。商業機關漸臻完備。與各種商業方法。自然促進改良。或創設銀行。或發明匯票。孳孳推究。不遺餘力。而財產之有形無形之區別。債權債務之觀念。亦於焉明晰。當時應用所已發達代數幾何學之思想。遂案出爲財產記錄計算法。西曆一四九五年維

尼斯之僧 Luens de Burgo 所著之簿記書公於世。而斯學乃循序以進焉。

所謂簿記 Book-keeping 者。括言之。就金錢價值。觀察一個經濟主體而表示其明瞭正確之狀態。故將增減變化之一切現象。悉記錄之。以資計算也。

故苟適合此目的。不論用何方法。皆無不可。然今日學者之所公認。欲財物正確之計算。採用複記式 Method of double entry 爲最上之方法也。又欲思明瞭之記錄。宜用有一定格式之賬。此名之曰簿記。法探究此法則之所由來。又闡發種種法則之利害優劣。精益求精。則稱之曰簿記學。

晚近學者多注意於學理之方面。其研究程度。漸涉高尚。簿記之名稱。不免譴陋之感。然用會計學或計理學 Accountancy or Theory of Accounts 之名。則競相學習。視爲必要。不如昔日目簿記爲供給刀筆之事。已進爲高遠之價值。於商業學全體。大發光明。

簿記一科。原屬商業學之一門。爲實用科學 Practical sciences 也。故僅探求學理。而不諳法則。何能達簿記完全之目的。此實地活用所以視爲最重要。然活用之途。即在練習。謂之簿記術。苟能闡發深理。採用合宜。反覆溫習。此三方面相輔而行。實用科學。始稱完備。

(註)從來東西之學者。揭其定義曰簿記者 Art (術)也。或曰 Method (法)也。又曰 theory (學)也。蓋皆廬山

之側面觀耳。

第一節 複式之原理

複式原理之研究。則屬於普通簿記學及會計學之範圍。茲不具述。不過揭其大意。以供學銀行簿記者之參考。

第一 凡金錢價值之變化。由一個主體而觀。其結果必為資產與負債或損失與利益。例如

- (一) 某銀行(主體)收納存款現銀一千元。此即獲得增加『現銀』之資產。
- (二) 該存款由存戶之請求。還付現銀五百元。此即減少『現銀』之資產。
- (三) 某銀行由中央銀行借入現銀五千元。此即發生『借用款』之負債。
- (四) 該借款如到期限。還付現銀。此即減少『借用款』之負債。
- (五) 某銀行支付旅費五十元。『旅費』即銀行之損失。
- (六) 該『旅費』之中收還剩餘十元。此即損失之減少。
- (七) 某銀行收納利息二十八元。『利息』為銀行之利益。
- (八) 該『利息』發見誤算。還付三元。此即利益之減少。

第二 凡資產負債損失及利益之增減同時發生二種以上之相對現象。

前述之(一)銀行收納現銀之時。銀行之資產雖增加。同時發生「存款」之債務負債。不可不知。如斯完全表示其變化現象。一方增加銀行現銀之資產。一方即增加存款之負債。如(二)減少現銀資產。同時減少存款(負債)。

(三)亦如此一方發生借入款之負債。一方攜來現銀五千元。故該銀行之金櫃中現銀(資產)非增加乎。

(四)借入款(負債)之減少。同時現銀(資產)之減少。

(五)旅費(損失)之增加。同時現銀(資產)之減少。

(六)旅費(損失)之減少。同時現銀(資產)之增加。

(七)利息(利益)之增加。同時現銀(資產)之增加。

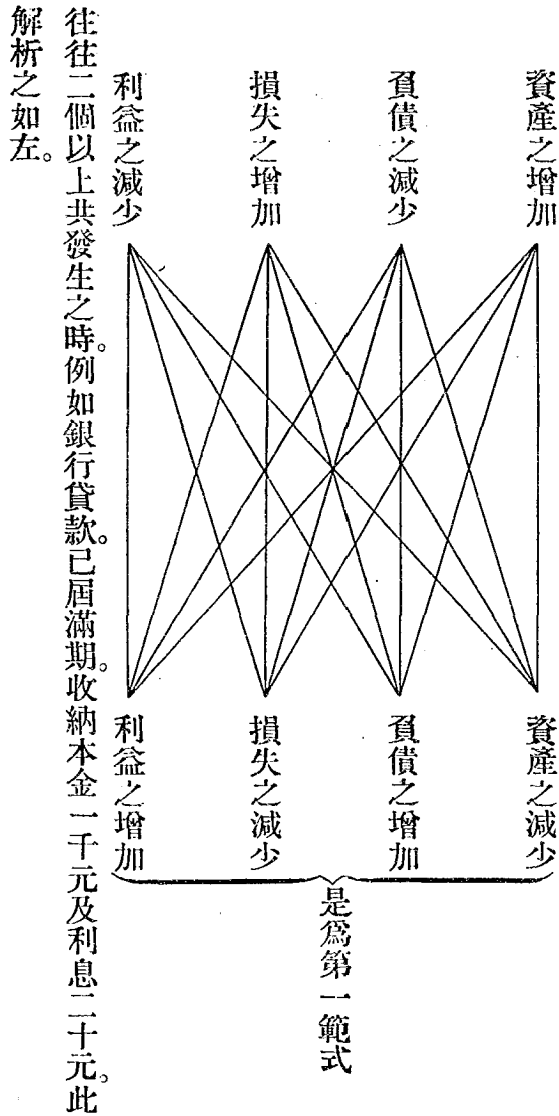
(八)利息(利益)之減少。同時現銀(資產)之減少。

指此資產負債損失及利益。稱爲財產變化之四原素。

第三 凡變化四原素之結合。有一定之法則。

例如(一)資產之增加。負債之增加相對而生。然無資產之增加而負債之減少同時發生。

者。又如(五)損失之增加。資產之減少。相伴而生。然無損失之增加而資產之增加同時發生者。結合言之。限於左之十六種。



然決無資產增加。同時負債減少。又損失增加。同時利益減少。又資產之減少者。換言之。即為負債之增加。故可合併。負債之減少者。即為資產之增加。故可合併。損失之減少者。即認為利益之增加。利益之減少者。即認為損失之增加。上揭之範式。變之如左。



第四 凡在複式簿記。乃擔任一個經濟主體之經營者。與資本主全為獨立。即經營者為簿記之主體。資本主認為局外人。

故雖資本主自身經營之時。其當初投下資金。經營者（簿記主體）認為由資本主借入。此為負債之一種。如營業結果良好。贏餘之時。結賬後當還付於資本主。虧蝕之時。投下資金減少。即當初負債之減少。換而言之。一切之損失利益者。皆歸屬於資本主。故由經營者（簿記主體）觀之。損失為資產元來借入之（負債減少）。利益為負債也。茲將變第二之範式如左。

資產——負債（是為第三範式）

故資產爲積極的狀態。而負債必爲消極的狀態也。一爲陽項 plus (+) 他卽爲陰項 minus (一) 也。簿記上假此爲借方 Debtor (略記之 Dr.) 貸方 Creditor (略記之 Cr.)

(註)借方貸方之名。襲用於世也。已久。此等「方」字日本古訓「人」之意也。所謂借方者借主之意。貸方爲貸主之意。卽等於英名 Dr 與 Cr 也。借主貸主素出於單式簿記 (personal accounts 人名科目) 之遺制。應用諸複式簿記上。其說明頗不免贅冗。今茲不取此原意。唯解釋之而爲借之方面貸之方面之義。蓋不過表示相對現象之一種符號也。

第五 凡屬於資產及損失之現象。則在借方。屬於負債及利益之現象。則在貸方。如此雙方相對抗。其金錢價值常爲相等。

關於貸借二字。初學者往往疑謂資產卽爲積極的狀態。何故置在借方。而負債卽爲消極的狀態。何故置在貸方。蓋簿記本以經營者爲主體。今由經營者觀之。各種資產均爲資本主代理收管。卽對於資本主經營者之借方也。又各種負債均爲資本主代理付出。卽對於資本主經營者之貸方也。其次借方與貸方之價值常爲相等者。以損失及利益。皆認爲營業主體對於資本主之資產負債也。其結果蓋出於一個主體內所有財產變化。不問何種。決非單獨而發生消滅。不過由一種狀態。遷移變化於他種狀態而已。猶宇宙間物質之變

化離合。雖爲迅速無常。然實覆載恒久。未曾一物之消長也。故記錄其變化之雙方而不遺。則其數爲常相等。當然事耳。

第六 將此四個變化原素所生之原因更細而別之。以資記錄之明瞭。及計算之便捷。稱此細別分類爲會計科目 (Titles of Account 勘定科目)。

例如稱一方資產增加。一方資產減少及利益增加。然按其原因。究不能明指。今現銀收納。貸款減少。且生利息云者。變化之關係。則已明瞭。此時「現銀」「貸款」「利息」稱爲會計科目。

第七 財產之變化現象發生之時。必解析其原因。結果以區別之。而排列於借方貸方。稱此曰分錄 (Journalizing 仕譯)。

其形式以借方科目記入於左側。貸方科目記入於右側。無他特別理由。因西人之寫字。始於左而終於右。其順序然也。猶中國固有之賬簿。收項記入於上欄。付項記入於下欄。同一理由也。

例如前例之變化。記錄之如左。

(借方)	現銀	1,020.00	(資產增加)	(貸方)	貸款	1,000.00	(資產減少)
					利息	20.00	(利益增加)

如一方有多數科目之時。如次之表示亦可。

(借方) 現銀 1,020.00

(貸方) 各項

貸款 1,000.00
利息 20.00

第八 會計科目者。由經濟主體之性質。不能同一。宜就該主體固有之變化原因。以擇適合於各科目之範圍。不能易於混淆及過於繁瑣也。

一會計年度內所使用之科目。前後一貫。不得任意變更。故同一性質之變化。常須同一分錄也。例如時而用貸款之廣義科目。時而用保證貸款信用貸款之狹義科目。則計算混雜。不能適分錄之目的也。

第九 分錄時會計科目之外。又如關係人名及簡單添註其理由。以備他日之查核。稱此為關係姓名及摘要註明。

例如前例完全以分錄之如左。

(借方)	現銀		(貸方)		
	貸款本利收納	某甲 1,020.00	貸款	第一號滿期收回	某甲 1,000.00
			利息	貸款第一號收利	某甲 20.00

註明者無一定之方則。只求簡單明瞭足矣。

第十 稱財產上一切之變化現象爲交易(Transaction 取引)交易者必同價值相對而後可記賬。

故簿記上交易之意義。則甚廣汎。無論營業賣買。支付薪俸。均爲一種交易。又逢盜賊。現銀被竊。亦爲一種交易。是何故耶。就前者而論。現銀科目在於貸方。同時薪俸科目在於借方。就後者而論。現銀科目在於貸方。同時臨時損失科目在於借方。故每種交易之發生。均有投報之關係。以此排列分錄於借方貸方。稱爲相對記賬(Cross entry)又借貸彼此稱爲對手科目。

第十一 所分錄之交易。乃記錄於分錄賬及元賬。

分錄賬(Journal 仕譯賬)者。又稱爲流水賬。將以上之分錄。按於交易之發生。一一順次。臆記之。元賬(Ledger 元賬)者。又稱爲歸戶賬。一賬簿中。就各科目分配數頁。以設部門。稱此部門曰賬戶或賬位(Accounts 口座)分錄賬之款數。悉依會計科目。臆記於元賬之該賬戶中。稱此爲轉記(Posting 轉記)。

第十二 元賬者。當日日統計之。又每星期。每月。統計之。更至會計年度之末日。而結賬。結賬之結果。作種種之統計表(Statements)且適宜處理淨損淨益。

結賬之時。須就實際之財產。一一檢查之。其數量及價值。均當與賬簿相符合。

複式簿記之分錄。已爲借貸相對。且各種賬簿之完全聯絡。由於順序整齊。當結賬之時。苟計算有不符之處。可順次推究。不難檢出。結賬統計如已成途。一年度內之損益所由來。交易之多寡。現在資產負債之狀況。不假分毫。瞭如指掌也。乃可處理淨利淨損。安意分配。此較之彼斷片的記錄單式法。其效能與價值。洵爲霄壤之差也。

第二節 簿記之應用

既得原理。不能無應用之途。原來由商業所發明複式簿記。卽應用於工業農業。更一轉而用於非營業性質之經濟主體。如政府及家庭等。效果之顯著可想見也。

現今所行於世。概括之如左諸方面。

普通商業簿記（主指賣買業）

銀行簿記

保險簿記

鐵路簿記

海運簿記

工業簿記

鑛業簿記

農業簿記

官廳簿記

家庭簿記等

此等簿記其種類雖繁多。然根據於複式之原理。一而已矣。然則如斯名稱之異。是何耶。蓋

由經濟主體之性質不同。應用之方法各異。保險業與鑛業。其交易原因。全為不同。故會計科目亦因而異也。賬簿之格式及組織。當因宜而制之。譬如於工業之製造廠。原料品之採購。製成品之販賣。職工之監督。以及加工製作等。皆當適合此種營業。以摹擬方法。又於農業之經營。土地肥料種子傭工貯藏等事。以求明瞭記錄之方法。又在政府之官廳簿記。豫算及實付數最為切要。在家庭簿記。開支用途最當注意。晚近各方面之專門家。研究之結果。普通之簿記原理以外。以至特別發達。就彼工業簿記原價之計算 Cost account。官廳簿記中。會計科目之分類系統 Classification of accounts。保險簿記之未經過保險費 Premium carried over 及保險費公積 Premium reserve。工業鑛業鐵路等之簿記所謂減價填補 Depreciation。商業簿記之共同販賣 Joint account 及分課計算 Departmental accounts 等。皆其特色之最顯著者。且商業簿記之中。批發專門之舖莊與零賣店。自有區別。農業簿記之中。牧畜與養蠶業。亦有區別。故依所經理之商品。營業之規模。地方之習慣等。無不悉得其宜。而其例之千差萬別。實不遑枚舉也。

第三節 銀行簿記之必要

若然吾人從事於簿記之學。則上述許多之應用方面。一時不能全行學習。例如就今地方

及中央各種商業學校之教授課目觀之。第一年先略論一般簿記之原理。實習簡單之商業簿記例題。以示其應用。次年教銀行簿記。若有餘裕時。始續講工業簿記。

如是獨銀行簿記。爲學生必修之課目。而其他之保險鐵路等之簿記。特任從事其業務者研究之。一般學生所以略去之者。有三故焉。

第一 銀行業係金融之中樞。不論何種事業。苟欲活動於經濟社會。而非通曉銀行業務之內容。則究難望其事業之發達。况在修商業學經濟學之學生。關係最密切。

第二 在現今所謂商業簿記之課程。注重原理之說明。其應用方面則無暇詳解。是以不過示個人營業最簡單之賬簿組織而已。若夫規模稍大。係股份公司之組織。內有多數分課 *Departments*。外有各地分行 *Branches*。及往來經理店 *Agents or correspondents*。此種營業。最尙具有統一聯絡之妙諦。是須特別教授之。

第三 複雜之股份營業。其種類無限。保險業海運業等皆屬之。然其業務之範圍。及整理之方法。各家公司頗有特色。雖均稱之曰鐵路公司。甲家公司之賬簿與乙家公司之賬簿。迥然相異。故難示一定之模範的適例。而在銀行業則反是。其業務之範圍一定。且各國政府之監督嚴重。有種種詳細條例。因要求整一之報告。各銀行之賬

簿。自相近似。而達於完備之域。故於教授上最爲適切妥當。

以上三條之原因。實推銀行簿記於商業學科中。爲必要不可缺者。藉令非直接從事於斯業者。苟入實業界大公司。欲擔任其統一的分課組織之會計者。須先就此研究其模範的簿記之梗概。

銀行簿記。較他種事業之簿記。尤爲劃一整備。前已述之矣。然就中其形式之最完美者。其惟日本歟。蓋日本距今約四十餘年。明治維新之政治發現。社會之組織一變。萬物革新。所謂泰西之公司營業。其方法漸次移入。新式之銀行。亦勃然發生。此時該國之大藏省（財政部）以國人尙未熟練此種新式事業。而一時流行。深慮後日事務混亂。惹起監理之困難。特聘英國人 Allen Shand 氏。以指導部員。使其研究先進諸國之銀行。採長補短。遂按出一模範的銀行簿記法。繼開設傳習所。而普及其法於全國。

（註）明治六年十二月。大藏省出版之銀行簿記精法者。卽係 Shand 氏所著。實爲該國銀行簿記書之嚆矢矣。

爾後發布銀行條例。同時施行細則。銳意劃一制度。努力實行。今之簿記法緣行內實務手續及營業報告書之形式等。全國凡二千之商業銀行及貯蓄銀行。悉同其軌範。

顧察中國之現狀。已於前清時代。光緒三十四年正月十四日。奏定銀行通行則例十五條。

大清銀行則例二十四條。殖業銀行則例三十四條。儲蓄銀行則例十五條。民國締造後又有中國銀行條例。勸業銀行條例。交通銀行條例等各則例。概準據日本現行者。表面亦大可觀。唯惜當局尙未解銀行制度劃一之眞意義。民間亦無認真研究之專門學者。終至施行細則未制定。簿記法亦無何等之成案。混沌至於今日。且新近陸續創設各地之所謂銀行者。其名爲新式。又其外觀。雖洋房巍然崇大。然攷其內容。則執務之手續。賬簿之記入。依然不脫舊式票號錢莊之域者。所在皆是。

中國今日不憂無銀行。唯憂無信實之經營方法。而信實之經營方法。則須置其基礎於正確之簿記法。此時須廣覽歐美之方法。據日本之折衷制度。且參酌中國特有之習慣。創造一模範之簿記法。實爲刻下之急務。本書雖未經十分推究。然爲中國銀行簿記法之前驅。開商業學生研究之一端。則亦望外之幸耳。

第二章 銀行大意

銀行簿記。係爲銀行業務之記錄計算。苟不諳銀行業務之大要。直說其記錄計算之方法。是猶如不踏其地。而聽彼地之地理相同。又不免有如霧裏探針之感。故茲以下。略述銀行業之大意。以爲銀行入門之徑途。

第一節 銀行之性質及業務

銀行(Bank)者依自己之名號以信用爲基礎。周轉各種之資金爲其主要業務之機關也。在往時經濟之未發達時代。則未有如今日之銀行。僅以混雜之各種銅錢及銀錢之兌換。或爲金銀之冶鑄而已。及後經濟進步。同時一面資本之蓄積益多。須要寄存之安全機關。一面又以各種事業之發達。需用資本甚大。遂切望供給之機關。故此等之兌換店。又鑄金店。介立於其間。以使資金周轉而爲之媒介。其後信用制度發達。銀行因此發現紙幣或支票等。爲代用資金之便法。愈擴充資金需要供給之能力。今經濟界各種之事業。皆與銀行有密切關係。其勢力遂影響於一國之隆替。

銀行所營之業務。依各國各時代。互有特色處。從未有一定者。然現代文明諸國之銀行。普通所經營者。大約如下。

第一 由收集資金之方面觀察之

一、募集資本金

二、招集存款

三、借款

四 發行紙幣

五、發行債票

第二 由支放資金之方面觀察之

一、貸款

二、票據之貼現

三、公債票股票債票之賣買及承攬

四、生金銀及外國貨幣之賣買

第三 由媒介周轉資金之方面觀察之

一、寄匯

二、代取款項

三、外國匯兌

四、現錢兌換

第四 由信託業務之方面觀察之

一、公債票股票債票之被託賣買

二、公共團體欲發行公債時。或公司之創辦時。及其欲發行債票時。代理其事務。與本利之收納支出。

三、貴重品之保護寄存

四、財產之代任管理

然此等之業務。非一銀行悉營之者。因設立之目的。各異其注重之方面。故銀行之種類。由此分出。

第二節 銀行之種類

銀行之種類。依視察方面上而不同。今試列舉如左。

第一項 由主要業務而視察之分類

第一 存款銀行 (Bank of deposit)

此專以存款爲營業資金之泉源者。普通銀行。皆屬於此類。是等銀行。平時經營最煩者。爲往來存款。故或名之曰往來存款銀行。往來存款。可以隨時提取。故銀行須常準備其支付。其運用此資金時。必不可以長期固定之方法而放出之。當以短期貸款及貼現票據爲放資之主要目的。所謂貼現銀行 (Bank of discount) 者。即因是而稱也。

第二 不動產抵押貸款之銀行 (Bank of land mortgage)

此專以土地房屋等不動產爲抵押品。放資於長期而使按年攤還。以圖農業上金融之便利者也。農業家財產。多屬不動產。較之商家等營業上利益稍薄。且收回資金之期亦遲緩。故欲開拓其金融。必須具備以下三要件。

(一) 以不動產爲抵押品。

(二) 期限長而利息抵。

(三) 許其按年攤還。

此種貸款。負有隨所需而卽付之債務。(如往來存款)乃普通銀行所不樂爲。故爲之特設一不動產銀行。以獎勵其產業。

第三 動產抵押而貸款之銀行 (Bank of loans on movables)

此專以工業公司之股票債票爲抵押而放款。或依保證而任其股票債票之發行。以謀工業上金融之便利者也。

普通一班公司之營業者。不能於兩三年內。希圖厚利而收回其投下資金。彼銀行欲收回此資金。亦不能不期於數年之後。故亦普通銀行所不樂爲。特爲之設此專業銀行。以有價

證券爲抵押而貸款焉。

前項不動產抵押之銀行。與此動產抵押之銀行。放出資金後。其收回期限。均易遲緩而固滯。故收集此供用之資金時。亦必須有長期之條約。至普通存款提存無常。無可憑賴。故國家對於此種銀行。特許其發行已繳資本金數倍之債票。以充營業資金。因是而兩者併稱。亦名爲特許債票銀行。

第四 匯業銀行 (Bank of exchange)

匯兌本爲銀行之附屬事業。故普通銀行亦皆經營之。不能稱爲主要業務。雖然。關於國際間之匯兌。則各國貨幣之市價。日日騰落。經營其事者。必須具有特別之智識。通聲氣於四方。彼此聯絡而後可。因是而設此專業銀行。以圖外國貿易上之便利。今上海及其他通商各埠之外國銀行。均屬於此類。

第五 紙幣發行銀行 (Bank of issue)

此乃根據於法律而有發行紙幣之特權者。普通銀行之營業資金。專仰給於存款。至此種銀行。則發行紙幣而吸收之。往時普通一班銀行。均可隨意發行紙幣。但近來非得政府之許可。不能發行。所以圖國內通用貨幣之統一及其安全也。

第二項 由特別利便而視察之分類

第一 商業銀行 (Commercial bank)

此專以往來存款短期貸款及貼現等事爲主要業務者也。商業家最沾其利便。現今各國所謂普通銀行或存款銀行者。大概均屬於此。

第二 農業銀行 (Agricultural bank)

此乃因獎勵農業之目的而成立者。專以不動產抵押長期貸款爲其主要業務。如農民自己無妥實之不動產。則該銀行亦可融通。使之聯結數十人。同負聯帶責任。而貸與相需之款。以圖其便利焉。

第三 工業銀行 (Industrial bank)

對於工業公司製造工廠之股票債票。而貸以相需之款。或保證而擔任其發行。以爲工業進步之後援。或包括此種工廠所有之廠屋。機械等不動產。視爲抵押而貸與之。並有監督其經營者焉。此外建設鐵路、開採礦山、修築港塢等事業。亦可應其必需而供給以資金。

第四 庶民銀行 (People's bank)

以上爲農工商各階級之補助機關。秩然大備。雖然。其能利用之者。多爲中等以上之農工

商家。彼中等以下小產業家。個人之信用薄弱。無所憑賴。乃由同一希望者。用相助之方法。籌出一定之資本。組織團體。然後再依團體之信用。向外借債。應團體員之相需。而供給以資金。此方法本非營利目的。不過相互救助之主義。稱曰銀行。似欠妥當。故日本稱之曰信用組合。今暫以歐西俗稱。加入於此分類中。又或有就外國文而直譯曰。國民銀行者。更無足據矣。

第三項 由法制上而視察之分類

此乃視其設立時。遵據何種法律而定者也。但各國法制不一。分類亦自相異。中國自民國創造以來。關於各種銀行則例。尙未全行頒布。如中國銀行則例。勸業銀行。殖邊銀行。交通銀行。其已頒布者。至於未頒布者。則仍用前清之則例而說明之。大別之爲三類。

第一 普通銀行 (Ordinary banks)

是在各國。遵據一班銀行適用之通則而設立之銀行也。中國前清光緒三十四年正月十六日。頒定銀行通行規則。限三個月後實行。其內容之第一條如次。

凡開設店舖。經營左列之事業。無論用何店名牌號。總稱之爲銀行。皆有遵守本則例之義務。

- 一、各種期票匯票之貼現
 - 二、短期拆息
 - 三、經理存款
 - 四、放出款項
 - 五、買賣生金生銀
 - 六、兌換銀錢
 - 七、代收公司銀行商家所發票據
 - 八、發行各種期票匯票
 - 九、發行市面通用銀錢票
- 此種銀行。專爲一班商家而圖便益者也。故亦可稱曰商業銀行。各國中銀行之屬於此類者。十有八九焉。

第二 特許銀行或曰特別銀行 (Chartered banks or Special banks)

所謂特別銀行者。於銀行通行規則以外。另設特別條例而制定之銀行也。其種類內容。隨各國國情而異。中國之此種銀行約有四種。

甲 中央銀行 (Central bank)

所謂中央銀行者。在一國之中。獨占發行紙幣之權利。而經理國庫金之唯一銀行也。位居乎全國銀行業者之首。由普通銀行而收存款。或貸之以款。應市面金融之緩急。調和之。節制之。又爲國家財政機關。代理其收支。發行信用確實之紙幣。以圖國民經濟之便益。其職務如是重大。必須有特別法規而監督之。故政府之干涉較甚於普通銀行。俄國瑞典均係官辦。英法德日本則官督商辦。而處以嚴密之法規。據中國銀行法律。中央銀行。前爲大清銀行。今改稱爲中國銀行。The Bank of China 其新條例。民國二年四月十五日公布。大略如下。

(組織) 股份有限公司

(一) 國庫證券、商業確實期票及匯票之貼現或收買

(二) 辦理匯兌及發行期票

(三) 買賣生金銀及外國貨幣

(四) 經理各種存款。並代人保存證券票據及其他一切貴重物件。

(五) 代素有交易之銀行公司商號及個人。收取各種票據之款項。

(六) 以金銀貨及生金銀。作抵押爲借款。

(營業)

(七)以公債證書或政府發行證券或政府保證之各種證券作抵押為定期或活期借款但其金額及利率須經總裁副總裁董事監事隨時議決並財政總長之核准。

(一)得發行兌換券

(特權)

(二)受政府之委託經理國庫及募集或償還公債事務

(三)有代國家發行國幣之權

正副總裁各一人簡任任期五年

董事 九人選任任期四年

監事 五人選任任期三年

監理官 一人部派

(職員)

乙 交通銀行 The Bank of Communications

民國三年四月七日公布則例二十三條大要如左。

(組織) 股份有限公司

(一)國內外匯兌及跟單押匯

(二)各種存款及儲蓄

(三)各種放款

第一編 緒論 第二章 銀行大意

(營業)

- (四) 國庫證券及商業妥實期票之貼現
- (五) 兌換外國貨幣及買賣生金銀
- (六) 經理各種票據及保管貴重物件
- (七) 其他匯業銀行及實業銀行應用之營業

(特權)

- (一) 掌管特別會計之國金庫
- (二) 得受政府之委託分理金庫
- (三) 受政府之委託專理國外款項及承辦其他事件
- (四) 得受政府之特許發行兌換券

丙 勸業銀行 The Bank of Hypothecation

民國三年四月七日大總統批准

(組織) 股份有限公司

(目的) 以放款於農林墾牧水利礦產工廠等事業為目的

(放款方法) 一、用分年償還法。以不動產為抵押。其償期不得逾十年。

二、用定期償還法。以不動產為抵押。其償期不得逾五年。

(勸業債票) 資本金繳足四分之一以上時。得發行勸業債票。但不得超過資本金繳足額之四倍。並不得超過分年

償還放款之總額

(附屬業務) 一、得代人保管生金銀或有價證券。

二、得購買農業銀行工業銀行之債票。

三、有餘款時得購買國債票或地方債票。

丁 殖邊銀行 The Bank of Territorial Development of China

民國三年三月六日公布條例

(組織) 股份有限公司

(目的) 以輔助政府調濟邊疆金融並貸款於沿邊實業爲業務

(一) 動產不動產之抵押放款

(二) 經理存款

(三) 生金銀之買賣

(四) 辦理匯兌

(五) 各種期票之貼現

(六) 他銀行營務之代理

(一) 得發行鈔票

(二) 得受金庫之委託代理事務

(特權)

第一編 緒論 第二章 銀行大意

二十七

第三 儲蓄銀行 Savings Banks

民國尙未頒布新條例。故暫用前清則例。光緒三十四年正月十六日頒布。如左。

(性質) 凡代公衆存放零星款項爲業者。均爲儲蓄銀行。資本五萬兩以上之各種公司。稟部核准註冊後。方准開設。

一、定期存付

- (一) 零付整付
- (二) 整存零付
- (三) 整存整付

(存款) 二、活期存付

如聲明係爲修學婚嫁養老營業資本及各項善舉者無論整款零款當另冊存儲支付由存款人與銀行自行訂章辦理。

(責任) 理事於行中一切債務均負無限責任遇更換時有經手關係之債務須二年後方能將一切責任交卸

(擔保) 應於每年結賬時核算存款總額四分之一將現銀或國債票地方公債票及確實可靠之各種公司股票存

於就近中國銀行或其他股實銀行以爲付還儲蓄存款之擔保

儲蓄銀行者。乃小民寄存零款之地也。此款平時辛勤勞動。日積月累。始克得之。今信用該銀行而寄存之。倘銀行一旦有倒閉之變。則存戶受其慘害。殊非淺鮮。且此等小民。素不熟知商業之事情。亦無判斷銀行營業方針良否之智識。故欲保護此等存戶小民。確定該銀

行之基礎。則政府不得不嚴密監督之也。彼銀行理事之責任尤重。對於存款。課以擔保物。供存之義務等事。固其宜也。

今更由日本法制上。列舉其銀行之種類。則普通銀行、貯蓄銀行、較之中國。大同小異。唯特別銀行。共有八種。

甲 日本銀行 (The Bank of Japan)

是為中央銀行。獨占其紙幣發行權。且負經理國庫事務之責任。資本金。日幣六千萬圓。(此中已繳者三千七百五十萬圓)。另有各種公積。二千七百六十六萬圓。(大正元年末調查。以下做此)。

乙 日本勸業銀行 (The Hypothec Bank of Japan)

是乃抵當不動產而長期貸款者也。尤以發達農業為主要目的。有發行加彩勸業債券之特權。但以已繳資本十倍數。為其發行額之限數。資本金二千萬元。(此中已繳一千五百萬)。另有各項公積三百三十二萬元。

丙 日本興業銀行 (The Industrial Bank of Japan)

是以公債票或股票等擔保品之貸款及其他信託事業。為其主要業務。限於已繳資本之十倍。可發行興業債券。資本金七百五十萬元。(全部已繳)另有各種公積二百二十六萬元。

丁 農工銀行 (The Agricultural and Industrial Bank of a Province)

其目的同於勸業銀行。唯規模較小耳。各府縣均設立之。以便與地方上中等農家。直接交易。而圖該地方產業之發達。

資本金各須二十萬元以上。以已繳資本之五倍爲限。可發行農工債券。現在該行數。四十有六。資本總計。四千二百二十七萬元。此中已繳三千六百六十萬。另有各項公積一千一百五十七萬元。

戊 橫濱正金銀行 (The Yokohama Specie Bank)

專圖外國貿易之便利。而行內外匯兌、押匯及內外貨幣之交換等事。東西洋諸國中。固有其分行或出張所。卽南洋諸島凡屬商埠之地。亦均有之。乃世界上有數之國際銀行也。中國通商各埠。北京、上海、漢口、天津、安東縣、長春、遼陽、奉天、營口、旅順、鐵嶺等處。有分行。並限於其地而發行銀票。資本四千八百萬元。(已繳三千萬元)另有各公債一千八百二十萬元。

己 台灣銀行 (The Bank of Formosa)

以發達台灣產業爲目的。其業務之種類甚多。非但普通商業銀行之事務。且於台灣全境。發行紙幣。經理國庫官金。現在上海、廈門、福州、汕頭、廣東等處有分行。資本一千萬元。(已繳六百二十五萬)另有各公積三百十萬元。

庚 北海道拓殖銀行 (The Hokkaido Colonial Bank)

北海道。位於日本國之北方。人烟稀少。天然之富源尙未開闢。故特設此銀行。以便供給資本於其拓殖事業。於已繳資本五倍以內。發行債券。資本五百萬元。(已繳三百九十萬)另有各公積百零三萬元。

辛 朝鮮銀行 (The Bank of Korea)

其性質與台灣銀行同。在朝鮮地方。發行紙幣。經理國庫金。台灣銀行、北海道銀行、朝鮮銀行等。均有殖民地銀行之性

質。故其業務之範圍甚廣。資本一千萬元（已繳七百五十萬）另有各項公積五萬七千元。但由銀行之總數比較之。則

日本國內銀行總數

二、一四四行

貯蓄銀行

四七八行

特別銀行

五三行

普通銀行

一六二三行

普通商業銀行。實占總數之四分之三。故單稱之曰銀行。亦無不可。

第三節 普通銀行經營之概況

銀行果運用如何方法。而圖其利益乎。此固由收支之複雜關係而起者。且各銀行之經營狀況非一律。茲試就普通銀行之經營。略述其資金運用之狀態。及其利益損失之本源。約如次。

設有某銀行於此。資本一百萬元。實繳者爲其四分之一。則其已收納之規銀。乃二十五萬元也。開辦之際。房屋六萬元。地基三萬元。生財五千元。賬簿及各項印刷費三千元。又對於發起人。償以創辦費二千元。此等費用清算後。所餘者不過十五萬元耳。今幸而該銀行得民間之信用。來寄存現款者陸續不絕。未幾而其數達於三十萬元。於是銀行內現銀合有

四十五萬。此現銀。銀行可運用之。周轉之。放出於外。故名曰經營資金。或特稱銀行基金（Banking capital）。茲以表示之於左。

總 資 本 金	1,000,000—
已 繳 資 本	250,000—
地基房屋創辦費等	-100,000—
	150,000—
現 銀 存 款	+300,000—
總 營 資 金	450,000—

既有存款者。同時而求貸者亦可接踵而至。未幾而貼現票據一百萬。普通票據一百萬。合計而達於二百萬元矣。夫以四十五萬元之經營資金。雖未克放出二百萬元之多。然求貸於商家銀行者。非必即刻需索現銀之全部者也。先由該銀行轉入之於自己存款賬上。將來隨時提取者。是為常例。此轉賬額。究竟相當於貸出額之若干分之一。則視其所在地方之習慣及時機如何。而不能一致。茲假定為十分之八。先轉撥於存款中。則支付之現銀。僅二百萬元之十分之二。即四十萬元。其結果。銀行中現有之餘款。五萬元也。又存款增為貸款二百萬元之十分之八。即百六十萬元。故前後合計一百九十萬元。如此日日營業。其間

不免有上下之變動。現假定當初之狀況毫無變化。繼續進行。達於一年。年末。計息結賬。銀行應支付存款之利息。其年利假定爲四釐。貸款之利息爲七釐。則存款利息。七萬六千元。貸款利息。十四萬元也。結算如左。

<p>(現銀)</p> <p>150,000.-</p> <p>+ 300,000.-</p> <hr style="width: 50%; margin-left: 0;"/> <p>- 400,000.-</p> <p>餘存 50,000.-</p> <p>(貸款)</p> <p>2,000,000.-</p> <p>7% = 140,000.-</p>	<p>(存款)</p> <p>300,000.-</p> <p>+ 1,600,000.-</p> <hr style="width: 50%; margin-left: 0;"/> <p>1,900,000.-</p> <p>利息4% = 76,000.-</p> <p>140,000 - 76,000 = 64,000.-</p>
--	--

即銀行之利息上。得六萬四千元之贏利。此外假定公債票利息及其賣買利益寄匯費。代收費信託業報酬等另有一千五百元。合計營業利益爲六萬五千五百元。

該銀行一年間。所需事務員月薪。消耗品之購辦等種種營業費。總計爲三萬元。(每月二千五百元) 則銀行之純益。三萬五千五百元也。此純益中。以五千五百元爲各種公積及後期滾存以餘款三萬元充股東之分紅。則其配分率。每年一成二釐也。例如於本銀行有四十股之股東。每股額面五十元。已繳者十二元半。繳納總數乃五百元。對於此而可得六十元分紅。其計算如次。

營業利益	65,500.-
營業費	- 30,000.-
公積及留存	- 5,500.-
分紅總額	30,000.-
	$30,000 \div 250,000 = 0.12$

(注意) 凡分紅皆對於已繳資本而計算。又銀行每半年結賬一次。是爲常例。今圖計算上之便利。定爲一年後行之。

是可知銀行之經營。妥當而確實時。非獨股東之利益非淺。同時而僅以二十五萬元之已繳資本爲基礎。行二百萬元之貸款。社會上亦可圓滿其金融市面。且一百九十萬之巨款。固可以安全保管而寄存。每年發四釐利息。寄存者得其利。而其實乃社會上個人上彼此得利之事實也。銀行之效用。亦大矣哉。

第二編 銀行簿記法則

如緒論所述。銀行簿記者。乃一班簿記學中之一應用方面也。彼商業簿記。工業簿記等。關於簿記學原理。毫無異點。唯其應用主體之性質不同。則記錄計算之方法上。必須加以特別之考察。以期其適均於該會計主體之性質耳。

記錄之方法。實地上有二種問題。第一。各項交易如何分錄。即會計科目之問題也。第二。如何記之於賬。即賬簿組織之問題也。茲更加以計算方法。則簿記學應用上問題。乃合而為三焉。凡研究應用簿記法者。皆以此三問題為根幹。雖有時雜以該主體特別之辦事方法。然此亦不過研究簿記法之一參考。而屬於本來商業實務之範圍耳。

銀行簿記亦然。即以此三問題為根幹。至於營業之分課執務。及他分行往來之事。其為銀行業之特色。已如前編所說。故今合以此二事。為銀行簿記之五種研究問題也。

第一章 會計科目設定法

會計科目 (Title of Account 日語勘定科目) 者。為類別交易組成原因之名稱。更就各原因而觀察。區分其貸借兩方面。以資記錄計算其變化者也。

一見會計科目。而其會計之內容性質。可略瞭解。若科目之設置。一經失當。則混亂支離含

糊等弊。叢叢疊出。而簿記之目的。全破壞矣。故設立會計科目。乃簿記法實行上之第一問題也。

設定會計科目必須注意左列之事項。

- 一、屬於資產負債者。其債權債務。及所有權之設定。須有正當之理由。
- 二、屬於利益損失者。須表示其由來及原因。
- 三、名稱雖忌冗長。然其意義及性質。須一見可以明瞭。
- 四、一會計年度名稱。須前後一貫。不可有混同之弊。
- 五、另作計算規程以表明各科目之範圍。總分行均須劃一。
- 六、會計科目之分類。應其必要而有精粗。

會計規模之簡單者。僅設少數之科目已足。若事業愈複雜。則規模愈廣。其分類亦自不可不精。但此際又可撮要提綱。統合於少數之大科目中。彼官廳簿記中。曰門、曰款、曰項、曰目。者。卽本乎此而秩序整然。成一大系統者也。

今就一班簿記而說明之。則賬簿之總轄。爲總目元賬（又名膽清賬 *Totals* 日名總勘定元賬）此賬簿所設之科目。曰基本科目。其餘。應必需而另作補助簿。每一基本科目。更可

細分之。其作報告表等時。統合數個基本科目。而簡明類別。亦可。前者特名曰細分科目（日名內譯科目）。後者曰統合科目。雖然某某科目為基本。某某科目為細分。某某科目為統合。本無一定。唯就其會計上性質而求其適宜。可耳。茲列舉普通商業銀行之各種科目。分為三段。以資各等大小銀行隨意應用。其實際上取捨增減。固不妨也。

（第一範圍）

- 1 股銀
- 2 所有物減價填補公積
- 3 倒賬填補公積
- 4 有價證券市價預備公積
- 5 生金銀市價預備公積
- 6 分紅平均預備公積
- 7 一班公積
- 8 法定公積
- 9 職員酬勞
- 10 股東分紅

（第二範圍）

- 1 股銀
- 2 各種填補公積
- 3 各種預備公積
- 4 法定公積
- 5 職員酬勞
- 6 股東分紅

（第三範圍）

- 1 股銀
- 2 各種公積
- 3 法定公積
- 4 職員酬勞
- 5 股東分紅

第二編 銀行簿記法則

第一章 會計科目設定法

-
- 11 未付之前期分紅
 - 12 餘利滾存
 - 13 往來存款
 - 14 特別往來存款
 - 15 定期存款
 - 16 通知存款
 - 17 證書存款
 - 18 臨時存款
 - 19 應付來匯
 - 20 暫收票款先還
 - 21 暫收貸款先還
 - 22 政府存款
 - 23 借借款
 - 24 再貼現票據
 - 25 未付利息
 - 26 未經過扣息

-
- (編入於臨時存款)
 - 7 餘利滾存
 - 8 往來存款
 - 9 特別往來存款
 - 10 定期存款
 - 11 通知存款
 - 12 證書存款
 - 13 臨時存款
 - 14 應付來匯
 - (編入於臨時存款)
 - 15 政府存款
 - 16 借借款
 - 17 再貼現票據
 - 18 浮懸利息及扣息

-
- (編入於臨時存款)
 - 6 餘利滾存
 - 7 往來存款
 - 8 特別往來存款
 - 9 定期存款
 - (編入於定期存款)
 - 10 證書存款
 - 11 臨時存款
 - 12 應付來匯
 - (編入於臨時存款)
 - (編入於往來存款)
 - 13 借借款
 - 14 再貼現票據
 - 15 浮懸利息及扣息

-
- 27 暫收金
 - 28 營業用地基
 - 29 營業用房屋
 - 30 營業用器具
 - 31 沒收抵押不動產
 - 32 公債票
 - 33 財政部證券
 - 34 公司債票
 - 35 公司股票
 - 36 生金
 - 37 生銀
 - 38 外國貨幣
 - 39 現銀
 - 40 未繳股銀
 - 41 貸款

第二編 銀行簿記法則

-
- 19 暫收付金
 - 20 營業用地基房屋
 - 21 營業用器具
 - 22 沒收抵押不動產
 - 23 有價證券
 - 24 生金銀
 - 25 現銀
 - 26 未繳股銀
 - 27 貸款

第一章 會計科目設定法

-
- 16 暫收付金
 - 17 營業用所有物
 - 18 沒收抵押不動產
 - 19 有價證券
 - 20 生金銀
 - 21 現銀
 - 22 未繳股銀
 - 23 貸款

第二編 銀行簿記法則

第一章 會計科目設定法

四十

42 過期貸款	28 過期貸款	24 過期貸款
43 貼現票據	29 貼現票據	25 貼現票據
44 押匯	30 押匯	26 往來過付
45 往來過付	31 往來過付	(編入於貸款)
46 政府貸款	32 政府貸款	27 同業存出款
47 有期同業存出款	33 同業存出款	(編入於浮懸利息及扣息)
48 卽還同業存出款	(編入於浮懸利息及扣息)	(編入於暫收付金)
49 未收利息	(編入於暫收付金)	28 創辦費
50 暫付金	34 創辦費	(編入於營業用所有物)
51 創辦費	35 現建營業房屋	29 他行
52 現建營業房屋	36 他行	30 分行或總行
53 他行	37 分行或總行	31 利息
54 分行或總行	38 收納利息	32 扣息
55 貸款利息	39 扣息	
56 扣息		

- 57 有價證券利息及分紅
- 58 存出款利息
- 59 寄匯費
- 60 代收費
- 61 現錢兌換利益
- 62 有價證券經手費
- 63 寄品保護費
- 64 諸信託業報酬
- 65 諸手續費
- 66 債票中籤利益
- 67 雜項收入
- 68 存款利息
- 69 借用款利息
- 70 再扣息
- 71 通信費

第二編 銀行簿記法則

第一章 會計科目設定法

- (編入於收納利息)
- (同前)
- 40 匯兌費
- (編入於匯兌費)
- (編入於雜項收入)
- 41 諸信託業報酬
- 42 諸手續費
- 43 雜項臨時收入
- 44 支付利息

- (編入於利息)
- (同前)
- 33 匯兌費
- (編入於匯兌費)
- (編入於雜項臨時損益)
- 34 諸信託業報酬
- 35 諸手續費
- 36 雜項臨時損益
- (編入於利息)

第二編 銀行簿記法則

第一章 會計科目設定法

72 諸稅	45 營業直接費
73 匯票經紀費	
74 營業雜費	
75 薪俸及報酬	
76 賬簿單據費	
77 旅費	
78 修繕及保險費	46 辦事費
79 房租及地租	
80 水及燈油煤炭費	
81 紙墨筆費	
82 消耗品費	
83 事務零用	
84 廣告費	
85 調查及團體費	
86 圖書費	47 營業援助費
	37 營業直接費
	38 營業間接費

87 學徒教育費

88 交際費

89 倒賬損失

90 雜項損失

91 所有物買賣評價損益

92 有價證券買賣評價損益

93 生金銀買賣改鑄損益

94 他行匯兌殘額利息

95 總分行匯兌殘額利息

96 貨幣市價損益

97 結賬損益

此外儲蓄銀行特有左列之科目

1 儲蓄存款(細分此為活期存付、定期零存整付及定期整存零付等)

2 擔保用寄存銀品

紙幣發行銀行特有

48 雜項臨時損失

49 所有物買賣評價損益

50 他行匯兌殘額利息

51 總分行匯兌殘額利息

(編入於雜項收入或損失)

52 結賬損益

(編入於雜項臨時損益)

(編入於利息)

39 總分行匯兌殘額利息

(編入於雜項臨時損益)

40 結賬損益

1 流通兌換券

2 紙幣收回託存資金

3 紙幣發行費

債票發行銀行特有

1 發行債票

2 未付償還債票

3 未付債票利息及彩金

4 鑑定費

5 債票利息

6 債票彩金

7 債票發行費

8 債票發行價格損益

外國匯兌經理銀行特有

1 匯兌存款

2 承認外國匯票

3 外國匯兌轉收票據

4 有息票據

5 收買外國票據

6 匯兌預約墊付

7 外國匯兌買賣及價格損益

(註) 第三範例之會計科目。其分類過簡略。往往不免理義不徹之處。故務必採用第一範例乃至第二範例也。但營業直接費辦事費援助費之科目。暫統括之而為營業費一科目。另備雜費明細賬。以區分記錄通信費及諸稅等亦可也。(此時此等科目視為細分科目)。

第一節 屬於負債之會計科目

第一項 對於內部之負債科目

第一 股銀 (Capital Stock 株金)

股銀為事業基礎之資金。股份公司中股東所擔認之金額是也。至若個人營業或合資公司。則單稱曰資本金 (Capital) 是與普通簿記上相異之點。

資本金或股銀所以屬於負債者。本於資本主及營業主之區別。蓋複式簿記。乃由營業主

之地位。設想而記賬者。故假定股銀係由銀行經營者向股東所借入而為銀行之負債也。例如合資公司信隆銀行創辦之手續已完結。於茲開始營業。資本二十萬元。全部以現銀繳訖。

(分錄) (借方) 現銀 200,000.- (貸方) 資本金 200,000.-

但現今銀行。多為股份有限之組織。股份有限銀行設立之初。不繳股銀全數。而僅繳一部分。其殘餘部分。俟他日必需時。追繳之。是為通例。而公稱資本及已繳資本之區別。於以發生矣。雖云未繳。然公稱資本總額。為股東之責任額。銀行信用上。關係非淺。若僅將已繳款數視為股銀。記錄於賬。似甚明瞭。但不能表示其財產之真相也。

例如股份有限公司信盛銀行開業。公稱資本金一百萬元。第一回繳納現銀。為其四分之一。

(分錄) (第一法) (借方) 現銀 250,000.- (貸方) 股銀 1,000,000.-
 { 未繳股銀 750,000.-

是最簡明法也。但實際上。銀行創辦時。繳納金之全部。一時難以齊集。則記賬法不能如上簡單。故發起人承股東應募。股份配分完結後。發送第一回繳納之請求書。先將公稱資本作為未繳資本。表記於賬簿。然後繳納者由各地陸續匯來。則順次記入其收款。故發起人

之記賬法如次。

(第一法) (借方)	未繳股銀	1,000,000.-		(貸方)	股	銀	1,000,000.-
	現	銀	1,000,000.-		未繳股銀	銀	1,000,000.-
	"		600.-		"		600.-
	"		24,000.-		"		24,000.-
		}			}
			250,000.-				250,000.-

第一次繳納資本金悉數收足。公司成立後。其事務。由發起人卸任於新選之理事時。新公司起首之簿記分錄。可用簡明之第一法。

第二 所有物減價填補公積 (Reserves for depreciation 所有物減價償却積立金)

銀行營業中。所有房屋什物等類。累月經年。自然毀傷朽廢。不能保其原價。雖其外觀。或尙無破損。然若仍以新築購置之原價。表示之。則非但簿記上失其會計之真相。且將來必需改築新置時。不得不卒然而特支其費用。乃會計整理法上所謂不公平之處置也。今欲避其弊。可於每年第一結賬時期。託之於專門家。查閱此房屋什器等件。而估酌於現在時價。以其應減之數值。視為損失而抹消之。是為最簡方法。但查閱之手續繁瑣。難以實行。勢必須設一標準。每結賬一次。扣除其所得之利益金。儲為公積。以備用於他日。可也。至每次應

提作公積若干。則標準不一。茲示其一二例如左。

第一、原物價值標準法

先假定該物件等耐用年限。及最後歸於廢用時之價值。由新置原價。減去廢用時之價值。而以耐用年限除之。是也。

例如新建房屋。費五萬元。其耐用年限為三十年。此年限經過後。拆毀之。瓦石材料等值五千元。則

$$\text{一年減價} = \frac{50,000 - 5,000}{30} = 1,500 \quad \text{每會計期(半年)減價} = \frac{1,500}{2} = 750$$

由其結賬期之利益扣除之。可也。

(借方) 雜項損失 750.— (貸方) 所有物減價之與補公積 750.—

第二、預測價值標準法

是亦先假定該物件耐用年限。及廢用告終時之價值。如前計算。唯以現在物廢用後所需從新設備之原價為標準。

例如現有價值五千元之生財。其耐用年限。期以十年。過此限期。全歸於無用之地。則其終價幾等於零。彼時。若另購置此同樣物件。則因累年物價騰貴之結果。可需用六千元。

$$\text{一年減價} = \frac{6,000 - 0}{10} = 600. - \quad \text{每會計期減價} = \frac{600}{2} = 300. -$$

(分錄) (借方) 雜項損失 300. - (貸方) 所有物減價與補公積 300. -

是等方法。在會計學上。同稱曰定額攤分法 (Fixed installment method)。計算最爲簡單。此外尚有遞減攤分法 (Reducing installment method) 年金攤分法 (Annuity method) 等。但此等算法。較爲複雜。彼工廠、鐵路公司等。資本金之大部分。全投於固定資產者。其營業之會計。實以是爲重要問題。至銀行業之固定物少。故會計上寧可用定額法。較爲簡便。或細分此科目。區爲所有房屋減價之公積及所有什器減價之公積。亦可。地基價值。隨年月而增長。是爲常例。故不必行其減價之公積。雖然。地方衰微。地價若有低落之傾向。亦必如法行之也。

如上第一法。預定年限後。假如得四萬五千元之房屋減價之公積。

(借方) 雜項損失 45,000. - (貸方) 所有物減價之與補公積 45,000. -

此時拆毀舊屋而變賣材料。值五千元。然後業務從新擴張。改築八萬元之房屋。則

(分錄)	(借方) 現	銀 5,000. -	(貸方) 營業用房屋	50,000. -
	(借方) 所有物減價公積	45,000. -	(貸方) 現	銀 80,000. -
	(借方) 營業用房屋	80,000. -		

又據第二法。預定年限後。假如得六千元之什器減價之公積。

(借方) 雜項損失 6,000.- (貸方) 所有物減價之填補公積 6,000.-

此時棄去舊物。而更購此同樣之新物。則

(分錄) (借方) 所有物減價之公積 6,000.- (貸方) 營業用什器 5,000.-
 雜項收入 1,000.-

(借方) 營業用器具 6,000.- (貸方) 現 銀 6,000.-

第三 倒賬填補公積 (Reserves for bad & doubtful debts 日名貸倒滯貸償却積立金)

營業上貸款或貼現票據。到期而不能收回。或全行失望。或暫時退滯。對乎此而亦應有相當之公積。當貸款或貼現時。本不能預料某某將來有倒賬之虞。雖然。實際上。銀行以貸款貼現爲業。數以千百計。其中或有意外之失敗。亦勢所難免。一旦發生數萬元倒賬。加入於該營業之損失。則營業之成績。大受影響。故須設一定標準。每期備爲公積。以盡銀行家之當然義務。其標準數。依各銀行放款方針之寬嚴。而有差異。亦各本於其經驗而行之。可耳。例如本期末。現在貸款計百七十八萬元。貼現票據計百五十六萬元。今以其一千分之二爲公積。則

$$(1,780,000 + 1,560,000.) \times \frac{2}{10000} = 6680$$

(分錄) (借方) 雜項損失 6,680.-

(貸方) 倒賬填補公積 6,680.-

所有物之減價、貸款及貼現之倒賬。雖未形諸事實。要其損害。乃必不可免之事實。故對於此之公積。總稱曰填補公積。(Reserves) 與普通營業損失同樣。先行此分錄。(謂之第一整理) 而後結賬。方得稱為純益。

第四 有價證券市價變動豫備公積

(Reserve funds for the loss on negotiable

papers. 有價證券買賣損失積立金)

銀行庫款綽有餘裕。苦無貸放貼現之地。遂用以購公債票、公司股票、債票等有價證券。按期取其分紅及利息。或收藏之。作為紙幣、存款之保證物件。決非從事於買賣。視其市價之高低。而冀收厚利也。但此種有價證券。往往有用為投機之目的。因之其市價朝夕改變。動無常。投資之危險者。莫過於此。故銀行所保存者。務必取其市價確實而少動者。然乃宜由營業利益金。提取一部。作為公積。以防他日或有意外之損失。可以危險時。隨時撥用。以補償之。至每期公積應有若干。則毫無一定之標準。當取近數年間各種所有證券之最低市價。與現有證券之購入原價。互相比較。以其差額視為危險程度。而預備其相當之公積。例如有甲號週息五釐之公債票。額面計五萬元。茲以四萬八千元購入之。又以二萬四千

元購入漢冶萍煤鐵公司股票。計額面二萬元。該公債近年最低市價。額面百元者。跌至九十二元。該股票最低市價。每股(額面亦一百元)九十六元。則其危險程度。如左。

近年之最低價格即將來或再跌落亦未可知之程度

$$\left. \begin{array}{l} \text{公債} \quad 48,000 - 50,000 = \times \frac{92}{100} = 2,000 \\ \text{股票} \quad 24,000 - 20,000 = \times \frac{96}{100} = 4,800 \end{array} \right\} 2,000 + 4,800 = 6,800$$

一會計期內。即或不能得此六千八百元之公積。然亦須從速豫備。期達於此程度而後已。今假定於四會計期內。欲完備如數之公積。則每會計期。應預備一千七百元。

(分錄) (借方) 結賬損益 1,700.- (貸方) 有價證券市價變動豫備公積 1,700.-

今過四會計期。既得預定之六千八百元後。次期結賬時。不幸而漢冶萍股票大跌。為八十九元。則計算時。不歸於該期之損失。而撥用公積以填補之。可也。

$$24,000 - \left(20,000 \times \frac{89}{100} \right) = 6,200$$

(分錄) (借方) 有價證券市價變動豫備公積 6,200.- (貸方) 公司股票 6,200.-

將來純利多時。更漸次行其公積。使常當於危險程度。乃第一要着也。

第五 生金銀市價變動預備公積

(Reserve funds for the loss on bullions. 地金銀

賣買損失積立金)

凡銀行必須有紙幣之兌換準備。存款之支付準備。對於外國匯兌上支付資金而應有生金銀之準備等。金銀之市價。常有高低。則所存儲之生金銀。或可收意外之利益。或可受意外之損失。此損益。乃發生於購置金銀之目的以外者也。故欲保全其本來目的。平時當行若干之公積。一有損失時。撥出而補償之。以免該期損失之增長。

例如近數年間統計。倫敦生銀市價。每恩斯(ounce)約二十二辨士乃至三十辨士上下。今某銀行所購入者。價值二十五萬英鎊。則將來之變動危險率。可為二十五分之三。又該行所有生銀總額。平均約計二十五萬元。則約有三萬元公積時。即或銀價一旦下落。尚不至大受其害。故每結賬期。由其利益中。提取若干。使漸次達於此預定數。最為安全。但每期之終。究竟應提若干。作為公積。是固無一定之規則。蓋前項有價證券市價變動之公積。及此項生金銀市價變動之公積。所以防未然之損失者也。將來或得利。抑或失敗。均難預料。在會計學上觀之。即無此公積。未始不可。唯慎重行之。亦屬應有之事。故與減價之填補。異其趣旨。此種預備公積法。如銀行成績完美。純益多時。即多提取之。不幸而銀行獲益微少時。

則酌量情形而取之可也。今假定提出五千元以充公積。則

(分錄) (借方) 結賬損益 5,000.- (貸方) 生金銀市價變動預備公積 5,000.-

將來銀價低落。跌至二十三瓣士。則

$$25 \text{ 瓣士} \times \frac{(25 - 23)}{25} = 2 \text{ 瓣元}$$

(分錄) (借方) 生金銀市價變動預備公積 20,000.- (貸方) 生金銀 20,000.-

將來純利多時。再繼續公積。使常相當於此危險程度可也。

第六 分紅平均預備公積 (Reserve funds for equalization of dividends 配當平均積立金)

銀行營業之較為穩固者。其成績上少急益急損之患。每結賬期。分紅數可無大差。雖然。此亦可因市面之緩急而增減者。彼持重之股東。於茲三思焉。例如本期利益甚多。分紅率超越乎市場之普通利率。則不以其全數為分紅。而仍照上期分紅率分配之。其餘留為分紅平均之公積可也。

(分錄) (借方) 結賬損益 10,000.- (貸方) 分紅平均之預備公積 10,000.-

將來經濟界或有不振。銀行獲益甚少。不能照常分紅時。則由其預備公積中。撥取若干。以保分紅率之常例。而維持銀行之信用。

例如某銀行。已繳資本金二十五萬元。每年以周年八釐之分紅為常例。今也本期(半年)

純益。僅有七千五百元。不能保有其原來分紅率。則由此公積中撥用二千五百元。以充之。可也。

$$250,000 + \frac{8}{100} \times \frac{1}{3} = 10,000 \quad 10,000 - 7,500 = 2,500$$

(分錄) (借方) 分紅平均預備公積 2,500.- (貸方) 分紅 2,500.-

第七 一班公積 (Special reserve funds 別途積立金)

經營銀行者之方針。如不願急於分紅。而專重銀行遠大之信用。則其分紅率。祇相當於市面之普通利率。其餘悉充公積。如是者。公積總額。往往較多於資本金額。故該行信用愈形鞏固。雖小資本之銀行。亦有時而駕乎大資本銀行之上者焉。

公積之多寡。本視乎該期之營業成績。而無一定。其分錄法。亦類似於他種公積之記載。自無待言矣。

設有一班公積之銀行。他日欲增加資本。或追繳其未繳資本時。不另取之於股東。直以此公積。轉充之。而發給新股票。可也。假定某銀行公稱一百萬。已繳資本二十五萬。一班公積三十萬。今欲倍加其公稱資本。再收二十五萬時。可即撥用公積如左。

(分錄)	(借方)	一班公積 250,000.-	(貸方)	股東 1,000,000.-
		未繳股銀 750,000.-		

此外事務員獎勵費之公積。多年勤勞者恩給之公積等。由銀行隨意設立之。其分錄法。做前例而行。

總之有價證券市價變動以下之數種預備公積。(Reserve funds)並非對於已然之損失而確定者。又獎勵公積恩給公積等。亦非必需。在會計學上。均無必需之性質。不過慎重其事。而行此萬全之策。將銀行利益之一部。見做資本金增加之變態。可耳。較諸填補公積。Reserves 則大相懸殊矣。

第八 法定公積 (Legal reserve funds 法定積立金)

以上縷述之填補公積及預備公積。雖在會計學上。具有相當之理由。認為要者。然實行與否。聽銀行自由行動。銀行不顧社會上信用及股東永遠之利益。徒欲增加目前之分紅率者。此等公積。常等閑視之。凡股份有限公司之組織也。其成立之基礎。為股銀。若聽之於減價變動而不顧慮。則公司存在之根本。甚為危險。故各國對於此種公司。均繩以法律。每結賬期。必須由純益中提取若干。以為公積。是謂法定公積。中國公司條例及日本商法上。載明其公積最少者。必當有結賬時贏餘二十分之一。至達於資本金額四分之一而止。法定公積併有填補公積及預備公積之性質。此公積既定。他種公積。似可不必設置。雖然。

現在諸銀行。率勉力兼用前項各種公積。以期安定其基礎。充厚其信用焉。但所謂結賬贏餘者。係合算前期之滾結贏餘。抑係單對於本期贏餘而計算。各國會計學者及商法學者。解釋各異。今單以該期贏餘爲標準。可也。

例如某股份有限公司銀行本期營業利益。總計十二萬元。營業費總額九萬元。此外有前期之滾結贏餘一萬元。則法定公積。僅有三萬元之二十分之一。即一千五百元足矣。

(分錄) (借方) 結賬賬面 1,500.-

(貸方) 法定公積 1,500.-

第九 職員酬勞金 (Bonus 賞與金)

所謂酬勞金者。每結賬期。於各事務員及職員等薪俸以外。另報酬其勤勞。獎勵其成績之款項也。是分爲兩種。曰普通酬勞。曰特別酬勞。前者比例於各員之勤業日數及月薪。而均霑其利益。後者僅就各員中之特別勞而有功者。賞與之。酬勞之多寡。各銀行自定。有少與薪俸而多酬勞者。有多薪俸而少酬勞者。法各有優劣。其最適當者。即對於上級各員。薪俸薄而酬勞厚。下級各員。薪俸厚而酬勞薄。所有酬勞金之一部分。以強制的行爲。存儲於銀行。防其濫用。而留以備不時之需焉。

近來日本。亦徵收酬勞金之所得稅。(月薪所得稅之外)故欲保護下級低俸者。不令其包

含於酬勞金中。於結賬以前。臨時用傭人報酬等營業費名目。記於賬上。以免徵稅。如是風行。故現今簿記上所稱酬勞金者。多指職員及上級事務員之酬勞金而言。董事會議時。先作酬勞金之原稿。俟開股東總會。可決之。是即為銀行之負債。由利益中撥出。如左。

(分錄) (借方) 結賬盈餘 8,000.- (貸方) 職員酬勞金 8,000.-

於翌日分配於各員。如左。

(分錄)	(借方)	職員酬勞金	(貸方)	現金
	理事某	甲 1,000.-		1,000.-
	"	乙 800.-		800.-
	"	丙 800.-		800.-
	"	丁 200.-		200.-
	"
	"	8,000.-		8,000.-
	"		
	"		
	"		

第十 股東分紅 (Dividends 配當金)

無論個人組織或公司組織之銀行。其資本金註冊於當地官廳後。不得濫為變更。每結賬

時。所得贏餘。須還付於資本主。公司組織者。則按所出之款數。而比例配分之。是曰分紅。此贏餘之處分法。於結賬告竣時。銀行理事先立草案。次諮議於股東總會。股東總會可決之。或修改通過後。即將賬上之贏餘。照決議案而撥入於適當之各科目。於此記賬。例如各種公積褒賞金及分紅等。是也。每期分紅率。貴乎一定。而其比率。普通稱呼。謂對於已繳資本。每年幾釐幾毫。每半年結賬之銀行。照比率而分其半數。

例如某銀行已繳資本二十五萬元。由本期贏餘。撥出一萬元。以爲分紅。本日股東總會已可決之矣。

(分錄) (借方) 結賬損益 10,000.- (貸方) 分紅 10,000.-

此時分紅率。以每年之比率呼之。則八釐也。如左。

$$\frac{10,000}{250,000} \times 2 = \frac{8}{100} = 8\%$$

如是分配。通告於股東。股東陸續來取。則隨時付與之。

例如股東某甲有上記某銀行之股票一百份(每股額面五十元。已繳者乃其四分之一)。來取分紅之現款。又某乙有五十份。欲將分紅撥入往來存款。此際。先計算兩者應得之分

紅款數。後分錄之。

$$\text{某甲} \quad 50 \times \frac{1}{4} \times 100 \times \frac{8}{100} \times \frac{1}{2} = 50$$

$$\text{某乙} \quad 50 \times \frac{1}{4} \times 50 \times \frac{8}{100} \times \frac{1}{2} = 25$$

(分錄)	(借方)	} 分紅	某甲	50.-	(貸方)	} 現銀	某甲	50.-
	"		某乙	25.			往來存款	
							某乙	25.-

如是而股東全部漸次付訖後。分紅科目即可消滅。

某某銀行。每期分紅率。素有定例。苟因營業成績完美。分紅超越乎此率時。附設第二分紅或特別分紅之名目。此際。職員方可得酬勞金。

第十一 未付之前期分紅 (Unpaid dividends for the previous terms 未拂配當金)

分紅事既經通告後。不久而可付清。雖然。實際上。股東之中。有視此微許之分紅。毫不介意者。又有遷居旅行者。均未必驟然來取。可遲宕一期後。尙未付訖。而次期分紅。既已決定。則不得不與舊期者。相爲區別。故特設一未付前期分紅之科目。以便轉賬。例如前期分紅中五百八十元。已經過一期。尙未付出。此時轉賬。

(分錄) (借方) 未付之前期分紅 580.- (貸方) 分紅 580.-

若經過數期而仍無消息。已達於商律規定之時効期間且屬無記名式。而銀行無從探訪其人。則不得已而取消之。目為本行之利益。

(分錄) (借方) 雜項收入 1,485.- (貸方) 未付前期分紅 1,485.-

第十二 餘利滾存 (Balance brought over 繰越)

贏餘配分之際。各種公積。分紅等項。計算於一定之比率。且不含有零碎之數。故配分後。自不免有若干餘數。可轉存之於次期。加入於次期贏餘。再為配分。是曰餘利滾存。某銀行已繳資本二十五萬元。本期結賬之贏餘。計一萬五千五十四元五角三分。另有前期之餘利滾存三百二十五元三角一分。而在股東總會。決定議案。如左。

1 有價證券市價變動預備公積 一千二百元

2 生金銀市價變動預備公積 (本行不買賣生金銀)

3 分紅平均預備公積 三千元

4 一班公積及酬勞金等 (暫不設備)

5 法定公積 九百元

6 股東分紅(年八釐)

一萬元

7 餘利滾存

二百七十九元八角四分

但銀行規模小者。計算貴乎簡單。不設法定以外之各種公積。亦不設未決算科目(後章說明)。概包含於餘利滾存之中。則該行所有滾存款項較多。

(分錄)	(借方)	餘利滾存	325.31	(貸方)	有價證券公積	1,200.-
		結賬損益	15,054.53		分紅平均公積	3,000.-
					法定公積	900.-
					股東分紅	10,000.-
					餘利滾存	279.84

餘利滾存二百七十九元八角四分此時由結賬損益而化為資產負債之性質又前期之餘利三百二十五元三角一分加於本期之結賬損益蓋以曾化為資產負債性質之前期餘利滾存歸還於損益性質合而見做為本期之淨利也

(參攷) 結賬時可行之利益處分法。已備述於前。但觀現在中國公司之利益分配法。多不行填補及預備公積。又或間有行之者。亦先將利益。分為十乃至十四成。預定各科目一定之比率。例如十四成中。以四成充各種公積。二成為職員酬勞金及車馬費。八成為分

紅。日本亦有此例。日本興業銀行定款第五十四條。謂利益金分配之方法。由利益總數。減去付出之利息、薪俸、旅費、一切營業費及種種損耗。以其殘額爲利益金。如左分配。

一、利益金百分之八以上。爲損失填補公積。

二、利益金百分之二以上。爲分紅平均之預備公積。

三、扣除上兩項之金額。由其殘額對於已繳資本金。每年以百分五之比率。爲第一分紅。

四、扣除上三項。由其中取利益金百分之十以內。充酬勞金。如尚有殘餘。則爲第二分紅。分配於股東。或滾結。

雖然填補公積等款數。略有可爲根據之計算標準。今忽視之。而一律比例於營業成績之良否。非理也。

以上十二條會計科目。皆對於內部之負債。即對於股東、職員、事務員等所負之債務也。

第二項 對於外部之負債科目

甲 對於公衆者

第一 往來存款 (Current account 當座預金)

即無一定期限之存款。隨時可用支票 (Cheque 小切手) 而提出者也。又有活期存款。浮存。隨存等名目。行此存款者。多爲大商巨賈。其出入提存等事。極爲頻繁。交易之款數亦巨。且以現銀來存者居其少數。多半攜來他行或本行應付之支票。或以貼現貸款後之淨收款項。轉賬撥存。(他行應付之支票。亦可視爲現銀。詳解於後章。)

例如由李洽順號收取往來存款。如左。

一、現銀 500.- 第一國立銀行應付之支票 2,000.-

(分錄) (借方) 現銀 2,500.- (貸方) 往來存款 2,500.-

例如同人攜來第一號支票(額面三百五十元)提取現款。

(分錄) (借方) 往來存款 350.- (貸方) 現銀 350.-

例如由劉蓮生收下往來存款。如左

一、現銀 550.- 第三國立銀行應付之支票 650.-

一、本行應付與李洽順號發出之第二號支票 800.-

(分錄) (借方) 現銀 1,200.- (貸方) 往來存款(劉蓮生之賬目) 2,000.-

往來存款(李洽順之賬目) 800.-

往來存款者發出之期票。或承諾之匯票。皆指定其往來銀行爲支付處。收款人至滿期日。向該銀行而求款。此際。銀行卽由該存款者之賬目。撥付之。可也。其他。外埠銀行有本行存款者。應付之票據。要求於本行而代取款。或本行受存款者之請託。貼現而收買之票據。至滿期時。均於應付款者之往來存款賬下扣算。視爲一種提款。

例如協源號應付本行貼現之期票。額面一千五百元。現已到期。扣除該號之往來存款。

(分錄)

(借方) 往來存款 1,500.-

(貸方)

貼現票據 1,500.-

此際。銀行隨時通知存款者。令其發出同款項之支票。送交本行。蓋往來存款之提撥時。必用支票。以適合其原則故耳。

支票本爲存款者隨意發出之物。其收票人不知其出票人是否有相當之存款。則轉讓於他人時。或恐其無自由之轉通性。故先呈示之於銀行。一經承諾。則銀行負其責任。市面上之信用。於以厚。送之於外埠。則該地之他銀行。亦可以代理支付。而寄匯之方法。於以得矣。如斯者。曰支付保證支票。(Certified cheque 保證小切手)。收票人持此支票。來請保證時。先查該出票人之存款賬目。扣除之。以防將來再以他支票來行提取之弊。此扣出之款。另設一保證支票之賬目。撥入之。唯此賬目。不過爲往來存款原賬內之細分科目。至論其標

準科目。則仍屬於往來存款。別無他法也。

例如李聯清發出之支票。額面五百元。來請支付保證。

(分錄) (借方) 往來存款(李聯清賬目) 500.- (貸方) 往來存款(保證支票賬目) 500.-

第二 特別往來存款 (Special current account 特別當座預金)

一名曰零星往來存款 (Petty current account 小口當座預金) 其法與尋常往來存款相同。可隨時或存或提。所不同者。存入提取之際。必用存款簿。不能用支票。故論其實際。亦屬於儲蓄存款之性質。不過普通商業銀行。因儲蓄銀行條例甚繁。監督太嚴。諸多不便。特以五圓以上之範圍。定其限制耳。

此分錄方法。類於往來存款。無須贅述。

第三 定期存款 (Fixed deposit 定期預金)

是為預先確定提款之期日者也。此種存款。銀行當與以定期存款證書。至滿期日。支付本利。收回證書。期限通例有三個月、六個月、一年等區別。利息較他種存款大。如在期限以內。存款者欲來提款時。可不給利息。或對於收存之日數。照低利率而算與之。例如朱親民存入現銀一千元。定期六個月。利率六釐。

(分錄) (借方) 現銀 1,000.— (貸方) 定期存款 1,000.—

滿期後。來提款。併付本利。交以現銀。

$$\text{利息} = 1000 \times \frac{6}{100} \times \frac{6}{12} = 30$$

(分錄) (借方) {定期存款 1,000.— (貸方) 現銀 1,030.—
存款利息 30.—

如來人不提本。仍欲繼續存六個月。僅收利息現銀。

(分錄) (借方) {定期存款(前款支付) 1,000.— (貸方) {定期存款(新款收存) 1,000.—
存款利息 30.— 現銀 30.—

第四 通知存款 (Deposit at call 通知預金)

所謂通知存款者。於提取前數日。預先通知該行。如是預約之存款也。其預告期日。前三日或五日乃至七日。是為常例。對於此種存款。當有通知存款證書。屆時支付本利。收回證書。此存入提取之分錄法。類於定期存款。但接預告時。祇將此事記於通知存款記入賬之期日欄內。以待期日之至。無所分錄也。

第五 證書存款 (Certificate of deposit 預金手形預金)

對於存款者。畀以隨求應付之存款證書。此證書有流通性。凡顧客欲避現銀授受之危險及煩勞者。卽向銀行而行此種存款方法。此法原來發生於貨幣複雜。紙幣未暢行之國。現今文明國漸次罕用之。唯銀行利用其證書有隨求應付之性質。向他方而行其隨求應付之借款時。卽以之爲收條。發行之。是近來所實行者也。其分錄法。亦無特異之點。

第六 臨時存款 (Special deposit, 別段預金)

以上各種存款之外。例如銀行事務員及傭雇者之信用保證金(押櫃)平素無往來存款者託銀行代收之票款。公債利息等。若一一設其會計科目。則不勝其煩。均包括之於臨時存款科目中。但大規模之銀行。各設其獨立科目。亦屬無妨。此存款之性質不一。有算利息者。有不算利息者。今舉一二普通之例。說明之。茲有錢守嚴其人者。僱爲本行課員。信用保證金三百元。以現銀繳納之。每年給以六厘利息。每半年一計算。作錢姓之特別往來存款。是爲本行規程。

(分錄) (借方) 現銀 300.- (貸方) 臨時存款 300.-
半年後發給利息。

$$300 \times \frac{6}{100} \times \frac{1}{12} = 9$$

(分錄) (借方) 存款利息 9.- (貸方) 特別往來存款 9.-

又本埠王和順號。將本埠沈泰祥號應付之期票一張(額面二百八十元)攜來本行。託代收票款。(此際本行會計狀況毫無變化。故無須分錄。唯記其事於補助簿可也。)今已滿期。本行派員收到現銀。隨時通知王和順號。該號未來提取以前。暫收存於本行。不起利。(如來託者與本行素有往來。則隨時撥入於其存款中。)

(分錄) (借方) 現銀 280.- (貸方) 臨時存款 280.-

王和順接通知後。來取現銀。由其中扣下手數料三角。

(分錄) (借方) 臨時存款 280.- (貸方) 代收費 0.30
現銀 279.70

此託代收票款之票據。其支付地如在外埠。則轉交於該地分行或匯兌往來之他銀行。轉託代收。(此時本行財產狀況亦無增減。故無庸分錄。祇記其事於補助簿及分行或他行往來之補助簿中可也。)滿期時。分行或他行在該地收到款項後。隨時來通知。轉告於原託人。待其來取。此際本行對於分行或他行。發生債權。對於原託人而負債務。如原託人素無往來存款。則記其債務於臨時存款。同前。

嚴重之監督。普通商業銀行不得漫然行之。蓋保護小民獎勵儲蓄乃社會政策之最重要者也。

儲蓄存款有四種。(一)活期存付。(二)定期整存整付。(三)定期零存整付。(四)定期整存零付。是也。

(一)活期存付

普通所謂儲蓄存款者。此也。儲蓄銀行中。此種存款最多。其手續類於特別往來存款。不過款數上稍有制限耳。分錄時。用活期儲存或儲蓄存款之會計科目可也。例如由陳步雲收存現款五元

(分錄)

(借方) 現銀 5.-

(貸方)

儲蓄存款 5.-

陳君未幾提出二元五角。則其分錄如左。

(借方) 儲蓄存款 2.50

(貸方)

現銀 2.50

(二)定期整存整付

是即普通銀行之定期存款。款數亦無制限。其分錄法亦同之。

(三)定期零存整付

一定之期限以內。於一定日期而存以一定之零款。至契約滿期時。提出一定之整數。(本利合計) 例如壯年時存之。可爲養老費。子女幼時存之。可爲修學嫁娶費。又商工業家爲其子弟而存之。可爲其子弟將來獨立自營之資本。不識不知之間。積有巨款。與普通儲蓄存款不同。年限未滿。決不能提取。且既存以後。欲中止者。毫無利益。是不得不繼續存儲。故可謂有補於人情弱點之良法矣。將求欲得一定之整數。每月或每年應零存若干。可應用年金表而計算之。年金表。乃各儲蓄銀行。標準於其規定之利率。詳細計算。印刷之。以備顧客之索閱者也。

零存整付之名稱。適當於其辦法。惟未能明示其性質。故普通儲蓄銀行。明示其目的性質。附以名目。是爲常例。如養老儲存、修學儲存、商工資金儲存、嫁娶儲存等。是也。名目雖異。然銀行之事務手續則同。故分錄時。或逐一標其會計科目。或用定期零存整付之總科目。均可。

例如李小村爲養老目的。欲於十年後。收得千元。查某銀行之儲存年金表。知每月應攤存之數。計六元四角三分一厘。於六月一日。第一次存入之。(今暫設各種科目)

(分錄) (借方) 現銀 6.43

(貸方) 養老儲存 6.43

以後按月攤存時。分錄仿此。

由六月起至十一月。已經有六個月時。達於銀行計算利息之期。則該行對於已存入之款。照規定之利率。算其利息。加入存款內。(今假定其利率為四厘八毫)

$$\begin{array}{l}
 \left. \begin{array}{l}
 6.43 \times \frac{4.8}{100} \times \frac{1}{12} = 0.02572 \times 6 = 0.15432 \\
 6.43 \times \frac{4.8}{100} \times \frac{1}{12} = 0.02572 \times 5 = 0.12860 \\
 6.43 \times \frac{4.8}{100} \times \frac{1}{12} = 0.02572 \times 4 = 0.10288 \\
 6.43 \times \frac{4.8}{100} \times \frac{1}{12} = 0.02572 \times 3 = 0.07716 \\
 6.43 \times \frac{4.8}{100} \times \frac{1}{12} = 0.02572 \times 2 = 0.05144 \\
 6.43 \times \frac{4.8}{100} \times \frac{1}{12} = 0.02572 \times 1 = 0.02572
 \end{array} \right\} \text{利息} \quad 54 \\
 \left. \begin{array}{l}
 \text{(借方) 存款利息} \quad 0.54 - \\
 \text{(貸方) 養老儲存} \quad 0.54 -
 \end{array} \right\}
 \end{array}$$

但此計算法。另有簡單數學表。可以對照而計算之。以後十二月、正月、二月等遞次收存六元四角三分。至次年五月。再計其利息。加入存款。如此。達於十年期限為止。期滿時。本人來行提款。本行檢查該來人之賬目(養老儲存元賬)積算其本利。照千元之契約。交與之。但年金表之率。雖屬詳細。然每期攤存之款數及計算其利息。皆以元角分計。止於分位。而四捨五入者。故其計算之結果。未必恰合於千元。或較多。或較少。在所不免。提款之際。須另用損益科目。而補整其相差之數。今為便宜計。暫用利息科目。以調整其過不足。可也。

例如期滿後。來人賬目本利合計。九百九十六元八角八分。而照契約一千元之數。交與來人。其差額三元一角二分。則視為追加支付之利息。補整之。使養老儲存原賬與總原賬中養老儲存科目。互相符合。

(分錄)	(借方)	養老儲存	996.88	(貸方)	現銀	1000.-
		存款利息	3.12			

(四) 定期整存零付

先存以一定之整數。其後。於相約期限以內。於一定日期。提出一定之零星款項。即將本利(複利計算)除於契約之年限。每年或每月平均支付之方法也。每次所提之數。較公債票及普通儲蓄存款之利息多。且數有一定。故既可生利。又可免濫費。應用之途。至廣也。通俗稱為年金儲存。(Annuity)由年金表而求其原本數及每期攤付數。年金表有二種。

(A) 整存其一定數之原本。每期攤取若干之法。例如某有資金若干。以之買公債票。則利息甚微。不敷月用。存於銀行。又恐有隨存隨提。濫然消耗之弊。今欲儲存為年金。則二十年間攤取之數應幾何。又富翁死亡。有一定遺產。但僅憑其現款之利息。不足養育其子弟。故可於十年或二十年間。至其子弟成人為止。按期分取其本利。又救濟親友時。不便交以巨

數之現款。可用此法。又銀行公司中事務員應得恩給者。亦用此法。分期支付之。無論以上何種情節。既有一定之原本。均可照年金表而計其每年或每期應得之數。

(B) 每期攤取之數一定。而求其原本數之法。例如子弟留學於海外。學費雜費等項。按月滙寄。殊多不便。今欲於五年間。按月得相當之數。現須存原本幾何。又某翁年老。將家族事全歸於子弟負擔。已則隱居。欲於十年間。每月得若干。充其一定之費用。則最初時原本幾何。又房租、報費、一切會費等。每月支付數一定。無須自己煩擾。可託之於銀行。於某年間。代理其支付。以上皆照表而計其原本數。可也。

(A)(B) 兩種。俱爲定期整存零付之儲存。簿記及實務上。可用同一之手續。今暫依其通稱。而用年金儲存之會計科目。

例如王秋舫於六月一日。存入現洋三千元。十年間。每月分取本利。其年金率。乃三十一元七角四分六厘也。

(分錄) (借方) 現銀 3,000.- (貸方) 年金儲存 3,000.-

每月攤付時

(分錄) (借方) 年金儲存 31.75 (貸方) 現銀 31.75

每結算期。對於其每月之殘額而計其利息。加入於原本中。(利率年四厘八毫)

$$\begin{array}{r}
 \text{六 月 } 3000 \times \frac{48}{1000} \times \frac{1}{12} = 12.000 \\
 \text{七 月 } (3000 - 31.75 \times 1) \times \frac{48}{1000 \times 12} = 11.873 \\
 \text{八 月 } (3000 - 31.75 \times 2) \times \frac{48}{1000 \times 12} = 11.746 \\
 \text{九 月 } (3000 - 31.75 \times 3) \times \frac{48}{1000 \times 12} = 11.617 \\
 \text{十 月 } (3000 - 31.75 \times 4) \times \frac{48}{1000 \times 12} = 11.490 \\
 \text{十一月 } (3000 - 31.75 \times 5) \times \frac{48}{1000 \times 12} = 11.361 \\
 \hline
 \text{利息} = \underbrace{\hspace{15em}}_{=70.087}
 \end{array}$$

(分錄) (借方) 存款利息 70.09

(貸方) 年金儲存 70.09

如此十年後。期滿。同時存款數亦清結。支付之。但計算時。零小數皆四捨五入。故其最後之得數。不免過不足。彼時可以利息科目補整之。如上法。(零存整付時)

(注意) 上述之定期零存整付及整存零付。在數學上總稱曰年金。唯儲蓄銀行為從俗計。設以養老、修學、商工資金、嫁娶資及年金等儲存名目。故銀行簿記亦用其名以為

科目。雖然有時某儲蓄銀行將此等與第一種活期存付合併。僅設以儲存之會計科目。與定期整存整付(單曰定期存款)相對峙。會計科目之繁簡。本歸各銀行擇行。茲所論者。乃其最詳細之科目耳。整存零付、零存整付之算利及分攤存付數。均於年金(數學上)中研究之可也。

第八

匯兌存款

(Remittance deposit 爲替預金)

是乃發生於外國匯兌之銀行者也。普通銀行無之。今A國某甲。欲寄匯若干於B國某乙。因本日匯兌市價之關係不便。先將此款暫存於銀行。以A國之貨幣存之。由銀行而收其證書。以爲匯兌存款。某甲寄與某乙。代寄匯而行之。某乙得之後。俟匯兌行市稍可得利時。將此證書呈驗於銀行。按其日之行市。而收其本國(B國)之貨幣可也。

例如上海貿易公司。存入一千四百元於日本橫濱之大和商店。以爲寄匯之資金。

(分錄) (借方) 現銀 1,400.00

(貸方) 匯兌存款 1,400.00

未幾而得橫濱正金銀行之廣告。該款已付訖。

(分錄) (借方) 匯兌存款 1,400.00

(貸方) 他行 1,400.00

第九

流通兌換券

(Notes in circulation 兌換銀行券)

有發行紙幣之特權之銀行。方可行之。凡銀行發行其紙幣後。至該紙幣再返於庫中。其間。彼此授受。流通於市。一旦有攜紙幣而來兌換者。則銀行必應之。故紙幣一節。乃銀行對於公眾所負之債務。但銀行未發其紙幣以前。俱保藏之。一有用途。則經由出納課。支付之。發行之。即銀行之負債。亦於此而生。將來本行紙幣。復由出納課收回。則銀行之債務消滅。其實如此。每次交易。一一分錄兌換券之發行回收。將不堪其煩。故每晨由紙幣課酌量交付於出納課。以爲出納資金假定爲發行。又每晚營業告畢。出納課將未曾支付之餘數。送還紙幣課。謂之回收。

例如本日交付本行紙幣二十五萬元與出納課。以爲出納資金。此時出納課收納之。而目爲現銀。

(分錄) (借方) 現銀 5,000 - (貸方) 流通兌換券 5,000 -

本日各項交易之結果。支付若干。收納若干。現存本行紙幣一併三十二萬八千九百二十八元。即送還於紙幣課。

(分錄) (借方) 流通兌換券 328,928.00 (貸方) 現銀 328,928.00

各分行發行及收回本行紙幣時。日日將其總數。電達於本行。本行隨時記錄。例如A地分

行來電。謂本日營業告畢。現存本行紙幣之總數。計四萬六千二百四十五元。已經回收之手續。

(分錄) (借方) 流通兌換券 46,245.00

(貸方) 分行 46,245.00

第十 應付來匯 (Bills & T. T. payable 支付送金爲替手形)

A地某甲。因欲送款於B地某乙。交現款於A地銀行。A地銀行發出B地銀行應付之匯票。交與甲。同時而通知B地銀行。甲寄其匯票與乙。乙驗兌於B地銀行。收現款。此匯兌法。在A地銀行稱謂寄匯 (Remittance 送金爲替手形) 在B地稱謂應付來匯 (Bills payable 支拂送金爲替手形)。A地銀行有時索手數料。亦有時無之。

如甲急需送款。則用電匯法。銀行先與分行或他行 (有往來匯兌之契約者) 定暗碼。收到請託者之款後。隨時以暗碼電知分行或他行。囑付款於某某。同時請託者通知需款者。向某銀行領取。即以其電報單呈驗於某行。則該行照發電銀行之電報。支付之。是謂電匯 (Telegraphic Transfer = T. T. 電信爲替)。甲對於A地銀行既須出手數料。又須出電報費。例如甲交現銀百元於A地銀行。託匯至B地之乙。則A地銀行向B地之分行或其相約匯兌之他行 (是謂往來匯兌處 Correspondents 爲替取組先) 而出匯票。交於甲。此時關

係在商業簿記上與發匯票時無異。如左。(手數料價定為三角)

(分錄)	(借方)	現銀	100.30		(貸方)	其他行(或分行)	100.30
						寄匯費	0.30

同時通知於B地匯兌處。B地銀行接其通知後。無論該收款人何時來取。均應有此墊付款項之義務。故不得不視為交易之一種而行分錄。簿記上名此義務曰應付來匯。其同時發生之權利。即對於A地銀行所有償還墊款之債權也。

(分錄)	(借方)	他行(或總行)	100.00	(貸方)	應付來匯	100.00
------	------	---------	--------	------	------	--------

未幾。收款人乙。攜來A銀行之匯票。請款時。B地銀行照前次通知而支付。

(分錄)	(借方)	應付來匯	100.00	(貸方)	現銀	100.00
------	------	------	--------	------	----	--------

有時某銀行。接其通知而墊款之義務尚未確定時。則不分錄。唯記其事於補助賬。俟支付時。始分錄之。

(分錄)	(借方)	他行(或總行)	100.00	(貸方)	現銀	100.00
------	------	---------	--------	------	----	--------

但接有應付來匯之通知時。其義務已確定。商業簿記上。接通知後。隨時設應付來匯之科目。亦同一也。

電匯之銀行簿記法。與普通寄匯時無異。唯另收電報費。故可視為營業費之填補。(或分爲通信費。)

(分錄)	(借方)	現銀	100.80	(貸方)	手數料	0.30
					通信費	0.50
				(他行(或分行))		100.00

第十一 暫收票款先還 (Partial receipt of bills 諸手形內入金)

屬於銀行債權之貼現票據及押匯之中。付款人便宜之計。許於滿期日以前。先還其一部分。蓋付款人經濟稍有餘裕時。寄存之於銀行。以備支付票款。如此向銀行聲明。銀行對乎此而給以利息。其利率略近於貼現利率。則付款人可免利息上之損耗。在付款人觀之。較普通存款之利率。畧占便宜。在銀行觀之。票款之償還。亦較確實。故樂與以特別利率也。或併入於臨時存款中。亦無不可。但銀行之經理此等事項甚多者。特設一科目以別之。例如曩日已經貼現之陸梅生應付期票一千元。未到期。伊先送來六百元。以備償還。茲收入。以本日之貼現利率而發息。

(分錄)	(借方)	現銀	600.-	(貸方)	暫收票款先還	600.-
------	------	----	-------	------	--------	-------

滿期日。除暫收金及利息。而追索其餘現銀。此應付利息者。恰如取消已收之扣息也。

		暫收票款先還 600.-	
(分錄)	(借方)	扣	總 3.20
		現 銀	396.80
			(貸方) 貼現票據 1,000.-

第十二 暫收貸款先還 (Partial redemption of loans 貸付內入金)

當初定期貸款。本無攤還契約。後來借主便宜之計。欲先期償還其一部。則銀行允否。可聽便行之。雖然。普通照允者多。與票款先還同。分錄亦類之。

第十三 紙幣收回託存資金 (Notes withdrawal funds 紙幣償却基預金)

政府或他銀行已發行之紙幣。現託本行代為收回。託存其紙幣兌換資金。此時。該資金編入於此科目。將來紙幣陸續收回。託存金亦隨之而減。

例如政府已發行之軍用鈔票。計一千八百萬元。今欲收回之。一切支付之手續。委任於中央銀行。交與現幣八百萬元及有價證券。一千萬元。以為兌換資金。中央銀行如左分錄。

(分錄)	(借方)	{ 現銀 8,000,000 -	(貸方)	紙幣收回託存資金 18,000,000 -
		{ 有價證券 10,000,000 -		

紙幣漸次收回後。取消此科目。如左。

(分錄) (借方) 紙幣收回記在資金 1,548,000.- (貸方) 現銀 1,548,000.-

第十四 發行債票 (Debentures 債券發行高)

是乃銀行發行債票時所用之科目。概以額面表示之。

例如債票額面五十萬元。發行之。其發行價格。每五十元。扣作四十八元。

(分錄) (借方) 現銀 480,000.- (貸方) 發行債票 500,000.-
(分錄) (借方) 債票發行價格折差 20,000.-

至償還期。用抽籤法而決其數。廣告之。廣告一發。未必隨時即有來索還者。率遲數時間或數日。所有者住居遠方時。多經該地銀行代索。尤須遲數十日或數月。故銀行決定償還。同時而記其數。移入未付償還債票之科目。然後隨來索者而由此科目中撥付之。例如第一次抽籤。某號某號等合計。有二萬五千元之債票。應償還。

(分錄) (借方) 發行債票 25,000.- (貸方) 未付償還債票 25,000.-

第十五 未付償還債票 (Unclaimed debentures redeemable 支拂未濟當籤債券)

其性質。由前條可以推知。今隨其請求而支付。

(分錄) (借方) 未付償還債票 1,000— (貸方) 現銀 1,000—
如經他銀行而代請求時。則成匯兌墊款之關係。

(分錄) (借方) 未付償還債票 1,000— (貸方) 他行 1,000—

第十六 未付債票利息及彩金 (Unclaimed interest and premium of debentures 支拂)

未濟債票利息及割增金)

如有有彩債票。則每屆償還期。抽籤結果。決定彩金。其不知者。請求不免遲延。又此時雖發給利息。然持來息票(附於債票以外者)而求支付者。未必即期而至。故與前條有同一理由。一切利息及彩金。到期決定。同時而先記之於未付債票利息及彩金之科目。然後隨相需而撥付之。

例於第二次發息期。其金額一萬四千二百五十元(額面四十七萬五千元週年利率六釐每年發息二次)及此次償還債票之彩金。總計決定四千五百元。

(分錄) (借方) { 債票利息 14,250—
債票彩金 4,500— } (貸方) 未付償還債票利息及彩金 18,750—

未幾。某姓有債票。額面五百元。來索利息。照付之。

$$500 \times \frac{6}{100} \times \frac{1}{2} = 15$$

(分錄) (借方) 未付償還債票利息及彩金 15— (貸方) 現銀 15—

某姓中籤得頭彩。持來債票而索本利及彩金。

(分錄)	(借方)	未付償還債票	50—	(貸方)	現銀	1051.50
		未付償還債票利息及彩金	1,001.50			

第十七 承認外國匯票 (Acceptance 支拂引受外國手形)

經理外國匯兌之銀行。始有之。銀行應內地顧客之請。而交以某種信用狀 (Letter of credit) 內地顧客定貨之際。寄送於外國發貨主。則外國發貨主對於其定貨價格。發出該行應付之匯票。與信用狀同交於彼國銀行。隨時便於貼現。此匯票經外國銀行而送來本行時。即應承諾。同時通知於內地顧客 (買貨主) 照其金額而索其期票。蓋貨物既係該顧客定買。外國發貨主為便利計。可用其名義。而出匯票。今銀行負其責任。承認其外國匯票。同時向買貨主而要求同一之權利。此權利者此即外國匯兌轉收票據。是也。

(分錄) (借方) 外國匯兌轉收票據 2,000— (貸方) 承認外國匯票 2,000—

此匯票滿期。對於外國銀行而有匯兌借款之關係。

(分錄) (借方) 承認外國匯票 2,000 - (貸方) 銀行 2,000 -

但外國匯票之金額。係外國貨幣時。承認日及滿期日。所有匯兌市價。不免變更。即以匯兌市價損益之科目而補整之。如後所述。

乙 對於同業者

銀行不但對於公衆而負債務。對於同業者亦常有貸借事。茲舉其負債之事如左。

第一 借用款 (Loans 借入金)

銀行向同業借款時。如左。

(一) 普通銀行由中央銀行。或子銀行由其關係之母銀行。而收貸款。

(二) 平時經營資金之運用時。收他銀行之貸款。

(三) 社會恐慌時。或本行將破綻時。可向他銀行而借款。

銀行乃以客家存款及本行紙幣爲經營資金。而運用轉貸者也。向他行借款之事。本非其本務。故非至急需時。不得行之。其行之也。屬於即還貸款 (Call loan, call money) 之方法。是爲常例。此際。銀行發給證書。以爲借據。此時之會計科目。即用證書存款名目。亦無不可。雖然。其性質爲借款。非存款。是當與證書存款有別。特名爲借用款。更區分之。曰有期借款。曰

即還借款。此兩會計科目較覺適當。有關係之母子銀行間可直接交涉。結契約。否則經由票據經紀 (Bill broker 手形仲買人) 而相接洽。是為通例。經紀從中而取相當之手數料。例如第一銀行經某經紀之手。向第二銀行借入即還貸款一萬元。以其千分之二為手數料。支付之。

(分錄)	(借方)	票據經紀費	20.-	(貸方)	借入款	10,000.-
		現	銀 9,980.-			

五日後。還之利息。照日息二分五釐 (每百元每日之利率) 之豫約。計算之。

$$\text{利息} = 0.025 \times \frac{10000}{100} \times 5 = 12.5$$

(分錄)	(借方)	借入款	10,000.00	(貸方)	現銀	10,012.50
		借入款利息	12.50			

但以現款而互相收支者。罕有之。普通均對於中央銀行或他大銀行內所有之存款。發出支票。以代現銀之收支。有期借款時之分錄。亦同。

借入款雖須有抵押品。然無關係於分錄。祇註明其事於補助賬上。可也。

第二 再貼現票據 (Bills re-discounted 再割引手形)

銀行受顧客之託。貼現收買其票據。自己行內日用資金不足時。或須補充其提款準備金時。可再將此等票據。轉讓於他行。行兩次貼現。中央銀行將於市中銀行。或母銀行對於子銀行。援助以資金時。多用此法。是曰再貼現 (Re-discount 再割引)。
銀行欲求他行再貼現時。自己所有之貼現票據。遂消滅。

例如由劉一亭貼現收買其上海紡紗公司發出期票。計二萬五千元。今託中國銀行再貼現。淨入現款。其貼現日數三十日。扣息日利二分。(日利者每日每百元之利息某角某分某釐等是)

$$\text{扣息} = 0.02 \times \frac{25000}{100} \times 30 = 150$$

	(分錄)	
	(借方)	(貸方)
	} 扣息 150-	貼現票據 25,000-
	} 現銀 24,850-	

但熟思之。有票據者轉讓於他人時。必須裏書。(無記名憑票式者在例外。)既有自己之裏書以後。則對於票據之關係。不能徑行脫離。一旦支付人不支付時。前途追求償還。則自己仍有賠償之責。此種責任。在會計學上名曰偶生債務 (Contingent liability) 故記賬時。當

用再貼現票據科目視爲一種之債務也。

(分錄)	(借方)	利息	150-	(貸方)	再貼現票據	25,000-
		現銀	24,850-			

到期後付款人完全踐其義務。無須追求償還。同時而己之偶生債務亦消滅。可全脫其票據關係。同時取消貼現票據與再貼現票據兩科目。

(分錄)	(借方)	再貼現票據	25,000-	(貸方)	貼現票據	25,000-
------	------	-------	---------	------	------	---------

倘付款人不能照付。則受中國銀行之追求償還。不得不先墊付其追償額。(票據額面之外當有公證人之手數料及遲期利息等) 例如手數料及利息計六元。

(分錄)	(借方)	再貼現票據	25,000-	(貸方)	現銀	25,006-
		暫付金	6-			

然後將該票據。向前者而追求償還。此時票據額面以外。手數料及利息計八元。

(分錄)	(借方)	現銀	25,008-	(貸方)	貼現票據	25,000-
					暫付金	6-
					貸款利息	2-

再貼現時。多由票據經紀介紹。讓於他銀行。上海外國銀行間。凡有買賣票據事。(不問其

最初時是否貼現或再貼現）託之於經紀。照額面八百分之一爲手數料。由賣者付給於經紀。是爲慣例。今再貼現時。假定扣息以外。尙須扣除手數料。則例用前項借用款法。

第三項 暫定負債科目

第一 未付利息 (Unpaid interest 未拂利息)

往來存款特別往來存款、儲蓄存款等。每年算利兩次。撥入存戶之賬。唯其計算之期。未必爲結賬之期。通例。欲避一時之忙。迫結賬。前半月或一月。計算之。然自計算之日起至結賬之日止。其間之利息若不計算出。則銀行之損益不能確定。故亦須算出用未付利息之科目。爲銀行之負債。

例如本行十一月三十日。結算利息。而至十二月三十一日結賬時之間。往來存款及特別往來存款之利息。合計七百五十元。

(分錄) (借方) 存款利息 750- (貸方) 未付利息 750-

滾結於下期。五月三十一日算第二次利息時。取消之。今由期前十二月一日至本期五月三十一日之利息。合計四千五百八十六元三角四分。撥入各存戶之賬。此際。前期滾結之七百五十元。亦含於其中。既經撥入。而存款之債務增加。不得不消滅未付利息之債務。

(分錄)	(借方)	未付利息	750.一	(貸方)	往來存款	3,081.26
		存款利息	3,836.34		特別往來存款	1,505.08

至第二期結賬時。再將六月一日至六月三十一日間之利息。如上法計算。用未付利息科目。滾結於下期。

雖然。此等存款。由六月一日至三十一日。與由十二月一日至三十一日。增減之數有限。其利息亦無大差。故銀行於第二期以後。逕以由六月一日至十一月三十日。或由十二月一日至下年五月三十一日。其間利息之總數。直目為本期六個月之利息。不算未付利息者。有之。或縱然計算。亦屬概數。其釐毫等微數。可略之。未付利息之必需用者。定期及通知等存款時也。此等存款。非滿期。不算利。祇以某期內實付之利息。為該期之利息。結果不平均。確實之損益。亦無從知。故每結賬期。必須算其未付之利。其分錄法。可由前例而推測之。

第二 未經過扣息 (Rebate on undue bills 未經過割引料)

銀行貼現票據時。按由該日至滿期日數。豫先扣除利息。例於六月二十日。貼現某票據。滿期日為七月十五。則六月三十日結賬時。已收之扣息。不能全視為本期之贏利。由七月一日至十五日間半月之利息。當屬於下期之贏利。即將預先收入之部分。暫作負債。由利

益中取消之。其負債之名目曰未經過扣息。雖此事或每期均有之。前期之未經過扣息。較諸本期之未經過扣息。略無大差。亦不必計算。而設此科目。然非正當之舉。故當結賬時。對於貼現票據。檢出其滿期日延至下期者。逐一計算下期之利息。可也。

例如此種票據全部。合計其已收而未經過之扣息。計三千六百二十元八角。

(分錄) (借方) 扣息 3,620.80

(貸方) 未經過扣息 3,620.80

結賬告終。移入下期此際。三千餘元。全屬本期之收入。其未經過扣息之債務。遂全行消滅。

(分錄) (借方) 未經過扣息 3,620.80

(貸方) 扣息 3,620.80

凡類於前述之未付利息及此項未經過扣息。皆已發生權利而尚未支付現銀。或已收現銀而尚未發生權利。賬簿上之記錄與事實不符合時。據其事實而整理記錄之方法也。平時事務繁冗。無暇詳分細錄。僅就現銀交易。隨時分錄之。至結賬時。再整理其不合之點。調整本來之科目(前例之利息或扣息)同時而創設新科目(例如未付利息或未經過扣息)。此等新設科目。結賬後。復歸於常態。即應取消者也。結賬手續若是。為便宜計。凡臨時想定之科目。簿記學上汎稱曰浮懸科目。(Outstanding accounts 未決勘定) 欲結賬而絲毫不紊者。必先整理各種科目。以使其數目。符合資產負債之實數。稱之曰整理分錄。

(Adjustment entries) 整理分錄之要着。在於設定浮懸科目及所有物之酌量減價 (Depreciation of properties) 故往往汎稱此二種曰整理科目 (Adjustment account) (參照結賬之章)

第三 暫收金 (Receipt in suspense 假受金)

前條懸空科目。乃其性質已明白。事實已瞭然。而與賬簿上記錄不相符合時。適用之者也。又事實尙未瞭然。性質亦未確實。僅收入現銀。而性質尙待決於他日者亦有之。例如因某事派遣於某地之事務員。寄匯若干。尙未得其詳細報告。不能直分錄於適當之科目。又有某種契約 (招募債票等) 豫爲保證。收入現銀。其性質雖已明瞭。然爲臨時事件。不足設一獨立科目。則暫時編入於此科目中。較覺便利。

例如某處派遣員寄來本埠第二銀行應付支票五百元。尙未得其詳細報告。

(分錄) (借方) 現銀 500 - (貸方) 暫收金 500 -

日後詳悉其情節。或退還該款時。取消之。

例如派遣員已返。知係催索某姓欠款五百五十元及利息二十七元五角。並攜帶現銀六十二元。旅費十五元五角。

(分錄)	(借方)	{ 應收金 500- 溢費 15.50 現銀 62-	(貸方)	{ 貸 款 550- 貸款利息 27.50
------	------	----------------------------------	------	--------------------------

由是觀之。暫收金乃應用自在之便利科目。但濫用之。則簿記學之根本要素所為資產負債損益之區別。紊亂而莫可收拾矣。故別無他之相當科目。且限於可以整理之時期以內。適用之。既用之後。宜速更正。分錄於相當科目。

第二節 屬於資產之會計科目

所謂銀行之資產者。經營銀行者可以正當處分之權利。或為其權利之目的物。而有貨幣上之交換價值者也。其內容分為三種。(一)屬於所有權之物件。(二)已定之債權。(三)暫定之債權。茲試順次說明之。

第一項 所有權之科目

甲、不動產及其附屬物

第一 營業用地基 (Bank's land 營業用地所)

銀行未開辦以前。必先購入其適於營業之地基。而行建築。雖租地賃屋。亦無不可。然不若自己購造。足徵銀行之信用也。但一班商業銀行。有資金固定之慮者。此種不動產。以少為

貴。除營業上需用以外。不可濫購濫築。茲特稱爲營業用地基者。合總行分行而計算者也。例如某銀行未開以前。先於某街市購地基二畝半。其價每畝計三千元。已付出現款。

(分錄) (借方) 營業用地基 7,500— (貸方) 現銀 7,500—

第二 營業用房屋 (Bank buildings 營業用家屋)

此房屋。乃總行分行之營業所。倉庫。金窖等總稱也。其習慣上。於營業用之外。而爲優待行員計。特由銀行購置其住宅以備用者。亦暫用此科目。

今於某街道購入地基。折毀其舊屋。費用二千元。又新築費四萬八千元。但建築結約時。先付其三分之一與工程師。工務半途。再交三分之二。竣工後。全數清付。

(分錄)	(借方)	營業用房屋	16,666—	(貸方)	現銀	16,666—
			16,666—			16,666—
			50000			50,000
			16,668—			16,668—

第二次更新改造事。可參觀前節所有物減價公積(第四十七頁)及後項現建房屋。以上兩種科目。平日不常發生。則併爲營業用地基及房屋之一科目。亦無不可。

第三 營業用器具 (Bank furnitures 營業用什器)

銀行房屋內。必須設備傢具及實務上器物。但茶杯茶壺烟盒等零碎什物。易於破壞。不得

視爲資產。宜編入於損失科目之事務經費消費品中。又紙墨筆等。亦入於事務經費筆紙墨中。其可充此營業用器具科目者。概限以耐久而價值較高之物品。例如桌椅、簿架、鐘、打字機、會客室內裝飾品等。是也。

其器具(資產)及消耗(損失)之限界。或依物品價格而定爲幾元以上者可。或照例豫數其必需之物品。準此而定科目。亦無不可。

例如裝置電氣風扇八個。每個付現銀十五元。

(分錄) (借方) 營業用器具 120- (貸方) 現銀 120-

第四 沒收抵押不動產 (Unredeemed securities 抵當流込動產)

銀行以不動產爲抵押而貸款。到期而前途不還。催促亦無効。則不得已而變賣其不動產。以取償。但不動產之轉賣。非易事。可經一二年之久。而始得其適當之買主。是雖非銀行所樂爲。然無可奈何。祇得暫視爲己產。而期其從速轉售。別無他法也。例如貸於某姓之款一萬元。利息合計八百元。到期不還。編入於過期貨款中。以後隨時催促已三月。仍未還。其過期利息二百四十元。合共一萬一千四十元。該抵押品某處房屋。照契約而收沒之。現付註册雜費六十元。

(分錄)	(借方)	沒收抵押不動產	11,100-	(貸方)	過期貸款	10,800-
					貸款利息	240-
					現	60-

未幾。此房屋已轉售出。價格一萬元。以其百分之三。現付於介紹人某。而由倒張填補公積中。撥補其虧損。

	現	銀	9,700-		
(借方)	營業雜費	300-		(貸方)	沒收抵押不動產
	倒張填補公積	1,100-			11,100-

如幸而轉售之結果。達於預定價格以上時。編入之於倒張填補公積。而置該科目於貸方。可也。

乙、有價證券

第一 公債票 (Public loan bonds 公債證書)

銀行所有之各種公債票。(中央公債、地方公債、國庫債券等)或因經營資金有餘而出於博取利息之目的。或購之以為紙幣發行之保證準備物件。或儲蓄存款之保證供託物件。又或由貸款之抵押品而沒收者。其原因雖非一端。然凡屬於自己所有權者。概一切包含

於其中。其非自己所有之公債票。例如保護藏品。不在其例也。

凡買入之際。不照額面計算。而以買價表示之。轉賣之際。按該票之買價而表示之。如與實際賣價有差。則另設有價證券損益之科目以處理之。可也。

例如有無記名中央政府公債票。(利息八釐)額面三萬元。以九五扣收買之。

(分錄) (借方) 公債票 28,500— (貸方) 現銀 28,500—

又於其中額面二萬元。以九六五扣賣之。股票交易所之規費。每額面百元而現付一角。

$$96.5 \times \frac{20000}{100} = 19,300 \quad 95 \times \frac{20000}{100} = 19,000$$

$$19300 - 19000 = 300$$

(分錄) (借方) 營業雜費 20— (貸方) 公債票 19,000—
 (借方) 現銀 19,280— (貸方) 有價證券損益 300—

後以九六扣買入同種公債票額面一萬元。

(分錄) (借方) 公債票 9,600— (貸方) 現銀 9,600—

其後再以九七扣賣出同種公債票額面一萬四千元。(手數料同前)此時賣價如何表示。是一疑問。今假定一萬元為第一次購入數。九五扣。四千元為第二次購入數。九六扣。以此

表示賣價。雖無不可。然買賣累次反覆時。難一一尋其原價。故第二次以後購入者。直與前次之買價合算。測其累次之平均買價。賣出時。以最近之平均價格。表其賣價。而與實際賣價有相差時。仍用有價證券損益之科目。同第一次。

$$\text{第一次買價} \quad 95 \times \frac{30000}{100} = 28500$$

$$\text{第一次賣價表示} \quad 95 \times \frac{20000}{100} = 19000$$

$$\text{第二次買價} \quad 96 \times \frac{10000}{100} = 9600$$

$$\text{平均價格} \quad X \times \frac{30000 - 20000 + 10000}{100} = 28500 - 19000 + 9600$$

$$X \times \frac{20000}{100} = 19100 \quad X = 95.5$$

$$97 \times \frac{14,000}{100} = 13,580 \quad 95.5 \times \frac{14,000}{100} = 13,370 \quad 13,580 - 13,370 = 210$$

(借方)	營業雜費	14-	(貸方)	公債票	13,370-
	現銀	13,586-		有價證券損益	210-

依是而現在所有者。額面六千元。平均價格九五五扣。及其年終結賬時。估酌其市價。大為

民間公司於其股銀以外，急需資本時，發行之債票也。有一定之利息，其性質類於公債票。唯信用不及之。

第四 公司股票 (Shares certificates 株券)

股份公司對於其股銀而發行者也。隨其事業之興衰，而市價不免有騰落。故銀行必擇其基礎最安全者而購之。或為擔保物品而承受之。其收入即分紅。多寡無一定。有時或有損失。亦未可知。

以上三科目。簿記上之處理方法。全類於公債票。茲略之。

丙、生金銀

第一 生金 (Gold bullion 地金)

銀行對於紙幣之現幣準備。除本國現幣以外。尚有金塊金條。是謂生金。中央銀行及外國匯兌銀行中多有之。其他銀行罕用之。

生金之價值。由其成色及重量而定。各國之市價表示法。不同。

(一) 英國 以倫敦為中心市場。每標準金一溫斯 (Ounce) (金秤) 呼為金幣幾磅幾先令幾辦士 (S, s, d, per 1 oz Troy of standard gold) 標準金者。指有二十一開 (Carat) 之

成色者而言。即其總量中純金之比率。有 $\frac{92}{24}$ ($= 0.916\bar{6}$) 者。也。某種生金較優於標準率者。呼之曰 B 幾。Carat 幾 grain B 爲 Betterness (優良) 之略字。Grain 相當於 Carat 之四分之一。故呼爲 B 1 C, gold 時。22C + 1C = 23C 即 $\frac{23}{24}$ 成色之意也。又劣於標準率者。呼謂 W 幾 Carat 幾 grain W 爲 worseness (惡劣) 之略字。例如 W 1 C, 3 grs gold 云云時。22C - 1 $\frac{1}{2}$ C = 20 $\frac{1}{2}$ C, 即成色 $\frac{20.25}{24}$ 之意也。但近來以 $0.916\bar{6}$ ($= \frac{22}{24}$) 示其標準。以較小之數表示 B 或 W。例如 B 0.0036 ($= \frac{920}{1000}$) 或 W 0.016 ($= \frac{900}{1000}$) 是也。

(二) 美國 以紐約爲中心市場。純金每一溫斯之價。呼爲幾達拉幾十仙。(% cts per 1 oz Troy of pure gold) 或以 $\frac{900}{1000}$ 成色之金四十三溫斯八百達拉爲標準。對乎此而稱加色或去色若干亦可。

(三) 日本 純金每百匁之價。呼曰幾圓幾十錢 (¥ sen per 100 momme of pure gold)

(四) 中國 在北京鑄造之金塊。曰兌赤 (Peking gold bar) 一條之全量。曹平十兩。據中國金銀商謂其成色乃 0.988 也。一曹平兩雖以 565.64 grains 爲常規。然有時而祇有 553.00032 grains 上海鑄造之金塊。曰標金 (Shanghai gold bar) 其一條之重量。有曹平十兩及五兩之別。中國金銀商謂其成色爲 0.978 此外稱足赤者。成色約在 0.996 左右。多用於裝飾品

細工。又有沙赤合金者。成色約0.9887左右。

此等均表示其曹平十兩重者之市價者也。例如在上海買入現貨標金十條(重一百兩)市價計規銀三百七十七兩半。英洋價為七錢三分時。其買價如左。

$$377.5 \times \frac{100}{10} \div 0.73 = 5171.23$$

(分錄) (借方) 生金 5,171.23

(貸方) 現銀 5,171.23

又託倫敦某銀行在該地購入 140.375 溫斯。請代保管。市價(每溫斯)為 7s. 6d. 當日由倫敦發來上海之匯兌市價見票即付者 2s. 7d. 也。(每一上海兩合二先令七辨士之意)如左計算。

$$\text{品位} \quad 0.9166 - 0.0206 = 0.896$$

$$\text{純金之重量} \quad 140.375 \text{ oz} \times 0.896 = 125.776 \text{ oz.}$$

$$\text{由比例} \quad 11 : 12 :: 125.776 : X \text{ 得}$$

$$\text{標準金之重量} \quad 125.776 \text{ oz} \times \frac{12}{11} = 137.210 \text{ oz.}$$

$$\text{英國買價} \quad 77s. 6 \text{ d.} \times 137.21 = 930 \text{ d.} \times 137.21 = 127,605.3 \text{ d.}$$

$$\text{上海買價} \quad 127,605.3 \text{ d.} \div 2 \text{ s.} \quad 7 \text{ d.} = 127,605.3 \div 31 = 4,116.3 \text{ 兩}$$

$$4,116.3 \text{ 兩} \div 0.73 \text{ 兩} = 5,638.77 \text{ 元}$$

(分錄) (借方) 生金 5,638.17 (貸方) 銀行 5,638.17

自第二次以後買入時。平均價格之算法。及賣之而生損益時。或臨結賬而估價上有損失時。可用生金銀損益之科目。其法與公債票之處理法同。可參攷之。但將生金送於造幣廠鑄造金幣而有損益時。特設一生金銀改鑄損益之科目。其分錄法。倣前可也。

第二 生銀 (Silver bullion 地銀)

銀行所有紙幣之現幣準備之中。除其本國銀幣以外。尚有銀塊、銀條、銀錠、銀鏹等。是均謂生銀。今以銀幣定賬簿之單位。則生銀不得不照市價而記賬。

中國現狀。於本位一元銀幣及補助貨幣以外。尚有以兩位表示之元寶銀 (Sycee silver 馬蹄銀)。上海等商埠中。其流通尤勝於本位貨幣。今以元幣定賬簿上之單位時。則視兩銀為生銀。照市價而記賬。可也。

生銀之市價表示法。亦各國異。茲撮其大要。如左。

(一) 英國 以倫敦為中心市場。標準銀每一溫斯 (用金秤) 呼為金幣幾十辨士 (d. per 1 oz Troy of standard silver) 標準銀者有 $\frac{925}{240}$ (= 0.925) 成色者也。而某種生銀較優於標準者。呼謂 B 幾 Dwts (Dwt 為 Penny weight 之略字) (1 oz = 20 dwts) 故 B 13 dwts silver

者 $222 \text{ dwts} + 13 \text{ dwts} = 235 \text{ dwts}$ 即 $\frac{235}{240}$ 成色之意也。其劣於標準率者。呼謂W幾 oz 幾 dwts 。例如W 1 oz 2 dwts silver者 $222 \text{ dwts} - 22 \text{ dwts} = 200 \text{ dwts}$ 即 $\frac{200}{240}$ 成色之謂也。

(二)美國 以紐約爲中心市場。純銀每一溫斯(用金秤)呼爲金幣幾十仙(cts per 1 oz Troy of pure silver)

(三)日本 每純銀一貫。呼爲金幣幾圓幾十錢(¥ sen per 1 kwan of Pure silver)。

(四)中國 通商口岸。以倫敦大條銀(Bar silver)之市價爲標準。又或在上海廣東香港等處。○九九八成色之條銀每百兩(廣東秤)呼合上海規銀一百幾十兩。據新幣制。則以純銀庫平六錢四分八釐爲一元。但照舊制度。秤與成色。種類甚多。隨各地方各用途而異其標準。茲試略述之。

(A) 秤

秤之種類。約分爲五。

(A)庫平 用於納稅。爲全國秤制之基本。雖然。依中央與地方又收入與支出。不免相違。中日條約上。曾議定如左。

庫平一兩 = 575.82 grains Troy = 37.31256 grammes

(B) 關平 用於海關納稅。其量目一定。

關平一兩 = 581.47 grains Troy = 37.68 grammes

(C) 曹平 為民間常用之標準。雖然隨地方及其用途。而種類亦稍異。例如同係稱上海曹平一兩者。細查之。則生差別。如左。

(印度造幣廠查驗) 上海曹平一兩 = 565.697 grains = 36.66 grammes

(一八九五年海關查驗) , , , = 565.6375 grains = 36.6527 grammes

(大坂造幣局查驗) , , , = 565.73 grains

以上三種。乃政府所認定之稱名。其他民間隨意用者亦不少。

(D) 砵平 是雖為商業上常用之標準。然依地方及用途而各異。所謂上海公砵平、天津公砵平、北京公砵平者是也。

(E) 市平 民間通用秤之總稱。就各地各市各戶而攷之。亦各不一。甚難稽考也。

(B) 成色

銀之純分品位 (Fineness) 亦隨地方及用途。而異其標準。其弊與秤法同。因此兩者。而中國銀錠之計算。愈加複雜矣。約言之。理想上中國之銀色。有二種。

(A) 足銀 或稱十足紋銀。即純粹銀之意也。

(B) 紋銀 其意義不明。或謂爲中國未與各國通商以前。流通於各地之銀錠之名也。又或謂紋者文也。銀質優良者。用以鑄元寶。顯其表面紋樣。即良質銀錠之謂。並非指其他特別銀錠而言者也。兩說未知孰是。總之。紋銀之品位。非純銀。紋銀每五十兩。加三兩之申水 (Premium 打步)。則其中之純銀量。適當於足銀五十兩中之純銀量。茲有某種銀五十兩中之純銀量。相當於申水二兩九錢之紋銀 (即紋銀五十二兩九錢) 純量。則謂之二九寶。又相當於二兩八錢之紋銀 (即紋銀五十二兩八錢) 純量者。曰二八寶。如是類推。其加二兩四錢申水者。曰二四寶。故以足銀爲純銀。則紋銀之成色。如左。

$$50 \times X + 3X = 50$$

$$X = 0.9434$$

據印度造幣廠。數年內分析檢查之結果。謂上海九八規銀之曹平一兩中。平均含有 51.88 grains Troy (= 上海曹平 0.916 $\frac{2}{3}$ 兩) 之純銀。九八規銀者。紋銀之百分之九十。八即紋銀之成色如左。

$$X \times 98 = 0.916\frac{2}{3}$$

$$X = 0.935374$$

與前述之成色不符。今依印度造幣廠分析之結果推測之。其所謂足銀者。乃 0.916 $\frac{2}{3}$ 不可謂

爲純銀也。

上海外國銀行。以此分析結果爲基礎。取捨其零碎小數。假定各元寶之成色。如下。通用之。

		每五十兩之 申水	假定通用 之成色	印度分析上之 推算			申 水	假定成色	印度分析上之 推算
二四寶	一兩四錢	○·九八〇	○·九八〇二七	二七五寶	二兩七錢半	○·九八七	○·九八六八〇		
二四五寶	二兩四錢半	○·九八一	○·九八一二〇	二八寶	二兩八錢	○·九八八	○·九八七七五		
二五寶	二兩五錢	○·九八二	○·九八二一〇	二八五寶	二兩八錢半	○·九八九	○·九八八六九		
二五五寶	二兩五錢半	○·九八三	○·九八三〇八	二九寶	二兩九錢	○·九九〇	○·九八九六〇		
二六寶	二兩六錢	○·九八四	○·九八四〇一	二九五寶	二兩九錢半	○·九九一	○·九九〇五六		
二六五寶	二兩六錢半	○·九八五	○·九八四九五	十足銀	三兩	○·九九二	○·九九一五〇		
二七寶	二兩七錢	○·九八六	○·九八五八八	九八紋銀	去水一兩	○·九九二	○·九一六六六		

上海銀爐亦通用此假定率。現今不顧各寶名稱之由來。唯以此假定率。養成通用之習慣。
(C) 通用想像銀

秤之種類。如是差別。成色亦多。故在中國買賣生銀。一一交於銀爐。查其成色及重量。後改算於本行賬簿上所用單位之貨幣。別無他法也。但向來商業上便宜起見。於各地方面。綜合重量及成色。而定其標準價值。是爲常例。未必有相當其標準之現銀。不過一想像上之

價值。此在買賣生銀。似無關係。雖然。新式貨幣未通用以前。以之爲計算價值之單位。今揭其重要種類。以備參考。

地名	想像通稱	秤別	成色	與海關兩百兩相比	對於各銀每千兩之上海規銀
全國	海關銀	關平	九八紋銀	一〇〇・〇〇〇	一、一一四・〇〇〇
江蘇	規銀	上海曹平	二七寶	一一一・四〇〇	一、〇〇〇・〇〇〇
同 鎮江	估平銀	估平	二四寶	一〇四・一六〇	一、〇七四・〇〇〇
同 同	外商用銀	曹平	二四寶	一〇四・七八二	
同 蘇州	曹平銀	曹平	二八寶	一〇三・八〇〇	
同 南京	曹平銀	曹平	二七寶	一〇四・六八一	
同 同	省估平銀	估平	同		一、〇七三・〇〇〇
浙江	江寧平銀	江寧平	二九寶	一〇五・八三〇	
同 同	江北平銀	江北平	二七寶		一、〇七七・五七〇
同 杭州	曹平銀	曹平	二七寶		
廣東	司碼銀	司碼平	二四寶		一、〇二七・八五〇
湖北	洋例銀	洋例平	九八兌	一〇八・七五〇	一、〇二七・八五〇
直隸	化寶公砵平銀	公砵平	〇九九二	一〇五・五五〇	一、〇五四・四〇〇
同 天津	化寶行平銀	行平	同	一〇五・〇〇〇	
同 北京	公砵平銀	公砵平	十足銀		

第二編 銀行簿記法則 第一章 會計科目設定法

今舉一例。示其計算法。例於上海收入申水二兩重量五十二兩之元寶十只。(洋市七錢三分)

紋銀重量 (52兩 + 2兩) × 10 = 540兩

規銀重量 $\frac{540}{0.98} = 551.02$

上海兩

上海英洋 551.02 ÷ 0.78 = 754.82 元

(分銀) (借方) 生銀 754.82

(貸方) 現銀 754.82

以後第二次買賣時之方法。參照前條公債票之科目。可以知矣。合併生金及生銀之科目。稱爲生金銀。亦無不可。但紙幣之現幣準備中。有金銀兩項者。宜分別表示。較爲妥當也。

第三 外國貨幣 (Foreign money)

外國貨幣。附入於生金銀科目中。亦無不可。但專業外國匯兌之銀行。須特設此科目。較爲便利。外國貨幣之收支也。日有行市。其行市照向該國之見票即付匯票之市價而公平者。匯兌銀行常另設外國現幣兌換之市價 (Tourist's rate) 於外幣買入及賣出之間。懸以差數。以爲獨占之利益。

例如某君攜來英國一磅金幣十枚。請兌換。彼時外國現幣買價。假定爲二先令八辨士二

分之一。(其意即上海規銀一兩合英幣幾何)則如左計算。假定洋市七錢三分。

$$£ 1 \times 10 \div \frac{2}{5} = \text{Tls. } 73.845$$

$$\text{Tls. } 73.845 \div 0.73 = \text{英洋 } 101.16$$

(分錄) (借方) 外國貨幣 101.16 (貸方) 現銀 101.16

賣出時。查照前項公債票之科目。可推知矣。唯每次交易。均計算損益。且表示平均買價。在交易稀少者。可以照行。若在交易頻繁之銀行。實不堪用此方法。宜表明每次實際之賣價。類於商業簿記商品賣出時之記法。可也。此際。賬上該科目之殘額。乃混合其損益而計算者。故與實際現物之殘額。不免相差矣。

例如數日之後某君來換英幣十磅。照付之。目下外國現幣賣價。二先令六辨士。則如左。

$$£ 10 \div \frac{2}{6} = \text{Tls. } 80.$$

$$\text{Tls. } 80 \div 0.73 = \text{英洋 } 109.59$$

(分錄) (借方) 現銀 109.59 —— (貸方) 外國貨幣 109.59

即原賬上外國貨幣科目。其貸方殘額。為六元一角五分。(80 - 73.85) 而實際外國貨幣之現物。已付出。毫無殘餘。是亦不得已事也。每日營業後或每星期。查實際現物之殘數而估其價。另外表示其損益。此時科目。為外國貨幣買賣損益。如蒙非常之損耗時。則由生金銀市價變動之公積中。撥出以補之。結賬時。類於公債票之估價法。但銀行於外國現幣之買價

賣價間懸以差額。故非有特別原因。而外國貨幣市價無變動急激時。可不至歸於損耗也。外國之補助貨幣。雖多暫準以本位貨幣而收買之。然補助貨幣。本屬名目價值。非真有金屬價值。故一國貨幣制度完備者之補助幣。方可準於本位幣而行。但亦以少爲貴。紙幣之信用充足者。亦可買之。

丁、現銀

第一 現銀 (Cash 現金或金銀)

銀行之收納現銀也。非必現物貨幣。凡有自由流通性。可隨時與現幣兌換者。汎稱曰通貨。今揭其範圍。如左。

- 一、現物貨幣(金銀銅等硬幣及紙幣) 但如中國之紙幣發行權。現尙未統一。其信用薄弱之銀行紙幣。或兌換可疑之軍用鈔票。他銀行概不收用。
- 二、本埠他銀行顧客所發之支票 但加盟於本埠票據匯劃所。或加盟銀行代理交換之銀行爲限。(以下稱他銀行者均倣此)
- 三、本埠他銀行發出之存款證書及已到期之債票利息票 但債票利息票。亦以匯劃同盟銀行所經理者爲限。

四、政府所發之到期公債利息票及本埠應付之郵局匯票

是皆銀行目爲現銀而收納之物。分錄上所謂現銀之會計科目。卽指此而言。又現銀收納賬及現銀支付賬中亦記入之。

照後章所說。銀行用現銀式日記賬之結果。該日記賬上貸借各方之總計額。非但以上列舉之範圍。劃款數目亦加算。故包羅一切之交易。而由日記賬騰記於全科目原賬時。以此總計額。爲現銀科目之貸借各方。如是而日記賬上之現銀。與分錄上之現銀。可同一。雖然。全科目原賬上之現銀科目。範圍甚廣。包括一切交易。此蓋銀行簿記上所注意者乎。曰非也。乃用現銀式日記賬時所應注意者也。

第二項 債權之科目

甲、對於內部之債權

第一 未繳股銀 (Unpaid capital) 未拂込資本金)

股份有限公司。視其實繳股銀尙未達於公稱資本金者。設股銀科目於銀行負債之部。設未繳股銀科目於銀行資產之部。蓋經營銀行者。對於股東有追繳之權利故耳。其分錄已說明於股銀科目及一班公積科目中。

乙、對於公衆之債權

第一 貸款 (Loan or Advance 貸付金)

貸款爲銀行放資之一途。多用借據而貸與公衆者也。日本以其法律上手續靈活。用期票而代借據。頗爲盛行。蓋用期票時。其對於滿期不還者。便於訴訟或追求償還耳。又可預扣其利息。故雖同一利率。而銀行尤爲得利。且可行再貼現之融通方法。如此期票之收買。其形式全爲貼現。銀行編入之於貼現科目者。非無有也。雖然。簿記者。正常表示其銀行之資產者也。由其性質。上觀之。則不可不另定科目。卽仍編入於貸款。較爲適宜。貸款之性質。視抵押品之有無。分爲抵押貸款。信用貸款。保證貸款。又依償還方法。分爲一時償還貸款及分攤償還貸款。或依借主而分爲個人貸款。團體貸款。雖然。此等區別。乃所以表示債權之確否。資金收回之遲速者。故簿記上無須類別之。

例如貸五千元與周新之。期限三個月。年利八厘。抵押品爲國庫證券。其額面七千元。借據第三十九號。

(分錄) (借方) 貸款 5000— (貸方) 現銀 5000—

此貸款滿期。合算本利。收入現銀。

$$5000 \times \frac{8}{100} \times \frac{3}{12} = 100 \text{ 利息}$$

(分錄)	(借方)	現銀	5,100-	
				(貸方)
				貸 款
				5,000-
				(貸方)
				貸 款利息
				100-

又張一亭來請貸款。茲令伊發出本行名下期票一張。依貼現法收買之。額面計三千五百元。日利二分五厘。(每百元之日利)由本日至票據滿期日數。(是謂貼現日數)計四十八日。抵押品為上海自來水公司股票。額面四千二百元也。

$$\text{扣息 } 0.025 \times \frac{3500}{100} \times 48 = 42$$

(分錄)	(借方)	貸款	3,500-	
				(貸方)
				貸 款利息
				42-
				(貸方)
				現 銀
				3,458-

(註)銀行對於利用期票之貸款。而用貼現票據科目者。則對於抵押貸款時之期票。特設一有抵押品票據(擔保付手形)之科目。但此種票據。本可用於一切貸款。已如上述。

該期票滿期。收回現銀。

(分錄)	(借方)	現銀	3,500-	
				(貸方)
				貸款
				3,500-

殖業銀行等以貸款為主要業務。多詳分其科目。例如日本勸業銀行。(一)年賦貸付(每

年分攤償還之長期貸款。(二)保證付年賦貸付(各府縣農工銀行代理貸付而農工銀行保證之自負其責者)。(三)特別擔保年賦貸付(農工銀行將其所有年賦償還貸付金之權利及其抵押權轉押之而貸付於農工銀行者)。(四)定期貸付(一時償還之普通貸款)。(五)保證付定期貸付(農工銀行代理保證之普通貸款)。(六)短期貸付。

抵押品中之商品。雖在所避忌。然銀行附有貨棧或機關棧房時。對於該棧中存貨之棧單。可以作抵押品而貸款。此種貸款如甚多。往往另設棧單(倉荷證券)或押存證券之特別科目。其法。以棧單價額之七八折。為抵押價格。視其存棧之期日。而預扣其利息。類於票據貼現。

例如洽順號以棧單(上海貨棧公司發行第一〇五號該貨為美國麵粉八百石市價五千元保有火險)為押品。本行貼現貸與四千元。淨收之款。轉入於該號往來存款賬。日利二分五厘(每百元)貼現日數三十日。

(分錄)	(借方)	棧單貸款	4,000-	
		(或貸款)		
	(貸方)	往來存款	3,970-	
		貸款利息	30-	

第二 過期貸款 (Loans overdue 延滯貸付金)

貸款至期而不償還。則不便仍置於有效之貸款中。但尙未確認為損失。或尙不至變賣其抵押品時。暫名之曰過期貸款。故其債權之數字上。雖已將一班貸款儘數轉賬。然其實質之價值。稍劣矣。

例如周新之之貸款。本日到期。雖催促而無效。茲將其本利轉賬於過期貸款。

(分錄)	(借方)	過期貸款	5,100—	(貸方)	貸	款	5,000—
					貸款利息		100—

爾後催促數次。半月後。來還。另徵其過期利息(每年一分二厘)

$$\text{過期利息} = 5100 \times \frac{12}{100} \times \frac{1}{12 \times 2} = 25.5$$

(分錄)	(借方)	現	銀	5,125.50	(貸方)	過期貸款	5,100—
					貸款利息		25.50—

如全無收回之望。則沒收其抵押品。(或令保人賠償)如有價證券。則設其適當科目於借方。不動產則用沒收抵押不動產之科目。若無抵押品。並無保證人。則歸於銀行之損失。本人已死。無負責者。或經過商法上時效期間。則行權利消滅之手續。倘延宕放置之。則簿記失當。可目為瞞蔽損失之舉。宜慎之。但有倒賬公積者。由其中轉撥填補之。可也。

前例之過期貸款。若已逾二年之時效期間。尙不能收回。則如下分錄。

(分錄) (借方) 銀帳簿公積 5,100 - (貸方) 過期貸款 5,100 -

第三 貼現票據 (Bills discounted 割引手形)

無論期票匯票。票據之收款人。不待滿期而轉賣於銀行。收入現銀者。必須負擔其本日至滿期日之利息。如此預扣其利息而收買票據。是謂貼現。用於貼現之票據。本屬商業交易之結果。授受於商賈之間。所謂商業票據。是也。而向銀行求貸者。往往發期票以代借據。形式雖與貼現同。然不可列入於貼現票據。已如上述。故貼現者。僅授受票據。而完全表示其權利義務之移轉者也。罕有抵押品。唯付款人之信用薄弱時。銀行特向持票請款者（收款人）。索其抵押品。票據貼現較優於貸款。銀行急需資金時。可轉賣於他行而收回資金。是曰再貼現。（參照十六頁）

貼現票據之付款地方。有在本埠者。有在外埠者。前者曰本埠貼現票據。後者曰外埠貼現票據。但簿記上之科目。無須區別。其外埠支付者。寄送於該支付地。或令該處之往來匯兌處。代行索款。此等代收費（利息以外者）。另行徵收。或稍大其貼現之利息。可耳。貼現之利息。按日計算。其貼現之日及滿期日。銀行亦照算。例如四月五日貼現。二十五日滿期。則其

貼現日數。非二十日。乃二十一日也。並由額面預扣其利息。而支付其殘額。故銀行之利益大而且安全也。

銀行對於顧客之貼現。以平時素相識之商賈爲限。此等商賈。在本行素有往來存款之關係。故貼現結果。其淨收金 (Nett proceeds) 罕有支付現款者。率轉撥於其往來存款賬目中。

今應中東花行之請託。照該行名下應收之上海三泰紗廠發出之期票 (額面二萬元) 貼現。淨收金撥入於該行往來存款賬。日利 (每一千元) 爲二角五分。貼現日數五十日。

$$0.25 \times \frac{20000}{1000} \times 50 = 250 \text{ 元}$$

(分錄)	(借方)	貼現票據	20,000-		(貸方)		250-
					}{ 利息		
					}{ 往存		19,750-

又應張大森號之請託。貼現左之匯票。淨收金轉入於該號往存賬。隨時郵寄匯票至無錫銀行。託代收票款。日利 (每千元) 爲二角七分。貼現日數三十日。代收費爲千分之一。付款人爲無錫王茂昌木行。額面計一萬五千元。

$$0.27 \times \frac{15000}{1000} \times 30 = 121.50$$

(分錄)	(借方)	貼現票據	15,000—		
				(貸方)	
				{ 扣 息	121.50
				{ 代 收 費	15.—
				{ 往來存款	14,868.50

第四 押匯 (Documentary bills 荷爲替手形)

銀行之客商。欲將貨物運送於外埠而販賣時。(即外埠來定之貨或自己輸出而託外埠代售者) 不俟前途匯寄其代價。隨時急需資金。則將貨物抵押於銀行而求融通。其法。先作發貨單 (Invoice 送狀) 詳記貨物之內容。發出相當之匯票 (Draft or bill 爲替手形) 寄托貨物於輪船 (或鐵路) 公司。得其提單 (發於輪船公司者曰 Bill of Lading 船荷證券 發於鐵路公司者曰 Railway acknowledgment 貨物引換證) 並附以海上保險 (或運送保險) 領保險單 (Insurance policy 保險證書) 一齊交與銀行。該匯票爲外埠收貨主應付而銀行應收之票據。其金額。或爲發貨單之全部。或其七八折。依發貨主及收貨主之信用如何而定。銀行預扣其匯票滿期日止之利息。餘付現款。(實際上多轉賬於往來存款如前說明) 後將單據等郵寄於外埠往來銀行。(或本行分行) 轉驗兌於收貨主。至滿期日。收現款。同時交以單據。是謂隨貨匯兌之押收或單曰押匯 (Documentary bill 荷爲替手形) 故押匯亦外埠貼現票據之一種。不過另以貨物抵押。爲其特色。故另設一科目。

押匯之扣息較普通貼現扣息稍高。往往於扣息之外，另收代收費。或合併之而曰押匯費。凡對於外埠代收票款而收手續費之銀行，則對於外埠貼現票據及押匯，概收其手續費。否則不另收費。

例如本埠祥茂雜貨號來託向寧波押匯。貨為東洋雜貨，價二千元。匯票額面一千六百元。寧波泰昌洋貨號收貨。日利每千元為二角八分。貼現日數三十二日。代收費一千分之一。淨收款編入於往來存款。

$$0.28 \times \frac{1600}{1000} \times 32 = 14.34 \text{ 元}$$

(分錄)	(借方)	押匯	1,600-	(貸方)	扣息	14.34
					代收費	1.60
					往來存款	1,584.06

即日郵寄一切單據於寧波銀行。滿期則由該行向泰昌收款。通知本行。此際現款不輸來本行。以本行名義暫寄存於該行。故本行得此通知後，押匯之權利已消滅。

(分錄)	(借方)	他行	1,600-	(貸方)	押匯	1,600-
------	------	----	--------	------	----	--------

倘至滿期，泰昌拒絕支付或不能支付時，由寧波銀行送回一切單據（但當日匯票上已言明無須作支付拒絕證書）。本行遂向祥茂追索償還。合收過期利息手續費及原本（過

期利率日利每千元三角二分過期日數爲五日。

(分錄)	(借方)	現銀	1,603.56	(貸方)	押匯	1,600.—
					利息	2.56
					手續費	1.—

又或彼時祥茂亦已破產。不能償還時。銀行不得已拍賣貨物。其拍賣之地方及方法。均宜注意。如斯者。煩勞損失均大。故本埠來押匯者。苟非十分確實熟悉。萬不可承應其事也。

第五 往來過付 (Overdraft 當座貸越)

是又有往來欠賬。透支。浮欠等名。往來存戶當初交以相當之抵押品於銀行。得其一定限數之貸款契約。在此限數以內。(其實際存款數以外)可隨時發出支票。在存戶頗爲得計。而銀行視之。則劣於貸款或貼現。因其出入無定。不能預測其時期故耳。往來賬目有過付時。仍記入於往存之借方。亦無不可。雖然。存數與過付數有混同之慮。例如往來各存戶之總數百二十萬元。往來過付各戶總計三十八萬元。則在總款目原賬上之往來存款科目。祇有殘額八十二萬元。百二十萬元與三十八萬元之兩數。無由得知。是非可表示其會計之真相也。故補助簿上各存戶之賬目。不妨通算。而主要簿上。則必須分錄之。

例如王洽卿與本行有往來存款及過付之契約。收納七千元。抵押品爲八釐息公債票。額

面一萬元。過付限數八千元。契約期限一年。

(分錄) (借方) 現 銀 7,000— (貸方) 往來存款 7,000—

王洽卿發出支票十張。合計五千八百元。支付之。

(分錄) (借方) 往來存款 5,800— (貸方) 現 銀 5,800—

此時王君賬目之餘額。僅一千二百元也。未幾伊又來支票第十一號。照付二千三百元。

(分錄) (借方) { 往來存款 1,200—
往來過付 1,100— } (貸方) 現 銀 2,300—

又由王君存來現銀三千四百五十元。

(分錄) (借方) 現 銀 3,450— (貸方) { 往來過付 1,100—
往來存款 2,350— }

第六 外國匯兌轉收票據

(Liabilities of customers against acceptance 取引先支拂承諾

或輸入外國爲替手形)

是乃專業外國匯兌銀行所發生之科目。其性質已於第一節（對於公衆負債之科目第十七承認外國匯票）說明之。例如某客發出信用狀。外國貨主依是而發出本行應付之

匯票計二千磅。此種匯票。本當用支付地貨幣記其額面。但由歐美諸國發至東洋諸國之匯票額面。多用其本國之本位貨幣。是謂有息票據。今經外國銀行驗兌。本行遂承認之。同時通知於買貨主。令作同額同期日之期票。交來本行。但記賬時。英幣照本日行市計算之。(假定二千磅相當於一萬〇二百元)

(分錄) (借方) 外國匯兌轉收票據 20,200.- (貸方) 承認外國匯票 20,200.-

滿期時。照期票額面收納之。同時本行所承認之外國匯票。亦滿期。當照付與外國銀行。但不付現賬簿上。為該行暫欠。金額照本日行市。為二萬二百五十六元。

(分錄) (借方) 承認外國匯票 20,200.- (貸方) 他行 20,256.-
 { 匯兌市價損益 56.-

同時對於顧客收現。

(分錄) (借方) 現銀 20,256.- (貸方) 外國匯兌轉收票據 20,200.-
 { 外國匯兌損益 56.-

第七 有息票據 (Interest bills 利付手形)

是乃經理外國匯兌之銀行所用科目也。凡外國票據。如前所說。當以支付地之貨幣表示其額面。但由歐美等金本位國向中國求匯時。不示以中國銀幣。而仍用其本國之金幣。是

爲習慣。蓋外國貨主。各以其本國貨幣表示貨物價格。較爲便利。又中國收貨主。亦便於呈驗後。滿期之前。隨時斟酌最有利益之匯兌市價。而繳本國貨幣故耳。金幣國與銀幣國間。匯兌市價變動無常。定貨者易遭損失。得此法。可謂至便矣。

銀行對於此種票據。不能用普通外國匯兌之貼現方法。以其額面爲本國貨幣。不可目之爲內國匯票之貼現。付款人可於期日以內。隨意付清。而難以預測其確實日數故也。祇可照額面全數墊付於發票人。俟將來付款人付現時。令伊另付利息。是謂有息票據。其原質亦與押匯同。但必須特立此科目。至付款人負擔之利息日數。既須照發票地銀行墊付日起至付款人還清日止而計算。且付款人還清後。此報告達於發票地銀行時。其間利息。亦須照付。蓋墊款之銀行。非接到報告後。不能運用此款。並無由知其清還事故也。然則接到報告之日。如何推定乎。是須計算兩地間之平均郵寄日數。今舉一例如下。

由上海至英國倫敦

二十五日

由上海至美國紐約

三十日

由上海至日本橫濱及東京

十日

由上海至香港

十日

即由付款地照其應還票據之款。出一即付匯票。郵寄於發款地銀行時所需之日數也。是曰償還寄匯 (Return remittance) 之日數。

例如某年四月一日。倫敦某公司對於上海貿易公司之運貨。將額面三百五十磅十先令八辨士之有息票據。(見票後六十日支付年利六釐) 交於銀行。銀行照額面墊付現銀。

(分錄) (借方) Interest bills £ 350-10-8 (貸方) cash £ 350-10-8

倫敦銀行。隨時郵寄此票。本月二十六日達於上海銀行。轉驗之於貿易公司。得其承諾。自本日起至六十日(六月二十五日)爲滿期日。此際上海銀行自己之權利義務。尙無變化。僅代倫敦銀行呈驗之而已。故主要賬簿上無所分錄。貿易公司熟視該日至六月二十五日間之匯兌市價。如何變動。一達有利之時機。遂支付此票據。今假定六月五日決意支付。此日向倫敦匯兌行市。見票即付者爲兩先令七辨士半。(每上海規銀一兩)洋價爲七錢三分(每英洋一元)貿易公司應付之金額。包含額面及利息。其利息之算法如左。

付息日數 = (四月 30 日) + (五月 31 日) + (六月 5 日) + 償還寄匯日數 25 日 = 91 日

額面 = £ 350-10-8 = d. 84128

利息 = d. 84,128 × $\frac{6}{100} \times \frac{91}{365}$ = d. 1,258.46

應付金額 = 額面數 + 利息 = 84,128. + 1,258.46 = 85,386.46 磅

換算銀兩 = $85,386.46 \text{ 磅} \div \frac{2}{1} = \frac{85,386.46}{31.5} = 2,710.68 \text{ 兩}$

化 美 洋 = $2,710.68 \div 0.73 = 3,713.25 \text{ 元}$

上海銀行之分錄(六月五日)

(借方) 現銀 3,713.25 (貸方) 他行 3,713.25

此報告於六月二十五日達於倫敦銀行。則其分錄如左。

應收金額 = 額面數 + 利息 = 85,386.46 磅 = £.355-15-6 $\frac{1}{2}$

(借方) Other Bank £.355-15-6 $\frac{1}{2}$ (貸方) Interest bills...£. 350-10-8
Interest.....£. 5-4-10 $\frac{1}{2}$

第八 收買外國票據 (Bills & T. T. receivable 取立為替手形)

是亦外國匯兌上之科目。凡銀行收買客商交來之匯票。概為貼現票據。已如上述。雖然。發與外國之匯票。不能用貼現法。隨其期限之長短。匯價無定。故凡有攜來匯票而記明外國貨幣之額面者。單按市價改算。利息包括於市價高低之中。無須另行計算而貼現。故在外國匯兌上。無貼現票據科目。而設收買外國票據之科目。外國匯兌。以隨貨匯兌為最多。故收買時。(押匯)亦編入於此科目中。不另作外國押匯名目。

上海貿易公司向紐約某公司。發出見票四個月後支付之匯票。額面一千一百五十八達拉。六十三仙。押匯於上海銀行本日行市為六十六達拉（每百上海兩）洋市為七錢三分。則上海銀行之分錄。

$$\text{銀兩} = \$1,158.63 \div 66 = 1,755.5 \text{ 兩}$$

$$1,755.5 \div 0.73 = 2,404.79 \text{ 元}$$

(借方)	收買外國票據	2,404.79	(貸方)	現銀	2,404.79
------	--------	----------	------	----	----------

郵寄此匯票至紐約銀行。令其滿期索款。紐約銀行照額面收到一千一百五十八達拉六十三仙。隨時通知上海銀行。上海銀行接其信後。如左分錄。（本日收買電匯行市為六十四達拉半洋市為七錢三分）

$$\text{銀兩} = \$1,158.63 \div 64.5 = 1,796.33 \text{ 兩}$$

$$1,796.33 \div 0.73 = 2,460.73 \text{ 元}$$

(借方)	他行	2,460.73	(貸方)	收買外國票據	2,406.79
				外國匯兌損益	53.94

第九 匯兌預約執付 (Advance against Exchange Contracts 為替當座貸)

是亦經理外國匯兌銀行所用之科目也。輸出商恐匯兌市價有變動。先與銀行預約某期

間內向某國押匯之金額。總括而定其匯價。是曰匯兌豫約。(Exchange contracts) 該商於此期內。必須將預定金額之匯票。交於銀行。如該商之信用素著。則銀行於未收買其匯票以前。墊付其範圍以內之資金。該商即可利用其資金。採購其輸出貨物(土貨)及裝運出口時。交求匯之匯票於銀行。而以淨收金償還以前之墊款。固至便也。墊付方法。類於往來過付。於一定範圍以內。凡以採購貨物為宗旨者。可隨時發支票。但對於此支票。若用往來過付名目。則其性質不明。故另用一種支票。名為匯兌預約墊付科目。亦貸款之一種也。例如與上海貿易公司結約本年四五月間買匯三萬元。應其請託而限以一萬八千元。隨時墊付。未幾該公司欲用墊款。發出支票三千五百元。由本埠豐隆花行攜來。遂照付現銀。

(分錄) (借方) 匯兌預約墊付 3,500-

(貸方) 現銀 3,500-

後數次墊付。累計有一萬二千五百元。此際。該公司來託押匯。發出美幣額面之匯票。照預約之行市。換算之。計一萬六千九百七十八元六角八分也。其殘數撥入於該公司往來存款賬。

(分錄) (借方) 收買外國票據 16,978.68

(貸方) 匯兌預約墊付 13,500-

往來存款 3,478.68

第十 政府貸款 (Advance to Government 政府貸上金)

對於政府而行貸款者。以中央銀行或其他特別銀行爲限。普通銀行無之。其內容可細分爲數種。有依設立之條件而負貸出之義務者。(是謂法定貸上金)有臨時補救財政之匱乏者。(臨時貸上金)又有對於政府未售盡之財政部證券。而以貼現方法墊款者。(證券貼現貸上金)貸款之多寡。關係於國家財政之消長也。至大銀行宜特立一科目。通知世人。以示與民間貸款之區別。否則中央銀行與國家財政之間。惡緣聚積。銀行之地位。可牽入於國家財政之旋渦矣。至此分錄例。類於一班貸款。無容贅述。

丙 對於同業者之債權科目

銀行以其運用資金貸出於公衆。似無須另寄存於同業者間。雖然。小銀行向大銀行行往來存款。結成母銀行與子銀行之關係。可得種種便利。例如金融緩閒。積有餘資甚多時。或平素亦不願將提款準備金呆藏於庫中。而存其一部分於母銀行。以圖殖利。如運用資金不足時。可請再貼現其所有之票據。或行臨時借款。又或託母銀行代理交換事於票據匯劃所。又市中大銀行之加盟於匯劃所者。欲清償其交換超過額。亦必向中央銀行往來存款。以便各行間轉賬清還。此等。均屬自己銀行之希望。進而託存其資金者。即純然存出款。

也。此外救濟某銀行破綻時。以定期分還之條件貸出之。或庫有閒款。行即還貸款於他行。是依借主之請求。而本行決行之者也。其性質爲貸款。非存出款也。

現今事實上。會計科目過於繁多。且恐同業貸款之名目。易招世人之疑慮。彷彿對於破綻銀行之倒賬無可收回者然。故不問貸款與存款之性質。凡關係於同業者之債權。概收存於存出款 (Deposit with bankers 預金之名目下。雖非絕對不正當。然存出款名目。原來有即還條件往來存款之意。故以同業者之定期貸款。編入於存出款中。不免有欺負世人之物議。今不問存貸二字。則即還條件之債權與定期條件之債權。可以區別。又銀行將同業貸款編入於普通貸款中者亦有之。雖然。同業者定期貸款。乃營業關係上不得已而行之事。非本來之業務。(中央銀行對於一班銀行而貸款。實其本務。故編爲普通貸款。當然事也。)不可不表示其特別之債權也。

銀行簿記上之最重要者。收回資金之期限也。同業者間貸款與存款之區別。暫置弗論。茲合併此二者。名爲同業存出款。其期限區別如左。

第一 有期同業存出款 (Fixed loan and deposit with bankers 即接濟他行等之貸款)

第二 即還同業存出款 (Call loan and deposit with bankers 對於中央銀行之往來存款)

又對於銀行間或票據經紀之即還貸款是也)

例如由市中某銀行請求即還貸款三萬元。幸而本行存於中央銀行之往來存款有潤澤。遂應允之。以中央銀行應付之支票撥付該款。

(分錄) (借方) 即還同業存款 30,000 - (貸方) 即還同業存款 30,000 -

借方之即還存款。表明即還貸款之發生。在貸方者則示中央銀行之往來存款減少。未幾本行回收此款及利息三十元。

(分錄) (借方) 現銀 30,030 - (貸方) 即還同業存款 30,000 -
存出款利息 30 -

第三項 暫定資產科目

凡支出現銀之際。其用途及款數尚未確定。俟日後報告始分明者。或實際上雖未發生。然其權利已確定。結賬時。須表明之者。概稱曰暫定資產科目。銀行會計欲精密者。不可不注意也。

第一 未收利息 (Unreceived interest)

是為未付利息之反對科目。例如貸款期限須至營業下半年。非滿期不能收回本利。但由

貸款至結賬日。其間利息。應屬於本半期。蓋銀行以利息之收支。為營業之本體。故計算宜周。每營業結賬時。設此科目以明之。

例如某期結賬時。現在貸款有千四百五十戶。其已經過日數之利息。合計一萬零五百三十元五角八分。

(分錄) (借方) 未收利息 10,530.58 (貸方) 利 息 10,530.58

至次期取消。即除去此科目。

(借方) 利 息 10,530.58 (貸方) 未收利息 10,530.58

其後各戶貸款漸次滿期償還時。分錄無異。維結賬時。再對於彼時貸款。計算其未收利息。如前法。

又同一理由。對於本行向他行再貼現之票據。可以計算已付扣息。唯在普通銀行。為數無多。可略之。

第二 暫付金 (Disbursement in suspense 假拂金)

與暫收金性質相同。現款雖已支付而用途及款數未明時。用此科目。日後再為整理。例如某事務員視察各地分行時。先預支十二天之旅費車馬費。(假定每日五元)共六十

元

(分錄) (借方) 暫付金 60- (貸方) 現 銀 60-

十天後該事務員已回。繳還二天之餘費。

(分錄) (借方) 旅 費 50- (貸方) 暫付金 60-
現 銀 10-

又銀行支付日用經費時。不便逐一向支付課去索。故每月先預付若干於庶務課。隨時由該課使用。月底報告。再行整理。

(分錄) (借方) 暫付金 100- (貸方) 現 銀 100-

月底報告。謂營業用單據印刷費二十八元八角。郵票費二十六元四角五分。消耗品十八元九角六分。及其他雜費十元八角四分。照數支付。其原存之金額。即備下月使用。

	(借方)		(貸方)
	現 銀	28.80	
	通信費	26.45	
	消耗品費	18.96	
	事務零用	10.84	
			現 銀 85.05

此科目在簿記員甚為便利。但若濫用之。則簿記整理之目的。全行破壞。百弊叢生矣。例如

理事職員命令預支月薪。以此科目遮掩之。或欲避分錄之複雜。簿記員用此科目糊混之。致日後無從調查。要之。此科目非無他科目可以適用時。不能利用。既用之後。必須整理。歸於本來科目。以免紊亂賬目。

第三 創辦費 (Preliminary Expenses 創業費)

創辦費本為銀行之耗費。歸於損失者也。唯其金額有數千數萬以上時。若即歸入於損失。則開業後第一期之營業利益。究不能償還此耗費。必須表為損失。殊於體面有礙。且創辦費之性質。非但有効於第一期。第二期以後。均受其惠。故不能全歸於第一期負擔之。今設一法。視若一種資產。將來由營業利益中。陸續分償之。可也。

第四 現建營業房屋 (Office building under construction 新築費)

銀行設立之初。先租借房屋而開張營業。一面選擇地基。建築營業房屋。或暫用舊房屋而重行另建新房屋時。其費用如隨即記入於營業家屋科目之內。則營業房屋之款數。屢次變動。易令人猜疑。况工程習慣。開工時。照契約而先付幾分之一。爾後陸續分付。故與工程師之貸借關係不免大煩。宜先設一暫定科目。綜合其收支。俟全部竣工。移入於營業用房屋之科目內。此暫定科目。即改建營業房屋。是也。

一銀行與之結匯兌契約。而對於各地方。各生債權債務。故此等聯絡銀行。似可各揭其名。以爲會計科目。然其數過多。反生錯雜。故收存款時。存戶之姓名。一一詳記於補助簿。而以會計科目包括之。曰往來存款。今亦依照其法。總括各聯絡銀行而爲一科目。又總括各地分行而爲一科目。以便於查知其匯兌關係之總數也。前者曰他行 (Other Banks or Correspondents 他店) 後者曰分行 (Branch Offices 支店) 分行方面。表示其與本行之匯兌關係。用總行 (Head Office 本店) 科目。分行與分行之間。均目爲經由總行之交易。編入於總行科目。詳解於後。

凡匯兌關係之原因。甚多。雖然。可大別爲四種。茲列舉而示其分錄例於左。

第一 寄匯關係

(甲) 某甲攜來銀一百元。託寄匯於A地。茲收入該銀。發出A地銀行(他行或分行)應付之匯票。交付於甲。但無匯水。此際本行對於前途而發生負債。

(分錄) (借方) 現銀 100- (貸方) 他行(或分行) 100-

(乙) B地銀行來信本行。請匯付銀三百元於本地某乙。

(分錄) (借方) 他行(或分行) 300- (貸方) 應付來匯 300-

此時本行負應付來匯之債務。同時對於他行。將來有請求賠償之權利。其性質屬於資產。

(參考) 某乙來行呈驗B地銀行發出之匯票。求付現款。即驗兌。

(借方) 應付來匯 300-

(貸方) 現款 300-

本行已對於他分行。行資產之分錄。此際對於他分行。可無須分錄。

第二 求匯關係或代收款項之關係

(甲)之一、某甲攜來A地某乙應付之票據(額面五百元)期滿。託代收。茲暫收其票。郵寄於A地銀行。

此際。僅受客之依賴。於本行無何等債權債務之關係。故無須分錄。

(甲)之二、該票期滿。收到現銀後。接到A地銀行之回單。

(分錄)

(借方) 他分行 500-

(貸方)

暫時存款(或往來存款) 500-

此際。對於他分行。無論何時。有要求其送來現款之權利。故屬資產。又對於某甲。無論何時。有支付之義務。此義務。視甲與本行平時有無交易。而或為往來存款。或為暫時存款。

(參攷) 付票款於某甲。但扣除代收費三角。

(分錄)	(借方)	暫時存款(或往來存款)	500-	(貸方)	代收費	0.30
					現銀	499.70

此時與他分行無交涉。

(甲)之三、本行以貼現收賣之A地某乙應付之票據(尋常匯票或隨貨匯票等)寄與A地銀行。託其期滿後代收。此時無庸分錄。與甲之一同。

(甲)之四、A地銀行代收票款後。寄來回單。今收到。

(分錄)	(借方)	他分行	1,000-	(貸方)	貼現票據(或押匯)	1,000-
------	------	-----	--------	------	-----------	--------

(乙)之一、B地銀行寄來票據(本地某乙應付者額面一千二百元)一紙並知單。託俟期滿代收票款。此時。本行不生何等債權債務。無須分錄。無論係B地銀行受

顧客之託而代收之票據。或係該行自己貼現者。均一律看待。

(乙)之二、該票期滿。向乙索取。

(分錄)	(借方)	現銀	1,200-	(貸方)	他分行	1,200-
------	------	----	--------	------	-----	--------

即本行對於B行。有償還之義務。

此代收關係。非必限於票據之款項。公債票或公司債票利息等。皆用同此同一方法。故僅稱謂求匯關係。則意義不免稍狹。故有代收款項之名。

第三 墊款關係

(甲) 某甲攜來A地銀行發出之存款證書或該行支付保證之某乙發出支票。此本係A地銀行應支付者。無本行關係。唯與該行平時有往來且其憑據確實。故本行為便於客家起見。允其墊付。遂同封之。向該行發出知單。

(分錄) (借方) 他方行 400-

(貸方) 現銀 400-

(參攷) A地銀行承認該證書或支票。寄來債務確定之回單。今照收。此際已經分錄後。無須再分錄。

對於本地銀行之存款證書及支票亦有應諾而墊付事。但此等憑據。可與現銀同視。故不生匯兌關係。

(乙) 之一、B地銀行寄來本行發出之存款證書及墊付該款之知單。今照收。即發出其查照承認之回單。此時對於該行之債務。已確定矣。

(分錄) (借方) 存款證書 400-

(貸方) 他方行 400-

(乙)之二、B地銀行寄來本行支付保證某乙發出之支票及墊付該款之知單。今照收。即發出其查照承認之回單。

(分錄) (借方) 往來存款 400-

(貸方) 他分行 400-

此時對於他分行之債務已確定。同時而支付保證之債務消滅。

第四 臨時關係

以上所舉。為銀行彼此間日常發生之匯兌關係。此外往來上發生臨時之貸借關係者亦不少。今示一二例於下。

(一) 創設本行之分行於A地。付送中國銀行支票三萬元。以為其經營基金。

(分錄) (借方) 發行 30,000-

(貸方) 存出款 30,000-

(二) 因B地銀行有恐慌之兆。輸送現幣二萬元。

(分錄) (借方) 發行 20,000-

(貸方) 現銀 20,000-

(三) 對於C地銀行。有匯兌殘額一萬六千五百元之債權。對於D地銀行。有匯兌殘額二萬三千八百元之債務。因此發知單於C地。囑匯其債權中一萬五千元於D地銀行。

(分錄) (借方) 他行(對於D地銀行) 15,000— (貸方) 他行(對於C地銀行) 15,000—

類如此者甚多。不遑枚舉。可由此類推矣。

凡匯兌關係。在銀行簿記中最繁雜。難於處理。後章當詳述其整理方法。茲僅述其會計科目分錄之大要。其在經營外國匯兌之銀行。另設外國銀行(Foreign banks)一科目。以與普通之他行科目相區別。

第四節 屬於利益之會計科目

原來屬於損或益之會計科目。乃表示其營業之贏虧趨向者。因此而定營業之方針。科目分類之當否。影響甚大。是為簿記上重要問題。雖然。向來簿記上輕視之。設繁雜之科目。頗為不當。今就事理上分類。列必要之科目。

第一項 資金運用上之利益科目

第一 貸款利息 (Interest on Loans 貸付金利息)

對於一般貸款。往來過付。即還貸款等而收入之利息。銀行營業上最為重要。或謂之收入利息。利息之計算法。詳述於後章。

第二 扣息 (Discount 割引料)

此或稱曰貼現費貼水。唯費字不當。是乃利息之預扣。故可稱曰扣息。或貼現息。扣息之計算法。各國不同。或用日利。或用年利。日利者。對於每百元或千元。每日幾分或幾角。年利者。以百分率 (Per cent.) 表示之。日數則合算其貼現日及滿期日。例如五月五日滿期之票據。於三月十日貼現時。三月(31-10+1) + 四月30 + 五月5 = 57天。今假定每千元日利為二角五分。貼現某票據。額面為三千元時。

$$0.25 \times \frac{3,000}{1,000} \times 57 = 42.75$$

即四十二元七角五分之扣息。則淨收款為二千九百五十七元二角五分也。又押匯期限為見票後若干日時。先算計達於付款地方之郵寄日數。加之於日數內。扣息隨票據之信用期限等而不同。又本埠付款者與外埠付者亦異。

第三 有價證券利息及分紅 (Interest & dividend on bonds)

或細分為公債票息、公司債票息、股票分紅等。亦可。銀行對於其所收買之有價證券。表示其收益利息及分紅。

第四 存出款利息 (Interest on deposit with bankers)

銀行對於同業者而有存款。因此而得相當之利息。則用此科目以記賬。

第二項 資金周轉上之報酬科目

第一 寄匯費 (Remittance fee 送金料)

或名曰匯水。隨金額之多寡而設等級。或一律課以定率。如匯兌爲逆勢時。匯水高。順勢則低。近年銀行間競爭之結果。不要匯水者亦有之。至電匯則另收電報費。或倍收匯水。各國習慣不同。

第二 代收費 (Collection fee 代金取立料)

客人攜來票據託代收票款時。近來大勢。亦不收代收費。然外埠付款者。則無論額面之大小。必收通信費郵寄費。每件二角乃至三角。其對於匯兌有順勢之傾向且無競爭者之地方。收額面百分之一乃至百分之二。又銀行往往恐貼現扣息率過大。則僅限以普通率。另用代收費之名目。以達其志願者。亦有之。

第三 現錢兌換利益 (Profit on cash change 兩換手數料)

幣制不統一之國。有兌換現錢之必要。其時所生之利益。編入於此。但就數十百次之零碎兌換。一一分錄之。則不勝其煩。故另設補助簿。每日以其合計分錄之。

第四 有價證券經手費 (Commission on bonds & shares)

銀行代客買賣有價證券時。收此經手費。

第五 保護寄品費 (Safety deposit fee)

對於保護之寄品。收一定之保管費。此保藏品有二種。卽有開展保存及封鎖保存是也。但會計科目上無庸區別。

第六 鑑定費 (Appraisal fee)

農工銀行等。收田圃家屋工廠等不動屋產之抵押品而行貸款。此時。銀行先派遣貸款課員或有專門智識者。赴該處。檢查其實際價值及抵押價值。此報酬及旅費。無論貸款之成否。均須徵收。

第七 其他信託業報酬 (General commission)

卽對於公債票等之承攬出售財產管理卽等信託業之報酬也。隨各銀行業務之性質。而定適宜之科目。

第三項 臨時收入科目

第一 諸手續費 (Sundry fee 諸手數料)

第二編 銀行簿記法則 第一章 會計科目設定法

例如股東轉讓本行之股票。更換其名義而來註冊時。或發給信用狀時。均收手續費。

第二 債票中籤利益 (Premium on debentures 債券的籤利益)

公債票或勸業銀行債票中。有附彩者。今幸而本行所有之債票。適中其彩籤之號碼。收取彩金時。用此科目。又當初以額面以下之時價。買進之債票。當抽籤償還時。收回額面全部。此利益。亦可謂爲中籤利益。此項利益。似可目爲該債票利息之一部。雖然。是由發行方面觀出之性質。若由有債票者觀之。彩金及利益。皆屬不可預期之臨時收入也。

第三 雜項收入 (Miscellaneous income 雜收入)

銀行依其業務性質。除上述各項外。如有常時發生之收益時。隨意定其相當之科目。但其性質係屬於臨時發生而不足以設特別之科目者。總括之曰雜收入。所當注意者。濫用此科目。則範圍擴大。易紊亂其整理會計之目的矣。

第五節 屬於損失之會計科目

屬於此科目者。其分類設定。不可不嚴正。蓋恐經營者對於股東或公衆。有時欲彌縫其經營失敗之跡。而故意曖昧其科目名稱。或雜入於不相當之科目中。以粉飾其表面故耳。今考查經營之成績。採其便利分類法。列銀行常有之科目。如次。

第一項 資金收集上之損失科目

利息之收支。爲銀行營業之大綱。故對於其支付利息事。亦不得不期於嚴密也。

第一 存款利息 (Interest on deposit 預金存款)

綜計往來存款。特別往來存款。定期存款等應付之利息。銀行結賬時期與利息計算期不同一時。另設未付利息之科目。撥入於其中。此已於該項下說明之矣。

第二 借用款利息 (Interest on debts 借入金利息)

卽還及有期借款等利息之支付事。參觀借用款科目。

第三 再扣息 (Re-discount 再割引料)

扣息雖屬於銀行之利益。然再扣息則爲就他行而借用資金之性質。故此扣息。歸於銀行之損失。其交易多者。結賬時。設一未經過再扣息之科目。由此科目除其數。以圖計算之嚴密。

第四 債票利息 (Interest on debentures 債券利息)

發行債票之銀行。對於債票而支付每期利息。但發利息之期日。未必確當於銀行結算之日。故有時另用未付利息之科目。計算其未付之利息。撥入於此科目也。

第五 債票彩金 (Premium of debentures)

債票彩金。雖爲誘客之手段。然銀行照其撥給彩金之數。低減其債票之利率。故由經營者觀之。彩金亦利息之一部也。

第二項 營業直接費之科目

營業直接費 (Direct trading expenses) 者。爲業務交易上當然必需之經費。大概比例於交易之大小。多係有益業務之經費。故此種經費。非必不可厭。寧視爲業務繁盛之一左券。可也。但須常與上年度之支出比較。又與他銀行之直接經費比較。切不可有過多之弊也。

第一 通信費 (Correspondence expenses)

郵寄費 (Postage) 電報費 (Telegram charge) 電話費 (Telephone charge) 等是也。

第二 諸稅 (Taxes)

地租 (Land tax) 所得稅 (Income tax) 營業稅 (Business tax) 發行稅 (Bank-notes tax) 印花稅 (Stamp duty) 地方稅 (Local tax) 等是也。

第三 匯票經紀用錢 (Exchange or bill brokerage 爲替仲買手數料)

票據經紀或匯兌經紀。奔走於各銀行之間。交易成立。應向賣主或買主收其交易價幾百

分之幾。故銀行計算之。每月支付於經紀。

第四 債票紙幣發行費 (Expenses for issuing debentures or bank-notes)

債票之印刷費廣告費。經理店手續費等是。其在發行紙幣之銀行。有紙幣印刷費故亦設紙幣發行費之科目。

第五 營業雜費 (Sundry direct expenses)

如現金輸送費有價證券買賣經紀費等關於營業直接之費用者是也。

第三項 辦事費之科目

所謂營業所內之辦事費 (Office expenses or management expenses) 者。即於一定規模之營業所。不拘業務之盛衰。不比例於交易之大小。必然發生之費用也。此種費用。隨營業方針之浮華或堅實。大有徑庭。又隨事務員監督之寬嚴而被矯正。故銀行之成績不良。亟須振作整理時。先將此種科目。極力減少可也。

第一 薪俸 (Salary and Allowances 給料及手當)

銀行職員事務員之薪俸。駐在海外之分行事務員之酬勞。及僕役等之工資。均屬於此。

第二 賬簿單據費 (Books and Forms 賬簿及用紙費)

各種主要補助簿之印刷費裝釘費及各種營業用單據之印刷費等是也。

第三 旅費 (Travelling expenses)

銀行職員及課員因公務旅行時。由銀行支給旅費。其法甚多。火車輪船乘車宿食等實費外。另應其人之階級。每日與以若干之酬勞。是等皆稱曰旅費。

第四 修繕及保險費 (Repairs & House insurance)

家屋器械器具等修繕費是也。其款額大而其效用著。確增加其物之價值時。可加之於其物之原價內。若僅用修繕費名目。視爲損失。則至不當也。又保險費亦屬之。

第五 房租及地租 (House rent and Land rent 家賃及地代)

銀行自己購置其營業房屋地基者。率居多數。然亦有因特別事故而租借者。則每月或每半年。不得不支付其租費。惟押租。將來遷居時。仍可取回。故不能目爲損失。宜編入於暫付金或貸款中。

第六 水及燈油煤炭費 (Water, Light, and Coal supplies)

電燈。煤氣燈。自來水。挑水。煤爐。電扇等費之總稱也。

第七 紙墨筆費 (Stationeries)

事務員所用之洋墨水洋筆毛筆信箋印泥圖章算盤洋釘等是也。至打字機 (Typewriter) 計算機 (Adding machine) 等。價值數百元。堪數年之供用。故不能遽目爲損失。或編入於器具中。

第八 消耗品費 (Consumable articles)

事務所所用之雜品。例如手巾洋皂茶葉筭箸等總稱也。其茶杯碗碟等。雖非消耗品。然易破壞。且價亦零碎。暫目之爲消耗品者多有之。但銀行經營者亦不能因是而不注意。故平時必須警告僕役。以防損失。

第九 事務零用 (General petty expenses)

銀行平常支出之費用甚多。不遑枚數。故不屬於以上所舉之各科目者。皆瑣屑費用。總名曰事務零用。

凡此項辦事科目。多爲銀行庶務課所職掌。由第六至第九諸科目。數目微小。時常發生。斷不能時時仰司理人或理事之裁酌。先預算每月應用之款項若干。由出納課支付於庶務課。庶務課隨時提用。至月抄。出報告。呈閱於司理人。可也。是謂委任預付制度 (Imprest system) 此時。出納課先以暫付金科目分錄之。俟有報告後。各轉賬於其適當科目。可也。

(參觀二二三頁)

第四項 營業援助費科目

無論何種營業。雖非目前必要之事項。然爲將來業務發達或推廣之計。不可惜若干之費用。是謂營業援助費。但其費用之用途及方法。必須嚴密思慮。否則當事者動輒圖其自己之豪興。而於銀行方面。毫無何等之結果也。

第一 廣告費 (Advertising fee)

銀行開辦或店址遷移發行債票更改存款利息。每期營業報告改選理事停止股票名義等時。固無待言。此外。欲說明銀行之地位及日常交易之大綱。例如資本若干公積若干存款若干利息若干等。又往來匯兌處某某地方等事項。均廣告於新聞雜誌中。至有益也。

第二 調查及團體費 (Inquiring expenses and subscriptions)

商會銀行公所票據匯劃所與信所等之捐費。及利用此等機關而調查之報酬也。

第三 圖書費 (Books and periodicals)

或欲備營業上之參攷。或欲修養課員。是必購入內外之圖書雜誌新聞。銀行經營法或法律問題等。日日有新事件發生。社會之移轉。無片刻休息。各銀行當事者甘於小成。不吸收

新智識。或無改良進步之觀念。則業務終不免萎靡也。

第四 學徒教育費 (Educational expenses for clerks)

學徒之學識不高。若徒成長於每日之紛繁事務中。則將來地位遞升時。人格腦力不免淺陋。故銀行如欲圖進步。則學徒之教育。不可忽視。當於每日早晚間。代延特別教師。與以一般商業教育。約一小時或二三小時。或臨時請名人學士講演一切。亦良策也。

第五 交際費 (Social expenses)

銀行有時必須有請客酬贈等事。不得不支付其費用。但不可因理事課長輩之私慾。而濫費一切。否則弊害。非淺矣。

第五項 臨時損失科目

第一 倒賬損失 (Loss on bad debts)

平時貸款貼現。雖十分注意。然倒賬事仍在所不免。此際。宜及時講求其損害收回之方法。如此而尚有損耗。則無如何矣。特轉賬於損失科目。倘彌縫於一時。不行轉賬。依然放置於貸款數目之中。則會計虛僞。而百弊叢生矣。其在有倒賬填補公積之銀行。即由其中撥賬。而此科目可不用。

第二 雜項損失 (Sundry losses)

他科目中不含有之雜項臨時損害。均屬於此科目。(例如盜難偽造貨幣誤收等事)但此種損失或利益之科目。不能濫用。否則會計狀態全然曖昧。故能不用此科目者。最妙。

第六節 損益共通之會計科目

時而爲利益。時而爲損失。無一定之科目也。例示於左。

第一 所有物買賣及評價損益 (Profit & loss on transaction or adjustment of properties)

銀行轉賣其所有之房屋地基器具或評定時價時。發生之損益科目也。但平時有減價公積之銀行。於評定時價時。即以公積填補損失。(二十八頁參照)祇設所有物買賣損益之科目。足矣。

第二 有價證券買賣及評價損益 (Profit and loss on transaction or adjustment of shares and bonds)

銀行轉賣其所有之公債票公司債票股票等。或評定時價時。發生之損益科目也。但平素有相當之公積者。不發生此科目。又公債票公司債票。照額面償還時。其買價與現在評定

之價。互相比較。當有損益。均包含於此科目也。

第三 生金銀買賣及改鑄損益 (Profit and loss on transaction or coinage of bullion)

生金銀之買賣評價時之損益。可由生金銀市價變動預備公積而轉賬。改鑄損益。多係中央銀行發生之科目。以廉價購入之生金銀。是交於政府之造幣廠。改鑄現幣時。可收若干之利益。

(註)以上三科目。如各有公積時。可無須設之。

第四 外國匯兌買賣及評價損益 (Profit and loss on foreign exchange)

專理外國匯兌之銀行。利息以外。於此爲其收益之源。所請評價者。各往來匯兌處間之匯兌基金及匯兌殘額之市價變動等測算結果也。外國匯兌損益之計算。讓於該學課目。

第五 債票發行價格損益 (Profit and loss on issue of debentures)

發行債票之銀行所用之科目也。據其賣出條件。而異於淨收金 (Net proceeds) 與額面比較。或損或益。

第六 他行匯兌殘額利息 (Interest on balance of correspondents a/c.)

第七 總行(分行)匯兌殘額利息 (Interest on balance of branches or head office a/c.)

與各地銀行之匯兌關係。或爲借方。或爲貸方。日日流轉不已。因日日計算利息。統計之。或應收。或應付。卽損益之分歧也。縱總分行。間亦有匯兌關係。毫無異點。便宜上分設兩科目。

第八 貨幣市價損益 (Profit & loss on money price)

貨幣制度未能統一。各種貨幣。日有市價。變動莫測。銀行營業。每日告成後。將其庫中所有現幣。除本位貨幣外。一一合其市價。則其結果。自生損益。必須將一方現銀。及一方此科目。分錄之。

第九 結賬損益 (Final profits & losses)

結賬時。屬於損失利益之一切科目。將其總計。一一轉入於此科目。其結果。借方大則爲本期銀行之損失。貸方大則爲銀行之利益。然後經股東總會之議決。將此科目。一一再轉入於各種公積。及分紅等科目。而消滅此科目也。(參觀下章結賬法可知)

以上縷述會計科目之大要。於此告畢。雖然。原來會計科目。無定數。亦無定名。從各營業主體之便宜。設立之。故視銀行規模之大小。或細分一科目。而爲數科目。或併兩科目。而爲一。均無不可。祇求不失其分類之精神。無重復混同之弊。令交易事項。井井有條。頭緒明瞭。斯爲要着耳。至實際上運用之妙。在乎實習例題。並進而投身於營業場中。然後始詳解而無

遺也。

第二章 主要賬簿組織法

凡簿記上實行之手續。略分四段。

(第一段)交易事實之蒐集。營業主之財產苟有增減變化之事實時。無論爲自然的或人爲的變化。又無論金額之大小。悉蒐集之而記賬計算。倘因一小事而遽爾忽略。或脫落遺漏。或計算誤謬。則非確實會計之表示法也。

(第二段)蒐集事實之分拆。日日叢生之財產變化。若雜列亂記。則無何等效果。故須分析之。或應屬於資產負債。或應屬於損失利益。凡有一次變化。不可不明瞭表示其原因結果也。是曰分錄。

(第三段)分拆部門之謄清。分錄者。依事實發生之順序而隨時行之者也。對於此種分類之科目。若無總計。則無以知其一定期間內之會計狀態。故須就分錄之各部分。一按其科目而轉記之。以表明各科目現在之餘數。

(第四段)謄清科目之統計。凡經過一定期間。通計其綜括轉記於各科目下之事實。以明瞭其財產變化之情勢及現在之結果。

第四段。卽所謂結賬（決算）之手續。應用於各種統計表（Tables）容於後章述之。茲先就前三段言之。其實行手續之最要事。卽賬簿也。於第一段手續。蒐集交易事實之賬簿。曰日記賬。（Day book）第二段手續上之賬簿。曰分錄賬（Journal）用於第三段者曰原賬。（Ledger）此於商業簿記中。已習知矣。此三種賬簿。爲前述簿記手續實行上之根幹。承上接下。互相通貫。以成會計全部之記錄。故稱之曰主要賬簿（Principal or main books）其附屬於主要簿。而詳細記錄其一部分。或營業主直接之權利義務無變化。而記錄其主要簿上不能分錄之交易者。汎稱曰補助賬簿（Auxiliary or subsidiary books）其在銀行。營業部各課之事務員。僅司掌補助簿。記錄其一課所屬之事務。至主要簿則另設計算課。與營業當事者全相隔絕。而專事記錄計算之任。

日記賬分錄賬。原賬之三階段。在理論上說明。雖甚便利。然實地商業上之手續。甚繁冗複雜。現今商業界。各照其營業組織及規模。適當改良之。以圖實務之便宜。銀行業所應用者。卽傳票、日記賬、總目原賬等三種也。

第一節 傳票 (Slips)

第一項 傳票之性質

傳票者。有一定形式之小紙片也。凡有關於銀行之權利義務之交易。一旦發生。必於其關係之事務員。略記其要領。以蒐集交易事項。且用以轉告於他分課。銀行爲分課組織。故某課發生之交易。必影響於他課。又每項事必經司理人之允諾。但每次交易。若均須關係事務員離席而巡迴於各課事務員間。一一口述。則數百交易時。銀行之營業室內。當極喧嘩而不可收拾矣。故今也欲防此弊。令各種交易。秩然有序。以履行其手續。遂用傳票法。略記其交易事項。以代口述。互相聯絡。其法最良。無有過於此者。故有傳票之名。

欲增大傳票之效用。其記入形式不可無一定。且須並行分錄。故傳票兼有日記賬分錄賬兩者之效用。不可以其爲小紙片而忽之。普通書坊間之簿記教本。均目爲賬簿以外之附屬單據。而余獨重視之。認爲主要簿之一種。雖其外觀爲一小紙片。不成賬簿體。然日日聚集之。亦須整理保存。與賬簿無異。彼之紙片式 (Card system) 及散票式 (Loose leaf system) 既盛行於世。茲目之爲賬簿而不足怪者。亦理之自然也。

凡各種交易有三種。(一)關於現幣之收入者。(二)關於現幣之支出者。(三)無關係於現幣。祇關於權利義務之移轉者。故傳票亦因之而分爲三焉。即(一)收款傳票 (Receiving slip) 入金傳票。(二)付款傳票 (Paying slip) 出金傳票。(三)轉賬傳票 (Transfer slip)

振替傳票。是也。其形式。各銀行雖不免稍異。然其應填寫之要領。則同爲分錄之會計科目。款數之顧客姓名、交易號次、年月日等。其劃線以色區別之。或用各色之紙片。一見即可知爲何種傳票矣。凡收款傳票。率用紅紙黑印。或白紙紅印。付款傳票。率用藍紙黑印。或白紙藍印。轉賬傳票。率用白紙黑印。是爲常例。今舉數例題以說明之。如左。

(一) 民國三年十一月一日 收李哲卿定期存款一千元 (收納他行支票五百元銀幣五百元) 與以第十號之定期存款證書。

(二) 同 日 支劉蓮生貸款五百元 (支付紙幣四百元銀幣百元) 其交易號次第二十五號。以公債票 (額面七百元) 爲抵押。

(三) 同 日 洽順記以協源記發出之期票 (第十五號額面千五百元十二月三十一日滿期) 來託貼現 (交易號次本埠十一號) 扣息二十五元。將其餘款撥存於洽順記之往來存款中 (存款簿號次八號)。

(一) 爲收款。(二) 爲付款。(三) 爲轉賬。

此外尚有轉賬而同時收入或支付現幣者。所謂一部收款之交易。一部付款之交易。是也。例如

(四)前例(一)時李哲卿之定期存款千元中。其五百元爲德大號(與本行有往來存款者)發出之支票第十二號。(假定存款證書爲第十一號)

(五)前例第(二)時除扣息外。以現幣支付其淨收金一千四百七十五元。(假定交易號次爲本埠第十二號)

第二項 收款傳票及付款傳票

茲舉此兩種傳票之模樣以記入前之(一)(二)兩例題如左。

No. 1

收 款 傳 票

(雜 費)

民 國 3 年 11 月 1 日		關 係 印 風 吹		收 納 印 票 筋		司 理 印 人 圓		佐 微 角 分 釐	
摘 要	姓 名	拾 萬	千	百 拾 圓	圓	角	分	釐	
定期存款	李 哲 卿	1	0	0	0	—	—	—	
第十號									
合 計		1	0	0	0	—	—	—	

收訖

No. 2

付款傳票

(雜式)

民國 3年 11月 1日	關係 印	丹崖	支 票	付 印	心國			司理			佐 微		
					拾萬	千	百	拾	圓	角		分	釐
摘要		姓		名									
貸款		劉		運			5	0	0				
合計							5	0	0				

第二十五號
抵押公債票
額面七百元正

付訖

如此收款付款兩種傳票之作法。甚易了解。今設一賬簿。逐次集合其收款傳票於借方。集付款傳票於貸方時。宛然成一種主要簿式之現銀出納賬。其用於銀行簿記之日記賬。實採用此主要簿式之現銀出納賬者也。

第三項 轉賬傳票

然則轉賬傳票之記入法果如何耶。原來銀行之日記賬。非但記現銀之出納。即與現銀無關係之轉賬交易。亦網羅之。故轉賬交易。亦當設法而與主要式現銀出納賬相調也。其調和方法。即將一切之轉賬交易。假定爲現銀交易。而行想像上之分錄。例如某甲定期存款滿期。欲全部撥入於往來存款。則爲向與現銀無關係之轉賬交易。雖然。暫假定某甲先由定期存款。提取現銀。然後以之行往來存款。可也。銀行方面之分錄如左。

(A) (借方) 定期存款 1,000-

(貸方) 現 銀 1,000-

(B) (借方) 現 銀 1,000-

(貸方) 往來存款 1,000-

而將(A)記入於付款傳票。以(B)記入於收款傳票。則此問題遂解決矣。

第三例題亦然。原來分錄

(借方)	貼現票據	1,500-	(貸方)	扣	息	25-
				往來存款		1,475-

今用調和方法。假定爲現銀之收支。則分錄如次。

(A)	(借方)	貼現票據	1,500-	(貸方)	現	銀	1,500-	
(B)	(借方)	現	銀	1,500-	(貸方)	扣	息	25-
					往來存款		1,475-	

如此施行後。將(A)記入於付款傳票。(B)記入於收款傳票。而得日記賬記載上之調和矣。但所不便者。將一項交易。如是兩分。結果。將來難於對照耳。故並此收支兩種而作一張傳票。是謂轉賬傳票也。

其法。收款爲現銀式日記賬之借方。故置之於左方。付款爲其貸方。故置諸右方。彷彿收款付款兩種傳票並列時之形式也。如左。

轉 賬 傳 票

(雜三)

借 方	No. 3	民 國 3 年 11 月 1 日				司 理 人 印	佐 徵		貸 方		
		拾 萬 千	百 拾 圓	角 分 厘	拾 萬 千		百 拾 圓	角 分 厘			
摘 要	姓 名	拾 萬 千	百 拾 圓	角 分 厘	姓 名	拾 萬 千	百 拾 圓	角 分 厘			
扣 息	國 國				國 國						
本 十 一 號	洽 順 記		2 5	—	本 十 一 號	1 5 0 0	0	—			
往 來 存 款	國 國				洽 順 記						
第 八 號	洽 順 記	1	4 7 5	—							
現 金 支 出					現 金 收 入						
合 計		1 5 0 0	0	—	合 計	1 5 0 0	0	—			

此傳票上之借方貸方。與普通分錄反對。是爲主要簿式現銀出納賬之性質上。一種假現象。決非貼現票據科目。屬於簿記分錄上貸方。亦非扣息與往來存款科目。屬於其借方也。唯於轉賬傳票及日記賬（主要簿式現銀出納賬）之貸方一面。暫記貼現票據科目。於其日記賬借方方面。暫記扣息及往來存款科目耳。故將來由日記賬轉記於總目元賬時。反正之。貼現票據記於其科目之借方。扣息及往來存款記於其貸方。於此而與普通分錄相一致矣。初學者往往目此假定現象。謂銀行簿記之分錄與普通分錄相反云云。殊欠妥當。易生誤解。原來分錄決非相反。以遇傳票上之分錄。表面上與普通者相反耳。茲就第四例題。先行普通分錄。如次。

(借方) {往來存款 500-
現 銀 500-}

(貸方) 定期存款 1,000-

於此而用現銀調和法則如左。

A (借方) 現 銀 1,000-

(貸方) 定期存款 1,000-

B (借方) 往來存款 500-

(貸方) 現 銀 500-

C (借方) 現 銀 500-

(貸方) 現 銀 500-

即將A置於轉賬傳票之借方。將B置於其貸方。而C則於貸借兩方用同一金額之科目。故可省略。唯比較傳票形式借貸各方。於少額之側即貸方金額欄。記入數目。以便合計金額之借貸平均。故不另設現銀科目。祇加現銀收入四字而已。

轉 賬 傳 票

(第二)

借 方		No. 4					民 國 3 年 11 月 1 日					理 人 印		貸 方				
												佐 徵						
摘 要	姓 名	拾 萬	千	百	拾 圓	角 分 釐	摘 要	姓 名	拾 萬	千	百	拾 圓	角 分 釐	拾 萬	千	百	拾 圓	角 分 釐
定期存款	李哲卿		1	0	0	0	往來存款	德大號		5	0	0						
第十一號							支票十二號											
現金支出							現金收入			5	0	0						
合 計			1	0	0	0	合 計			1	0	0	0					

又第五例題之普通分錄法

(借方)	貼現票據	1,500-	(貸方)	扣息	25-
			{	現銀	1,475-

用現銀調和法如次

A	(借方)	貼現票據	1,500-	(貸方)	現銀	1,500-
B	(借方)	現銀	25-	(貸方)	扣息	25-
C	(借方)	現銀	1,475-	(貸方)	現銀	1,475-

即將A置於轉賬傳票之貸方。B置於其借方。C可省略。唯記其差數於借方金額欄中。使合計相等。不另設科目。仍用現銀支出四字。可也。

轉 賬 傳 票

(雜三)

借 方	民 國 3 年 11 月 1 日					司 理 人	依 徵		貸 方		
	No. 5	姓 名	拾 萬	千 百	拾 圓		角 分 釐	拾 萬	千 百	拾 圓	角 分 釐
貼 扣 息	國					國					
本十二號	洽順記			2	5	洽順記		1	5	0	0
現金支出	國		1	4	7	現金收入					
合 計			1	5	0	合 計		1	5	0	0

以上爲記入轉賬傳票之原理。雖然日常交易甚繁。如此一一先行普通分錄。後用現銀調和法。衍行收款付款傳票。而作轉賬。則不免煩瑣矣。故日常分錄時。可用兩種之簡便觀念如左。

(一)一切交易。分現銀收支兩方面。屬於現銀收納性質之科目。皆記於轉賬傳票之借方。屬於現銀支付者。置於貸方。而貸借各方之差。另記於少額之方面。

(二)或更簡而言之。屬於資產或損失之科目。記於貸方。屬於負債或利益之科目。記於借方。如是假定可也。

此兩種觀念。從學者之所好。以行其自己日用之解釋法。可也。唯此假現象亦有原理。如上所述。不可忘却也。

第四項 傳票之效用

凡傳票證書及銀行內之用紙單據等。概歸用度課印刷準備之。分交各課。以供使用。發生交易時。先以預備手續。由其業務之主要課。就其可否交易事項。查其參攷材料。以便取捨。及稟承手續。預備調查。應具意見。是關於司理人請其裁酌。後由主務課記入交易之大概。以作傳票。此際當事之課員。於傳票上蓋略印。以表其責任。轉送於關係各課。各課

因以知交易之性質。檢其關係單據。記入於經管之賬簿。填寫必需之單據。是乃本務手續也。本務手續完結時。每次將擔當課員之略印。加蓋於傳票及單據上。送還於主務課。主務課閱後。即將傳票及一切關係之單據。統呈關於司理人。（是謂覆申手續）或不送還於主務課。而由最後之關係課查行覆申手續。亦可。

此時司理人須詳細查閱

（甲）先就有關於收款者。查閱傳票上是否有收納課之證印。（收納課或支付課除蓋有擔責者之略印外。當另蓋一收訖或付訖印。）後於本行可作領收證據之關係單據。銀行簽名蓋印。且加蓋畧印於傳票。一併還交於主務課。

（乙）關於付款事。先查顧客之領收單據。或請求付款之關係單據。如檢閱其應收作廢之單據時。即於此單據上自己曾簽名蓋印之部分。一一塗消之。檢查既畢。即應加蓋略印於傳票。又或司理人蓋略印於付款傳票時。即須對於支付課而作支付命令者。倘無此命令書。則支付課不得支付分文。

（丙）關於轉賬時。須查照收款付款之兩方關係單據。各蓋印或塗抹之。

事畢後。將傳票送於計算課。以備記賬計算。並將係關單據。送還於主務課。由伊交與顧客。

或保存之。是即司理人依覆申而確認其交易之成立。並辦理手續。初無脫漏差誤。親負責任之證據也。故傳票及其關係單據。必須一一詳查之。又基於總括預約者（Open contract 當初預約於某期間內繼續行某範圍之交易者）亦須時時檢查賬簿及契約者。以期無超過其契約範圍之事。故司理人不可不通曉銀行事務之全部。彼為董事理事而全不知事務或怠於檢查。僅依呈閱等件而漫事簽名蓋印者。日本謂之盲印。殊非宜也。

經過以上各種手續。表示交易之性質。不必令課員各離其席。到各關係課內說明之者。全恃乎主務課作成之傳票。傳票之效用。實廣大無涯。例如由主務課送呈司理人時。為覆申書。對於支付課為支付命令書。對於計算課為日記賬及分錄賬之用。總之。傳票為銀行各課之聯絡機關。有此機關後。營業上分課始圓通而行也。

有時對日常發生之交易。以他之必需單據代用傳票。而省略事務者。例如收納往來存款時。以存戶持來之送銀簿之傳票（*Paying-in slip, or deposit slip*）代用於收款傳票。又依往來存款之支票寄匯之匯票及存款證書等而行支付時。以此等票據代用於付款傳票。此際。前者目為收款傳票。後者視同付款傳票。可也。

第二節 日記賬

銀行簿記所謂日記賬 (Journal) 者與普通簿記上所謂日記賬 (Day-book) 不同。乃併合分錄賬性質之分錄日記賬也。上述之三種傳票可直接謄記之。故其形式亦相宜。蓋銀行業務上關於現銀之交易最多。非但收支兩課經營其收支而記賬。計算課亦詳細計算。故以便於檢查爲要件。卽銀行日記賬。既兼有普通日記與分錄賬之性質。且有現銀出納賬之性質者也。如此現銀出納賬。重以主要簿 (分錄日記賬) 之性質。而稱曰主要簿式現銀出納賬。

其式先將普通現銀出納賬之金額欄。分爲現銀收支欄及轉賬款數欄。再加以合計欄。卽貸借各方。各有三欄。所謂三欄現銀賬 (Three columns cash-book) 是也。

傳票於每次交易後送於計算課。而計算課並非隨時記賬。於其日之營業時間告單後。或次日清晨謄記之於日記賬。其謄記法。先於各會計科目 (依總目元賬上會計科目之順序而行較爲便利或先記往來存款他行等交易最多之科目) 由收款傳票及轉賬傳票借方中。摘出同一之科目。漸次謄記其全部科目。後同樣而由付款傳票及轉賬傳票貸方中。摘出同一科目。亦漸次謄記其全部目。至最後者爲止。

日 記 帳

民 國 3 年 11 月 3 日

借 方

貸 方

轉賬對目	摘 要	元 頁	轉賬款數	現銀收納	合 計	轉賬對目	摘 要	元 頁	轉賬款數	現銀支付	合 計
往 存	(定期存款)	15				往 存	(貸 款)	12			
	十號 李哲鵬			1,000 -			二十五號 劉蓮生			500 -	
貼 票	十一號 " "	20	500 -	500 -	2,000 -	二十六號 福利號		5,000 -			5,500 -
	(扣 息)					(貼現票據)	17				
貼 票	本十一號 洽順記		25 -			本十一號 洽順記		1,500 -			
	本十二號 " "		25 -		50 -	本十二號 " "		25 -	1,475 -		3,000 -
貼 票	(往來存款)	25				(往來存款)	25				
	八號 洽順記		1,475 -			支票百十二號 德大號		500 -			
貸 款	一號 老風祥			1,000 -		" 九號 老風祥		4,600 -			
	" " " "		3,519 80	80 20		" 二百五號 福利號		3,519 80			8,619 80
往存及過付	五號 福利號		5,000 -			(公債票)	30				
	老風祥發出 保證支票		5,800 -		16,875 -	民國三年五釐票 額面三萬元			28,440 -		28,440 -
他 行	(公債票)	30				(往來過付)	35				
	民國三年五釐票 額面二萬元			18,900 -	18,900 -	支票九號 老風祥		1,200 -			1,200 -
他 行	(公債買賣損益)	33				(應付來匯)	40			1,450 -	1,450 -
	每張淨利五角			100 -	100 -	南京十號 吳菊生					
他 行	(應付來匯)	40				(特別往來存款)	45			100 -	100 -
	南京十一號 沈梅生		2,500 -		2,500 -	八號 高寶琴					
他 行	(諸手續費)	55				(他 行)	50				
	股東名義註冊 向秀峯			0 20	0 20	十一號 南京銀行		2,500 -			2,500 -
前 日 結 餘		70	18,844 80	21,580 40	40,425 20	(專務零用)	60			75 38	75 38
				30,758 15	30,758 15	另有細賬 庶務課					
前 日 結 餘			18,844 80	52,338 55	71,183 35	(旅 費)	65			100 -	100 -
						巡視各分行 王世民					
前 日 結 餘		70	18,844 80	32,140 38	50,985 18	本日結餘	70	18,844 80	32,140 38	20,198 17	50,985 18
				20,198 17	20,198 17						
前 日 結 餘			18,844 80	52,338 55	71,183 35			18,844 80	52,338 55	71,183 35	

(註)收款傳票之款數。記入現銀收納欄。如前節所舉第一傳票。定期存款第十號李哲卿一千元之記入法。觀上頁日記賬樣式。借方之第一行可知。

(註)付款傳票之款數。記入現銀支付欄。如前節所舉第二傳票。貸款二十五號劉運生五百元之記入法。觀上頁日記賬樣式。貸方第一行可知。

(註)轉賬傳票之借方。記入日記賬借方之轉賬款數欄。其貸方記入日記賬貸方之轉賬款數欄。如前節所舉第三傳票之記入法。觀上頁日記賬樣式。借方扣息之第一行。洽順記二十五元。往來存款之第一行。洽順記一千四百七十五元。及貸方貼現票據之第一行。洽順記一千五百元。可知。

至於一部付現或一部收現之轉賬傳票。其記入法稍要注意。如前節第四傳票之借方定期存款一千元。不可全部記入於轉賬款數欄。蓋此一千元非為全部之轉賬也。故先記入五百元。於轉賬款數欄。再記其餘五百元於現銀收納欄。與之相平列。觀日記賬樣式定期存款之第二行可知矣。

第五傳票亦然。其貸方貼現票據一千五百元。亦非全部轉賬。故先記二十五元於轉賬款數欄。再記一千四百七十五元於現銀支付欄。與之平列。觀日記賬樣式貸方貼現票據之第二行可知矣。

(註)此種一滯轉賬之傳票。應記於日記賬時。最易錯誤。不可不注意也。

屬於同一科目之數張傳票。悉數摘出。連續謄記於日記賬。然後將轉賬欄及現銀欄各數之和。記入於合計欄。故每日每一會計科目。貸借兩方之各總計。觀合計欄可知。由日記賬轉記於總目元賬時。亦祇轉記其合計欄足矣。

凡轉賬之對手科目。記入於轉賬對目欄。彼此對照。以便於異日檢索其交易關係也。

(註)借方貸方之轉賬。為同一會計科目時。於借方之轉賬對目欄。祇記入「借」之一字。貸方之轉賬對目欄。祇記入「借」之一字。參照日記賬樣式。借方往來存款之第三行及貸方往來存款之第三行可知。

(註)對手科目有許多時。轉賬對目欄。不能悉數記入。可用「各項」二字。以代之。但對手科目如僅有二種或三種時。仍以列舉為宜。

每張傳票上之會計科目。已謄記於日記賬後。於該傳票上會計科目之傍加 \checkmark 之記號。(check mark) 以免重複謄記之虞。一日交易之傳票全部記畢。各傳票上之會計科目。均附有記號時。然後行日記賬之結束。

日記賬之結束法。先將借貸雙方謄記之行數。相平行作一橫線。(謄記行數少之一方於摘要欄作斜線以填之)。然後檢算轉賬款數之合計(如樣式 1884780)。借貸雙方是

否一致。次求現銀收納及現銀支付欄之合計（如樣式借方 21,580.40 貸方 32,140.38）又雙方合計欄通計（如樣式借方 40,425.20 貸方 50,985.18）。茲宜注意。如合計欄之通計。必與雙方轉賬款數及現銀收付數之合計亦相符合也。

（註）如樣式借方 $18,844.80 + 21,580.40 = 40,425.20$

貸方 $18,844.80 + 32,140.38 = 50,985.18$

然後於借方之現銀收納欄。及合計欄下。加以前日之現銀結餘數。求其總數。

（註）如樣式現銀欄總數為 52,338.55 合計欄總數為 71,183.35

再將此總數。移記於貸方之同一行。扣除其上行所已記之現銀支付欄合計。及合計欄通計。其餘數即為本日之現銀結餘。

（註）如樣式 現銀支付欄 $52,338.55 - 32,140.38 = 20,198.17$

合計欄 $71,183.35 - 50,985.18 = 20,198.17$ } 此數必須符合。

計算課將此結餘數報告於司理人。司理人乃取出納課所報告之現存貨幣表。互相比較。如其符合則日記賬之記入。可以證明其無誤也。

（註）日記賬之結束。於計算課經幾重之對照。而求得本日之結餘。然後由司理人。再與出納課實際之報告。相比

較。則無論有意或無意之錯誤。均可證明矣。

(註)日記賬之結束。計算課先用鉛筆記入。既得司理人承認後。再以墨水實記之。免致有塗改之弊。

所謂元頁者。示總目元賬。該科目之頁數。由日記賬轉記於總目元賬時。隨時填註。既便後日之參照。又爲轉記無遺之證焉。

凡記賬字體。用大中小三種。大字可滿寫於格子紙一行以內。中等字約當一行之三分之二。小字則當其三分之一。可也。摘要欄內會計科目。用大字。姓名及轉賬對目用中號字。摘要欄內之註明用小字。有時於一行之線內並記兩排。(即雙行寫)凡揭於註明之事項。在收款交易新發生及其結果後日發生之付款交易時。點註銀行交付證書之號次。在付款交易時發生及其結果日後收款交易時。亦點註交易號次。可也。此外。僅用會計科目及號次。未能定述交易之意。恐日後不便查攷者。則隨事宜而摘錄其內容。可也。又關於一項交易。有二名以上之關係人時。各記其有直接關係者姓名於會計科目。例如某甲發出之支票。由某乙攜來。銀行交銀時。於付款傳票及支付賬上。記受取人即乙之姓名於姓名欄內。摘要欄中註明某甲支票第幾號。但膽記於日記賬時。某乙與往來存款科目無直接關係。故可略其姓名。僅記入某甲姓名及號次。又依某甲之來託。請貼現某乙發出之支票時。先

以某甲姓名記賬。日後滿期。向某乙收款時。則記以某乙姓名。由會計科目（貼現票據）之直接關係人觀之。當初貼現時。其姓名似應爲乙。不知票據之來託貼現人亦同時爲裏書人。負直接之責任者也。故當初無妨記某甲姓名於日記賬。

第三節 附設日記賬

前述之日記賬。卽計算課每日於營業告畢時。彙合各種傳票。就各種科目而該括記錄者也。然對於營業最繁之往來存款。每於遞來收付或轉賬傳票時。不待營業畢後。而隨時記錄。當晚及翌晨。謄記其餘部分。較省手續。且晝間。計算課員亦不至袖手。而坐待營業之告終矣。

又銀行每日交易頻繁。斷非課員一人所能畢其記錄。且往來存款以外。而日常發生之交易。亦屬多端。茲照各科目設其特別之日記賬。有傳票來。則隨手記錄。營業終後。以其合計之總數。簡單移記於原來之日記賬。亦較適於整理事務之目的也。因此而往來存款日記賬。貼現票據日記賬。貸款日記賬等。於以發生矣。總稱之曰附設日記賬。稱原來之日計賬曰總目日記賬。以示區別。

日本明治初年。大藏省（財政部）編製模範銀行之簿記時。僅對於往來存款而設之。獨用

增補日記賬之名。其對於他分行匯兌往來。另名爲日締賬。然理論上銀行不必拘於此例。各視其營業狀態。無論如何科目。可設備此附設日記賬焉。現今日本大規模之銀行。因事務太繁。幾乎就各科目而一一設其特別日記賬。令各課員分擔之。

(註)日締賬僅記入無現銀收支之匯兌關係。不過他分行附設日記賬之一部分。不如選用此種附設日記賬。而記其全部關係也。

利息扣息等事。亦銀行業務中最多發生之科目。屬於此種損益之科目。亦不妨設其特別日記賬。或連合損益科目。而作一損益科目日記賬。此外集合其他收入與營業費用等屬於損失利益之科目。則終日之營業成績。可一覽而知矣。但此日記賬中。類別各科目而記錄。故非每日營業後。不能行之。又以此日記賬之借貸總計。逐日移記於總目日記賬。將此日記賬內分類之各科目。一一直接轉記於總目元賬可也。

合假定有次之交易。對於往來存款、貸款、貼現三項。用附設日記賬時。其記賬法及互相聯絡法。可對照下表。

(一)由某甲收定期存款一千五百元(存款簿第十號)

(分錄) (借) 現銀 1,500-

(貸) 定期存款 1,500-

(記賬) 總目日記賬

(二) 付貸款一萬元於某丙(交易第三十五號)

(分錄) (借) 款 10,000- (貸) 現 款 10,000-

(記賬) 貸款日記賬

(三) 收某乙現洋一百元及某甲發出之支票四十四號計四百五十元為往來存款

(分錄) (借) 現 款 100- (貸) 往來存款 550-
(分錄) (借) 往 存 450- (貸) 往來存款 450-

(記賬) 往來存款日記賬

(四) 某已攜來某乙發出之支票二十四號計一百二十五元即付現款

(分錄) (借) 往來存款 125- (貸) 現 款 125-

(記賬) 往來存款日記賬

(五) 某丁來託貼現其額面二千元之匯票除扣息二十元外餘存入於丁之往來存款內

(交易第二十一號)
(分錄) (借) 貼現票據 2,000- (貸) 扣 息 20-
(分錄) (借) 往來存款 1,980-

(記賬) 貼現票據日記賬 往來存款日記賬 總目日記賬

(六) 某戊以某丁發出之支票(三十八號)還來滿限貸款(三十號)五百元及利息十元

(分錄) (借) 往來存款 510-

(貸) 款 300-
利 息 10-

(記賬) 往來存款日記賬 貸款日記賬 總日記賬

(七) 某丙貸款(三十三號)一千五百元已滿期來請展期另換證書(新證書第三十六號)今收到其利息五元

(分錄) (借) 貸 款 1,500-
現 銀 5-

(貸) 貸 款 1,500-
利 息 5-

(記賬) 貸款日記賬 總日記賬

(八) 第二十九號之貼現票據(七百五十元)今已滿期向某甲(付款人)索款收入某乙發出之支票第二十一號(二百五十元)及本埠他行應付寄匯之即付匯票(計五百元)

百(元)

(分錄) (借) 往來存款 250-
現 銀 500-

(貸) 貼現票據 750-

(記賬) 往來存款日記賬 貼現票據日記賬

(註) 本埠他行應付之即付匯票。類於他行應付之支票而更確實。故本行素相識之顧客交來時。可視若現銀。但

票據匯劃所若不承認。可退還於原主。

(九) 某丁以某庚名下本行發出之存款證書四號(三百元)及五號(三百元)兩紙來還貸款(二十二號五百元)及利息十元其多餘之數以現銀付還之(九十元)

(分錄) (借) 證書存款 600-

(貸) 款 500-
利 息 10-
現 銀 90-

(記賬) 貸款日記賬 總目日記賬

(十) 某已於期日前還清共貼現票據(三十號)一千二百五十元茲以現銀退還扣息五元

(分錄) (借) 現 銀 1,250-
扣 息 5-

(貸) 貼現票據 1,250-
現 銀 5-

(記賬) 貼現票據日記賬 總目日記賬

(十一) 曾貼現之外埠應付票據(三號)一千三百元已滿期茲接杭州銀行來信云已向支付人某辛收訖

(分錄) (借) 他 行 1,300-

(貸) 貼現票據 1,300-

(記賬) 貼現票據日記賬

第二編 銀行簿記法則 第二章 主要賬簿組織法

(十二) 某丙來請貼現其匯票一千八百元(因運貨至漢口貿易公司)交易第五號茲扣息十八元扣手續費二元於其淨收款中代匯至杭州一千五百元(匯票第三十三號收款人爲某辛)其餘二百八十元付以現銀

(分錄) (借) 貼現憑據 1,800-

	(貸)	
利息	18-	
手續費	2-	
總發行銀	1,500-	
現銀	280-	

(記賬) 貼現票據日記賬 總目日記賬

(十三) 將往來存款日記賬合計移記於總目日記賬

(分錄) 無

(記賬) 往來存款日記賬 總目日記賬

(十四) 將貸款日記賬合計移記於總目日記賬

(分錄) 無

(記賬) 貸款日記賬 總目日記賬

(十五) 將貼現日記賬合計移記於總目日記賬

(分錄) 無

(記賬) 貼現票據日記賬 總目日記賬

往來存款日記帳

民國 年 月 日

貸方

(例題號次)

轉賬科目	摘要	轉賬數數	現銀收納	轉賬科目	摘要	轉賬數數	現銀支付
貸. 票.	某乙 某丁	450 1,980	100	借	44號 某甲 某乙	450	125
				貸及利息	24號 某乙	510	
				貼. 票.	35號 某丁	250	
		2,430	2,430		21號 某乙		
	本日 總收		100			1,210	125
	前日 結餘		2,530				1,210
			196,485		本日 總付		1,335
			55		本日 結餘		107,650
			109,015				55
			55				109,015

(例題號次) 3 5 14

(例題號次) 3 4 6 8 14

第二編 銀行簿記法則 第二章 主要賬簿組織法

一六八

貸 款 日 記 賬

借 方		民國 年 月 日		貸 方			
物賬對目	摘 要	轉賬款數	現銀收納	物賬對目	摘 要	轉賬款數	現銀支付
存 在	36號 某庚	500		借	35號 某丙	1,500	1,000
	33號 某丙	1,500			34號 某丙		
	22號 某丁	500					
	證書存款						
		2,500	0			1,500	1,000
			2,500				1,500
	本日 總收		2,500		本日 總付		2,500
	本日 結餘		64,789		前日 結餘		64,789
			67,289				67,289
			25				25

(例題號次) 6

7

9

14

(例題號次) 2

7

14

貼現票據日記賬

借方

民國 年 月 日

貸方

(例題號次)

(例題號次)

摘要	摘要	轉賬款數		現銀收納	轉賬對目	摘要	轉賬款數		現銀支付
		借	貸				借	貸	
往 存	29號 某甲	270	—	500	往存及扣息	31號 某丁	2,000	—	0
行	30號 某巴	1,300	—	1,250			—	2,000	2,000
他	外3號 某辛	1,550	—	1,750			—	2,000	0
	本日 總收			3,300				2,000	2,000
	本日 結餘			77,665				78,965	40
				50,965				80,965	40
				40				40	40

8
0
11
15

15

總目日記帳

借方 民國 年 月 日 貸方

(例題號次)

(例題號次)

摘要	轉賬款數		現銀收納		摘要	轉賬款數		現銀支付	
	借	貸	借	貸		借	貸	借	貸
(定期存款)					(證書存款)				
1 10 某甲			1,500	—	45 某庚	510	—	90	—
(扣息)					(扣還)				
5 31 某丁	20	—			30 某己			5	—
12 5 某丙	18	—			(他行)				
(利息)					貼票外				
6 30 某戊	10	—			3 某辛	1,300	—		
(利息)					(押匯)				
7 33 某丙			5	—	5 某丙	1,520	—	280	—
9 22 某丁	10	—			(往來存款)				
(諸手續費)					附設日記	1,210	—	125	—
12 押匯5 某丙	2	—			(貸款)				
(他行)					附設日記	1,500	—	1,000	—
12 寄匯33 某辛	1,500	—			(貼現票據)				
(往來存款)					附設日記	2,000	—		
13 附設日記	2,430	—	100	—					
(貸款)									
14 附設日記	2,500	—							
(貼現票據)									
15 附設日記	1,550	—	1,750	—					
本日 總收	8,040	—	3,355	—	本日 總付	8,040	—	1,500	—
前日 結餘			2,345		本日 結餘			4,200	—
	8,040	—	5,700	—		8,040	—	5,700	—

第二編 銀行簿記法則 第二章 主要賬簿組織法

(註)總目日記賬。因限於紙幅。省略其轉賬對目欄及合計欄。

總目日記賬及往來存款日記賬。本日之結算餘額。記於貸方。蓋現銀及往來存款之支出。不能多於收入也。反是而在貸款日記賬及貼現票據日記賬。則以其餘額記於借方。以收回不能多於付出之故。此科目之性質也。

爲學者便利起見於各日記賬側。附以例題號次。與前例題之分錄相對照。研究賬簿之分割及聯絡。可也。

第四節 總目元賬 (General Ledger)

銀行總括一切交易上收支轉賬等事。算其營業全體之成績。照日記賬上分錄之各會計科目。而逐一歸戶釐清 (Posting) 轉記者也。每日營業時間畢後或翌晨。日記賬全記清後。卽依之而釐記於總目元賬。其手續。卽照當日日記賬上所有各會計科目。將其轉賬款數及現銀數等借方之合計。轉記於元賬上該科目之貸方。又將其貸方合計。轉記於元賬該科目之借方。蓋如轉賬傳票之節中所述。傳票及日記賬上之借貸非眞分錄上之借貸。乃依調和現銀法。而假定之表面現象也。其眞分錄實與此正相反。故記入元賬時。宜反對轉

記。以期適於簿記之原理焉。但現銀科目。可照日記賬上借貸兩方各轉賬數與現銀數之合計。(例如前揭日記賬借方爲40,425.20貸方爲50,985.18) 謄記於元賬之借方貸方。不必反對轉記也。蓋銀行簿記之日記賬。屬於現銀式。現銀之收入概記於借方。支出概在貸方故耳。

(註) 現銀之收支爲日記賬中現銀收支欄之款數。前文謄記於元賬之款數。似可爲(借)21,580.40(貸)32,140.38 唯現銀式日記賬。以轉記其轉賬數及現銀合計數於元賬爲法則。其理由見後(月計表)

元賬摘要欄。記其對目。以明收支之事由。是爲原則。雖然。現銀式日記賬。於各科目之下。該括數項交易。以其合計數轉記於元賬。故此合計數之對目。難以枚舉。如用各項二字。則元賬摘要之全部。皆爲各項二字。而無何等效用矣。故可省略。惟至結賬時始用之。

摘要欄既然空白不記。日記賬上有同一科目發現於借貸兩方時。可與此同行相並轉轉記於元賬。可也。故元賬上各科目。每日止用一行。

總目元賬之格式。如左

總 目 元 賬
往 來 存 款

5

民 3	國 年	摘 要	對 員		借		貸		變		
			1	3	—	90	123,456	78	貸	78	
4	1		56,780	45,678	—	90	123,456	78	貸	66,676	78
4	2		貸
6	30	溢 結 (紅字)	1,346,789	54 (紅字)	54
			10,123,456	78	10,123,456	78
7	1	上 期 溢 存	1,346,789	54	貸	1,346,789	54

第三章 補助賬簿組織法

賬簿之目的。在乎記錄事實及計算債權債務。而主要賬簿。就一項會計之全部。而記算者。故無關於債權債務之款數。概不計算。其記錄之語句亦宜簡單。因之事實不甚明瞭。不便於日後之檢查。欲補其缺。特備補助簿。(Auxiliary Books or Subsidiary Books)其數極繁。除主要簿以外。一切之會計賬簿。皆屬之。其特色如次。

(一)隨營業之種數、規模之大小、內部組織之精粗、而各銀行可隨意設之。雖賬簿名稱同一。而其內容則各銀行不同也。

(二)主要簿中。凡有影響於銀行之債權債務者。悉網羅之。其無關於自己之資產負債者。概不記錄。補助簿則不然。即與自己權利無關係。例因代收票款而收存票據、代保管物品等事。均詳記之。

(三)主要簿歸計算課作之。補助簿則由各課分擔之。

(四)補助簿非但銀錢會計。物品會計之賬簿亦多。如抵押品寄存賬、所有物明細賬等。其數至多也。

(五)記入於補助簿之款數。須與主要簿之一部分相符合。例如補助簿上往來存款元賬

之各戶總計。應符合於總日元賬往來存款科目。
補助賬簿之組織。宜注意事項。如左。

(1) 不可設無用而重複之賬簿。

(2) 注意於彼此各補助簿間及主要簿間之聯絡與對校 (Checking) 即使一賬簿上偶有誤記。然參照他簿時。自然可以查出矣。

(3) 隨行內分課之組織及各課員之數。而期於分擔事務之公平。

(4) 隨各交易時之相需。而可設記入賬 (Registers) 原賬 (Ledgers) 等二種。例如貸款記入賬及其元賬。是也。前者照交易之次序而記入。後者照客家之姓名而按戶記入者也。

(5) 各種之歸戶原賬。戶數多時。可用紙片式 (Card system) 例如儲蓄存款原賬。特別往來存款原賬。是也。

補助簿之種類性質既如此。故難舉其名稱及內容。茲僅述其一般。以供參考。(凡以下樣式之中。用點線於中間。作為記號者。以表示其二頁合成一式也。)

第一節 普通商業銀行之補助簿

第一 關於存款之賬簿

(一) 往來存款原賬

此賬簿照各存戶分門以存戶為主體表示其貸借關係故收存者為貸方支票付銀者記於借方另有日數及積數欄以備算利息保證支票之支付時於發票存戶之借方記其金額一若銀已付訖者然（註明保證支票事於摘要欄內同時於各存戶部門以外另設保證支付之一門記其數於貸方摘要欄內亦註明某某支票）故往來存款統數毫無變化惟內部轉撥其部門耳綜合此賬之各存戶累記及餘數使與總目元賬中往來存款及往來過付之累計及餘數互相一致

		往來存款原賬			
民國	摘要	姓名	職業住址	過付限數	過付利率
年	摘要	姓名	職業住址	契約年限	預存抵押
		存款簿號次			
		支票號次			
				借方	貸方
				日數	借方
					貸方

(二) 往來存戶餘數賬

按存款原賬彙記各存戶之餘數每年結賬時或按月行之既可知存戶之動靜且便於與總目元賬上該科目相對校也

往來存戶餘數賬

原 貸	存 戶	民國 年 月 日	借 方	貸 方	民國 年 月 日	借 方	貸 方	民國 年 月 日	借 方	貸 方	民國 年 月 日	借 方	貸 方

(三) 特別往來存款原賬

是亦按戶分門以存戶為主體記其貸借與往來存款原賬同但特別往來存款不許過付其餘數常在貸方餘數欄內無須設貸借之區別

特別往來存款原賬

存款簿號次	姓名	住址 職業						
民國 年 月 日	借	貸	殘	日數	積	數	利	息

(六) 定期存款滿期賬

依歷日而填寫其滿期日以爲運用資金之準備

定期存款滿期日賬

民國 年 月 日

存戶姓名	號次	應收人	存款數	種類

(七) 存款證書記入賬

此證書非必存款人親自來請支付可隨時轉讓而由他人來請付款焉

存款證書記入賬

民國 年 月 日	存款者姓名	住址	應付幣數	存款數	存戶姓名	種類

(八)通知存款記入賬

當初存項透入之時須先寫明通知之預期及以後接到通知之日則可注其應付月日

通知存款記入賬

民國	存單	存款者	住址	存款數	利率	通知日期	接到通知之日	應付月日	付月利息	額	米
----	----	-----	----	-----	----	------	--------	------	------	---	---

(九)臨時存款記入賬

有有利息者有無之者利率無定收款人必限於存款人

臨時存款記入賬

民國	號次	摘要	存款者	住址	存款數	利率	利息	付月	額	米
----	----	----	-----	----	-----	----	----	----	---	---

(十)簽字圖章簿

凡往來存款特別往來存款令存戶簽字蓋章而保存之以備查

交易種類

號次

姓名

職業

住址

簽	字	圖	章	數	字	注	意
人本							
人代							

第二 關於貸款之賬簿

(十一)貸款記入賬

依交易之次序而明記其保證人抵押品利息等條件如到期而許其展期時記其意於舊貸款頭末欄內另記為新交易作換借時之新借據時亦然

貸款記入賬

國幣	廣告	戶	原	保	證	人	抵	押	品	抵押	票	號	數	期	抵	列	利息	額					
年	號	次	原	保	證	人	抵	押	品	抵押	票	號	數	月	又	日	數	年	月	日	差	額	末

(十四) 貸款借戶餘數賬

結賬時或每月由(十二)及(十三)兩賬彙記其餘數
樣式與特別往來存款餘數賬相同

(十五) 貸款期日賬

依歷日記其各種貸款之滿期日以備按期索回

貸款期日賬

國 年	期	票	號次	應	收	入	款	數	額	米
--------	---	---	----	---	---	---	---	---	---	---

(十六) 本埠貼現票據記入賬

照交易發生之次序而記之

本埠貼現票據記入賬

民國交易 年號次	來託人 頁	原 頁	交付人 頁	原 頁	抵 押	品 名	押 價	評 定	應 收	票 號	出 日	額 面	支 付	處	期 日	日 數	押 款	額	交 米	未 日
-------------	----------	--------	----------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	---	--------	--------	--------	---	--------	--------

(十九) 貼現原賬

此賬簿所以表明貼現票據之關係人(合本外埠者而言)對於銀行有如何關係者也將來同人再來貼現時可依此決其可否凡票據之義務者有二種一為直接付款人如期票之發出人匯票之承諾人是也二為償還義務者如來託貼現人其他裏書人及發匯票人是也銀行對於本埠應付之貼現當重視其支付人及來託者貼現原賬上設此兩部分表示其債務會計以免對於同人而有過分之信用又外埠應付者宜信用其來託之人前途支付人之信用難以知也可略其記賬事僅設來託人之一部分示其債務會計至其他裏書人不便一一記賬故不立部門

原賬之形式分各戶門內為來託及應付兩面而各有貸借兩方如有貼現之事於來託方面之借方內記其票據額面付款人之應付方記於借方(外埠票據不問付款人)此付款人將來又來貼現他票據時將其償還義務記於同人來託借方滿期支付者記入於來託人部門之來託貸方及付款人部門應付貸方以消滅雙方之義務

貼 現 原 賬

來託方

民國	交易	應付人	期	借	貸	殘	民國	交易	來託人	期	借	貸	殘
年	號次		日				年	號次		日			

第三 關於匯兌之賬簿

(二十三) 寄匯記入賬

記明對於各地之寄匯如對於一地之交易繁時可特設一往來銀行部門如分全部而使各往來銀行特立則其賬簿宜稱曰寄匯原賬日後前途銀行寄來付訖通知後證其支付月日於此賬之支付顛末欄內

寄 匯 記 入 賬

民 國 交 易 年 號 次	發 向 銀 行	來 託 人	指 定 名 下	期 限	匯 票 額 面	空 匯 費 率	匯 票 日 期	接 據 號 數
---------------	---------	-------	---------	-----	---------	---------	---------	---------

(二十四) 電匯記入賬

與寄匯同惟多一電報費欄耳

(二十五) 應付來匯記入賬

他分行託本行支付其匯款時記入之收款人來付銀時填寫支付月日此賬亦與寄匯記入賬同按照前途銀行名而分門類應付電匯亦可同記於此賬

應 付 來 匯 記 入 賬

民 國 交 易 年 號 次	發 來 銀 行	寄 託 人	指 定 名 下	期 限	匯 票 額 面	匯 票 日 期	取 款 人	接 據 號 數
---------------	---------	-------	---------	-----	---------	---------	-------	---------

第四 關於代收餘款之賬簿

(二十六)本埠代收票據記入賬

本埠人來託之票據而本埠應付者記錄之

本埠代收票據記入賬

民國	交易	來託人	發出人	支付人	支付處	種類	號次	票	發出日期日	額	面	率	代收費	轉交	日期日	額	未
年	號次								發出日期日				率	日期日			票

(二十七)外埠代收票據記入賬

視付款地方而立部門

外埠代收票據記入賬

代 收 銀 行 支 付 地

民國	交易	來託人	發出人	支付人	附屬單據	種類	號次	票	發出日期日	額	面	率	代收費	轉交	日期日	額	未
年	號次				保險單				發出日期日				率	日期日			票

(二十八) 他分行轉來託收票據記入賬

記錄他分行轉託之貼現票據代收票據隨貨票據等以備滿期索款視前途銀行而分門
他分行轉來託收票據記入賬

來記地		來記銀行		附屬單據		日期	
交易	來記人	來記人	來記人	面	附屬單據	日期	摘要
民國 年 號次	來記人	來記人	來記人	面	附屬單據	日期	摘要
	來記人	來記人	來記人	面	附屬單據	日期	摘要
	來記人	來記人	來記人	面	附屬單據	日期	摘要

(二十九) 代收票據日期賬

依歷日而記明本埠代收及轉託代收票據之滿期日以備索款與貸款期日賬同

第五 關於他分行往來賬簿

(三十) 他分行往款原賬

參考第五章之他分行往來賬目之整理法則可知也

契約年限	收付抵押	地名	行名	往款原賬	數	有限數	過付利率	過付利率

民國 年	類	要	信	貸	殘	日期	借數	方數	貸數	方數

第六 關於證券抵押品保存品等之賬簿

(二十五) 有價證券原賬

記明各種公債票公司債票股票之買賣始末及其損益視證券而分類每次計算其損益凡以各種市價數次買進同種證券時每次記之算其平均買價售出時不記其售價於其售出欄反以此平均買價記入之其款數比售價小則以其差數記於買賣利益欄大則記於損失欄故出售時其殘存平均價值毫無變化所以如此算者(一)有價證券之買賣非每日有之逐一算其損益尙不覺其煩勞(二)時價常變動損益之數有時甚巨故當時算出以備參攷

有價證券原賬

民國 年	摘要	買進		售出		餘數	平均原價	賣買損	賣買益	備考
		金額	數量	金額	數量					

(二十六) 生金銀原賬

類於(三五)賬之記入法但分爲生金生銀及外國貨幣更區其成色種類

生金銀原賬

民國 年	摘要	買進		售出		餘數	平均原價	賣買損	賣買益	備考
		金額	數量	金額	數量					

乙封鎖保存者

封鎖保護寄品記入賬

民國	交易	寄託人	住址	保箱	時期	聲明內容	聲明價值	保存費	額
年	號次			號次	限				月 日 角 分

第七 關於匯劃票據之賬簿

(三十九) 匯劃票據提出賬

本埠他行應付之票據可日為現銀而收入每日攜至匯劃所而交換即於此賬記其提出交換之始末

匯劃票據提出賬

民國	種類	繳納人	交付人	應付銀行	票號	期日	款數	額
年					號次			月 日 角 分

(四十) 匯劃對照賬

對照每日在匯劃所交換之票據(即本行提出之他行應付票據及他行應收而本行應付之票據)日日示其差額

匯劃對照賬

收回方				民國 年 月 日				提出方			
支票	期票	匯票	其他	合計	收回票據	提出票據	合計	其他	期票	匯票	支票
張數	款數	張數	款數	張數	款數	張數	款數	張數	款數	張數	款數

第八 關於出納之賬簿

(四十一) 收納賬

須區別他行應存之票據及現銀至通貨種類之細別隨意行之可也

收納賬

民國 年 月 日					
他行票據	貨幣	摺票	姓名	往來存款	其他科目

(四十二) 支付賬

收入課與支付課對立之銀行設支付資金欄於支付賬日日記入其由收入課轉收之資金對照當日之支付總計算其餘存款與現幣實存數比較期其互相符合

支 付 賬

民 國 年 月 日

摘 要 地 名	往來存款	其他科目	支 付 資 金	
			摘 要	計 收 數

以上收納賬及支付賬兩種在貨幣制度統一之國適用之現在中國幣制複雜大洋小洋銅幣日有市價收入支出均須一一計算故不能如以上兩種之簡單須分別詳記之其賬簿式如下(支付賬與收納賬同)

收 納 賬

民 國 年 月 日

他行票據	紙幣	大洋	小洋	銅幣	雜	要	地 名	本位計數

(四十二) 現存貨幣明細賬

支付課詳細記明現存貨幣之種類或司理人每日親查之

現存貨幣明細賬

民國	他行	現款	金幣	銀幣	大洋	小洋	銅幣	未位計數
----	----	----	----	----	----	----	----	------

(四十四) 兌換記入賬

記入各種貨幣之兌換但零碎兌換不便一一記賬宜總計一日兌換之結果而算其損益可也

兌換記入賬

民國		年		月		日	
收	入	據	憑	支	出		
龍洋	北洋	本洋	英洋	小洋	銅幣	龍洋	北洋
						本洋	英洋
						小洋	銅幣

第九 關於庶務之賬簿

(四十五) 股票原賬

照每張股票順次設其部位自發行日起凡有買賣轉讓更改名義者記其年月日及其授受人是可謂為各張股票之履歷書

第 號 股票原賬 第一次繳納 第二次繳納 第三次繳納 第四次繳納

號 繼印 民國 年 月 日 收 入 人 總 理 印 司 理 人 印

(四十六) 股東原賬

照各股東而設部門記其認股數繳股數賣出數續買數等凡揭載於營業報告之股東名簿均摘記此原賬之現有股數

股東原賬 職業

姓名 住址

民國 年 月 日 起 止 繳 納 股 票 數 次 已 繳 某 數 股 數 現 存 繳 納 股 票 數 次 已 繳 某 數 股 數

(四十九)分紅記入賬

每次分紅時記入其配分於各股東之款數及付款之日日

分紅記入賬

原股東	第 期				第 期			
	民國	年	月	日	民國	年	月	日
江	股	分紅年	壹	號	收條	支	付	摘要
		每股	元	角	號次	月	日	摘要
		每股	元	角	號次	月	日	摘要

(五十)雜費明細賬

營業上間接辦事費及援助費若由支付課逐一記之則不勝其煩故令庶務課另備明細賬其主要簿上不過記其總數及簡單註明而已又用委任預付制度則名曰委任雜費明細賬每月由庶務課分類於適當科目而作報告

雜費明細賬

民國	總	要	通	信	費	紙	票	零	用	國	庫	費	水	及	燈	油	煤	柴	國	庫	費	及	其	他	費	合	計

第二編 銀行簿記法則

第三章 補助賬簿組織法

(五十三) 借收款原賬

甲 據往來存款之形式者其賬簿與往來存款原賬相同

乙 不據往來存款之形式者其賬簿與前揭存出款原賬相同

(五十四) 總括收支期日賬

與定期存款及貸款期日賬同

以上三種屬於營業上周轉資金之樞密爲司理人或理事所職掌存出款有時委任於存款課然亦不過代理記賬計算之事務耳其運用之計畫必由營業主體而發生焉

第十一 關於文牘調查之賬簿

(五十五) 發信簿 發電簿

(五十六) 收信簿 收電簿

(五十七) 顧客信用調查簿

(五十八) 事務員攷課簿

此外無關於簿記會計之賬簿甚多實地研究之可也

第二節 儲蓄銀行之補助簿

與商業銀行無大差。唯無匯兌分行等之賬簿。但儲蓄銀行依其條例有擔保存款之責。必

須寄存公債票於就近中央銀行。故另備寄存擔保之證券記入賬。凡儲蓄存款分爲四種。

(一)活期存付者 普通所謂儲蓄存款。其原賬與前述特別往來存款同。

(二)定期整存整付者 是謂定期存款。其記入賬與普通銀行同。

(三)定期零存整付者 如養老儲蓄。修學儲蓄。商工資金儲蓄。嫁娶資金儲蓄等。是也。其原賬與普通儲蓄存款同。惟無需積數及利息欄。又於欄格上方。記明契約整付款數。契約期間及每次攤存款數與日期。可也。

(四)定期整存零付者 如年金。是也。其原賬與(三)同。惟於其格之上方。記明收款人位址姓名。契約期間。每次攤付款數與日期。可也。

第三節 發行紙幣銀行之補助簿

中央銀行及有發行紙幣權之銀行。特設發行部 (Issue department) 或紙幣局。與普通營業部。判然獨立。發行部內。分爲總務股 (管理發行及收回與夫用於準備之物件) 保藏股 (管理特別金庫保藏現貨紙幣) 鑑查股 (檢查每日收回紙幣之污損及真偽整理之或再送於保藏股或焚燬之) 管賬股 (記錄此等事實) 等。其在分行。可隨便由營業部兼管之。但賬簿及保藏現物事。決不可混淆。凡紙幣尚在保藏股而未用者。曰第一備用兌換券。

既由保藏股交付於出納課。而爲營業資金時。卽稱曰流通兌換券。其作用曰發行。發行流通後。出納課日日收入之本行紙幣。必須送還於發行部。經行鑑查手續。決不可直接支付於營業部。此紙幣稱謂第二備用兌換券。鑑查結局。其污損而不堪再用者。稱曰廢用兌換券。宜早爲焚燬之。因損傷而以全額或半額價值更換之紙幣。亦作廢（先鑑查）。總務股於每日營業畢後。依出納課現存本行紙幣之總數。（發行上有剩餘者或由外國收入者）行全部收回之手續。

其在分行。由總行預先收來相當之備用兌換券。保藏之。每日電呈於總行。撥付必需之款數於出納課。以爲營業資金。是曰發行。而每日營業上收入之本行紙幣。必須鑑查。再保藏之。分爲備用兌換券與作廢兌換券兩種。與總行同一手續。但分行不能自行焚燬。必須轉送於總行。每日營業告終後。將此收入紙幣之總數及營業資金上紙幣之餘存數。電告總行。總行因之而行收回之手續。故每日營業告畢。記載於統計表上之流通兌換券之數。全爲純粹流通於市面之數。至本行內出納課用爲營業資金而留存者。不在其內。兌換準備之制度。雖各國相異。然最完備者爲屈伸制限法。卽由證券準備與現幣準備。集合而成。對於證券準備。應繳發行稅於政府。以防濫發。

關於發行紙幣之特別補助簿。如左。(據日本銀行現在制度)

(甲)總行關於兌換券一切事項。應記錄整理之。

第一 總括賬簿

(一)發行兌換券總原賬(日名兌換銀行券發行勘定元賬)

(內容)分爲兌換券、現幣準備、證券準備等三冊。現幣準備冊中。分爲金幣、生金、銀幣等三門。證券準備冊中。分爲國債、財政部證券、鐵路證券、政府證券、票據及證券等七門。

(劃欄之形式)月日、摘要、借方、貸方、種類交換(細分借方、貸方)、殘額等欄。

(二)發行兌換券準備制度賬(日名兌換銀行券準備保證發行高勘定賬)

(內容)現備準備發行、制限內證券準備發行、制限外證券準備發行等三門。

(劃欄之形式)月日、摘要、借方、貸方、殘額等欄。

第二 關於兌換券之賬簿

(三)兌換券原賬(日名兌換銀行券元賬)

(內容)定印兌換券、備用兌換券、流通兌換券、廢用兌換券、焚燬兌換券等五門。

(劃欄形式)月日、摘要、借方、貸方、殘額等欄。

(四) 定印兌換券明細賬(日名製造兌換銀行券內譯賬)

(內容) 照兌換券之種類而設部門。

(劃欄形式) 月日、摘要、字號、號碼(起止)、張數、金額、累計(張數金額)

(五) 備用兌換券明細賬(日名發行元兌換銀行券內譯賬)

(內容) 分爲第一及第二備用券。次照保藏之行名及兌換券種類而設部門。

(劃欄) 月日、摘要、存庫、出庫、殘額。

(六) 法通兌換券明細賬(日名流通兌換銀行券內譯賬)

(內容) 照兌換券三種類而設部門。

(劃欄) 月日、摘要、增加(發行、交換、種類交換)、(減少)(收回、兌換種類交換)現流通額

(七) 廢用兌換券明細賬(日名廢棄兌換銀行券內譯賬)

(內容) 依保藏之行名而別之。次區別其全額及半額。且依兌換券種類而細分之。

(劃欄) 月日、摘要、收項、付項、殘額。

(八) 焚燬兌換券明細賬(日名燒棄兌換銀行券內譯賬)

(內容) 大別爲全額與半額。且依兌換券種類而細別之。

(劃欄) 月日摘要、金額、累計

(九) 兌換券字號原賬(兌換銀行券記番號元賬)

(內容) 兌換券種類各一册

(劃欄) 欄外題爲……字第……號起第……號止……年……月……日發行欄內分爲號碼及作廢年月日等數欄

(十) 字號不明兌換券作廢賬(記番號不明廢棄兌換銀行券記入賬)

(內容) 照兌換券種類而分門。細分爲全額及半額

(劃欄) 月日、經理店、摘要、字號、號碼、張數、累計

(十一) 兌換券定印賬(兌換銀行券製造信文賬)

(內容) 按定印年度而分門。更依種類而細分之

(劃欄) 月日、摘要、定印數(張數金額)已印在庫數(字號、起止張數金額)未收數(張數金額)印費(金額支付日備攷)

(十二) 廢用兌換券接收賬(廢棄兌換銀行券受領高記入賬)

(內容) 照發送之行而設門類

(劃欄) 月日送付知單(月日號次)張數、金額暫定收條、月日鑑查(年月日收條號改交換費手續費穿孔費遞送費合計支付月日備致)

(十三) 備用兌換券保藏數賬(發行元兌換銀行券保藏高賬)

(內容) 照保藏交之行內各金庫而分門、分爲第一及第二備用、更分其兌換種類。

(劃欄) 月日、摘要、存庫、出庫、殘數

(十四) 廢用兌換券保藏數賬(廢棄兌換銀行券保藏高賬)

(內容) 依行內所保藏之各金庫而分門、又分兌換券種類。

(劃欄) 月日、摘要、存庫、出庫、殘數(全額半額)

(十五) 第二備用兌換券遞送數賬(第二發行元兌換銀行券遞送高賬)

(內容) 依兌換券種類而分門

(劃欄) 月日、摘要、遞送、達到、殘數

第三 關於現幣準備之賬簿

(十六) 準備金幣明細賬(兌換銀行券準備金貨所在別賬)

(內容) 依保藏之行店而分門、又細分其金幣之種類。

第二編 銀行簿記法則 第三章 補助賬簿組織法

(劃欄) 月日、摘要、收項、付項、殘額

(十七) 準備外國金幣明細賬(兌換銀行券準備金地金外國金貨所在別賬)

(內容) 與(劃欄)同前

(十九) 準備生金明細賬(兌換銀行券準備金塊所在別賬)

(內容) 依保藏之行名而分門。又分爲定型生金、金塊、混合生金等。

(劃欄) 月日、摘要、價格率、收項、付項、殘數(總量、純量、價值)

(二十) 準備貨幣支付證書明細賬(兌換銀行券準備貨幣 廢證書所在別賬)

(內容) 依保藏之行名而分門

(劃欄) 月日、摘要、價格率、收項、付項、殘數(張數、金額)

(二一) 準備生銀明細賬(兌換銀行券準備銀地金所在別賬)

(內容) 與(劃欄)同前

第四 關於證券準備之賬簿

(二二) 準備國債明細賬(兌換銀行券保證國債所在別賬)

(內容) 依保藏之行名而分門。又分爲登錄國債及國債票。前者細分爲種類及登錄字號。後者細分其種類。

(劃欄) 月日、摘要、價格率、收項、付項、殘數(登錄國債分爲登錄金額及價值。國債票則分爲張數及額面)

(二三) 準備財政部證券明細賬(兌換銀行券保證大藏省證券所在別賬)

(內容) 依保藏之行名而分門。

(劃欄) 月日、摘要、價格率、收項、付項、殘數(張數、額面、價值)

(二四) 準備票據明細賬(兌換銀行券保證手形所在別賬)

(內容) 大別於保藏之行名。各細分爲本埠應收匯票外埠應收匯票本埠應收期票外埠應收期票有抵押匯票

有抵押期票等。(劃欄) 同前

(二五) 準備股票債票明細賬(兌換銀行券保證證券所在別賬)

(內容) 大別於保藏之行名。更細分其證券種類。(劃欄) 同前

第五 關於發行稅之賬簿

(二六) 制限發行稅計算賬(制限內發行稅計算賬)

(內容) 每日營業告終時。照流通兌換券而記錄。

(劃欄) 月日、證券準備發行數、行稅免除數(例如政府貸款)納稅發行數、備放

(二七) 制限外發行稅計算賬(制限超過發行稅計算賬)

第二編 銀行簿記法則 第三章 補助賬簿組織法

(內容)同前。(劃欄)月日、超過制限、發行數、收回數、流通總數、納稅發行數、備攷。

(乙)分行用次之賬簿。記錄第二備用券及廢用券之出入。並記其準備之物件。

(一)第二備用兌換券保藏賬(第二發行元兌換銀行券保管賬)

(內容)依兌換券之種類及遞送券而分門。

(劃欄)月日、摘要、收項、付項、殘額。

(二)廢用兌換券保藏賬(廢棄兌換銀行券保管賬)

(內容)先別爲全額與半額。次細分爲兌換券種類及遞送券。(劃欄)同前。

(三)準備金幣現數賬(準備金貸在高賬)

(內容)依金幣種類及額面而區分。

(劃欄)同前。

(四)準備外國金幣現數賬(準備金地金外國金貨在高賬)

(內容)依種類而分門。(劃欄)同前。

(五)準備舊金幣現數賬(準備舊貨幣在高賬)

(內容)與(劃欄)同前。

(六)準備金塊現數賬(準備金塊在高賬)

(內容) 分爲定埋生金、金塊、混合金等。

(劃欄) 月日、摘要、收項、付項、殘數 (總量、純量)

(七) 準備貨幣支付證書現數賬 (準備貨幣拂渡證書在高賬)

(內容) 無部門 (劃欄) 月日、摘要、收項、付項、殘數 (張數、金額)

(八) 準備生銀現數賬 (準備銀地金在高賬)

(內容) 依種類而分 (劃欄) 月日、摘要、收項、付項、殘數 (總量、純量)

(九) 準備證券現數賬 (保證在高賬)

(內容) 依國債及證券之種類而分部門 (財政部證券、鐵路證券、本埠應收匯票、本埠應收期票、外埠應收匯票、外埠應收期票有抵押匯票有抵押期票等)

分行記錄此等賬簿，並對於各種賬簿，逐一作其一覽表。除每日將其變動情形報告於總行以外，每月末日報告之。

第四項 外國匯兌銀行之補助賬簿

外國匯兌銀行 (一) 海外各地多有分行及往來匯兌處。 (二) 各賬之記入金額，用各種貨幣。因是而欲統一之。 (三) 業務全有匯兌之影響，故其損益，非但若普通銀行單有利益，頗

類於一切買賣業。稍有投機性質。今略舉其特用之賬簿。如左（照日本橫濱正金銀行總行）

第一 關於匯兌存款之賬簿

- (1) Register of Remittance Deposit.
- (2) Balance Book of Remittance Deposit.
- (3) Register of Remittance Deposit Payable.

第二 關於承認外國匯票之賬簿

- (1) Register of Bank's Acceptance.
- (2) Balance Book of Acceptance.

第三 關於有息匯票之賬簿

- (1) Register of Interest Bills.
- (2) Due-date Book of Interest Bills.
- (3) Ledger of Drawers of Interest Bills.
- (4) Ledger of Drawees of Interest Bills.

(5) Balance Book of Drawers of Interest Bills.

(6) Balance Book of Drawees of Interest Bills.

第四 關於代收有息票據之賬簿

(1) Register of Interest Bills Receivable.

(2) Due-date Book of Interest Bills Receivable.

(3) Ledger of Acceptors of Interest Bills Receivable.

(4) Balance Book of Acceptors of Interest Bills Receivable.

第五 關於買匯售匯之賬簿

(1) Buying Exchange Book.

(2) Selling Exchange Book.

第六 關於匯兌預約之賬簿

(1) Register of Buying Contracts of Exchange.

(2) Register of Selling Contracts of Exchange.

(3) Balance Book of Buying and Selling Contracts of Exchange.

第七 關於外國貨幣之賬簿

(1) Register of Foreign Money.

(2) Specification of Foreign Money

第八 關於信用狀之賬簿

(1) Register of Letter of Credit Issued.

(2) Specification of Letter of Credit Issued.

(3) Ledger of Letter of Credit Issued.

第五節 英國普通存款銀行之賬簿

西洋各國銀行簿記之發達。隨銀行業之發達而有變遷。故其賬簿之組織。亦由各銀行隨意定之。難舉其一定之事例。有同一賬簿而名稱各異者。有同名稱之賬簿。而各家異其性質者。甚難解。今述其一二。以示其大概。如左。

(甲例) 據 Davis 氏著銀行之組織經營及會計所揭如左。

I. Cash Section.

(a) Coin, Notes, and Cheques.

- (1) Cash Book, 又名 Counter Cash Book, Teller's Cash Book, Specie Book, Received and Paid Cash Book 此種賬簿亦可由出納課分爲兩簿名爲 Receiving (Cashiers) Book 及 Paying (Cashiers) Book.
- (b) Analysis of Coin and Notes.
- (2) Coin Balance Book.
- (3) Bank Note Register, 或 Goldsmith's Book.
- (4) Cash Balance Book, Cash Summary Book, 或 Money Book.
- (c) Analysis of Cheques.
- (5) Waste Book, 或 Remittance Book. 此種賬簿有時分爲兩種名爲 Received Waste Book, 及 Paid Waste Book, 又名 Received Day Book, 及 Paid Day Book.
- (6) Clearing Book.
- (7) Clearing Balance Book.
- (8) Suspense Account.

II. Bills Section.

(a) Bills discounted.

- (1) Bill Register. 亦名 Bills Discounted Book, Bills Received Book, Discount Register, Discount Cash Book.
- (2) Bill Diary. 又名 Bill Journal, 或 Daily List.
- (3) Bill Ledger, 或 Discount Ledger.
- (4) Acceptors' Ledger.
- (5) Bills Remitted Register (or Book).
- (6) Overdue Bills, 亦名 Past Due Bills, Protested Bills, Returned Bills.
- (7) Foreign Bills.

(b) Bills for Collection.

- (8) Short Bills Lodged, 或 Bills Deposited.

III. Loans Section.

- (1) Loan Register.

(2) Loan Ledger.

IV. Securities Section.

Security Register.

V. Acceptance Section.

(1) Draft Advised Register.

(2) Acceptance Register.

(3) Acceptance Ledger.

VI. Current Account Section.

(1) Current Account Ledger, 或 Customer's Ledger.

(2) Current Account Register, Cheque Ledger, 或 Sectional Cash Book.

(3) Pass Books.

VII. Transfer Credit Section.

(1) Drafts.

(2) Letter of Credit.

(3) Circular Notes.

VIII. Deposit Account Section.

(1) Deposit Receipt Register.

(2) Deposit Account Ledger.

IX. Head Office and Inter-branch Accounts Daily State.

X. Profit and Loss Section.

Credit and Debit Accounts.

XI. Principal Books.

(1) Day Book, Journal, 或 General Cash Book.

(2) General Ledger.

XII. Balance and Returns.

(1) Balance and Closing Entries.

(2) Branch Returns.

(乙例) 據 Easton 氏著銀行簿記所揭如左

Books for Recording Assets.

1. Received Cash Book.
 2. Paid Cash Book.
 3. Money Book.
 4. Journal, or General Cash Book.
 5. General, or Impersonal Ledger.
 6. Investment Ledger.
 7. Discount Ledger.
 8. Loans Ledger.
 9. Bank premises Ledger.
 1. Waste Book.
 2. Clearing Book.
 3. Walks Book.
 4. Paying Cashier's Book.
- Principal
- Subsidiary

- 5. Discount Cash Book.
- 6. Discount Diary.
- 7. Bank of England Note Book.
- 8. Cash Summary.

Books for Recording Liabilities.

- 1. Current Account Ledgers, Town.
- 2. Current Account Ledgers, Country.
- 3. Branch Ledgers.
- 4. Deposit Ledgers.
- 5. Acceptance Ledger.
- 6. Pass Books.
- 1. Deposit Day Book.
- 2. Cheque Ledger.
- 3. Short Bills Ledger.

} Principal

- Subsidiary
4. Short Bills Ledger.
 5. Acceptance Cash Book.
 6. Advice Book.
 7. Customers' Securities Ledgers.
 8. Transfer Register of Shares.
 9. Share Ledger.

第六節 美國商業銀行之賬簿

美國銀行簿記種類紛歧。賬簿名稱較萬國而尤混雜。今舉其照州律而設立之一商業銀行之賬簿大略。如左。於此可窺其一般矣。

- (a) Cashier.
1. Minute Book.
 2. Stock Ledger.
- (b) General Book keeper.
1. Stock and Bond Register.

2. General Ledger.
3. General Bank Proof.

(c) Paying Teller.

1. Paying Teller's Proof Book.
2. Certified Check Register.
3. Paying Teller's Settlement Sheet.
4. Cash Proof.

(d) Receiving Teller.

1. Customer's Pass Book.
2. Certificate of Deposit Register.
3. Receiving Teller's Proof Book.
4. Receiving Teller's Settlement Sheet.

(e) Discount Clerk.

1. Liability Ledger, or Discount Ledger or Note Ledger.

2. Discount Register.
3. Collateral Loan Register.
4. Discount Tickler.
5. Discount Clerk's Proof Book.
6. Discount Clerk's Settlement Sheet.
7. Register of Protested Paper.
8. Loan Ledger.

(f) Collection Clerk.

1. Collection Register.
2. Collection Tickler.
3. Collection Clerk's Daily Proof.
4. Collection Clerk's Settlement Sheet.

(g) Clearing House Clerk.

-
1. Clearing House Register.
 - (b) Mailing Clerk.
 1. Foreign Collection Register.
 2. Mail Clerk's Proof.
 - (i) Individual Book-keeper.
 1. Individual Ledgers.
 - (j) Statement Clerk.
 1. Record of Statements to Customers.
 - (k) Draft Teller.
 1. Draft Register.
 2. Cashier's Cheque Register.
 3. Draft Teller's Proof Book.
 4. Draft Teller's Settlement Sheet.

第四章 日計表及月計表製成法

第一節 日計表

日計表者。計算課每日作成之試算表 Trial Balance 也。日計表之目的（一）在檢查本日總目元賬。記錄之有無錯誤（二）併且檢閱現在財產及損益之表面狀態。以爲參考。其製成法。由日記賬轉記於總目元賬後。每日將總目元賬上一切科目之殘額。填寫一定格式之試算表。如其貸借兩方。互相平均則可證明本日總目元賬記錄之無訛矣。其樣式如下。實際上。記此表於賬簿。而預備印刷所用會計科目之名。較爲便宜。此種賬簿稱曰總目元賬餘數賬。

日 計 表

民 國 年 月 日

借 方	元 百	會 計 科 目	貸 方
	1	現股未存創營即營交公暫往定議特貸水臨扣他寄薪通貼分紙事消調有貸諸修押往存有總他旅借諸所雜應	
	5		
	10		
	15		
	20		
	25		
	30		
	35		
	40		
	45		
	50		
	55		
	60		
	65		
	70		
	75		
	80		
	85		
	90		
	95		
	100		
	105		
	110		
	115		
	120		
	125		
	130		
	135		
	140		
	145		
	150		
	155		
	160		
	165		
	170		
	175		
	180		
	185		
	190		
	195		
	200		
	205		
	210		
	215		
	220		

第二編 銀行簿記法則

第四章 日計表及月計表製成法

二百四十四

第二節 月計表

月計表者。計算課於月末作成之試算表也。月計表之目的。在觀察到此月營業之多寡情形。不僅如日計表檢查總目元賬。舉其現在殘額而證明其有無錯誤也。其法先就總目元賬上之科目。略示其分部（如屬於收集資金之部。屬於支放資金之部等）。一一順次記入月計表會計科目欄內。然後就總目元賬上之科目檢出殘額。如屬於借則記入月計表同一科目借方之殘額欄。如屬於貸則記入於月計表同一科目貸方之殘額欄。再計元賬借方各數之總計及貸方各數之總計。瞻記於月計表借方及貸方之合計欄。如是各科目一一照此記畢後。乃於月計表借方之合計及殘額。貸方之合計及殘額。計算其總數。借貸兩方互相均等。方無錯誤。否則須重行一一檢對。以期無訛爲要。其式如左。

（註）結賬日作成之最後月計表。往往特稱之曰期末月計表。

茲有一最趣味事。卽月計表者。不僅貸借雙方之合計相符合（一）一方之現銀科目合計。與他方現銀以外一切科目之合計。必相一致（二）而且現銀科目借方及貸方之差。恰相等於現銀以外一切科目貸方及借方之差。

其故蓋銀行簿記之分錄上。採用現銀調和法（參照第二章第一節傳票）而所有交易。皆以現銀爲其對手科目。既然現銀之合計數。必相等於其餘科目對手方之總計。是當然之理耳。其結果令合現銀科目爲 Cash。現銀以外諸科目之總計爲 Sundries。則得公式如左。（Dr. 爲借方 Cr. 爲貸方）

$$1. \quad \text{Cash Dr.} = \text{Sundries Cr.}; \quad \text{Cash Cr.} = \text{Sundries Dr.}$$

其此兩式演繹則。

$$2. \quad \text{Cash (Dr. - Cr.)} = \text{Sundries (Cr. - Dr.)}$$

譬如。月計表貸借雙方之合計不符合時。算出 Sundries Cr. 而對照 Cash Dr. 相一致則可知諸科目之貸方。記錄及計算均無訛。只就諸科目之借方。宜行點檢其記錄及計算矣。月計表所以有此妙用者。全在總目元賬由日記賬轉記時。記其合計數也。如祇記其現銀支付及收納實數。則作成月計表時。其貸借兩方總數。雖可以相等。惟不能得互相對照之

便利也。

第二編 銀行簿記法則

第四章 日計表及月計表製成法

二百四十八

他分行往來匯兌之記賬法對照表

他分行往來匯兌交易	日 記 賬		他 分 行 往 來 款				他 分 行 來 款			
	借 方	貸 方	暫 記 原 賬		實 記 原 賬		暫 記 原 賬		實 記 原 賬	
			借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
第一寄匯關係										
{ 1. 收銀寄匯而發信時.....	現 銀	他分行		寄匯		寄匯				
{ 2. 接到代付之回信時.....	(無須分錄)		寄匯			寄匯				
{ 3. 接到來匯之信時.....	他分行	應付來匯						來匯		
{ 4. 付銀而發回信時.....	應付來匯	現 銀						來匯	來匯	
第二代收關係										
顧客委託	{ 5. 寄去外埠應付之票據轉託代付時...	(無須分錄)		代票						
	{ 6. 接到收銀之回信時.....	他分行	暫時(往來)存款		代票	代票				
	{ 7. 寄來本埠應付之票據而轉託時.....	(無須分錄)						來代票	來代票	
	{ 8. 收銀而發回信時.....	現 銀	他分行					來代票		來代票
同業相	{ 9. 寄去外埠應付之貼現票據時.....	貼現票據	現銀及扣息		貼票					
	{ 10. 接到收銀之回信時.....	他分行	貼現票據		貼票	貼票				
	{ 11. 寄來本埠應付之貼現票據時.....	(無須分錄)						來貼票		
互依託	{ 12. 收銀而發回信時.....	現 銀	他分行					來貼票		來貼票
	{ 13. 寄去外埠應付之押匯時.....	押 匯	現銀及扣息		押匯					
	{ 14. 接到收銀之回信時.....	他分行	押 匯		押匯	押匯				
第三墊付關係	{ 15. 寄來本埠應付之押匯時.....	(無須分錄)						來押匯	來押匯	
	{ 16. 發收銀之回信時.....	現 銀	他分行					來押匯		來押匯
	{ 17. 墊付他分行之保證支票時.....	他分行	現 銀		保票					
	{ 18. 接其承認之回信時.....	(無須分錄)			保票	保票				
{ 19. 接到前途墊付本行保證票據之信時.....	往來存款	他分行					(無須暫記)		來保票	
{ 20. 墊付他分行之存款證書時.....	他 行	現 銀		存證						
{ 21. 接到承認之回信時.....	(無須分錄)			存證	存證					
{ 22. 接到前途墊付本行之存款證書之信時.....	證書存款	他分行					(無須暫記)		來存證	
第四雜項臨時關係 (譬如)										
{ 23. 本行負責任而寄款至他分行時.....	他分行	現 銀		遞送金						
{ 24. 接到查收之回信時.....	(無須分錄)			遞送金	遞送金					
{ 25. 他分行負責任而寄款至他分行時.....	他分行	現 銀		(無須暫記)						
{ 26. 本行計算來款之利息而通知時(係應付時)	利 息	他分行						(無須暫記)		利 息
{ 27. 接其承認之回信時.....	(無須分錄)							(無須實記)		利 息
{ 28. 接到他分行計算往來之利息之信時.....	他分行	利 息		(無須暫記)	利息					
{ 29. 發承認之信時.....	(無須分錄)				(無須實記)					

此表基于恩師東京高等商業學校下野教授之原案而聊加私意者也

第五章 他分行往來賬目之整理法

他分行往來匯兌之分錄法。已於會計科目中詳述之矣。日記賬及總目元賬。即依此分錄法而記入。可也。唯他分行往來之關係。甚複雜。僅憑一紙通信。而互相聯絡者也。不另設詳便補助簿。整理之。則雙方難以符合。或前後顛倒。或收支混同。其影響非止於一銀行之內部。亦時及於數家銀行。茲就他分行賬目。而說明其整理監督之方法。

第一節 他分行間往款與來款之區別

簡單思之。似乎他分行間之往來交易。類於彼此銀行往來存款及往來過付之交易。例如貼現彼地應付之票據。送於彼地而託代收時。即彼地他分行有我之存款。又由我寄匯於彼地而請代付時。即由彼地他分行而受過付。故記錄此等交易之他分行往來元賬。亦與往來存款元賬相同。對於各他分行而設一門。似無不可。雖然。祇用一種往來元賬。甚不便也。蓋往來存款。由客家主動。而銀行不過處於被動地位。若他分行之往來則不然。有時由彼寄匯或求匯。亦有時由我寄匯於彼或向其求匯。今以一種賬簿記錄其雙方之事。則其匯兌殘額表示於借或貸方時。是否由彼進行之結果。抑由我進行之結果乎。甚不明瞭。例如第一銀行之他分行往來元賬中。在第二銀行名下。借方殘額二萬元時。此債權。出於第

一銀行送來票據而託代收之結果乎。抑第二銀行託來多數寄匯而由我代付之結果乎。均不可知。而銀行內部之事務。不便於整理矣。故關於他分行往來賬目。由我主動而託彼者。用他分行往款元賬。(Ledger of Branches and Other Banks, Our a/c 他支店當方口元賬。)由彼原動而來託者。用他分行來款元賬。(Ledger of Branches and Other Banks, Their a/c 他支店先方口元賬)

屬於往款者。(一)因本埠顧客之託而寄匯彼地時。(二)本埠顧客託代收之外埠應付票據。今轉託於彼。或自己所收買之外埠票據。轉送於彼時。(三)墊付他分行應付之存款證書及保證支票時。(四)其他雜項。是也。屬於來款者。(一)他分行寄匯於本埠託我代付時。(二)他分行託我代收本埠應付票時。(無論前途銀行係受人之託或自己所有者)(三)他分行墊付本行應付之存款證書及保證支票時。(四)其他雜項。是也。總之。在我爲往款者。在視前途則爲來款。他分行應付之存款證書及保證支票。由本行墊付。似亦屬於來款。然此種票據。並未有前途囑託。而本行願意墊付者。故仍屬於往款。但以此爲來款之銀行者亦不少。

如是有往款與來款元賬之區別。來款元賬之性質。類於客家對於本行之往來存款及過

付。往款元賬。相當於普通商家備用之往來存款記入賬。故彼此銀行各就其來款元賬而算利息。其往款元賬之利息。則自己不計算。俟前途銀行算清而報告。對照承認之。可也。

第二節 利息起算日

凡與他分行有往來交易時。多以書信報告。既得他方之承認。則交易因以成立。雖然債權債務確定之時期。究應為交易發生之時乎。抑在承認之時乎。蓋債權債務確定之時期。亦即彼此起利之時期也。此關係甚重。學者議論亦不一。故銀行之往來也。宜先彼此議定。然後賬簿可以互相一致也。今就日本各銀行間之習慣。示其起利日如左。

(一) 寄匯時。受託之銀行付現銀於持票人之日。

(二) 各種票據之代收款項。受託之銀行向付款人收款之日。

(三) 存款證書及保證支票之墊付。墊款後之通知達於應付銀行之日。

(四) 雜項。照前三條而定其債權債務之時期。

關於前二條。付款人既付款後。則票據關係全行完結。以後。代付或代收之銀行與主動之銀行。所有往來貸借關係甚明瞭。至存款證書及保證支票。外埠他分行雖墊付。然實在付款人(本埠銀行)尚未踐其義務。故票據關係未結。此際。彷彿攜來此證書及支票者。將此

等票據裏書轉讓於墊款銀行者然。墊款銀行須再呈驗於原來之應付銀行。得其承認後。而票據關係始完結。其結果變成彼此銀行之貸借關係。

他分行往款及來款元賬。將俟起利日而始行記載乎。是不然。蓋補助賬之性質。即使貸借關係未成立以前。該票據之發送接收回報等事。亦當一一記之。以備參攷。有一形式發生。即隨時記賬。而他分行往款及來款元賬上。均須添設一起利日之欄矣。今舉實在例題如左。

(一)十一月三日某甲攜來現銀請寄匯五百元於蘇州發出蘇州分行應付之匯票（蘇一號）交於甲同時通知於該分行

(二)十一月四日某乙攜來蘇州某B應付之期票八百五十元託代收款茲函寄至蘇（交易號次蘇一號）

(三)十一月五日漢口實業銀行來信云代某C寄匯已發出本行應付之匯票六百元

(四)十一月六日蘇州分行來回信云本行寄滙蘇一號已於十一月五日照付於某A

(五)十一月七日漢口實業銀行來信云代本行墊付存款證書第一百零一號一千元

於某D檢其證書適相符合故回覆承認之

(六)十一月八日蘇州分行來回信云轉託代收之蘇一號八百五十元已於十一月七日由支付人某B代收訖

(七)十一月九日某丙攜來漢口實業銀行之寄匯匯票六百元茲付現銀同時回報該行

(八)十一月十日某丁攜來漢口實業銀行應付之保證支票第二百零一號四百五十元茲墊付之同時函報於該行

此等記賬格式如左(是爲他分行賬簿之第一組織法)

他 分 行 往 來 款 元 賬

蘇 州 分 行

民國 3 年	摘	要	利 息 起算日	借		貸		殘	
11	寄匯蘇一號	某 甲	11	5	500	—	500	—	500
”	代收票據蘇一號	某 乙	11	7	850	—	貸	350	—
”	保證支票 201	某 丁			450	—	”	800	—
8									

(例題號次)

1及4

2及6

他分行來款元賬
漢口實業銀行

民國 年	月	摘要	利息		借		貸		殘	
			起算日	日	借	貸	借	貸	借	貸
3	11	應付來匯票 1	11	9	600	—	—	—	600	—
7	7	存款證書 101	11	7	—	1,000	—	—	400	—

(例題號次)

3及7
5

計算總行與分行間之利息。而由總行支付於分行。或由分行支付於總行。雖似徒勞手續。在銀行全體之會計上。毫無損益。然欲詳細調查。各分行之營業成績。則對於總行及他埠分行之往來。亦非計算利息。不能明白。何則。蓋無此限制時。則分行應顧客之託。對於總行及他埠分行。競行無匯水之寄匯。以充滿自己之運用資金。而放出以獲厚利。其結果總行及他埠分行受彼地分行之託。而代付寄匯不已。終至資金缺乏。而不能收放資之利益。亦殊非公平之事也。

縱使總行欲防資金之不足。以一紙催促各分行而回收其匯兌之殘額。則亦不能得其適從。故不若由總行抬高其利息。則各分行欲顧全自己之利益。必不得已而還款。此時雖自己無現銀。亦必向他行借入。而送還於總行。抬高利息之妙用。謂之匯兌尾之操縱也。

第三節 他分行間暫記與實記之區別

他分行往款及來款元賬上。既均有起利日之欄。則他分行之關係。可以瞭然矣。雖然。銀行之交易極繁者。屢次並列其實在之臨時記賬月日及起利日。易於混同。故尤須區別此實

在臨時之記賬與起利日確定之記賬兩者均各獨立。前者曰暫記賬目 (Outstanding account) 假勘定。後者曰實記賬目 (Cash a/c) 本勘定。配分於上述二種之元賬。則整理他分行賬目時所需之補助簿。共有四種。如左。

- (1) 他分行往款暫記元賬
- (2) 他分行往款元賬 (實記二字可省)
- (3) 他分行來款暫記元賬
- (4) 他分行來款元賬 (同前)

此賬簿組織上所最宜注意者。月日也。今詳述於左。

(甲) 屬於往款之交易

某月A日 (在本行發生交易而發信至前途) 先以A日記於往款暫記原賬。

同 B日 (前途銀行接到本行之信時) 與本行無關係。無須分錄。

同 C日 (前途履行交易之約或承認而發回信時) 此時本行尙未知悉。

同 D日 (本行接到前途之回信時) 先以D日取消暫記。同時以C日記於往款實記原賬而完結。

(註) 孰應記於暫記原賬中之借方或孰應記於其貸方。須視其異日履行交易後。或本行應得債權。或應得債務。由此而決定之。例如由顧客收入現銀。向前途銀行請代付寄匯時。異日當爲債務。故記其貸方。反是。將

外埠應付票據。寄至前途銀行。託代收時。則異日爲債權。故記於借方。

取消暫記者。卽於原來記錄之反對方面而記入之謂也。在實記原賬上。宜按其債權債務之關係。卽最初暫記時。在借方。則實記亦借方也。

所謂履行交易者。寄隨時。有來人而代付。代收票據。則滿期索款之謂也。又所謂承認交易者。承認本行墊付之存款證書及保證支票之謂也。故實際上承認時。爲B日。卽時而併行C日之手續。是屬常事。

(乙) 屬於來款之交易

某月 a 日 (前途銀行發生交易而發信時) 此時本行尙未知。

同 b 日 (本行接到來信) 先以 b 日記於來款暫記原賬。(但接到前途墊付存款證書保證支票之信時。查照承認之。卽以 d 日直記於來款實記原賬。同時發回信。)

同 c 日 (本行履行交易發回信) 先以 c 日取消來款暫記原賬併以之記於來款實

記原賬。

同 d 日 (前途接到本行之回信) 與本行無關係。

(註) 由前途墊付存款證書或保證支票時。卽於 b 日承認。故無須暫記。隨時實記可也。

茲照前節之例題。表示其記賬式。如左。(是爲他分行賬簿之第二組織法)

他分行往款暫記原賬

蘇州分行

民國 3年	摘要	借		貸		餘	
11	寄匯	1		500	—	500	—
”	代票	1		850	—	350	—
”	寄匯	1		500	—	850	—
”	代票	1		850	—	0	
”	保票	201		450	—	450	—
10							

他分行來款暫記原賬
漢口實業銀行

民國 3 年		摘要	借	貸	餘	
11	5	來匯 " 1	600	600	600	1
"	9	丁 某 巴			0	

他分行往來匯兌之記賬法對照表

他分行往來匯兌交易	日 記 賬		他 分 行 往 款				他 分 行 來 款				
	借 方	貸 方	暫 記 原 賬		實 記 原 賬		暫 記 原 賬		實 記 原 賬		
			借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	
第一 寄匯關係											
{ 1. 收銀寄匯而發信時.....	現 銀	他分行		A寄匯		C寄匯					
{ 2. 接到代付之回信時.....	(無須 分錄)		D寄匯								
{ 3. 接到來匯之信時.....	他分行	應付來匯					b來匯				
{ 4. 付銀而發回信時.....	應付來匯	現 銀						c來匯	c來匯		
第二 代收關係											
顧客來託	{ 5. 寄去外埠應付之票據而轉託代收時	(無須 分錄)		A代票							
	{ 6. 接到收銀之回信時.....	他分行	暫時(往來)存款		D代票	C代票					
	{ 7. 寄來本埠應付之票據而轉託時.....	(無須 分錄)						b來代票			
	{ 8. 收銀而發回信時.....	現 銀	他分行					c來代票		c來代票	
同業相互	{ 9. 貼現外埠應付之票據而寄去之時...	貼現票據	現銀及扣息	A貼票							
	{ 10. 接到收銀之回信時.....	他分行	貼現票據		D貼票	C貼票					
	{ 11. 寄來本埠應付之貼現票據時.....	(無須 分錄)						b來貼票			
	{ 12. 收銀而發回信時.....	現 銀	他分行					c來貼票		c來貼票	
	{ 13. 貼現外埠應付之押匯而寄去之時...	押 匯	現銀及扣息	A押匯							
	{ 14. 接到收銀之回信時.....	他分行	押 匯		D押匯	C押匯					
依託	{ 15. 寄來本埠應付之押匯時.....	(無須 分錄)						b來押匯			
	{ 16. 發收銀之回信時.....	現 銀	他分行					c來押匯		c來押匯	
	第三 墊付關係										
	{ 17. 墊付他分行之保證支票時.....	他分行	現 銀	A保票							
{ 18. 接其承認之回信時.....	(無須 分錄)			D保票	C保票						
{ 19. 接到於前途墊付本行保證票據之信時	往來存款	他分行					(無須 暫記)			b來保票	
{ 20. 墊付他分行之存款證書時.....	他分行	現 銀	A存證								
{ 21. 接到承認之回信時.....	(無須 分錄)			D存證	C存證						
{ 22. 接到前途墊付本行之存款證書之信時	證書存款	他分行					(無須 暫記)			b來存證	
第四 雜項臨時關係 (譬如)											
{ 23. 本行負責任而寄款至他分行時.....	他分行	現 銀	A遞送金								
{ 24. 接到查收之回信時.....	(無須 分錄)			D遞送金	C遞送金						
{ 25. 他分行負責任而由本行寄款至他分行時	他分行	現 銀	(無須 暫記)								
{ 26. 本行計算來款之利息而通知時(係應付時)	利 息	他分行					(無須 暫記)			△利息	
{ 27. 接其承認之回信時.....	(無須 分錄)								(無須 實記)		
{ 28. 接到他分行計算往款之利息之信時.....	他分行	利 息	(無須 暫記)		△利息						
{ 29. 發承認之信時.....	(無須 分錄)				實記)						

此表本係舊師東京高等商業學校下野教授之考案茲稍加私意而轉載之特誌以鳴謝忱
△者係定之利息計算日也

以此與前節第一法比較。有次之優點。

(一) 第二法可以詳明其交易進行之次序。例如原動方面之顧客姓名及受動方面之顧客姓名。均可知悉。回信之到着月日。亦明。故便於異日查照。

(二) 第二法常明算其確定債權者及未確定者之貸借餘數。故銀行內部之金融。便於調理。

(三) 第一法之記入次序。非必一致於起利日之次序。故計算利息時。須先逐一移記於他賬。改其起利日之次序。(此他賬名謂他分行算利原賬) 徒多煩勞。不如先設暫記。俟起利日確定時。再依次實記之。較為明瞭也。

現今商業銀行界。率用暫記。以為標準方法。今更就各種他分行往來交易。逐一對照其日記賬之分錄。暫記實記之移轉次序。以圖解之。如左。學者細心研究。自可悟解而運用自如矣。

(註) 觀此表。可知往款未必屬於債權(借方)(參照上) 又日記賬上分錄之有無。亦非必與實記原賬記入之有無相一致。(參照 2. 18. 21. 24)

匯兌交易甚繁之大規模銀行。對與他分行。祇有一暫記賬目。日日交易達於數十種之多。

時。有混亂之虞。故更分暫記原賬於其交易之種類。如次。（是爲他分行賬簿之第三組織法）

他分行往款（實記）原賬

他分行往託寄匯暫記原賬

他分行往託代收票據暫記原賬

他分行往託貼現票據暫記原賬

他分行往託押匯暫記原賬

他分行往驗保證支票暫記原賬

他分行往驗存款證書暫記原賬

他分行往託雜項暫記原賬

他分行來託寄匯暫記原賬

他分行來託代收票據暫記原賬

他分行來託貼現票據暫記原賬

他分行來託押匯暫記原賬

他分行來託雜項暫記原賬

他分行來款（實記）原賬

(註)對於來款之保證支票及存款證書。無需暫記原賬。已如上述。

此等暫記原賬之劃欄法。與普通暫記原賬同。無容贅述矣。

第四節 匯兌統轄記賬法

銀行有二處分行以上時。彼此分行間自有匯兌往來事。由銀行之全體觀之。甲地分行之債權爲乙地分行之債務。其移動增減。似與總行無休戚之關係。然論其實際。總行應洞察各分行間之金融。甲地分行之銀根緊急。而乙地分行大爲平和。發生此種不均之勢。故決不可聽各分行之自由。而僅恃其每月一次或數次之結算報告也。凡每次匯兌交易。必須一一報告總行。

分行與他行間之匯兌關係。更爲重要。蓋分行之債權債務。仍屬總行之債權債務。總行之責任甚大。例如甲地分行對於乙地分行而債務累積時。終須由總行撥款救濟之。如能早知此情勢。則總行方面。可由其對於他行之匯兌作用。而周轉補救之。尙不至流於偏勢也。又多數分行。各對於某地他行有債權。由各分行觀之。其數有限。無足介懷。然總計之。則爲數甚巨。一旦該銀行破產。是亦本銀行全體之損害也。近來銀行界之分行制度甚發達。一家銀行可有數百分行。分置於全國各地。監督分行之方法。實爲經營上之大問題。因之簿

記上亦不得不採其特別之方法。原來各分行業務上有一定之自由範圍。對於平時常有之交易。非必逐一稟商於總行而聽其指揮。如匯兌事。似可隨客便。隨時直接寄匯或求匯於他分行。無須總行干涉。但簿記上欲監理分行。是必有羈束。每次寄匯或求匯等事。必報告於總行。彷彿經由總行而與他分行往來者然。如是記賬。名曰匯兌統轄記賬法。

例由甲地分行寄匯至乙地分行。實際上雖屬兩行間直接通信。然在簿記。先視若甲地分行對於總行而寄匯。記賬。又乙地分行。亦若受總行之寄匯而記賬。此際。總行行寄匯。同時而受他方之寄匯。故貸借平均。對於他分行之全部匯兌往來賬目之貸借殘額。毫無增減。但對於他分行各家之往來匯兌殘數上觀之。較諸總行自己之交易殘數。大有增減。此殘數。即表示總行對於他分行。應索應付之債權債務之總數者也。此於監督分行及本行金融之上。極為要事。

用此方法。凡彼此分行或他分行間之往來交易。除伊等兩行間互相報告以外。尚須報告於總行。總行得順次記其交易。其報告總行之法。有二。(一)由受動之他分行行之。原動他分行僅直接發信。(二)原動受動之兩他分行。同報告於總行。前者為單報法。後者為複報法。日本用後法。手續雖屬繁雜。然便於對查其錯誤也。

第一項 同行之彼此分行往來

今假定甲地總行有乙丙兩地之分行。後兩地間發生寄匯關係時。如左。

(一) A 乙地分行受客之託。寄匯五百元至丙分行。其分錄時。假定爲對於總行而行者。(補助賬亦然)

現 銀 500 -

總 行 (註明丙地) 500 -

同時發信。通知丙分行及總行。

B 丙地分行接信。其分錄時。視若受總行之寄匯者然。(補助賬上同此法)

總 行

(註明乙地) 500 -

應付來匯

500 -

補助簿爲來款暫記元賬(乙分行賬目之借方)

C 總行接乙分行信。視若受分行之寄匯。同時而向丙分行寄匯者然。亦於補助賬上記入兩分行之賬目。

分 行

(註明乙地) 500 -

分 行

(註明丙地) 500 -

補助賬爲來款及往款暫記元賬。前者記於乙地分行之借方。後者記於丙分行賬之貸方。

(二) A 丙地分行驗來人之匯票而支付。

應付來匯 500-1

現銀 500-1

補助簿

來款暫記元賬 (乙地分行賬目之貸方)
同 元賬 (乙地分行賬目之借方)

同時回報乙地分行及總行。

B 乙地分行接到回信。此時無須分錄。

補助簿

往款暫記元賬 (丙地分行賬目之借方)
同 元賬 (丙地分行賬目之貸方)

C 總行接到丙地分行之回信。亦無須分錄。

補助簿

來款暫記元賬 (乙地分行賬目之貸方)
同 元賬 (乙地分行賬目之借方)
往款暫記元賬 (丙地分行賬目之借方)
同 元賬 (丙地分行賬目之貸方)

第二項 分行與他行之往來

茲更舉一例地他行(第二銀行)與戊地分行(第一銀行之分行)間。現有代收票款之關

係。其手續如左。

(一) A 丁地第二銀行受客之託。收下戊地應付之匯票一張(二千元)直寄至戊地第一銀行分行。轉託其代收。此時無分錄。其補助簿爲往款暫記元賬(戊地分行賬之借方)。同時通知

第一銀行總行及該地分行。

B 戊地分行接信。亦無分錄。補助簿爲來款暫記元賬(丁地第二銀行賬之貸方)
C 第一銀行總行接信。亦無分錄。

補助簿 { 來款暫記元賬(丁地第二銀行賬目之貸方)
往款 同 上(戊地分行賬目之借方)

(二) A 該匯票滿期。戊地分行索款。其分錄時。視若受自己總行之委託者然。

現 銀 1,000-

總 行(註明第 1,000-
二銀行)

補助簿 { 來款暫記元賬(丁地第二銀行賬目之借方)
同 元賬 (丁地第二銀行賬目之貸方)

同時回報總行及第二銀行。

B 丁地第二銀行接回信。

他行(註明戊地分行) 1,000— 臨時存款 1,000—

補助簿

往款暫記元賬(戊地分行賬目之貸方)
同元賬 (同) 上借方

C 第一銀行之總行接回信。

分行(戊地分行) 1,000— 他行(第一銀行) 1,000—

來款暫記元賬(丁地第二銀行賬目之借方)

來款元賬 (丁地第二銀行賬目之貸方)

補助簿

往款暫記元賬(戊地分行賬目之貸方)

往款元賬 (戊地分行賬目之借方)

總行之主要簿上(總目元賬)之他行科目。非但總行自己對於他行之借貸關係。亦表示其所有分行對於他行之借貸關係。又其補助簿(他分行往款及來款元賬暫記元賬)亦舉各他分行對於他行及彼此分行間之關係。悉網羅之。故總行司理人觀此等賬簿。無論總行與分行。凡本行全部之對外關係。均可瞭如指掌矣。總分行間聯絡如是密切。然後易

於監理一切分行也。

(註) 以上例題外。其墊付關係。亦可由此數推。

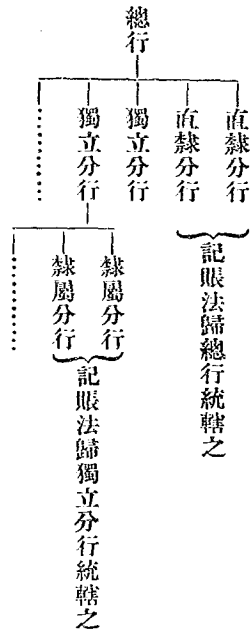
總行對於彼此分行間及分行與他行間之往來。不記入寄匯記入賬。應付來匯記入賬。外埠代收票據記入賬。他分行來託各項票據記入賬等。蓋此等補助簿。皆總行自己發生關係交易時。方記入故耳。

第三項 獨立分行及隸屬分行

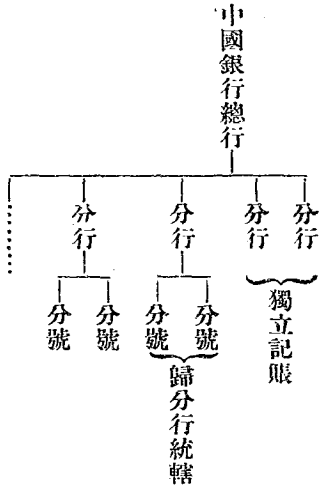
如以上說明分行之匯兌交易須一一報告於總行。而統轄記賬。然銀行之營業範圍廣大者。世界各地多有分行。而內地交通不便之地方。一一如斯報告。則不勝其煩雜。所以此等之分行。特許其獨立記賬。平時各種交易不必記入於總行之賬簿。惟每星期或每月徵其報告。至結賬時。始合併統計之。故稱之曰獨立分行。而其他則爲直隸分行。

此種獨立分行附近地方之小分行。而無獨立之資格者。對於獨立分行之關係亦恰如直轄分行之對於總行然。此稱之曰隸屬分行。即隸屬分行之交易均歸屬於一切獨立分行之賬目也。

在規模大之銀行。其分行記賬之關係甚爲複雜。表示如左。



現在中國銀行之制交無直隸分行。而獨立分行單稱為分行。隸屬分行特稱分號。



第五節 匯兌尾之處理法

銀行對於他行或自己之分行或總行。日日彼此有往來匯兌事。各行賬目之匯兌尾（匯

兌殘額 (Exchange balance) 未必相平衡其結果有四種

往款

借方有殘數時 (是曰本行過付或往款過借)

貸方有殘數時 (是曰本行過用或往款過貸)

來款

借方有殘數時 (是曰前途過用或來款過借)

貸方有殘數時 (是曰前途過付或來款過貸)

(註)此所謂過借過貸者簿記上之借方或貸方有超過之意。對於過用過付其意義之異同宜須審味之。凡結往來匯兌契約時其匯兌尾之利息當預先定明。過用者高。過付者低。

(註)日本通例。兌匯過付利息較諸往來存款利息每百元約少二三釐。過用利息較貼現扣息率約多二三釐。蓋過付者務期早日收回。過用則使之早日償還。以便靈活周轉彼此之資金故耳。

本行過付之發生。必本行之隨意而託前途。代收票據或本行之隨意而墊付保證支票之結果也。於此而欲求厚利。殊欠妥當。過用則爲本行隨意寄匯之結果。當然負擔其高利率。前途過用過付亦同是理。又匯兌尾彼此亦宜限以定數。過付達於限額以上而或減爲最少殘額(例百元以下)時。不付利息。過用則不容超於限數。如此限制後。而其勢仍不免有偏重時。則惟有處分償還其殘額之法。其法有四。

(一) 同一他行或同一分行之賬目上轉換其往款及來款殘額

此兩法曰轉換法

(二) 相異之他行或分行間轉換其往款殘額

(日名附換)

(三) 令某銀行將我往款之過付或過用。以現銀撥付於該地之他銀行。或向他行代收。是為撥現法。(日名振込)

(四) 輸送現銀法。是最後不得已而行之方法也。

第一法。彼此方面均可提議。其餘諸法。則大有關係於利息之損益。故此等匯兌尾本行祇可隨意提議其往款方面之處分事。不能干涉於來款方面。必待前途通知而照行。又對於已記入實記元賬之金額。僅可隨意行之。但實際上。亦宜預計其書信郵寄之日數。至信所前途日止。另外斟酌可以編入於實記之現在暫記金額。是彷彿往來存戶。數查其自己存款之餘數。除存款簿上所有收支以外。仍當查其已發出之支票。尙未經銀行支付者共有幾何焉。

第一項 對於同一他分行而轉換其往款與來款(內部轉換)

今他行或分行之往款元賬借方。有殘額一萬元。該行來款元賬貸方亦有同數殘額。則前者為本行債權。後者為債務。相等。故可謂無殘額。茲對出往款來款之各元賬。如數存餘時。

計算兩方利息。豈非無益之勞乎。况與他行之往來交易。往往照契約之條件而行。利害自因之而生。例如本行對於某行之交易。互以二萬元爲過付殘額之限數。以三萬元爲過用殘額之限數。過此限數則不給以利息。如是結約。今觀往欸元賬中甲銀行賬上有三萬元之殘額（借方）。來欸元賬之該行賬上殘有二萬元（貸方）。則本行先照上萬而計付利息。至三萬元之過用。已超乎限數。結果亦祇有二萬元之利息。其餘利息（對於一萬元者）竟爲於損耗矣。茲若轉換此兩種元賬之殘額。還清二萬元。則本行對於前途之過用。於此消滅。可免付息。且可向伊收一萬元之利息焉。

又往欸元賬上有三萬元（貸方）殘額來欸元賬借方有二萬元時。本行過用數已超乎限數。非付銀行前途以減少其過用數。則將來不能應客家之囑託而寄匯也。今若轉換此兩種元賬之匯兌殘額。還清二萬元。則過用者祇萬元。尙有可以寄匯之餘地也。轉換法如此便利。故各銀行宜常檢閱兩種元賬上之殘額。一有上述之狀況時。卽行轉換法。可也。

轉換之手續。由彼此間一銀行行之。而通知於他銀行。（但實際上用電報預先議妥）其主動銀行（行轉換者）無須分錄。先將兩種暫記元賬上之一方記於借方。他記於貸方。信達於前途。有回信來承認後。再由兩暫記賬轉記於兩實記元賬。於摘要欄內。註明「轉換匯

「兌尾」五字。

(註)起利日爲轉換之通知達於前途之日。或謂本行無須暫記。可以通知之日。直接轉換。記入於實記元賬者。此說亦非不可。總之。結往來契約之際。宜妥商定也。

受通知之銀行亦無分錄。唯於兩種元賬(實記)直接轉換還清。並發回信承認。其起利日。即在承認之月日。其關係類於墊付支票。兩元賬之摘要欄。亦填明轉換匯兌尾「五字。如此對於同一他行或同一分行而轉換往款尾來款尾之事。稱曰內部轉換(口座附替或雙方附替)。

第二項 對於相異之他分行彼此轉換(外部轉換)

(第一)他行與他行之轉換

通觀多數他分行之間。本行所在地與甲行所在地。金融關係。由我寄匯者甚多。則往款。貸方。於以累積。反是而對於乙銀行之地方。由我求匯者多(貼現、押匯或代收票據等)。則往款。借方。於以累積。又對於丙分行地方。由彼寄匯者多。則來款。借方。累積。對於丁分行地。彼求匯者多。則來款。貸方。累積。皆常時發生之現象也。如此兩地間之情勢不平衡時。其借或貸之一方有累積者。名曰匯兌偏勢(片爲替)。是不利於銀行資金之周轉。倘長此而無已。

也。

其次甲銀行(得通知後)如左分錄。作傳票。以指定之起利月日。記於他分行來款元賬(不要暫記) 中兩銀行賬目。(主動銀行假定爲A銀行)回覆A及乙銀行。

(借方) 他行 (註明乙銀
行匯兌尾) (貸方) 他行 (註明A銀
行匯兌尾)

乙銀行亦同樣如左分錄。作傳票。以指定之起利月日。記於他分行來款元賬(不暫記)上兩銀行賬目。回覆A及甲銀行。

(借方) 他行 (註明A銀
行匯兌尾) (貸方) 他行 (註明甲銀
行匯兌尾)

A銀行既得兩銀行之回覆。須從速取消暫記。謄記於往款實記元賬。(分錄已有之。此際無須再作)

(第二)同一銀行分行與分行或分行與總行之轉換

他行間之外部轉換法既如此。分行彼此間或分行與總行之間。當有如何之手續耶。夫銀行之分行。既採其統轄記賬主義。則各分行不得任意與他行或外埠分行。轉換匯兌尾。總行常集合各分行之往來報告。視其匯兌尾如何。將甲分行之過用與乙分行之過付轉換。

丙之過付與乙之過用相換，不可有意。如某地分行有偏匯情勢，當申告於總行，依總行之指示而轉換焉。

總行對於分行開之轉換，發其命令轉換書，是謂撥貸票 (Credit note 付換送金票) 蓋對於他行請轉換時，該行之承認與否，未必能預定。故用知單而請願。至總行對於分行，則非請求而為命令。理應用匯票，惟此所以移轉銀行內部之債權債務者，非交與外人，故避其匯票上之法律形色及印花稅，而用撥貸票，其意義亦無異於普通之匯票也。

例如某銀行之蘇州分行，對於杭州分行，往款借方累積，由其上海總行之賬簿上觀之。

總行
對於蘇州分行 匯兌尾在來款貸方
對於杭州分行 匯兌尾在往款借方

總行所有蘇州分行之賬目上，非但與杭州分行之往來，各處分行與蘇州分行之往來，皆統轄記載。故可知蘇行對於各分行及總行之全體匯兌關係，以便調和轉換。現在蘇杭兩行之往來關係，有如何狀況，不便摘出，常易疏忽視之。一旦蘇行有不便之感時，自請於總行，欲以其對於杭之過付而與對於總行之過用相轉換，總行如允之，先作正副二份之撥貸票，如左。

(正份)	第一號 撥貸票	十二月五日起算	銀參萬伍千元正	匯兌尾轉換	十二月三日已經電報議定	(發票) 本行	(收票) 杭州分行	右金額請撥入於收票人之	貸方及本行之借方	民國三年十二月三日	上海總行	蘇州分行	台照	(副份)	第一號	(與上文同)
------	---------	---------	---------	-------	-------------	---------	-----------	-------------	----------	-----------	------	------	----	------	-----	--------

正份送於收票人。令其轉交於蘇州分行而呈驗。副份則由本行寄與蘇行。以為預告。以備蘇行對照查驗。於此而總行之實記元賬上蘇分行之來款貸方。減少。撥入於杭分行之往款貸方。當如左分錄。

(借方) 分行 (註明蘇州分行) (貸方) 分行 (註明杭州分行)
 (匯兌尾轉換) (匯兌尾轉換)

蘇州分行接總行及杭分行之票(二張)時。查照之後。記入於他分行往款元賬之杭州分行賬上貸方。且轉入於總行賬目之借方。(均實記起。利日照貸票上之指定日)如左分錄。

(借方) 總行 (註明總行)
(匯兌尾轉換)

(貸方) 總行 (註明杭州分行)
(匯兌尾轉換)

杭州分行之記賬法。如是類推。

(第三) 本銀行分行與他行之轉換

由總行發動欲於自己分行與他行間轉換其手續與上述他行與他行間之轉換略同即
(一) 分行之往款過借與他行之往款過貸相轉換 (二) 他行之往款過貸借與分行之往款過借相轉換 (三) 他行之往款過貸與分行之往款過貸相轉換之三種是也。

又由分行發動欲於自己總行與他行行轉換時其手續亦三種。凡此等手續均準照他行與他行間之轉換行之惟其不同之點有二。

(一) 總分行間不用知單而以撥貸票代之。

(二) 分錄上在分行一方用總行科目又在總行一方用分行科目此種撥貸票係單份式非聯份式。參照以下撥現法可知。

第三項 撥現法(振込)

例如總行現對於漢口實業銀行有五萬元之過用。本行亦有分行於該地。用撥貸票。令其代償。先將左之撥貸票寄至漢口分行。(漢口實業銀行爲他行故不要副份另用普通知單可也)

<p>第一號 撥貸票</p> <p>十二月七日起算</p> <p>銀五萬元正</p> <p>因轉換匯兌尾撥入</p> <p>於漢口實業銀行</p> <p>右金額請撥入於收票人之</p> <p>貸方及本行之借方</p> <p>民國三年十二月三日</p> <p>上海總行</p> <p>漢口分行</p> <p>台照</p>	<p>第一號</p> <p>(存根)</p> <p>第二號</p> <p>(同文)</p>
---	---

總行如左分錄。

(借方) 他行 (註明漢口實業銀行匯兌尾轉換) 50,000— (貸方) 分行 (註明漢口分行) (匯兌尾轉換) 50,000—

並記入往款元賬之借方(實記漢口實業銀行賬目)及貸方(實記漢口分行賬)起利日為票上之指定月日。漢口分行接此票。即照月日而實行。(或攜生現銀或用他法)如左分錄。後記於來款實記元賬上總行之借方。

總行 (註明銀行匯轉換) 50,000— (現銀) 50,000—

漢口實業銀行接A銀行總行之知單，且由同地分行收入現銀時，如左分錄，後記於來款實記元賬上A銀行總行賬之貸方。

(借方) 現銀 50,000 -

(貸方) 他行 (註明A銀行匯轉換) 50,000 -

茲更舉一例。上海A銀行與紹興B銀行結匯兌契約。過用及過付限制。假定各為二千元。今A對於B。來款借方有一千元時。某客攜來三千元。雖寄匯於紹興。A觀其匯兌情勢。甚所樂為。即不要匯費。其結果。來款借方有一千之殘數。往款貸方餘有三千元。茲欲全數還清之。先預計該寄匯支付之日。當於其日之前。行償還手續。如返一日。則多耗一日之利息。且已達於過用限數。不能再應顧客之請求。紹興無A之分行。不能直接送還現銀。幸知有B行與杭州C銀行有往來。於是A行先送撥貸票於本行之杭州分行。令於某月某日(由滬至紹興之郵寄日數為二日。則指定寄匯後之第三日)交銀於C銀行。記於該行之B行賬目。同時A發知單(還清匯兌尾)於B銀行。(經由C行繳銀並轉換往款與來款)如次分錄。

(借方) 他行 (註明B銀行匯兌尾轉換) 2,000 - (貸方) 分行 (註明杭州分行) 2,000 -

其記賬法。註明二千元於往款元賬之借方(實記B行賬)及貸方(實記杭分行賬)以外。再將一千元記於往款暫記元賬之借方及來款暫記之貸方。(均在B行賬)蓋此交易內。

外部之轉換事。同時發生故耳。

杭州C銀行所收之現銀。爲紹興B銀行之賬目。故記於往款實記元賬之貸方。通知於B行。如下分錄。

(借方) 現銀 2,000 - (貸方) 他行 (註明B銀行匯兌尾轉換) 2,000 -

紹興B銀行接A與C行之知單。知A行還清匯兌尾。如左分錄。且對於二千元。記於來款元賬C銀行賬目之借方及實記A行賬目之貸方。又將一千元。記於形款元賬之借與貸兩方(均爲A銀行賬目)。

(借方) 他行 (註明C銀行匯兌尾撥入) 2,000 - (貸方) 他行 (註明A銀行匯兌尾轉換) 2,000 -

第四項 輸送現銀法

與他行或分行匯兌之結果。甚有偏勢。且該地與外埠之金融關係。極爲疎隔。而不便行轉換方法及撥現方法時。不得已。輸送現銀而還清之。轉送時。用金銀貨幣或流通紙幣。不免危險。且多勞多費。償還往款時。本行負擔之。還來款時。他分行負擔之。

(一) 例如本行。對於漢口實業銀行之匯兌尾。爲往款過貸(本行過用)茲由本行負擔其

危險勞費。送銀於前途。如左分錄。記於往款暫記元賬之借方。並發信。

(借方) 他行 (註明漢口銀行匯兌) 40,000 - (貸方) 現銀 40,000 -

漢口銀行收所時如左分錄。直記於來款元賬(無須暫記)發回信。

(借方) 現銀 40,000 - (貸方) 他行 (註明上海A銀行匯兌) 40,000 -

本行接回信。記於往款暫記貸方及實記元賬之借方(無須分錄)。

(二) 如來款過貨(前途過付)前途請送現銀時。由前途負擔一切。本行分錄後。直記於來款元賬借方。發信。(無須暫記)

(借方) 他行 (註明漢口銀行匯兌) 50,000 - (貸方) 現銀 50,000 -

漢口銀行收所時。如左分錄。記於往款元賬貸方(無須暫記)發回信。

(借方) 現銀 50,000 - (貸方) 他行 (註明A銀行匯兌) 50,000 -

第六章 利息計算法

第一節 貸款利息

(二)期限及日數 貸款之期限。以月或日定之。例如三個月期。九十日期等是。以月定時。由貸出之月算至期限之月份。以初貸出之同一日爲期日。例如五月三十一日貸出。期限三個月者。八月三十一日爲其期日。(其日數 $1 + 30 + 31 + 31$ 也)又如期限之月份內無相當貸出之日則以最末日爲期日。例如十二月三十一日貸出。期限二個月者。次年二月二十八日爲其期日。

反之。於五月三十一日貸出。九十日期限者。其期日即八月二十八日 $90 - (1 + 30 + 31) = 28$ 是也

(註)對於貸款及貼現。以貸付之日及償還之日。均加日數。而銀行謀利也。

(二)利率 貸款之利率。或用年利。或用日利。年利者概依分釐%表示之。日利者對於每一千元每日利息幾角幾分。以表示之。

(參考)年利及日利之比較表如下

凡年利一分二釐相當日利三角二分九文	六釐五毛	一角七分八文
一分一釐五毛	三角一分五文	六釐
一分七釐	三角零一文	一角六分四文
		五釐五毛
		一角五分一文

一分〇五毛	二角八分八文	五釐	一角三分七文
一分	二角七分五文	四釐五毛	一角二分二文
九釐五毛	二角六分正	四釐	一角一分正
九釐	二角四分七文	三釐五毛	九分六文
八釐五毛	二角三分三文	三釐	八分二文
八釐	二角一分九文	二釐五毛	六分八文
七釐五毛	二角零五文	二釐	五分五文
七釐	一角九分二文	一釐五毛	四分一文

中國向例按月算利。亦稱幾分幾釐。頗易混同。年利。凡按月一分者。相當年利一分二釐。又按月一分二釐者。相當年利一分四釐四毛。蓋年利之分數。則表示十分之一。而按月之分數。則表示百分之一也。

(三) 計算法 設貸款日爲五月三十一日。期日八月三十一日。利率爲九%。金額爲五千元時。其利息數如下 $5000 \times \frac{9 \times 93}{100 \times 365} = 114.66$ 元

但銀行習慣上多算以一年爲三百六十日。蓋計算簡便。與銀行利益故也。

$$5000 \times \frac{9 \times 93}{100 \times 360} = 116.25 \text{元}$$

如以日利計算時如下式(年利九%相當日利二角四分七文)

$$0.247 \times 93 \times \frac{5000}{1000} = 114.86 \text{元}$$

通例利率定以年利時期限亦按年或按月定之。在前例期限為三個月則計算如左

$$5000 \times \frac{9}{100} \times \frac{3}{12} = 11.50 \text{元}$$

第二節 定期存款利息

此利息計算法。於貸款略同。通例用年利或月利而不用日利。用之唯未到期限而欲提取或滿期後遲取若干日之時而已。但此時單算存入之日而不算提取之日。蓋少日數。銀行多利益也。

第三節 儲蓄存款利息

(甲)活期存付(普通儲蓄存款)

儲蓄存款之利息。較之往來存款及特別往來存款稍高。幾乎等於六個月之定期存款利率。其發息方法。亦有二種。

a. 同於往來存款之方法。由存款次日起。至提款當日止。以日利計算。(後詳)
但計便利上。對於一元以下之零數。不給利息者。爲例。

b. 以月利計算。凡每月分上半下半兩期。(初一至十五日)之存款由十六日起。發半月利息。下半年(十六日至月底)之存款。由下月初一日起息。再上半期之提款。至上月末止。停息。下半年之提款。至該月十五日止。停息。

c. 以月利計算。凡存款之月及提款之月。不給利息。但對於每月初五日以前之存款。照付全利息。以彰優待顧客之意。

(乙) 定期整存整付

同於普通定期存款。無須再贅。

(丙) 定期整存零付(年金)

(丁) 定期零存整付(養老修學商工資金嫁娶資金等類)

此二種均有儲存比率表。將表中所定之數豫存。而將表中所定之數提取。利息自在其中。另無須發息矣。但銀行內部每到結賬時宜計算各戶向存之數及利息。而作未付利息之科目。爲要。

第四節 特別往來存款利息

此與儲蓄存款之活期存付相似。雖其 a. b. c. 三法均可採用。然 a 法最風行。但常例三十元以下之殘額。概不發息。三十元以上者。一元以下之零數。不算利息。譬如殘額二十九元時。全無利息。至殘額八十三元九角五分時。僅對於八十三元發息可也。

(一) 日數 有兩種付利法。(a) 由存入當日至提取之前日間。按照日日之殘額而算付利息。其法如下。

特別往來存款元賬

存款簿號次

存款者

職業

住址

民國 年	摘要	借	貸	殘	日數	積數	利 息
4	30 現		800	800	15	12,000	
5	15 付	370		430			
”	” 收		50	480	16	7,680	
”	” 收他行支票		385	865	1	865	
”	” 滾結 (紅字)	(紅)865		(紅) 0			@ 0
6	1 上期滾存		1,235	865	32	20,745	
”	” 利息撥入		865	865			2
		1,235	18	18			47

(b)由存入之次日至提款當日間。按照日日之殘額而算付利息也。此法與前法之所異。唯在結賬日一日之利息。執算入前期而執算入次期而已。其法如下。

民國 3年	摘要	借		貸		殘		日數	積數	利息
4	30 收 現			800	—	800	—	15	12,000	
5	15 付 現	370	—			430	—	16	7,680	
"	" 收 現			50	—	480	—	0		
"	31 收他行支票			385	18	865	18			
"	" 溢結 (紅字)		18			(紅) 0				@ 0 12
		1,235	18	1,235	18			31	19,680	2 36
5	31 上期殘存					865	18	1	865	
6	1 利息撥入			2	36	867	54			

(註)比較兩法六月一日之殘額有 $867.65 - 867.54 = 0.11$ 之差然在後法次期之初必計算滾存數一日之利 $(865 \times \frac{0.12}{360}) = 0.10$ 。其結果六月一日殘額為 $867.54 + 0.10 = 867.64$ 。尚有一分之差者小數四捨五入之公差不得已耳。

(二) 結算 特別往來存款之利息計算。普通每年行二次。較往來存款之算利日前十日或於一個月之前。蓋存款課事務員慮辦事之便利也。

其法。於其日日之殘數。乘以日數而得積數。再乘以日利率於全期之積數合計。則可得利息款數。於利息計算之次日。撥入原本。其結賬及記利法。見上式。兩種。

第五節 往來存款利息

往來存款利息計算法。亦與特別往來存款略同。但關於往來過付者。利率及日數之標準相異。故兩者當有區別。

第一項 尋常往來存款

(一) 日數 有三種。(a) 由存入日至提款日之前一日。(b) 由存入之次日至提款當日。(c) 由存入之次日至提款之前一日等法。並對於每日最終殘額而付利息。普通所行者。(a) 之法也。

(註一) 特別往來存款用現銀來存者多。往來存款則於通幣以外。多用他行支票等票據來存。當日不能利用。故由存入次日起利。然當事也。至提款日亦不能利用。亦可以無利。銀行中往往用(c)法者。爲之耳。

(註二) 往來存款之殘額。雖有依一日交易中最多或最少殘額者。然依最終殘額而一百元以下之零數不發利。

息是爲常例。

(二)利率 稱一千元每日之利息幾角幾分所謂日利是。

(三)結算每年二次。結賬。一切賬簿之當日。或其十五日以前行之。結算。及算法。同於特別往來存款。但賬簿之劃欄格式。從次項往來過付所揭者。

第二項 往來過付

(一)利率 往來過付之利息較往來存款甚高視抵押品對人信用而異略類貸款辦法。况且對於一元以上之過付悉數徵息唯銀行謀利而已。

(二)日數 有兩種計算法(A)由過付當日至還款當日(B)由過付當日至還款之前日對於其最多或最終殘額而付利息蓋(B)法較爲簡單如下式

支票號碼次 (2)

支票號碼次 51-100

往來存款元賬

姓名 _____ 住址 _____ 職業 _____

過付賬數 五千元
 過付利息 三角五分
 契約期間 某某公債票
 抵押存單

民國	摘要	支票號碼次	借	貸	殘	日數	借積	方數	貸積	方數
3	收現	51		5,000	5,000	15				750
"	現付本人	52	200		4,800					
"	保證支票	53	490		4,310	15				645
5	收現及其他票	54		2,875	7,185					
"	現付洽順號	53	5,837		2,902					
"	匯劃所				2,925	16	46	960		
"	收訖代理	31		1,645	1,290	15	19	350		
6	收現及其他票	15		3,500	2,209	1				22
"	凝結 (紅字)				(紅) 0	62	66	310	1	417
"			13,020		13,020		@0	35	@0	08
"			20		20		16	58		34
"	上期殘存			2,209	2,209					
"	利息撥入		16	11	2,204					

然在(A)法以過付日與還款日雙端算入因而每次還款不能不加增一日即對於五月三十一日之收款 1,645.20 加一日又對於六月十五日之收款 3,500 中已曾過付之

1,290.40 亦須加一日因此增加日數所生積數曰增補積數 Remedy 其算法如下

1. 不問殘額之借方與貸方對於其日之最終餘數求尋常存款日數而算出積數與前揭(B)式相同。但解約清算之時則增補最後之日數一日。

2. 對於過付有還款其款數不足過付數時對於還款數追加增補一日之積數。

3. 還款數較過付超過時則對於過付追加增補一日之積數。

4. 增補積數當特設一欄或暫用貸方積數欄不妨以紅筆記入。

5. 以增補積數之合計加算於借方積數則其總計即為真實借方積數故以此乘過付

利率即可得過付利息。

今由此式計算增補利息如左可參照前揭(A)式。

往來存款元賬

同前		同前		同前		同前		同前			
民國	國年	摘要	支票 號碼	借	貸	殘	日數	借積	方數	貸積	方數
4	15	收現	51	200	5,000	5,000	15		750		750
"	30	現付本人 保證支票	52	490		4,800	15		645		645
5	15	收現及他票 現付裕順號	54	4,283	2,875	4,310	15				
"	"	匯劃所	55	5,837		7,185	16	46	960	(紅) 1	646△
"	"	收現代票			△1,645	2,985	15	19	350	(紅) 1	290×
6	31	收現及他票			3,500	×1,290	1				22
"	15	滾結 (紅字)				2,209	62	66	310	1	417
"	"				13,020	(紅) 0		2	936	0	08
6	16	上期滾存 利息撥入		17	2,209	2,209		69	246	0	34
"	"			31	11	2,201		0	25	11	
								17	31		

(註) △×符號之數互相對照而可知其所由來也。又增補積數 2,936 = 1,646 + 1,290 也

若以存款日數之計算。用本節第一項之(B)法。則須增補日數。此非還款之日。乃過付之日也。即於上表中五月十五日五月三十一日之兩日。不以紅筆增補。而於過付之日五月十五日。直接以總數 2936 一次紅記可也。

第六節 存出款利息計算法

存出款之利息計算法。視其存出之條件。而同於往來存款。或同於貸款。但在中央銀行之存出款。往往無利息。

第七節 匯兌殘額之利息計算法

凡對於他分行匯兌上過付過收之利息計算法。類於往來存款之計算法。只所異者。(一)他分行往來上日數之計算。過付過用均用(B)法。而無須增補積數之計算。蓋彼此同業間。不能貪圖自己之利益。(二)凡各行祇計算他分行之來款元賬。而往款元賬。則任前途之計算報告。蓋來款者類於前途對本行之往來存款關係。而往款者我對彼之往來存款故也。茲示其例於左。

(註一)對於來賬。所謂過付限數。過用限數者。同於往賬之過付及過用限數。而來款所謂過付利率者。(即貸方超過時)為往款之過付利率(即借方超過時)又來款之過用利率者(即借方超過時)為往款之過用利率(即貸方超過時)也。參照第五章第五節匯兌尾之處理法)

(註二)如記入之月日。顛倒無序時。另用匯兌尾利息計算賬。序次改排抄寫。以便計算。

他分行來款元賬

地名 天津 行名 直隸通商銀行

契約期間 一年
 過付限數 三萬元
 過付利率 四厘
 過付利率 日利八分
 過付利率 三厘

民國3	國年	摘要	借		貸		餘		日數	借積	方數	貸積	方數
			借	貸	借	貸	借	貸					
5	1	來匯 1	6,000	-	3,550	-	6,000	-	14	840			240
"	15	來保.票.31			4,000	-	2,450	-	16				
"	"	來代.票.1			3,500	-	1,550	-	5	195			
"	31	來匯 2	5,450	-	6,850	-	3,900	-	10	40			
"	5	來貼.票.1			5,245	-	400	-	1				
"	15	來代.票.2			(紅)11,695	-	6,450	-	46	1	075		116
"	"	來押.匯.1			23,145	-	11,695	-		0	30		356
"	"	(紅字)滾結					(紅) 0			82	250		08
6	16	上期滾存			11,695	-	11,695	-					
"	"	利息撥入	32	25	2	85	11,695	60					848

第七章 結賬法

每屆會計期間終結。當計算資產負債之現狀。及此期間之營業成績。稱爲結賬。(Closing) 結賬之目的。屬於左之三項。

1. 檢查本期間各賬簿記入之虛確如何。且整理賬簿。以防貸款除賬之延宕。
2. 明揭營業之盛衰消長。則可定將來之營業方針。
3. 算出本期間之損益。可決定分紅公積酬勞等項。

銀行通例。每年二次執行此結賬法。大概六月三十日。及十二月卅一日。稱此爲半季結賬。

第一節 各行內部之整理

銀行平日業務浩繁。有如與顧客之交易無直接關係者。不過經財產之自然的變化。又如對於臨時之債權債務等。一一檢出而記入之。不堪煩瑣。然置之不理。亦關於利害。故當此結賬之日。豫備手續。以執行此會計之整理 (Adjustment of Accounts)

第一項 補助簿與總目元賬之對照整理

凡總目元賬之各科目殘額。與相關係之補助簿。不得不符合一致。例如往來存款元賬之各存戶殘數總計。當符合於總目元賬之往來存款科目及往來過付科目。貸款元賬各戶

之殘額與總目元賬貸款科目亦當符合也。故先將各種補助簿鈔錄檢算。如有不符合之處。反覆對照以訂正之。若往來存款及特別往來存款。其存戶往往達數千數百以上。故其殘數總計。少有差異所不能免。即暫時置之不問。雖無關係。然反此貸款貼現票據等。其借戶之數為有限。故不得不嚴密究察也。

第二項 已到期科目 (Over-due Accounts)

結賬日以前。已屆滿期。此等貸款及貼現票據如尙未繳款者。此時尤當嚴重督察。作為過期貸款。或按改借之手續。倘真無法可以索償。宜從倒賬公積之科目中。以撥補之。或改為倒賬損失之科目。其方法試就各會計科目之說明參閱之。往往銀行理事輩。恐此等損失之發表。故意隱蔽。已到期之債權。然放置之。累年積弊。至於不可收拾。故不得不慎。

第三項 暫收暫付科目 (Suspense Accounts)

暫收及暫付科目。初無何等的確之科目。暫時對於現銀之收支。漠然記入。以致日後整理分錄易於忘却。故當此結賬期。將此每件檢出宜如何設法。變為的確科目。以整理之。又從代收票據發生之臨時存款。萬一經久尙未提取之時。亦再當通告。以便結束。

第四項 浮懸科目 (Outstanding Accounts)

債權已屆發生。然現銀尚未收納之時。又反此債權未屆發生。然現銀已早收入之時。債務已屆發生。然現銀尚未支付之時。又反此債務未屆發生。然現銀早已支付之時。當此結賬之期。詳細摘出事實務求昭合。未收利息。未經過利息。未付利息。未經過再貼現扣息等。是也。（參照各會計科目之說明）凡小規模之銀行。因此等之浮懸債權債務。發生於每結賬之期。前期之浮懸款數。與本期之浮懸款數。無大差異。故以爲彼此自然補償。往往亦有置之不問。原來搜羅一切之交易。一一以檢出之。固非易事。然對於貸款及貼現押匯等主要業務。不可不慎。不然。何能正確表示。以期營業之發達也。

第五項 所有物科目 (Property Accounts)

銀行所有物如營業房屋地基器具等。其價值常不同於購置之當時。雖地基有漸次騰貴之通例。然房屋器具。必積日累年價值減少。故當結賬之期。每次評估當日之實際價值如何。此當計算爲資產負債也。估價法 (Valuation) 爲會計學上之大問題。狡猾理事之徒。每利用此。將不當之增價。以隱蔽營業之損虧。掩飾一人之過失。又反此將不當之減價。以隱蔽營業之餘盈。豁免政府之課稅。混淆社會之耳目也。故欲窺此銀行基礎之固否。與營業方針之慎否如何。即調查此所用之估價法如何。可察知其一斑。今將方法略舉之如左。

(甲) 凡現在估價比之購買原價騰貴之時。依照舊原價作爲標準。若下落之時。將現在低價。作爲標準以計算也。蓋不問騰貴與跌落。常以低廉之價值作標準計算。可得安全確實。如有價證券生金銀外國匯票等。當按此法。

(乙) 對於價值必年年低減之科目。當定低減之率。所謂減價法 (Depreciation) 卽此是也。此方法種類甚繁。然在銀行。因固定所有物不多。故不必過求精確完備之方法。則以簡便爲旨。卽用定額攤償法。(先定此保存年限以此平均每次攤償) 營業用房屋器具等。皆然。至於分行所有物之估價。此不能任之於分行長之自由。當預示一定之標準。或從每次總行指定減價數也。如此估價既得決定。而整理方法又如何。有二種也。

其一另設所有物減價公積。所有物科目之價值。以維持原價。其分錄則爲借方結賬損益。貸方所有物減價公積。(試參照四十七頁)

其二乃不用公積。直接將此減價數。從原價而減少之。分錄則借方爲所有物賣買及評價損益。貸方營業房屋或器具等。(試參照百五十四頁) 又對於有價證券及生金銀等。平素有豫備公積之銀行。雖本期成績不佳。然無庸直接表示損失。暫將此公積中撥出以填補之。其分錄借方爲有價證券豫備公積。或生金銀豫備公積。貸方爲公債票或股票生金銀

等。(參照五十一頁及五十三頁)。

第六項 債權科目 (Claim Accounts)

債權科目。如貸款貼現票押據押匯等。難期將來萬全收回。故按相當之減價標準。不得不填補倒賬之損失。稱此爲倒賬公積。(五十頁參照) 其外一一檢查過期貸款。如確無收回之望。迅速將債權數而扣除之。其法從來備有倒賬公積之銀行。分錄借方爲倒賬公積。貸方貸款。(或貼現票據等) 若無此種公積之銀行。分錄借方爲倒賬損失。貸方則爲貸款。(或貼現票據等)

第七項 第一整理日記

以上各種科目之整理已完。該銀行之會計。已得明瞭正確。於是乎將此種整理之分錄。均由轉賬傳票記載。在日記賬上。其法以本期最後之營業月日。記入於普通交易之次頁。特稱此爲第一整理日記。(Adjustment entry) 恰如普通交易之日記賬記入例。無大差異。僅由此轉記於總目元賬之時。摘要欄上。當註明整理日記四字。

(註) 總目元賬之摘要欄。從來不見何等之記入。已述如百九十頁。然至結賬時始有記入也。

(註) 總目元賬之各科目。乃並記貸方借方。故每日僅寫一行爲原則。然至結賬之時。其最後營業月日。另有整理

記入之一行。

第八項 第一試算表

總目元賬上已記入第一整理之時。就各會計科目。通計借方貸方。以對照殘額。當作成試算表。Trial balance 試算表者與月計表形式全相同。無異該會計期間最終之月計表。故或名爲期末月計表。又由其內容觀之。稱之曰內部整理試算表也。

(註) 凡試算表借方貸方之合計。及借貸各殘之通計。須要相合一致。又現銀科目之借方。相當於其餘科目全體之貸方合計。且現銀之貸方相當於其餘科目全體之借方合計。已說明於月計表之章下。試慎重以計算之。雖相差分毫。當反覆對照校合毋漏。以發見誤謬之原因何在。決不許任意添消也。

第二節 總分行間之整理

無論總行分行。均當於營業期末結賬。其第一着乃內部之會計整理。已如前節所述。但就總行與分行之特別關係。當詳論及之。

第一項 分行損益之處分

凡分行各自就該期間之損益。雖當計算明晰。然終局之利害。決不歸分行負擔。皆轉撥於總行爲原則。故分行內部整理已完。卽將屬於損益之會計科目。通計比較算出本期之純

益。(又純損)

其結果純益之時。分錄借方爲結賬損益。貸方爲總行。以作傳票。記入於總行來款元賬。(無須暫記)之貸方。又純損之時。借方爲總行。貸方爲結賬損益。以作傳票。記入於總行來款元賬。(無須暫記)之借方。

(註)分行純益之時。以結賬損益置於借方。雖似可怪。然此分錄係爲移轉分行之純益而編入總行之意。故欲取消原有之結賬損益而置於借方也。後日結束各損益類之科目時。其殘額悉集合於結賬損益之科目。始可以清償之。故於各科目之結束以前而轉撥分行之純益。卽其手續前後顛倒亦不得已也。

(註)損益者由分行計算。故雖似屬於往款。然由總行決議確定之者。分行不過豫爲供參考材料而已。非爲往款。乃來款也。又無須暫記者。蓋總分行往返交涉。其確定雖至遲延。而起算日記入。必在下期之第一日。是求實記。然則何故必待確定而不記入者。如下段所說。只爲未達往來之挪上記賬。

總行得此通知之後。將左之分錄作爲傳票。

(純益之時) (借方) 分行(註明撥入本期純益) (貸方) 結賬損益(註明某地分行)

(純損之時) (借方) 結賬損益(註明某地分行) (貸方) 分行(註明本期純損)

卽時。以下期第一日之月日。記入於分行往款元賬。(純益時爲借方。純損時爲貸方)。

第二項 未達往來之挪上記賬

總分行者。本爲一家。故對於社會。發表營業報告之時。不許總行對於分行有貸借。或分行對於總行有貸借等之款項。蓋總行之對於分行貸借。分行之對於總行貸借。必一致清償消滅故也。

然今對照總行之第一試算表。與分行之試算表。兩者未必相當。是何故歟。因匯兌交易通信函寄之結果而生。今十二月二十九日由上海之總行。對於漢口分行。發行寄匯。總行賬簿上。以分行記入於貸方。反之漢口分行至十二月三十一日。其通知尙未接閱。賬簿上無若何之變化。代收款項之關係。又墊付關係。不得不然。彼我交易複雜。賬簿之不能一致。是必然之勢也。

今欲結算一切之賬簿。全行之營業成績。一覽瞭知。須整理各總分行之交易。不能使之有毫末齟齬。其整理法有二。(一)本營業期間。就一方爲已發生之交易。於前途分行。假定該期間內已經受理。而挪上算入於結賬數目中。(二)反此迨至該期末日。前途未達到之交易。暫時於原動銀行亦未發生以假定之。不計入本期結賬數目中。雙方之賬簿均次期編入。此二法之中。爲理論之正當。則在第一法。

採用第一法之時。各行其內部整理已終。試算表作成之後。須待總行或分行。屬於本期之往來通知（知單及回單）之全部到着。一一分錄。作成傳票。

第三項 各行殘額之對照確認

此等挪上記賬之交易。其在補助簿上。乃記入於實際受理之月日。是與平常無異。如此各分行元賬之記入完成之時。即須發電報又用書信。彼此來款之殘額通知前途分行。對照前途之賬簿。以求承認。若互有不符之處。應重行照會。脫漏之處。更作傳票。誤算之處。求即訂正。以期嚴密而符合之也。

（註）當結賬之際。以免此混雜。各銀行日日發知單回單。期與前途聯絡之外。每月一次作匯兌往來計算書。（習慣上僅對於彼此來款而作）鈔錄自己之他銀行來款元賬。送至前途。以求誤讓脫漏之校正。若疏懈而不為。漠然待至年末對照檢察。勢必雙方錯誤。層出不窮。

第四項 第二整理日記

既對照各行殘額互得正確。且各地分行之損益。決定之後。各行慎將一切傳票。騰記於日記賬上。此時日記賬上之月日。以對照完結之日。稱此為第二整理日記。然後轉載此於總目元賬。不異第一整理日記。

(註)第二整理之傳票。網羅各分行之關於撥入損益及未達往來之挪上記賬。又脫漏謬誤之改正添加等事。

第五項 第二試算表

轉記於第二整理日記以後。就總目元賬之各會計科目。一一將借方貸方及殘額以統計之。作成一表。即為第二試算表。其形式不異月計表。及第一試算表。

第二試算表者。實為各行會計之完全試算表。可表示本期營業成績之全部。故往往稱為各行結賬表。或又由手續上。名之曰外部整理試算表也。總行及分行各當作成。分行急要郵寄總行。

(註)分行之結賬表。苟或遲延。總行全部結賬。即不能執行。故豫設計算課章程。每期結賬後十日。或十五日中。當呈出此表。

(註)如無設有分行之銀行。第一試算表。即代作結賬表。

第六項 第三試算表

如斯各地分行之結賬表。一齊呈出之時。總行之結賬表。基礎已具。於此可合併計算分行結賬表。

(註)預設計算章程。總分行雙方。非期會計科目之劃一。蓋恐窒礙於合併計算之時也。

此總分行合併結賬表者。實爲總括表示該營業期間銀行全體之動靜。又爲後節所說明之貸借表及損益表之根本也。乃此第三試算表。又名全行結賬表。或由手續上稱之爲合併試算表。

全行結賬表。當注意之處。總分行之相對關係也。原來總行之賬簿上。有分行之科目。表示其往來貸借。而分行之賬簿上。有總行科目。表示其往來貸借。然今就各分行結賬表。合計其總行科目之時。與總行結賬表之分行科目。可知貸借各相匹敵。殘額同數相對立也。蓋本節所述之繁雜手續。(總分行間之整理) 悉見此結果。無他。豫先特意以致之也。

又試總計各地分行結賬表上之總分行匯兌利息科目。即可知其與總行賬簿上之總分行匯兌利息科目。貸借互相匹敵。殘額亦對立也。蓋總行之應付利息。爲分行之應收利息。彼之應收。即此之應付也。

此二種科目。全爲銀行內部關係。無須發表於外部社會。又如此貸借同數。故即全得消滅除外。計算上無何等之障礙。後段之營業報告。(貸借表及損益表) 即除去此以發表也。

第三節 賬簿結束

全行結賬表既成之後。即可知全行之主要賬簿。無分毫誤謬。井然清理。乃始可結束一切

賬簿。蓋賬簿之結束。爲結賬之餘瀝。不過形式之手續。世人往往視結賬僅爲賬簿形式之結束。然此不思之甚也。稱爲結賬手續。始於會計之整理。經於利息分配。至於滾結日記。道程甚長。其目的亦重大（見於本章初頭）豈可混同爲一種之形式手續乎。

（註）日語云結賬爲結算。結束爲締切。其分別甚明瞭。英語均稱爲 *Closing* 尚有類似之語數種。宜區別之。（一）清償（*Settling* 決算）者謂付清償還以消滅某種貸借關係之意。非如結賬之貸借如數滾結。移存於下期。（二）清理（*Liquidation, realization, or clearing* 清算）者將財產全部變賣換爲現銀以消滅全體貸借。是破產又停業之處分法也。

第一項 主要簿之結束

主要簿之結束法有二種。英國式 *English system* 與大陸式 *Continental system* 英國式即直接行之於總目元賬上。大陸式先行分錄於日記賬上。然後轉記於總目元賬。此不過手續繁簡之分別。至於元賬上之結果。毫無差異。

按於日本各銀行之習慣。對於屬在損益之會計科目。採用英國式結束。屬在資產負債之科目。採用大陸式。如下。

（一）先將總目元賬中所屬於利益之會計科目。以紅筆記最終之殘額于借方。此時月日。

定爲該期營業末日摘要欄。當註明結賬損益。殘額作爲零。（此一行全用紅筆）然後從本期最初通計借方貸方。以檢雙方相符合否。如不符合。在殘數之錯誤。抑或貸借通計之誤算。須詳細反覆檢查之也。如雙方符合。橫貫借貸二方。施以單綫。其下各方並記通計數。又施以雙綫。以表示其結束。

（註）用此單綫雙綫於此種結束。非必獨須紅筆。藍筆亦宜。

（二）總目元賬上。宜另設結賬損益之新科目。（如已有分行損益分錄設此科目則連續記入之可）先在該期營業末日。將前段結束之科目名。記于摘要欄。以其殘數記入于貸方。

（註）此項記入皆用藍筆。恰與前段紅筆記入借貸相反對。蓋複式簿記。必要記入貸借雙方同一之數。故以上元賬上之手續。與分錄而作。借方結賬損益。貸方該科目。意相同也。唯用英國式。日記賬上不過無須表明此分錄耳。

（三）如斯屬於利益之科目。順次結束後。移記此於結賬損益科目。其次屬於損失之科目。執同一之手續。以結束。此又當移于結賬損益。但此時各科目內紅筆之記入及結賬損益科目之藍筆移記。均與前段貸借相反。自無待言。以上處理已完。則損益關係之各種科目

殘額均爲零。蓋結賬損益科目者。代表各種損益科目而綜攬無遺也。

(四)其次須要結束屬於資產負債之一切科目。其法用紅筆。將各科目之最終殘額數。記入於反對之側。(例如殘數在借方時。記入於貸方。殘數在貸方之時。記入於借方。)日月欄即爲該期之營業末日。摘要欄註明滾結之二字。殘額作爲零(此一行全用紅筆)然後通計貸方借方。始於本期之最初。檢此雙方相符合否。如不符合。在殘數之錯誤。或借貸通計之誤算。雙方符合之時。橫貫借方貸方二欄。施以單綫。其下各方並記通計數。又施雙綫。以表示結束。

(五)屬於損益之科目。及屬於資產負債之科目。結束已終之時。所餘即僅結賬損益一科目。元來結賬損益。終歸資本主(股東)之負擔。若純益之時。後日當分配股東。故由銀行之營業主體而觀。對股東之負債也。又純損之時。原來屬股本之虧耗。故對股東負債減少也。因此結賬損益。當結束之時。必須與資產負債科目同一處理。先用紅筆。日月欄內記入營業末日。摘要欄註記滾結二字。然後比較此科目之借方貸方。若借方大。本期營業則爲損虧。因此用紅筆。記入差數於貸方。若貸方大。本期營業則知贏利。因此用紅筆。記入差數於借方。殘數必作爲零。然後通計借貸雙方。即自應雙方必相符合。乃橫貫徹雙方。施以單綫。

其下並記通計數。又施以雙綫。以表示最後結果。

第二項 補助簿之結束

補助簿者。歸屬於營業部之各課。先將鈔寫其合計。彼此對照。使無誤謬。

(一) 總目元賬之各科目與補助簿之對照。

例如總目元賬之往來存款。及往來過付之科目。與往來存款元賬相對照。貸借科目與貸元賬對照。已如第一節第一項所述。此時補助簿元賬。先鈔寫各戶之殘數。作成往來存戶餘數賬貸款各戶餘數賬等項。總數之計算。與各戶交易之盛衰。便可一覽而知。如往來存款特別往來存款結賬期以前。所施結束之科目。至結束日則對照之。結賬當日即略而不為亦無妨。

(二) 補助簿中元賬與記入賬之對照。

例如貸款記入賬與貸款元賬。本埠及外埠貼現票據記入賬及押滙記入賬與貼現元賬之對照。

(三) 如斯對照檢查終結之時。當結束一切補助簿。其方法。各種元賬則與總目元賬上資產負債科目之結束相同。

(四)各種記入賬則。唯此金額欄。施以單綫。而後統計之。記入總數。最後施以雙綫爲結束。
(五)無金額欄之賬簿。其月日欄及主要部分。施以雙綫爲結束。以表示之則可也。

第四節 賬簿之接續

各賬簿結束以後。雖該期之簿記已告完成。然銀行之營業連續於下期。故上期之殘額。必承繼於下期。

接續者。由上期會計方面而觀。則爲滾結。由下期會計方面而觀。則爲開賬。凡主要之簿。每當會計年度。換用新冊開賬之手續。卽此新簿冊之第一頁承繼記入。

第一項 主要簿之開賬

主要簿開賬手續。皆採用大陸式。蓋可期形式之完全。

(一)分錄總目元賬上。發生滾結之科目。(屬於資產負債之科目及結賬損益科目)記入於日記賬。稱此爲開賬日記。(Opening Balance a/c)或由上期會計而觀。稱爲滾結日記。(繰越日記)

其方法將總目元賬之此等滾結科目。一一記入於日記賬反對之側。其貸借雙方合計。當一致。

(註)開賬日記之月日爲下期第一日(通例一月一日及七月一日)頂頭當註明開賬日記。

(註)此時或作傳票亦可。略之亦可。原來銀行簿記日記賬。反對於普通分錄。故在借方有滾結之科目。(指各科目之最終殘額。非謂紅筆之滾結款數。屬於貸借之何方)記於日記賬之貸方。

(註)開賬日記。各科目唯有一款數。故直記於合計欄可也。轉賬對目。轉賬款數及現銀收支之三欄。借貸雙方均爲無用。

(二)然後轉記各科目於新總目元賬。無異日常之轉記。但元賬摘要欄上。當註明上期滾存四字。

(註)開賬日記經於上述之結賬手續。始得而行。故不免數日之遲延。然銀行之營業。從下期第一日繼續開始。故此等日常營業之記錄。須宜於日記賬第二頁及總目元賬之第二行記起。留爲數日後補記開賬日記之便。下期襲用舊賬簿。手續無他差別。唯於日記賬記入下期之日常營業。當留空數頁。以備第一整理第二整理及開賬之諸日記。總目元賬亦當殘留數行之空白。開賬日記之一例如左。

日 記 帳

借 方

民國

年

月

日

(開賬日記)

貸 方

轉賬對目	摘要	原 價	轉賬款數	現銀收納	合 計	轉賬對目	原 價	轉賬款數	現銀支付	合 計
應 收	上期結存	1			500,000.-	未 繳 股 銀	2			250,000.-
往 來	上期結存	12			294,542.40	營業用地基房屋	3			24,500.-
定 期	存 款	13			176,000.-	現 銀	7			15,231.33
特 別	往 來 存 款	15			140,026.80	營業用器具	8			2,800.-
他	行	22			27,796.24	公 債	14			144,043.-
應 付	來 匯	33			1,650.-	貸 款	18			263,500.-
所有物	遞付公積	45			434.22	貼 現 票 據	2			278,715.-
未 經 過	扣 息	50			717.13	分 行	27			111,674.08
盈 餘	損 益	58			16,815.31	即還同業存出款	35			52,610.87
					1,148,629.34	未 收 利 息	35			1,097.70
						往 來 過 付	40			2,457.36
										1,148,629.34

第二編 銀行簿記法則 第七章 結賬法

三百十七

第二項 補助簿之開賬

補助簿所需之開賬手續。在各種補助元賬（例如貼現元賬、貸款元賬等）均承前段結束之後。即於次行下期第一日。記入滾結數。在摘要欄。註明上期滾存之四字。無異於總目元賬。

（註）此開賬手續。便宜上前段結束之時。同時並行亦可。

（註）往往理事輩假裝自己之成績。損益處分之先。改竄賬簿。或故意殘留已倒貸款。又將所有物之價值過當估價等成弊。此等實為會計學上所不能許之非行。公司條例上之罪案也。

第五節 損益處分

如已上述。由結賬損益科目之殘額。本會計問之淨利淨損之數。已瞭如指掌。銀行理事從此集議。即立其處理草案。提出於股東總會。

第一項 淨利分配

營業幸而盈餘之時。先將前期之餘利滾存合併。分配股東。所謂分紅 *Dividends* 也。然非舉全部而付清之。其當分配之要素。有左列數種。

（一）有價證券市價變動之預備公積

(二) 生金銀之市價變動之預備公積

(三) 分紅平均之預備公積

(五) 職員酬勞

(六) 法定公積

(七) 股東分紅

(八) 餘利滾存

此中(一)(二)(三)(四)(五)者歸於銀行之任意。淨利鮮少之時。暫時免去亦無不可。(預備公積及填補公積之性質上區別。已說明在第五十頁)或全停止股東之分紅。以專供各種之公積。以顧基礎之堅實。亦爲得策也。

此分配法爲會計學上之問題。各公司營業之老實如何。由此可窺而知。中國從來所行之預定分率法(例如作淨利全部爲十份。或十四份。豫定分紅幾份。酬勞幾份。公積幾份等)雖不合理。唯防職員貪利之弊。爲舊時不得已之制度也。

理事將分配草案。提出於股東總會。贊成確定之時。卽行其分錄。(見分錄法第五十八頁)凡股東總會。經過結賬後數十日而開。故此分錄。日記賬總目元賬上。均當挾記下期之相

當月日。然非必如開賬日記。以補入上期。但區別與該日之普通交易。其時日記賬之頂頭及總目元賬之摘要。宜註明第三整理日記又損益處分日記之名可也。

第二項 淨損處理

營業若純損之時不能設各種之公積。倘從前所已存儲之分紅平均公積一班公積法定公積及餘利滾存有巨款之時。將此撥出。執行幾厘之分紅亦無不可。然股東贏紅爲不急之時。不必執行也。僅由各種公積中。填補淨損以竟成無淨利。又無純損之清淡狀態而已。或各積公積及前期之餘利滾存不足於本期之淨損數。或全無此種公積之銀行。不得已用結餘淨損之科目以發表之。此項結餘淨損。苟下期之利益。不能先此填補。則不許充爲分紅及公積也。

此淨損處理案。於股東總會得確定之時。分錄於第三整理日記與淨利之時無異。

第六節 營業報告

內外之整理。結束承繼及損益處分已爲告終。尙有銀行所應執行之會計事務。營業報告是也。

第一項 報告監督官

各國政府均以銀行業務關於國民經濟甚大特設條例徵於詳細營業報告以實行監督。中國尙無銀行條例之細則。然此規定當發布不遠也。（特許銀行及關於銀錢票發行已有其章程）

日本普通銀行條例第三條。銀行當製成每半年營業之報告書。經由地方長官送呈大藏大臣。又其條例之施行細則第十一條。該營業報告書准於附揭之樣本以調製之。每經過營業年度後一個月以內。發送於大藏大臣。但在遠隔之地所有支店。或有不得已之事。就本條之期間內。不能發送報告書之時。當豫定日期以受大藏大臣之認可。試舉其營業報告書之內容。爲（一）資本金之增減。又股票轉讓之價值。（二）股東會議之事項。（三）處務之要件。（本期內註冊呈請訴訟等事）（四）營業之狀況（總本行營業之盛衰。金融之繁閑。貸借利息及貼現率之高低。其他資本運用等事）（五）金銀出納細況（六）各種存款細況（七）各種貸款細況（八）貼現票據細況（九）押匯細況（十）寄匯細況（十一）代收票據細況（十二）外國匯兌細況（十三）諸種公積票細況（十四）生金銀細況（十五）營

業用地基房屋及器具細况(十六)沒收抵押品細况(十七)往來匯兌處細况(十八)本期損益處分(十九)股東名單(二十)總行借貸表(二十一)各分行借貸表(二十二)本期全行借貸表(二十三)本期全行損益表(二十四)財產明細單。其樣式各有規定。蓋檢閱數千家銀行之報告以作統計。其形式非一定不可。

此中所關係於簿記爲(二十)以下之諸表。

(1)總行借貸表 (日名本店貸借對照表 Statement of Assets and Liabilities of Head Office)

就前節之第二試算表(各行結賬表)之總行份。將資產及負債科目之殘額及結賬損益之殘額。擇出之。分借方貸方以配列之。

(2)各分行借貸表 (日名各地支店貸借對照表 Statement of Assets and Liabilities of Each Branch)

同上就第二試算表(各行結賬表)之各分行份。擇出同前科目殘額。以配列之。

(3) 全行借貸表 (日名第幾期貸借對照表 *Statement of Assets and Liabilities of the Bank*)

就第三試算表(全行結賬表)擇出同前科目殘額以作成之。

(4) 全行損益表 (日名第幾期損益計算書 *Statement of Losses and Gains of the Bank*)
就第三試算表(全行結賬表)屬於損益科目之殘額及損益處分科目以擇出之。分列於借方貸方。

(5) 財產明細單 (日名財產目錄 *General Inventory*)

將全行借貸表中屬於資產科目之內容。明細類別之。詳記其數量若干估價若干等。此等諸表之作成法。會計學上頗有異論。雖未確定。然暫就日本條例細則所揭樣式。示之如左。

總 行 借 貸 表

民 國 年 月 日 起
年 月 日 止

借 方		摘 要	貸 方	
		定期 存款	13,000	-
		往來 存款	37,053	-
		應付 來隨	2,547	-
		他行匯兌過用(計幾處)	2,900	-
			
			
			
			
17,500	-	貸 款		
765	50	往來過付		
32,184	50	貼現 票據		
2,500	-	押 匯		
5,200	-	公 債 票		
18,500	-	他行匯兌過付(計幾處)		
4,100	-	分行匯兌過付		
5,000	-	分行營業基金		
			
			
			
			
50,000	-	股 銀	100,000	-
		未繳 股銀		
		各種 公債	7,000	-
		結賬 淨利	1,976	-
			
			
1,300	-	營業用地基房屋		
200	-	營業用 器具		
		現銀 { 貨 幣 8,561.55		
26,926	-	{ 紙 幣 17,599.-		
		{ 他行票據 765.45		
164,176	-	合 計	164,176	-

某省某道某縣某街
某某銀行 謹

第二編 銀行簿記法則 第七章 結賬法

三百二十四

某地分行借貸表

民國 年 月 日 起
年 月 日 止

第二編 銀行簿記法則 第七章 結賬法

借 方	摘 要	貸 方
	定期 存款	8,500 -
	往來 存款	25,112 -
	應付 來匯	1,853 -
	他行匯兌過用(計農處)	12,108 -
	總行匯兌過用	4,100 -
	
	
	
	
12,400 -	貸 款	
534 50	往來 過付	
19,286 50	貼現 票據	
1,800 -	押 匯	
2,306 -	公 債 票	
11,024 -	他行匯兌過付(計農處)	
	
	
	
	
	分行營業基金	5,000 -
	結賬 淨利	488 -
	
	
700 -	營業用地基房屋	
50 -	營業用器具	
9,061 -	現銀 { 貨 幣 1,305.11	
	{ 紙 幣 6,025.-	
	{ 他行票據 1,730.89	
57,162 -	合 計	57,162 -
	某省某道某縣某街	
	某 銀 行	
	某 分 行 圖	

第 幾 期 借 貸 表

民 國 年 月 日 起
年 月 日 止

借 方		摘 要	貸 方	
		定期 存款	21,500	-
		往來 存款	62,165	50
		應付 來匯	4,400	-
		他行匯兌過用(計幾處)	14,708	50
			
			
			
			
29,900	-	貸 款		
1,309	50	往來 過付		
51,471	50	貼現 票據		
4,300	-	押 匯		
7,506	-	公 債 票		
29,524	-	他行匯兌過付(計幾處)		
			
			
			
			
			
50,000	-	股 銀	100,000	-
		未繳 股銀		
		各種 公債	7,000	-
		結賬 淨利	2,464	-
			
			
2,000	-	營業用地基房屋		
250	-	營業用器具		
		現銀 { 貨 幣 9,866.66		
35,987	-	{ 紙 幣 23,624.-		
		{ 他行票據 2,496.34		
212,238	-	合 計	212,238	-

某省某道某縣某街
某 某 銀 行 圖

第二編 銀行簿記法則 第七章 結賬法

三百二十六

第二項 報告股東

對於股東之報告。於股東總會行之。按於中國公司條例有左之規定。

第一百七十八條 董事應造具左列各項簿冊於定期會十五日前交監察人復核。

一、財產目錄

二、貸借對照表

三、營業報告書

四、損益計算書

五、公債金及贏餘利息分派之議案。

第一百七十九條 董事所具各項冊簿。與監督人之報告書。於定期會前。備置於公司本

店。股東及公司之債權者。得查閱前條各項簿冊。

第一百八十條 董事應將各項簿冊。提出於股東會。請求承認。

本條例所謂營業報告書。比之日本之銀行條例所謂營業報告書。稍屬狹義。何則。既有貸借對照表及損益計算書。乃舉試算表之各科目殘額。而表示結賬日最後之狀態。故公司條例所謂營業報告書者。通觀全期間。略敘本期營業之繁閑。以期報告之完全而已。

要之提出於股東會之各種報告。其形式隨意可定。內容亦簡略。然按之銀行條例。後日必須另行詳細報告於監督官。故銀行將此詳細報告書。付印以頒呈股東。以表鄭重股東之意。乃常例也。此卽爲廣義之營業報告書 Business Report。

第三項 公告社會

股分有限組織之銀行。其公司之性質上。將營業之大要。當報告於公衆。中國公司條例第一百八十一條公司各項簿冊。經股東會承認後。由董事應將貸借對照表公告。此卽是也。按於日本之普通銀行條例。其組織不問股份有限與個人或無限公司。皆有此義務。卽第四條所謂銀行每半年。應製財產目錄。貸借對照表。而新聞紙上或以他方法。公告之云云。由此觀之。銀行之對於公衆所應發表者。爲此二種之報告。然財產目錄之內容詳細。不便於新聞紙廣告。而且財產目錄之概數。與貸借對照表之資產之部。相涉重複。因此簡略之。僅附揭損益處分案。以備登報公告。此爲彼國之常例。如欲知銀行資產之內容者。必須另索財產目錄。以行詳細點檢。而後明瞭也。

以上逐章所述。簿記者先於賬簿之組織及會計科目之擇定而始。然後日日分錄記賬。累作日計月計之諸表。以屆此結賬之期也。整理內外之會計。結束賬簿又接續開賬。處分其

結果所生之損益。最後綜合一切交易之進行變動。而明揭現在之資產負債狀態。以便報告之於監督官股東及公眾。首尾相應。條理井然。簿記之徑路。至此始告終結也。

第八章 雜種貨幣統一記賬法

普通之簿記法既已終結。於茲又有一當研究之問題發生焉。即中國現在貨幣制度尙未統一。各地各種銀兩不能一致。甚至同一地方亦有並行各種之貨幣者。則各地及外國商埠設有多數分行時。應用如何方法記賬。始能統一乎。卽此是也。

第一節 定價本位集中法

各地通用銀兩市價不定。計算複雜莫過於此。銀行既定以銀元爲本位幣。則對於各種銀兩。不得不一標準價值。以爲記賬之用。其法先定各種銀兩對於銀元一元之標準價值。如收入或付出銀兩時。則以標準價值折合於銀元之數。然後以實際日日之市價折合兩數相較。如生差額則作爲升水或耗水。以整理之。現在中國銀行定有各行通用銀兩折合本位幣定價表。茲特錄之如左。（此種標準價值之制定。本無一定之法則。銀行隨意用其近似之數可也。）

行名	銀兩名稱	本定價	行價		相等於幣	
			兩	錢分	元	分
北京	公碓	0	70	1	00	
上海	規元	0	74	1	00	
天津	行化	0	70	1	00	
營口	洋例	0	72	1	00	
南平	汴平	0	69	1	00	
長春	寬平	0	70	1	00	
營口	營平	0	70	1	00	
奉天	藩平	0	72	1	00	
濟南	濟平	0	69	1	00	
山西	庫平	0	67	1	00	
浙江	規平	0	74	1	00	
南京	陵平	0	70	1	00	
福建	台捧	0	77	1	00	
東三省	小洋	1	20	1	00	

例(一) 收入上海規元一千兩爲往來存款。

(註) 假定本日本市價七錢一分計算。應合本位幣一千四百零八元四角五分。但以定價七錢四分計算。則祇合一千三百五十一元三角五分。故記賬時應加入五十七元一角之升水也。

(普通分錄) (借方) 現銀 1,408.45

(貸方) 往來存款 1,351.35

升 水 57.10

此時應作收款傳票及銀兩兌換憑條如左

No.

收款傳票

(雜三)

民國 年 月 日	關 係 課	收 納 印	司 理 人 印						
			拾 萬	千	百	拾 圓	角 分 釐		
往 來 存 款 第 一 號	姓 某	名 甲		1	3	5	1	3	5
合 計				1	3	5	1	3	5

日記賬總目元賬必按定價記賬。即照收款傳票而記入也。
銀兩兌換憑條。即由出納課記入兩元兌換賬。如左。

年 月 日	摘要	收			入		兌			出		升		水		耗	
		種類	銀兩	銀元	本位幣	種類	銀元	本位幣	種類	銀元	本位幣	現兌	轉賬	兌現	轉賬		
	往來存款	710	1000	00	1408	45	契券	1351	35	1351	35	75	10				

往來存款元賬及存款清摺。備有元數兩數之二種。今即用兩數記賬而已。

例(二) 付出北京公砵一千兩為貸款。

(註) 假定本日市價六錢八分計算。應付本位幣一千四百七十元五角八分。而以定價七錢計算。祇合一千四百二十八元五角七分。故記賬時有四十二元〇一分之耗水也。

(普通分錄) (借方) 貸款 1428.57 (貸方) 現銀 1470.58
耗水 42.01

此時應作付款傳票及銀元兌換憑條如左。

第二編 銀行簿記法則 第八章 雜種貨幣統一記賬法

No.

付 款 傳 票

(雜三)

民 國 年 月 日	關 票	係 印	支 票	付 印	司 理 人 印				
					拾 萬	千	拾 圓	角 分 釐	
摘 要 款		姓		名					
第 二 號		某		乙	1	4	2	8	57
合 計					1	4	2	8	57

銀元兌換憑條

第 號 民國 年 月 日

摘要	收 入	金 額					行 市	付 出	金 額								
		種類	千	百	十	元			角	分	種類	千	百	十	兩	錢	分
貸 款	英洋			1	4	7	0	5	8	680							
合 計				1	4	7	0	5	8				1	0	0	0	—

營 業 主 任 出 納 主 任 關 係 股

第二編 銀行簿記法則 第八章 雜種貨幣統一記賬法 三百三十七

日記賬及總目元賬。必按定價記賬。卽照付款傳票而記入也。
 銀元兌換憑條。卽由出納課記入兩元兌換賬。如左。

年 月 日	摘要	收				入				兌		出		升		水		耗	
		行 市	種類	銀兩	銀元	本位幣	種類	銀兩	銀元	本位幣	現兌	零賬	現兌	零賬	現兌	零賬			
	貸收	680	英洋		1470 58	1470 58	公銀	1000 00		14281 57								42 01	

借據及貨款元賬貸款記入賬。卽用兩數記入而已。

第二節 各本位分立法

內地之雜種貨幣。用定價本位而統一記錄。實際交易。一一照日日之市價而換算收支。故其主要賬簿。卽令全國分行用同一本位。然而營業範圍及於國外。設有分行於世界各國之商埠。則將如何統一乎。是不特銀行業須費研究。卽無論何營業亦皆大費苦心。在外分行。Account of Foreign Branches 洵會計學上之一主要問題也。

各國貨幣制度有金銀本位之不同。其市價時有變更。在外分行欲改算每次交易。爲本位貨幣。殆不堪其繁。不若以各地之固有貨幣。爲該分行之本位貨幣。不問主要簿補助簿。概

據此記載。否則無他良策也。及至營業期末。由各分行據各該行之本位。呈送結賬表於總行。由是總行綜合之以作全行之結賬表。此綜合併算之際。各分行所用外國貨幣。又當如何改算乎。

第一 末日市價一律法

最簡明之方法。則以此分行結賬表上全部各項數字。概據該期營業末日之匯兌市價。由該地對於總行所在地之電匯市價。而改算之。其市價不可不採最公平之率。何則。其率雖不過增減分毫。然其額既鉅。損益數目上。即有數萬金之差。凡在各國重要商埠。皆由該地有力之銀行。每晨以匯兌市價表。 *Slip of exchange quotations* 公布之。即採用其表上電匯市價 *T. T. rate* 兌爲妥洽。在不公布電匯市價之地方。可就銀行詢知之。若用即期票匯市價 *Demand rate* 於理不合。不得已。則據兩地間之法定平價 *Mint par* 亦可。此方法之理由。(一)結賬之數目常可表示銀行一旦歇業則有如何之結果。夫既於各分行結賬表上。據其地貨幣以表明現在之資產。故欲以之如數變賣清償。向總行寄匯完結。當然祇用電匯。(二)不過改算結賬表之貸借兩方故。手續甚簡易。而可改作本國貨幣之結賬表也。

第二 原生市價混用法

前項之方法。乃分行所在地與總行所在地。均用銀幣本位或金幣本位。兩地之匯兌市價無大變動時則可。若銀幣國與金幣國之間。市價有激變時。頗有不合於理之處。例如總行在上海。分行在倫敦時。假定倫敦分行營業房屋建築費爲一萬磅當初第一期結賬之際。倫敦往上海之電匯市價爲二先令六辨士。(每規兩)總行以此 $10,000 \div 25.62 = 390,000$ 八萬兩。合併結賬。然在第二期結賬之際。銀價跌落。假定倫敦往上海之電匯。爲二先令一辨士。則換算價值 $10,000 \div 25.12 = 396,000$ 九萬六千兩。而全行之結賬報告上營業房屋。忽然有一萬六千兩之增價。豈不怪乎。

於是有謂分行之結賬表。宜視各會計科目之性質。而定可以應用之換算率。其理由如左。

(一) 固定資產 (Fixed Assets) 例如地基房屋器具等。各分行據當初購置時之市價。蓋此等物件爲該處永久所有。非可濫行出賣變價也。又依同一之理由該分行有定期存款等之長期債務時。仍由債務發生當時之匯兌市價換算。

(二) 流動資產及流動負債 (Floating Liabilities) 例如現銀存款貸款有價證券等) 可據營業末日即結賬日之匯兌市價。

蓋此種之資產負債。均爲不久可換現銀之性質。而現銀之價值。據最末日之電匯市價。尤爲正當。

(三)總分行間之匯兌關係。當初發生每次交易時自有實用之市價。Actual rates 卽分行記入該地之貨幣數。以爲其賬簿上總行科目之款數。而總行記入本國之貨幣數。以爲總行賬簿上之分行科目款數也。故分行結賬表上所有總行科目款數。毋須另行換算。卽以總行結賬表上所有分行科目之本國款數。交代換記可也。而全行併算之結果。此科目借貸相等。卽可消滅。前已述之矣。

(四)屬於損益之各科目。可據其期間之平均匯兌市價。Average rates 蓋探索每項損益發生時之市價。一一應用。雖最公平。然此亦不堪其繁。因是用全期間平均市價。稍近公平也。

(註) 以上所稱匯兌市價。除(三)之實際市價外。其他皆電匯市價之意也。

如斯因分行結賬表換算本國貨幣。混用種種之率。必致該分行結賬表貸方借方之會計。不相符合。暫以其差額爲外國匯兌損益 Profit or loss on Exchange 之科目。添加於會計數不足之方面。而使結賬表之貸借相平衡可也。

分行結賬表既換算本國貨幣後。宜綜合之以作全行結賬表。

今欲比較此二種方法。第二混用法雖似用意周到。可期會計之正確。然理論仍未允當。例如流動資產負債。應用結賬日之市價。則以前期之換算款數與本期之換算款數相比較。除實際價值之增減外。尙生有匯兌上之增減。恰如第一法固定資產負債之短處相同。况加算匯兌損益手續。又甚繁難乎。不如從第一法之理論。假定歇業清算而用全部結賬日之電匯。尙屬直截簡明也。

要之欲統一各地分立之本位貨幣。則以結賬日之電匯市價。一律換算各分行之結賬表爲佳。唯固定資產之諸科目初購置之際。假定爲總行之所有物。卽行轉賬。然則此種資產。不問匯兌變動與否。概以購置之市價。永久記賬於總行。此內國分行與外國分行會計上之區別者也。至其詳細。則當俟匯業銀行之特別研究而後可知也。

第二編 銀行簿記實踐

銀行簿記之理論及法則已知其梗概。今所欲研究者。即實地活用之技術練習是也。凡記賬計算。隨交易之進行而行之。不知交易之進行方法。焉能了會記賬之次序哉。茲先略說銀行業務之手續。然後揭簿記之例題。以爲實踐之資。

第一章 事務手續之大要

第一節 銀行之分課組織

凡處理事務。其性質簡單者。固可由一人處置之。然稍涉複雜頻繁之事務。非一人能力所及。勢必賴數人之協力。然多數人協同之弊。往往混雜遲緩。欲避此弊。須使分擔其職。爲秩序的聯絡之組織。是爲近世分業制度之特色。蓋用多數事務員後。始能組織整然。各員之責任以明。秩序不亂。如彼舊式商店。徒以多數夥友。陳列肆內。終日曠曠擾擾。究難處理近代之商務。故事務分掌法。及分課組織法。在文明各國之大公司內。無不苦心研究者。而銀行之事務複雜頻繁。於制定分課組織。尤覺關係痛切。

首應總轄銀行之內外事務者。爲支配人。或專務理事。而其在各分行時。即以分行長當其任。蓋不問其營業種類。規模大小之如何。其主腦必不可缺。

其次銀行之事務。有與顧客直接折衝之外部事務。有整理行中之內部事務之兩方面。前者稱曰營業部。後者曰總務部。此二者尤須區別。何則。前者爲營業當事者。動輒錯誤欺罔。而後者有監理之責者也。

營業部中。須決定區劃者。現錢出納之事務。與應接記賬之事務。應接記賬之中。又分存款與放款。不許兼攝。匯款事務。

亦應獨立。再總務部內保管文書物品。以及出納等之庶務。與全體之計算事務。亦宜區別。由是觀之。銀行之分課。雖最簡約者。亦必依左式組織之。

第一例

- 1、司理人(又專務理事)
 - 甲 營業部
 - 2、存款課。(總管一切存款之事)
 - 3、貸款課。(亦兼管貼現之事)
 - 4、匯款課。
 - 5、出納課。
 - 乙 總務部
 - 6、計算課。
 - 7、庶務課。
- 然實際營業上。如斯簡單者甚稀。今試舉二三普通之例如左。

第二例

凡現金出納。每日必有幾千元之收支。故雖用其全力。踴躍從事。亦難保無意外之錯誤。預防之途。首在區別收納與支付。且商業銀行。多以存款為主。其事務最忙。決非一課員所能堪。故必須再細分之爲數課。其放款亦有普通放款與貼現票據二種。至於匯款。有直接應接顧客之匯兌事務者。有通告他行或分行圖彼此往來。聯絡之事務者。若計算事務。有總括全行之主要賬目以計算者。所謂狹義之計算課。有以統計檢查爲主要者。他若庶務。亦可分爲二種。如保管文

書及有價證券（股票公債票等）與店內用品之購買保管下級僕役之監理等。其分課式如下。

1 司理人（又專務理事）

甲 營業部

2、往來存款課（又特別往來存款課。依銀行業務之多寡而定）

3、存款課（專掌其他之存款及信託事務）

4、貼現課

5、貸款課

6、匯兌課

7、他分行課

8、收納課

9、支付課

乙 總務部

10、調查課

11、計算課

12、文書課

13、用度課

或因有價證券為銀行放資之目的物。其關係視為重要。且放款往來過付時。作為擔保品。由顧客收存者亦不少。故特設一課。使管理已有及顧客寄存之證券。亦屢有之事也。即為

12 證券課

13 文書課

14 用度課

第三例

1、 司理人(日名支配人)
2、 副司理人(副支配人)

甲 營業部

- 3、 往來存款課(當座預金課)
4、 存款課(預金課)掌定期存款特別往來存款暫時存款及存款證書等之事務。
5、 貼現課(割引課)押匯及信用貼現之事務。
6、 附屬集款員(取立係)掌理本埠支付之票據滿期收款之事。
7、 貸款課(貸付課)
8、 匯兌課(爲替課)寄匯電匯代取票項等。
9、 他行分課(他支店課)整理匯兌課之事務。通信於他行或分行互相匯兌餘額之撥轉運用等。
10、 收納課(收納課)貨幣支票等應視作現銀者之收納及生金銀之收納。
11、 支付課(支拂課)同上物件支付及保管。
12、 附屬票據匯劃員(手形交換係)

乙 總務部

- 13、 調查課(調查課)分行業務之檢查。本行業務之統計。呈出於監督官廳報告書之調製。
14、 附屬顧客信用調查員(信用調查係)
15、 計算課(計算課)計算總款目及保存傳票類。

16、17、18、19、20、21、證券課。(證券課)公債票及他公司之股票債票等之賣買保管。
 附屬保護藏品員(保護預係)
 附屬抵押品員(擔保係)對於貸款及往來過付抵押品之收支保管。
 文牘課(文書係)與外部往來文牘之發受及保存。
 附屬股份員(株式係)關於本行股東之事務。即股票讓與更名紛失等。
 用度課(用度課)所有物什器賬簿等之保管購入。
 此等附屬員之所屬課。本非一定。如集款員。可屬諸往來存款課。亦可屬諸收納課。而保護藏品員。設諸存款課內。亦無不可。但期銀行事務之聯絡上。及節省勞力上。合乎宜而已。
 以上皆商業銀行之分課也。今試略就特殊銀行而觀察之。

第四例 儲蓄銀行

- 1、專務理事。(司理人)
- 2、儲蓄存款課。
- 3、特別往來存款課。
- 4、貸款課。
- 5、出納課。
- 6、計算及庶務課。

第五例 中央銀行 (日本銀行之現在分課)

- 1、總裁。

2、副總裁。

3、理事監事。

4、營業局。

貸出係(貸款課)

金預係(存款課)

爲替係(匯兌課)

地金係(生金銀課)

公債係(公債課)

5、出納局。

營業部收納係。

營業部支拂係。

中央金庫收納係。

中央金庫支拂係。

取立係(集款課)

查照係(檢査課)

6、發行局。

庶務係(總務課)

鑑査係(鑑査課)

保管係(保管課)

賬簿係(賬簿課)

7、國債局。

登錄係(註冊課)

支拂係。

應募係。

計算係。

9、8、國庫局。

文書局。

文書係。

用度係。

15、14、13、12、11、10、株式局(股份課)

調查局。

計算局。

外事部。

檢査部。

祕書室。

第六例 不動產抵押貸款銀行 (日本勸業銀行之現在分課)

2、1、總裁。

總務部(部長各理事分擔)

甲 主計課 總體之計算事務。

乙 調查課。統計外國事情及調查外國人信用。保管編纂文書事務。

丙 庶務課。用度事務。

3、 鑑定部。

甲 鑑定課。貸付擔保物及目的事業之調查事務。

乙 農工課。調查業經委託各府縣農工銀行之代理貸付事務。

4、 營業第一部。貸付事務。

5、 營業第二部。

甲 預金割引課。掌存款及貼現事務。

乙 發行課。專司勸業債券發行之事務。

丙 債券課。司勸業債券發行後發給利息抽籤賞彩及償還等事務。

6、 出納部。

甲 收支課。

乙 保護預課。司保護藏品事務。

第七例 外國匯兌銀行(橫濱正金銀行上海分行之現在分課)

1、 Manager 司理人 兼親掌匯兌豫約事務

2、 General office 營業部

甲 Import department, or Inward bill department (輸入課又名售匯課)

A. Draft & F. T. department (電匯及賣出匯票)

B. Inward draft department (由外國囑託之代收票款)

C. Remittance department (寄匯)

- 乙 Export department or Outward bill department (輸出課又名買匯課)
 - 丙 Deposit department (存款課)
 - A. Current account department (往來存款兼管外國貨幣賣買)
 - B. Deposit department (其餘種類之存款)
 - 丁 Loan & Discount department (貸款及貼現課)
 - 戊 Correspondents & Secretary (通信及信用調查課)
 - 3. Accountant 會計部
 - 甲 Issue department (紙幣發行課)
 - 乙 General affairs department (用度課)
 - 丙 Accounting department (計算課)
 - 4. Comptadore office (買辦室)
 - 甲 Counting shroff (現銀鑑別收支員)
 - 乙 Accountant or Book-keeper (計算記賬員)
- 此買辦室實為在上海外國商行之特有制度。係防中國貨幣之混淆。與中國商人信用之不安。保證經理之機關也。其屬事務員。全歸買辦隨意雇用之。細別如左。
- 1 寫賬人
 - 2 走街人
 - 3 管洋錢
 - 4 管現銀
 - 5 管鈔票
 - 6 學徒

第二節 事務分掌通則

依上銀行內部之分課。既整然就序。脈絡相通。然其事務尚有多端。當於後節。再為詳解。茲先研究事務之性質。且就其事之手續上。舉其通則如左。

一 凡關於銀行營業上之事務。為遵銀行章程(定款)辦事規則。(事務內規)或依董事局決議。總理司理人之指令而行之者。

二 各課員。若遭遇臨時異例之事件時。須一一經課長稟申於司理人。或專務理事。而受其指令。並不可於自己職務以外。濫行關與於他課員之事務。

三 凡有影響於銀行財產之交易。必首由其直接關係者。主此務者。或與之有關係之分課。稱曰主務課。發行傳票。知照司理人。及其有間接關係之各課。其各方面。皆須記入於相當之賬簿。最後使計算課行統一綜合之記賬。將銀行全部財產之狀況。得一目了然。

四 凡有影響於銀行權利義務之事項。各課俱須設相當之賬簿。以記入之。或於權利義務。無直接影響之事項。而有足資參考者。亦宜記錄之。其擔任課員。遇有患病告假等事。亦宜記入課。

五 凡事務須於當日辦畢。不許延滯。

六 凡作成傳票及其他證書之時。須將作成者之略印。蓋於用紙之一端。以明責任。記入於賬簿之時。亦宜擇每件適當之部分。蓋以畧印。

七 由主要課傳達於各關係課之時。其課員先須於相當之賬簿上。記入蓋印。然亦須蓋印於傳票上相當之部分。一以示其辦畢。一以表其責任也。

八 凡傳票證書。呈出於司理人。經其承認時。則應於傳票上。蓋以畧印。於證書上。蓋以可代表其職務之證印。

九 凡代表銀行者。或用股東之代表者。(即總理專務理事)或用使用人中有特別資格者(即司理人)須由銀行定之。例如與外部結契約書等。重大之書類。須由總理(又專務理事)及司理人兩者。簽名蓋印。若定期存款證書。存款證書。寄匯票據等。日常交易上之證書。得司理人簽名蓋印已足。

十 凡逐欲發行各種之證書課據等。須於其關係課。區別種類。附其號次。以便整理。

十一 凡應交付於顧客之證書票據賬簿等。皆須由其關係課交付。或由出納課。直接交付於顧客。

十二 凡在各課接洽辦事中。欲使顧客少待。須先交付以有號次之小牌。且將其號次。記諸傳票之一端。以便交付證書或現金時。為該交易顧客之證據。

十三 凡賬簿證書等。每日應於事務終了後。保管於所定之庫中。

十四 凡使用已畢之書類。傳票。賬簿。票據。條單等。應由關係課整理保存之。以備將來之參照。（或用度課保管之亦可。）

十五 凡因銀行印刷之各種用紙。不得濫行給與或用於他處。

十六 凡與顧客商議關於營業之事。必須在營業室內。禁在他處商議。

十七 在營業櫃臺內部。除銀行員之外。一概免入。

十八 凡賬簿傳票等。生有應行更改之事時。其主務課。應通知於各關係課。或有影響於財產之事項。須亟行作成傳票。呈送於司理人。

第三節 顧客須為之順序

第一、關於往來存款顧客之辦法

一、以現銀為往來存款時。須以銀額寫於往來存款簿上。與現銀一齊交於收納課。得收訖之印。後與存款簿共交於存款課。可也。

二、以本銀行應付之票據支票等為存款時。須記之於存款傳票。將該票及存款簿。併交於存款課。可也。又以此等票據支票及現銀一齊來存時。先以現銀交付收納課。得收訖印於存款票上之後。以此票據支票及存款簿。統交於存款課。可也。

三、以他銀行見票即付之票據支票為存款時。須與存現銀時同一辦法。

四、來取往來存款時。必須發出支票。如有願主欲將其應付之票據到期時。託銀行於自己往來存款中代為撥付時。

須豫向本銀行申明而定約。

五、請支付支票時。須作左之裏書。以之呈入存款課。得號牌。由支付課收現銀可也。
表書之銀額已領收無誤此證

年 月 日 某某 (簽押蓋印)

六、請作支票之保證者。須提出於存款課。得支付保證之檢印。

七、願主爲計算對照事。必須時時將存款簿帶往銀行。請記入支付金額於該簿上而不可忽。

第二、關於定期存款存款證書及寄匯票等願主之辦法

一、來存定期存款或存款證書時。須以其要件。記入於所備控白之請求書中。交於存款課。且領收該課所發之收款傳票。併現金總交於收納課可也。

二、未持來現金。僅以本銀行應付之票據支票來存時。則與請求書同交於存款課可也。又票據支票與現金併存時。則以票據支票請求書。交於存款課。而取轉賬傳票。以現金與此轉賬傳票。交於收納課可也。

三、欲提定期存款存款證書時。須作領收之裏書。交於存款課。得號牌後。由支付課收現金可也。

四、請寄寄匯票或請付時。就匯兌課而行前三項同樣之辦法可也。

第三、關於貼現票據時願主之辦法

一、請貼現票據者。須將票據交於貼現課。得其應允時。當作轉讓之裏書。以爲賣於銀行之證。

二、欲以貼現上淨收金爲往來存款時。則告知貼現課。並以存款簿交於存款課。如欲取現金。則得號牌後。由支付課收現可也。又欲以淨收金劃爲存款證書寄匯票等時。則須告知貼現課。且作請願書。然後由其主務課收票據可也。

第四、關於代收票款時願主之辦法

一、託代收票款時。須先作代收之裏書。交於代收課。而得收條。但有代收票款簿者。卽以之代用於收條。先與票據同

交於代收課。得其記入及印證於該簿中。

二、接票據收訖之通知後。前去收款時。須作領收之裏書於收條上。仍交於此課。得號牌。由支付課收現金。可也。若欲劃為定期存款等時。須告知此課。且交依賴書。然後由主務課得收據。可也。又欲劃為往來存款者。須以代收票據簿與往來存款簿同交於存款課。請劃款記入。可也。

第五、關於放款時願主之辦法

一、請貸款者須告知貸款課。得其應允。將借據及擔保品。交於此課。得號牌及擔保品收條。由支付課收現金。又若欲劃為往來存款。則先告知貸款課。交存款簿於存款課。可也。

二、欲還貸款時。須告知貸款課。得收款傳票并現金（或他行支票等）。交於收納課。又以本銀行應付之票據支票等充償還時。即以之交於貸款課。然後收回借據及擔保品。可也。

第六、關於公債票買賣兌換及保藏等時願主之辦法

- 一、欲買賣公債票者。須先告知公債課。（特設兌換課時）
- 一、欲兌換者。須告知支付課。（即為兌換課）
- 一、欲保藏者。須添作依賴書。交於保護課。而得收據。

第四節 銀行須為之手續

第一、收納課

- 一、由願主領收現金時。當本人面計算。令願主照合收款傳票之金額。若無差違。則將此現金。各從其類而納於各抽屜內。並交號牌於入款者。以相同之番號。記於傳票之一隅。且押自己之檢印。記入於收納賬之後。轉送於發票課。
- 二、收往來存款票與現金及他行票據支票時。須檢印於該票中金額之部分。以之交付於願主。令其送於存款課。
- 三、以他銀行之票據支票看做現金。收納時。既作票書。且呈示之於司理人。得其檢印後。隨後向支付銀行收款。可也。

但屬於票據匯劃同盟銀行者。則交於交換員。

四、當營業終結時。須計算當日收納之現金。對照收帳合計額。兩相符合後。將現金交與支付課。但現金宜各各類別加以適宜之封固。記其金額於其面上。押捺檢印。

第二、支付課

一、支付現金時。須視各課所發來之付款傳票或代之票據支票等。有無總理或司理人之檢印。若一一無差。則計算現金然後呼來人令取出號牌。且叩其金額若恰符合則交付之。但須蓋付訖印於傳票或票據支票上。而記入支付帳。後送於計算課。可也。

二、若無總理或司理人檢印之傳票。或代之票據支票等。則決不可支付現金。

三、匯兌時於傳票上認明其匯水。令以現金納於收納課。得收訖印之傳票後。始交付。記入於支付帳。蓋付訖印於傳票上。得司理人之檢印。送於計算課。可也。

四、由收納課收到當日之入款時。須確實計算。後記入於支付帳收款欄。

五、營業終時。合計支付帳之支付金額及收入欄。對照出納雙方。以核算殘額。再對照現金之實存數。符合時。則分現金之種類。各為封固。記其金額於其上。且捺檢印。然後以各種貨幣現存額。明記於現存幣數表。亦須押印於其數字上。

六、右辦法告畢後。請司理人檢查。且由司理人監督。保藏現金於金庫中。

七、當日入款額出款額及殘額。須便告於計算課。

第三、存款課

甲、往來存款

一、由願主收到存款票及存款簿。屬於現金存款者。須點檢存款票中有收訖之印否。點檢後。以之交於簿記員。使其記入往來存款元帳。簿記員捺記載之檢印。仍送回於主務者。

但存款之一部。若屬於過付償還者。則簿記員須捺「過付」之朱印。附記其金額。若又或全以之償還過付。則僅捺「過付」之朱印可也。

主務者依該傳票。將金額記於存款簿借方。檢印於該簿及存款票上。呈閱於司理人。受其檢印。然後將存款簿交於願主。存款票則送於計算課。

二、爲對照賬簿事。令願主攜來存款簿時。將元賬借方之金額（卽支付額）凡未記載於存款簿上者。記之於簿之貸方。捺檢印於其上。司理人蓋印後。交於願主可也。

三、本課須有願主印鑑簿支票之印章及筆跡。以便日後查照。

四、願主請付支票時。先宜精查該支票發出人之印鑑筆跡及裏書等。認明確後。以之交於簿記員。令調查往來存款元賬之殘額。然後交號牌於來人。使由支付課收現金。

五、簿記員以該支票對照元賬殘額足付。則卽記入元賬。且捺檢印於支票上。送還於主務者。但支票（面額中。若有關於過付時。且不踰過付之制限時）

則在支票之欄外。捺「過付」之朱印。且附記金額。又或金額爲過付時。則祇捺「過付」之印。

六、檢查支票。認爲正確者。則主務者須檢印於其上。並由司理人蓋印後。送於支付課。

七、有欲行往來存款。而攜來本行支票與存款簿存款票者。先依前項辦法。遂其檢查後。始交於簿記員。簿記員亦須照前項辦法。還於主務者。主務者綴付存款票於支票。記載其金額於存款簿借方。檢印後。呈示之於司理人。得其檢印。將存款簿交於來人。支票及存款票則送於計算課可也。

八、有以本行之存款票據或送金匯票等爲存款者時。須先將票據送於各主務課。各各檢印。至票據還來時。綴付之於存款票。交於簿記員。令其記入元賬。後記載於存款簿。呈閱於司理人。得其檢印。存款簿交於來人。票據及存款票則送於計算課。

九、有由他課檢查送回支票時。須爲第四項等相當之手續。且照第五項辦法還付之可也。

十、有攜來本行之支票託保證者。當行第四項以下辦法。後捺「支付保證」印於支票面。且製成劃款傳票。(減發出人之存款移於保證支票之賬目)統呈示於司理人更加檢印。以支票交還與來人。傳票則送於計算課。

十一、有因貼現及貸款等劃入於往來存款。而由各主務課送來傳票時。則交之於簿記員。令其記入元賬。然後記入存款簿。捺印後更由司理人檢印存款簿。直交於願主傳票交於計算課。

十二、因往來存戶託代收款而收訖後之傳票。須交於簿記員。令其記入於往來存款中。由存戶交出存款簿時。記入於借方。由司理人加檢印。還於存戶。傳票則送於計算課。

乙、定期存款

(一)由來人遞出願書後。認明收款傳票。檢印後交付。但照願書製成存款證書。而待收納課送來之收款傳票。與願書同交於簿記員。令其記賬。賬簿及證書檢印後。將證書及傳票夾入賬簿中。呈閱於司理人各蓋印。司理人加印後。證書交於存戶。傳票送於計算課。願書留置於座右。

但交付證書時。先於願書中。請存戶蓋印。或別取印鑑。貼於願書。以備支付時照查之用。

(二)有以本行票據請轉賬於定期存款者。與願書一併遞出時。先送於關係課。以便檢查。作轉賬傳票及證書。待票據交回後。將願書交於簿記員。使記錄。且依前項手續。由司理人蓋印後。證書交於存戶。傳票票據復送於各主務課。願書則留置於已處。

(三)有攜來證書而請支付者。令其於證書裏面。書明受取之旨。交與號牌。將收領人之印形。對照願書之印鑑。且查其要件無相歧時。精算利息。認明付款傳票。連結之於證書。記賬後。呈閱於司理人請蓋印。以證書代用付款傳票。與利息傳票。統交於支付課。付訖之證書。經由計算課還來時。須以之貼於該證書之願書上。

(四)有屆期日而欲改期者。令將證書與新願書一齊交出。依前項手續。檢查之。且作轉賬傳票。與證書合交於簿記員。使記賬。然後以新舊證書與傳票夾入賬簿內。呈閱於司理人。請蓋印。又或支付利息時。另添作付款傳票。檢印後。送回於支付課。以號牌交於存戶。使由支付課收現金可也。

丙、款票據其他各種存款之手續。大概與上述定期存款時同。

第四貼現課

(一)來請貼現者交出票據時。須先檢查其票據之發票人支付人及裏書人之姓名住所。並視其票據合法與否。印花稅當否。期限長短等事。果滴於貼現。則呈閱於司理人。請核奪。

(二)司理人允為貼現時。請來人行轉讓之裏書。計算貼現費。以其願書與號牌交與依賴人。令赴支付課。即時製成轉賬傳票。交於簿記員記賬。且順次記入貼現之號數於票據中。復將票據與傳票。呈閱於司理人。傳票上有檢印後轉送之於支付課。留置其票據於已處。

(三)有欲將票據貼現之淨收金請轉賬於往來存款或匯兌者。即令伊填寫願書。交號牌於依賴人。令其往關係課。後填轉賬傳票。與願書連綴一齊。行前項之手續。送於關係課。

(四)已貼現後之票據。按其支付期日之前後。整理保存之於票據匣中。到期時。交於代收款課收款。但外埠支付之票據當於期目前。裏書其託收款事於其上。添備送票據信。由司理人署名檢印。交於他分行課。可也。

(五)本埠票據代收後。由代收款課送來有檢印之收款傳票時。將傳票交於簿記員。使記賬檢印後。送於計算課。

(六)外埠支付票據代收時。須就他分行課送來之轉賬傳票。記入賬簿。檢印後。送於計算課。

(七)為擔保證支付票據之貼現時。須以擔保品交於擔保品課。其關係詳於後之貸款手續中。此際照行同樣手續。可也。

(八)有欲押匯者來時。先將其商品之種類數量價格等。報告於司理人。派出事務員查閱其品質數量等。認明確實。得司理人之許諾時。即託有信用之運送業者。裝出商品。令來人交出提單保險單並押匯副書匯票等件。後行第二項以下之手續。

第五代收款課

(一)對於往來存戶中有欲託代收巨額之款者。預先交與代收票據簿。日後來託代收定期支付或外埠支付等票

款時令其出票簿。蓋檢印於其上。後將票據夾入於其中。呈閱於司理人。得其檢印於簿面。次還簿於來人。票據則於記賬後。留置之。

(二)對於無代收票據簿。而僅攜來票據託代收者。即時作存據。蓋印於其上。與票據同呈閱於司理人。司理人蓋印後。交存據於依賴人。隨時照票據記賬。後保管之。

(三)凡寄存之票據。及由他分行課等。託代收款之票據。皆以之登記於期日賬。未呈驗於支付人者。須呈呈。宜各為類別。依番號或支付期日之順序。整理保存之。於票據匣中。但外埠支付之票據。當別為各地。添作票據送達狀。裏書後。經司理人之押印。交於他分行課轉送可也。

(四)到期日代收款時。先為裏書。呈示於司理人。得其署名後。派事務員收款。但在匯劃同盟銀行而支付者。則交於匯劃課。

(五)票款代收訖後。有為存款者。則作存款傳票。加現金於此傳票中。送於收納課。得收訖印。後呈示於司理人。亦加檢印。次交於簿記員。而記代收訖賬。然後送於存款課。且通知於依賴人。

但由往來存戶所託之票據。則為往來存款之收入。若出於託貼現者。則為貼現票據之收款。認明傳票。行本文。同樣之手續。送存款課或貼現課。

(六)有為支付票據。而受取本行之票據時。則製成轉賬傳票。連票送於各關係課。且須如前項記賬及通知之手續。(七)由他分行委託而代收票款時。則以其銀行科目作收款傳票。且認明其收訖票據之通知書。同呈示於司理人。受其檢印後。送於他分行課。可也。

(八)得他分行課收訖票款之轉賬傳票時。記賬檢印後。送於存款課。照第五項末段之手續而行。

(九)託代收款者。請求代金時。當令其於前次所交之存據上行裏書。相與交換。此際先交與號牌。令往支付課。後作付款傳票。(若取手續費時)記賬後。得存款及司理人之檢印。送於支付課。又存據塗消後。貼於願書中。可也。但須使往來存戶交出往來簿於存款課。

(十)有欲以票款轉賬於存款票據或匯票者時。須行貼現手續第三項之例。
第六、貸款課及抵押品課

(一)有請貸款者時。宜詳細問其期限。證人抵押品等要件。與司理人商量。司理人承諾後。則交以借據及擔保品之用紙。(委任狀承 諸證書等)使其記入可也。

(二)遞出右書類及擔保品時。審查其認方印紙貼用之當否。印鑑之正否等。認明為無不恰合時。則交以號牌。使其往支付課。後作支付傳票與證書。共交於簿記員而記賬。且令記番號於證書上。至擔保品并附屬書類。則與證書傳票共交付於擔保課。令製成擔保品寄存證書。與借用金證書并傳票一齊呈示於司理人。受其調印。司理人檢閱調印後。傳票送於支付課。寄存證書則依番號之順序。整理保管之。

(三)有以借用金更望轉賬於他項賬目者時。則照行貼現課手續第三項之例。擔保品課依擔保品寄存證書之原符與擔保品之現物。記於賬簿。擔保品須適宜整理保管之。

(四)到期日。還來貸款時。即依賬計算利息。認明原本與利息之收款傳票。交於借主。次須稟書於證書。但由收納課送來收款票時。則以之與證書共呈示於司理人。受其調印。將證書還於借主。收款款則交於簿記員而記賬。後移交於計算課。

由借主遞出擔保品寄存證書時。以之與借據傳票等。呈示於司理人。得其檢印。與之交換。擔保品還於借主。擔保品課記賬後。消除寄存證書中之印。貼於其證書之願書中。

(五)到期日。而有請延期者。則以其旨告知司理人。得許諾後。令其交出延期證書。由司理人檢印。交於簿記員記賬。若受取利息。則認其收款票交於借主。別製成利息受取證。待由收納課送來收款傳票時。令簿記員記賬。然後以受取證與傳票呈示於司理人。得其調印後。受取證交於借主。傳票則送於計算課。又延期證書則連綴於本證書而保管之。

(六)有欲以本行之票據而充還款者時。作轉賬傳票。連票據而送於各關係課。得其檢印後。須履行第四項之手續。

第七、匯兌課

(一) 受領依賴人之告知書。則點收原金并手續費。檢印。交於依賴人。依告知書而作票據。(匯票或支票)待由收納課送來收款傳票時。則以之與告知書同交於簿記員記賬。票據與傳票呈核於司理人。受其署名檢印後。以票據交於依賴人。傳票則送於他分行課。告知書則保存之。但攝來本行應付之票據時。祇作轉賬傳票。不經由收納課。

(二) 有以支付票據(匯票或支票)而來呈示者。須精細檢查票據之正否及裏書等。受取時。交號牌於來人。使往支付課。令其對照支付票據而記賬。且捺印於票據上。呈核於司理人。得其檢印。後轉送於支付課。但付訖之票據。經計算方面而送回者。須整理保存之。

(三) 受領電匯之告知書時。須點收手續費電報費及原金之收款傳票等。交於依次作。電匯款受取證書。由收納課送來收訖傳票時。則同呈示於司理人。得其調印。證書交於依賴人。傳票則送於他分行課。

但電信由司理人用暗號而發送之。

(四) 有請求電匯款之支付時。先使其遞出匯款者之電信。閱覽後。與司理人所接到同盟銀行之通知。兩相對照。若無差違。則交受取書用紙於請求者。令其記入調印。交與號牌。後作成。付款傳票。使簿記員記賬。得司理人之檢印。送於支付課。

但受取人若非平日之願主時。須令其覓相當之保證人。

(五) 依所記之賬。作送款通知書及付訖通知書。經司理人檢印。送於他分行課。

(六) 由他分行課轉來分行或他行發出之送款通知書。傳票并付訖送款之通知書時。使簿記員記賬。各為檢印。傳票送於計算課。通知書則送於他分行課。

第八、他分行課

(一) 由匯兌課受取送款通知書及送金課付訖通知書。又由收款課受取票據送達狀及票款代收訖通知書時。以之登記於他行或分行元賬。後發送書信。

(二) 應顧主之依賴既支付之他分行存款票據或支票等類。由其課員送來時。須登記元賬。又記入借方。而向他分行爲報知之手續。

(三) 由他分行受取諸種之報知狀時。登記他行或分行元賬中。又需用之送金通知書票款代收訖之通知書及計算書中雜賬目等之轉賬傳票均宜製成。與通知書同呈示於司理人。得其檢印。後速通知書而送於關係課。

(四) 有由他分行送來代收款之票據時。記賬後。與票據送達狀。共送於代款課。

(五) 依每日或每週間顧主交易之多寡。製成貸借賬目書。送於他分行。

(六) 由他分行受取賬目書時。每項須照合。若有差異之點。則須詳細考查。行訂正之手續。或以訂正事告知於前途。

第九、股票課

(一) 最初發股票時。先爲相當之記入。與股票原賬蓋騎縫印。以之交於股東。令其交出交股款之收條。對照賬簿。與之交換。但收條塗印後。仍須順次連綴而保存之。

(二) 有請改換股票名義者時。使其遞出買賣雙方所有記名調印之買賣證書及裏書之股票。以股票對照於賬。又以賣主之印照合股東印鑑簿。且依股票原賬。調查賣主之殘高。如無差違。則以年月日記入於股票之裏面。與買賣證書同呈示於總理司理人。各各其署名。將股票交於買主。依證書而記賬。並保存其證書。但買主若素非股東。則須取其印鑑。又領收手續費。作收款票。檢印後。連現金而使送於收納課。

(三) 半年分紅金額確定時。即製成請領分紅之紙單。分交於股東。又依股份總賬。算出各股東應得之分紅額。以之登記於分紅賬。

(四) 股東遞來請領分紅紙單。而記名調印時。交與號牌。使其往支付課。然後以其金額對照分紅賬。而記付訖之賬。又以其印對合於印鑑簿。後爲之檢印。呈示於司理人。司理人加印。次代用於付款傳票。送於支付課。

第十、票據匯劃課

(一) 若由收納課及代收款課受領其對於同盟銀行之票據時。則依其銀行名各爲分類。登記於匯劃票據提出賬。

及匯劃對照賬。每張裏書以爲領款之證。而記入其金額及張數於匯劃表。記載該表之合計金額於匯劃差額表之貸方。檢印後。與現品同呈示於司理人。各受其調印。後攜至匯劃所。匯劃可也。

(二)由匯劃所攜回本行名下之票據時。即登記於對照賬。將票據速送於各主務課。以便檢閱。後與表共示於司理人。受其檢印。送於支付課。使記入於支付賬。

(參攷)於中央銀行之存款中。撥收匯劃殘額。或由此撥付時。則將中央銀行發來之匯劃殘額轉賬已訖之報告書。請司理人檢印。次送於收納課。或支付課。令其記賬。

(三)同盟以外之小銀行亦預先於契約發表之後。委託同盟銀行代理匯劃。此時提出銀行與代理收回銀行之關係。恰與該代理銀行直接應付之票據無異。又代理大銀行與應付小銀行之關係。恰與往來存款收支相同。

第十一 保護寄品課

(一)有以證券或貴金屬託代保管而具願書來本行者時。先作手續費之收款傳票。使交款於收納課。此際另作寄存證書及手續費之受取證書。登記於賬。待由收納課遞來收訖傳票時。呈閱於司理人。受其捺印。證書與受取書交於存主保管品。則須保藏於金庫中。

但當交付證書時。證書之原符中可請存主蓋印。否則另取印鑑亦可。

(二)有欲收回其保管品者時。令其於寄存證書之背面。記明收訖後。收其證書及捺印。對照記入賬。并原符。若無訛。則檢印後。呈閱於司理人。受其檢印。次由金庫中取出保管品。交於存主。塗抹其證書上之印。貼置於原符中。可也。

第十二 計算課

(一)有由各課送來代用各種之傳票及傳票之票據時。檢點其經由各關係課與否。其須登錄於本課保管之記入賬者。各爲記入。然後將傳票適宜分類。置之可也。

(二)得營業終結之報告時。須依前項之傳票。爲日記賬之記入。但由各課送來之對算表。須兩相參照。若符合則總結之。

(三)日記賬之記入告終。則轉記於總目元賬。然後製成日記表。檢印後呈閱於司理人。

(四)凡爲賬簿記入之材料之傳票等類。日須總括之。記其年月日保存於庫中。以上爲銀行事務管理者之標準。唯實際上各銀行之辦法。不免相差。茲將相異之要點。記載於左。

一 貸款貼現押匯等之請願不經課員手。而由司理人直接受之。定其許諾與否。其承諾之部分。則交由課員行其手續者有之。

一 付款傳票及代用於付款傳票之票據等類。在主務課及司理人檢印之後。直接交於顯主。令其以此向支付課受取現金者有之。

一 支付現金時對於支付課而作支付書。由司理人檢印後。交於顯主。使之向支付課受取現金。或於往來存款時。可以備與現金同樣存入之用者有之。

一 有以本銀行名下之票據存入於往來存款者時。使直接送於收納課。收納課認爲正確。則待主務課之檢查後。視若現金而同樣受入。然後送於主務課。故往來存款無論爲支票與他票據。皆與存款簿同歸於收納課。由存款課交出存簿於存戶者有之。

一 有請支付其往來支票及憑票式票據者時。令其直接遞於支付課。課長認爲正常。則不必經由主務課而可自行支付。然後將票據送於主務課者有之。

但此際支付課長。必須先能識顯主之筆跡印鑑。及往來存戶之形狀等至要事也。

此外細微之手續。有由各銀行之習慣。依各銀行之意思而定者。其要端不外乎力避危險。而期於迅速處理事務之法耳。

第二章 簿記實踐之通則

一般簿記之實踐上必點之事項。爲正確 accuracy 明瞭 legibility 清潔 neatness 及敏速

speed 學者勿以其爲細微而忽之也。

第一 記賬上之注意

一、凡記賬均行藍或黑墨水而不許用鉛筆。有時要複寫時則用特別墨水 Copying ink 及複寫鉛筆 Copying pencil

二、原來不應記載之數。則用紅墨水。例如平衡貸借而便結束。又特別注意之處。以紅墨水記入之。然銀行事務繁忙。藍紅墨水交雜使用。殊多不便。故除結賬外平時之賬概以藍水記之可也。

三、凡單橫線所以表明。將以上各數加或減之意。雙橫線表示完結之意。又雙豎線係表明款數欄之區劃。至其他摘要。月日等欄之區劃。則用單豎線足矣。

四、記款數數量等。於一千、一百萬、十億、等位。宜加以小點。

五、本位以下零數之記賬法。

凡賬簿上款數欄以外。如摘要欄等。所記款項有零數時。其零數須寫小字。並須在數字之下。劃一橫線。例如 1,056.78

凡款數欄內所記款項有零數時。其零數無須寫小。亦無須在數字下一劃橫線。但須注

寫上頁滾存 Brought forward。

第二 計算上之注意

- 一、計算時必須反覆。以求正確。如作試算表時。先反覆計算借方總計。然後計算貸方一次。卽或此數與借方總計符合。仍反覆計算再次。始見其數正確。
- 二、算盤東方特有之器具也。最宜熟習。
- 三、款數符合困難時。可暫時休憩。定神思索。或請同事行員代算亦可。
- 四、計算正確而總計不相符合。可檢查其誤如下。(一)其差數如借貸之一方面。則非其數之一項記錄脫漏。卽爲數字重複。(二)其差數以二除之。如與借貸之一方面。則爲其數字有借貸反對記入之數。(三)其差數如九、或九五倍數。多由於單位之誤記。(四)如其誤謬非由以上原因發生。則非對照全部記錄不可。
- 五、數目雖屬分毫。不可任意加減改竄。

第三章 商業銀行第一期營業例題

商業銀行 Commercial banks 或曰普通銀行 Ordinary banks 或稱存款銀行 Banks of deposit 所以圖商家之便益。而以存款爲運用資金之大宗。以貼現票據爲放資之根本者。

也。故收支往來存款之事最繁。貼現次之。至於匯兌。銀行中雖無營利之効。然期補助商業。則經理上尤須敏捷。故與外埠分行或他行之通信往來。亦極複雜。其對客家也。以靈活精密爲宗旨。其經營之要綱。以防資金固定呆藏之弊。

本例題之組織。如左。

- 一、爲股份有限組織之銀行。其分行有二。並有往來匯兌之銀行兩處。
- 二、貨幣以銀元爲本位。補助幣小洋銅元等。日日有行市。惟英洋與龍洋均爲同等之大洋。無彼此之差。

- 三、每例題宜須研究辦事之手續。例如當初應當由何課作成傳票。而記入何種賬簿。嗣後轉致何課記何種賬簿。又司理人檢閱之後。交於出納課付現而記何種賬簿等。
- 四、本例題所用會計科目。以第一章中之第一範例爲式。但關於損益之科目。以第二範式爲式。則不妨也。

- 五、本例題假定內部分課及各課應用之賬簿如左。

另須預備
轉帳傳票七十張
收款傳票三十張
付款傳票四十張

司理人

司掌
收款滿期賬二十日份
付款滿期賬二十日份
存出款原賬一頁

存款課	往來存款原賬六頁。特別往來存款原賬二頁。定期存款記入賬一頁。 存款證書記入賬一頁。臨時存款記入賬一頁。
貸款課	貸款記入賬一頁。 貸款原賬八頁。
貼現課	本埠貼現票據記入賬一頁。外埠貼現票據記入賬二頁。 貼現原賬八頁。押匯記入賬二頁。 本埠代收票據記入賬一頁。外埠代收票據記入賬二頁。 應付來匯記入賬一頁。寄匯記入賬一頁。
匯兌課	他分行轉來託收票據記入賬四百頁。他分行往款暫記原賬四頁。 他分行來款暫記原賬四百頁。他分行往款原賬四頁。
庶務課	股票原賬三頁。股東元賬三頁。股票轉讓記入賬一頁。 寄品保護記入賬一頁。有價證券原賬一頁。抵押品寄存者原賬八頁。
出納課	收納賬八頁。支付賬八頁。現存貨幣明細賬六頁。 匯劃票據提出賬一頁。匯劃對照賬四頁。
計算課	日記賬二十四頁。總目原賬六十頁。月計表十二頁。

上海商業銀行第一期營業日誌

民國三年三月二十五日

(二)本日股東十名(如左)會議。創辦手續完結。而股份有限上海商業銀行(總股本五十萬元每股百元第一次繳其一半)於以成立。遂註冊於該管官廳。

認一千股 十萬元 袁聯清(職業住址隨意由學者定之可也)

認九百股 九萬元 陳鳳森

認八百股 八萬元 吳藍田

認七百股 七萬元 張和生

認六百股 六萬元 洪念祖

認五百股 五萬元 宋雲生

認二百五十股 二萬五千元 馮侶夏

認二百股 二萬元 秦佐庭

認三十股 三千元 翁靜波

認二十股 二千元 王錫山

(註)股票及股東之數甚多。練習上難堪一一列記。故將股票三張(第一號、第二千零一號及第四千零一號)及股東三名(袁聯清、吳藍田及宋雲生)記入於股票原賬及股東原賬。餘可類推也。

(二)同日由創辦人袁聯清承繼之會計。如左。

第一部 金錢會計

收二萬五千元 認股保證金(每股五元計五千股)

收二十二萬五千元 第一次繳納股銀(每股照額面繳一半但須扣除已繳之保證金)

收五百元 中國銀行存款利息

計收二十五萬五百元正

支二千元

細分百五十元

百四十五元

二百五十元三角五分

三百五十元二角八分

四百二十元三角七分

三百十五元

百元

三十八元四角

百二十五元

百零五元六角

支八千元

支二十四萬五百元

計支二十五萬五百元正

第二部 物品會計

各種器具賬簿單據等（此會計雖為銀行經營上所必需然練習簿記時毫無關係於簿記法則徒增煩累故省略之）

（三）中國銀行之上海分行內所有往來存款本係創辦事務所之名義。茲由本日改正之。仍如數續存。日利每一千元八分（即年利二釐九毫二）

民國三年四月一日

- 創辦費
- 創辦事務所房租
- 事務所使用人薪金
- 創辦用賬簿單據圖章等費
- 通信費
- 事務所用器具及消耗品
- 創辦招股廣告費
- 法律顧問謝儀
- 創辦人會議費
- 請客商議費
- 車馬費
- 預付久宏工程公司為營業房屋包價之一部
- 向中國銀行存出款

(參攷)本日洋市英洋每元一千二百四十文小洋每角一百十文

(一)本行建築工竣一切準備完全。本日在上海寧波路開張營業。

(二)發出中國銀行應付支票第一號計四萬五百元直向該行由存出款中提取之。以爲本行營業日常資金。(收紙幣三萬五千元大洋五千三百元小洋百元銅元百元)

(三)王舒卿來索營業用地基(一畝二分半每畝二千元)之代價。即付以中國銀行應付支票第二號。

(四)出中國銀行應付支票第三號與久宏工程公司。付清營業用房屋包工銀之餘款四千元。

(五)購置營業用器具如左。

一、保險箱二具、打字機一台、共計五百元。支付滬華洋行。(支付紙幣四百元大洋百元)

二、書桌籐架椅子等件計三百元。支付唐森木號。支付紙幣二百元大洋百元)

(六)本日開辦。所有裝飾費請客費等計五百元。支付於三星洋行。(紙幣五百元)

(七)由股票經紀林蓮生處買進無記名年利六釐民國三年公債票額面六萬元。買價每額面百元實繳八十八元。號數自亥字百零一號起至七百號止。付出中國銀行應付支票第四號。

(八)預付庶務課百五十元爲本月份零費之支付資金(支付大洋一百元小洋四十五元銅幣五元)

民國三年四月十五日

(參攷)本日洋市英洋每元一千二百三十文小洋每角一百十文

(一)暫定存款利率如左

一、特別往來存款……………日利一角三分(即年利四釐七毫半)

二、往來存款……………日利一角(即年利三釐六毫半)

三、定期存款……………三個月以上者年利五釐五毫

第三編 銀行簿記實踐

第三章 商業銀行第一期營業例題

三百七十三

六個月以上者年利六釐

一年以上者年利六釐五毫

(註)所謂日利者。對於每一千元每日幾角幾分之謂也。有時對於每百元而稱日幾分幾文。今用前例。貼現率亦做此。

(二)與上海中國銀行結往來過用契約。約期限一年。過用制限三萬元。過用日利一角五分。交出無記名過息六釐民國三年公債票(額面三萬五千元)為預存之抵押品。

(三)與元豐號結往來存款契約。收其存款五千元(全收紙幣)。交付存款簿C 1。及支票簿(支票號次一號乃至五十號)。

(四)收周曉峯定期存款六千元(全收紙幣)。期限六個月。給與證書號數為F 1。

(五)貸與上海電燈公司五萬元。年利一分(10%)。償還期日為五月十五日。無抵押品。其交易號數為L 1。付以中國銀行應付支票第五號。

(六)與魏富昌結往來及過付之契約。先收存款一萬元(以上海中國銀行應付支票五張)給與存款簿C 2及支票簿(支票號次五十一號乃至一百號)。

契約期限一年。過付限數一萬元。過付日利二角五分。預存抵押津浦鐵路股票百四十股(每股百元時價九十元)。

(七)因總理袁聯清因事須他往。預付百五十元。交付紙幣一百四十八元小洋及銅元計二元。

(八)穆榮之來託代收票款。持來期票如左。交易號數為本 1。
本埠盛雨耕三月十五日發出第六號四月三十日滿期額面二千五百元
支付處本埠漢口路支付人營業所。不收代收費。

(九)曾收中國銀行應付支票五張計一萬元。茲送於該行加入往來存款。

- (十) 貸與謝敏甫款六千三百二十元。支付紙幣六千元大洋三百二十元。交易號數爲L₂。保證人田舜章。抵押品上海自來水公司股票百二十股每股額面五十元。時價七十五元。日利二角八分。償還期爲五月三十一日。
- (十一) 收萬建生北洋圓二千二百元。發出存款證書第一號。但額面改算於英洋。付還貨幣。聽本行用何種類。有此條件。(今日洋市北洋百元合英洋九十六元)
- (十二) 支上海電燈公司電燈裝置費三十元。(現洋)
- (十三) 收李廉川特別往來存款五十元。存款簿號數爲P₁(全收大洋)
- (十四) 由出納課派人向直隸銀行之上海分行兌換前收之北洋(收大洋但元以下用小洋)
- (十五) 兌換告畢後。該員攜回英洋。始知貼水三釐半(百分之三半)
- (十六) 本日出納課結算後計算洋市之損益。

民國三年四月二十日

- (參攷) 本日洋市英洋每元一千二百二十文小洋每角一百十文
- (一) 支本行職員課員等本月份薪水合計三百五十元(全付大洋)
- (二) 支上海德律風公司裝電話費十五元(付大洋)
- (三) 收祝光熙特別往來存款三千元存款簿號次爲P₂
(其中二千五百元爲紙幣又大洋四百九十元小洋及銅元共十元)
- (四) 孔禮廷攜來魏富昌發出之支票第五十一號額面五百元即照付現幣(紙幣四百元大洋百元)
- (五) 本日加盟於滬市銀行公所附設票據匯劃所寄存週息六釐民國三年公債票額面一萬元以爲擔保品
- (六) 本埠代收票據第一號今已滿期即到支付人盛雨耕處索取現銀(全爲紙幣)並通知此依託人穆榮之

(七) 德大號攜來左之期票請貼現(交易號次本貼1)

四月一日日本埠劉杏林發出第五號五月十五日滿期 額面二萬三千二百五十元扣息日利二角八分

又結往來存款契約存入此淨收款中之二萬元餘付出現銀(其中三千一百元為紙幣四十五元為大洋八角四分為小洋及銅元) 對此給與存款簿第C3號及支票簿(支票號次百零一號乃至百五十號)

(八) 接袁聯清報告謂設立蘇州分行之準備已齊因發出中國銀行應付之支票第六號三萬元先赴該行請保證後加橫線寄至蘇州分行以為其營業基金

將來總分行間往來匯兌之條件如下

彼此過付過用之限數六萬元過付利息日利九分過用利息日利二角九分

(九) 因加盟於匯劃所出納課事務甚繁特雇用何濶生一人照本行規則收其押櫃銀五百元(全紙幣)但照定期存款一年期限之利率而起利

(十) 貸與顧柱文三萬六千元(交易號次L3)其中二萬元為存款證書第二號餘付現銀(全為紙幣)

保證人為王世民日利三角二分六月十五日滿期抵押品為興華殖業銀行債票二百五十張(每張額面一百元時價九十二元)及招商輪船公司股票二百張(每股額面一百元時價九十五元)

(十一) 元豐號攜來左之匯票請代收票款(交易號次代票上蘇1)茲寄與蘇州分行使轉收之

三月十八日上海楊菊生發出第三十八號五月十八日滿期蘇州延昌繅絲廠應付者額面三千六百四十五元二角(代收費三角)

(十二) 與股份有限公司直隸銀行之天津總行結往來匯兌之契約

貸借限數彼此皆五萬元期限一年殘額利息彼此均日利二角

(十三) 朱德明攜來本行發出之存款證書第一號茲付現銀(全照額面付出紙幣)

(十四) 元豐號發出支票第一號六百九十元來請保證支付

(十五) 戚延華欲寄匯一千五百元至天津交與俞燕臣查收茲本行給以匯票(上天1號)另收匯費三角如此收納現銀後(全紙幣匯費用小洋收納即通知天津之直隸銀行)

(十六) 庶務課報告本月份支付之零用如左

通信費	三十四元五角六分	(另有細賬)
紙墨筆費	十二元三角	(同上)
事務零用	十三元四角五分	(同上)
圖書費	十六元八角五分	(同上)
水及燈油煤炭費	二十一元八角三分	(同上)
消耗品費	九元六角七分	(同上)
調查及團體費	十八元	(同上)

以上合計一百二十六元六角六分照數墊補其缺(大洋百元小洋二十元銅幣六元六角六分)以供預備下月之用

(十七) 本日出納課結算後計算洋市之損益

民國二年五月十五日

(參考) 本日洋市英洋每元十一角三分小洋每角十一分

(二) 股份有限公司漢口實業銀行結往來匯兌之契約

契約期間一年 彼此過期限數三萬元 過付限數四萬元

過付利息 日利八分 過用利息 日利三角

(三) 收元豐號往來存款如左 C 1

1、現銀八千二百六十元(紙幣八千二百元大洋六十元)

2、魏富昌發出支票第五十二號二千六百十五元

(三)支祝光熙特別往來存款三百二十元(紙幣三百元洋二十元) P 2

(四)本行收訖代收票據之通知書由穆榮之攜來茲付現銀(全部紙幣)

(五)接到蘇州分行左之報告

1、五月三日回單 中國銀行保證支票已照收訖備為營業基金

2、五月七日知單 發來寄匯

寄款人鄧燕山 收款人鄧朗卿

匯票號次蘇上一號 額面六千元

(六)接袁聯清報告謂設立杭州分行之準備已齊。因發出中國銀行應付之支票。第七號二萬元。先赴該行請保證後。加橫線。寄至杭州分行。以為其營業基金。將來總分行間匯兌往來之條件。與蘇州分行相同。

(七)營業房屋保火險契約期間一年 保險金額一萬四千元此保險費(額面之二千分之五)以現銀付與華安保險公司(全大洋)

(八)收數其簽定期存款三萬元(全紙幣)期限三個月給予證書號次F 2號

(九)源成號來請貼現左之匯票 交易號上杭1號 直寄至杭州分行使轉收貼現率日利三角 發出人恆泰號 支付人和祥號

匯票號次第八十二號 額面三萬二千五百元 四月二十八日發出六月十五日滿期

右淨收金中一萬五千元是給以中國銀行應付支票第八號餘付現銀

(十)本埠貼現票據第一號期滿由支付人劉杏林處收納如下

1 同人發出本埠殖邊銀行應付支票第六百二十二號金額二萬元

2、其餘 現銀

(十一)接到天津直隸銀行左之報告

1、五月三日回單 寄匯上天一號 已照付訖

2、五月十一日知單 來託代收票款(交易號次天上一號)

四月二十五日正大號發出匯票第三號金額二千五百元

五月三十日滿期應付人本埠信大號係彼地瑞大號之來託

(十二)將民國三年週息六釐公債票額而一萬五千元轉賣與袁景齋 售價每額面一百元值九十一元五角(全收紙幣)

(十三)上海電燈公司之貸款第二號本日期滿今該公司要求延期兩月茲允許之令其交出展期證書但本日本以前應收之利息今照收現銀交易號次第四號

(十四)沈子衡欲寄匯六百元至漢口交與葛蔭庚查收茲本行給以匯票上漢一號(無寄匯費)收銀之後(全大洋)隨通知漢口實業銀行

(十五)永康號攜來左之匯票及提單等一切單據請押匯至杭州(交易號次上杭一號)貨物泰西綢緞。發貨單價額四萬元。保險單價額同上。匯票係五月十五日來託人之發出。額面三萬元。第八十三號。受貨人彼地森康號。五月二十九日滿期。

但須扣息日利三角二分及手續費額面之一萬分之一。其淨收金之中以四千三百元給以存款證書第三號。餘付現銀。

(十六)與洽順號結往來存款及過付之契約。先收存款如下。

1 元豐號發出支票第三號二百八十三元

2 本埠協源儲蓄銀行發出存款證書第二百二十三號五千八百元

契約期間一年。過付限數二萬元。過付日利二角六分。

預存抵押中國銀行股票二百股（每股一百元時價一百二十五元）。

乃給與存款簿C 4 及支票簿（支票百五十一號乃至二百號）。

(十七)元豐號及魏富昌來行聲明謂以後謂該號等應付之票據。無論何種。願指定本行以爲支付處。如到期由正當權利者呈驗此項票據之時。望本行由該號等之往來存款中隨時撥付。以免自己付現之煩勞。本行允之。使伊等各具其代付依賴書。

(十八)本日票據匯劃所交換如下

提出之他行票據

1 殖邊銀行應付支票二萬元

2 協源儲蓄銀行應付存款證書五千八百元（江蘇銀行代理）

收回之本行票據

1 元豐號發出本行應付之保證支票第一號六百九十元（江蘇銀行提出）

2 同人發出支票第二號八百三十七元六角（中國銀行提出）

3 德大號發出支票第一百一號四千二百元（殖邊銀行提出）

4 魏富昌發出支票第三十五號三千五百元（殖邊銀行提出）

交換差數。須於中國銀行存出款內或加減以行償清。

(十九)總理袁聯清歸而報賬計旅費七十五元八角。交際費四十三元六角八分。

(二十)本日出納課結算後計算洋市之損益。

民國三年五月三十一日

(參考)本日洋市英洋每元一千三百二十文小洋每角一百二十文

(一)支本行職員課員等本月份薪水計三百九十元(全付大洋)

(二)謝敏甫之貸款第二號期滿收納本利一併如左

1 魏富昌發出第五十四號支票金額四千五百八十元

2 本埠江蘇銀行應付之寄匯匯票(第三百十四號)六百二十五元

3 指定本埠浙江銀行為支付處而本日滿期者陸一亭發出之期票(第四十二號)金額八百六十五元

4 其餘現銀

即會寄存之抵押品照數退還。

(三)接到天津直隸銀行之報告如下

1 五月十八日知單發來寄匯

寄款人任惠風 收款人馬補之 匯票號次天上字一號額面一千八百五十元

2 五月十七日知單 來託代收貼現票據(交易號次來貼票天上一號)

五月十六日彼地董士駿發出之匯票第六號金額六千元六月十五日滿期應付人魏富昌係彼地邵兼三之

來託 支付處指定本行

(四)鄭朗卿呈驗蘇州分行發出之匯票蘇上一號查之無訛故付現銀(全紙幣)即回覆該分行

(五)魏富昌携來左之匯票請貼現(交易號次上天一號)

五月十一日本埠日輝織呢公司發出第十二號七月十日滿期天津大綸洋貨號應付額面四萬六千一百五

十元

扣息日利二角八分其淨收金撥入於來託人往來存款中C 2 號並將匯票直寄至天津直隸銀行使轉收之

(六)袁景齋欲寄匯五千二百元至漢口交與羅越青查收茲本行給以匯票(上漢二號)另收寄匯費一千分之五收

納現銀(五千元紙幣其餘大洋)後隨通知漢口實業銀行

(七) 接到蘇州分行之報告如下

1 五月十八日回單 代收票據上蘇一號由支付人延昌繅絲廠已照收訖(本行將該票款數撥入於來託人元豐號之往來存款中C1)

2 五月二十三日知單 來託代收隨貨匯票(交易號次來貨票蘇上一號)

貨物常熟糙米。發貨單價額六千五百元。匯票係五月二十三日彼地瑞昌米行之發出者。第六十一號。額面四千元。受貨人本埠德大號六月十五日滿期。

(本行直向德大號呈驗之而得承認指定本行為支付處)

(八) 收江南人壽保險公司定期存款四萬元期限六個月給予證書號次F3號但收納如左

1 本行應付存款證書第二號額面二萬元

2 其餘現銀(全紙幣)

(九) 田舜章夫人楊氏攜來銀匣一具欲寄存為封鎖保護。聲明內容為寶石金鐲等件。共計有二萬六千元左右之價值。

期間六個月 保護費一年對於聲明價值豫收一百分之十二

收納現銀後(大洋小洋及銅元)給予保護寄品證書封一號

(十) 接到杭州分行電報略謂

託付電匯九百二十五元寄款人趙敬軒受款人趙晴舫(交易號次電來匯杭上1號)

(十一) 由捷利股票經紀處買進民國三年週息六釐公債票額面三萬五千元價每額面一百元淨收八十八元二角

概付現銀(全紙幣)

(十二) 收祝光熙特別往來存款如下 存款簿P1

漢口實業銀行應付凌荻洲發出之保證支票第一百二十五號額面三百八十五元一角八分
並直寄至該行請求承認

(十三) 信大號欲借款本行令其發出左之期票用貼現方法以代借據L₅

該號本日發出第六號本行應收額面三萬五千元七月三十一日滿期抵押上海貨棧公司棧單(第八百八十九號貨物棉紗價額五萬元)

減除扣日息利三角

此淨收金中先以二千五百元充爲本日該號應付之匯票款項(係天津直隸銀行轉託代收票據天上一號。又以二萬一千六百元爲存款證書第四號其餘付現。同時回覆直隸銀行此項代收票據已收訖

(十四) 貸與上海德律風公司五萬六千元(交易號次L₆)

期限六個月年利一分(10%)抵押該公司營業地基及房屋工廠價值十萬元其中五萬元給以中國銀行支票第九號 其餘付銀(全紙幣)

(十五) 接到杭州分行之報告如下

1 五月十七日回單。中國銀行保證支票已照收訖。備爲營業基金

2 五月二十五日知單。託來代收押匯(交易號次杭上一號)貨物繭絲。發貨單價額六千二百五十元。保險單價額同上。匯票係五月二十五日彼地致和號發出者第一百五十一號。額面五千元。受貨人爲本埠惠利洋行。六月十五日滿期

(本行直向惠利洋行呈驗之而得承認並指定支付處爲南京路營業所)

3 五月二十九日回單。押匯上杭字一號由受貨人森康號已照收訖

(十六) 趙晴舫君攜來電報 請求支付杭州之電匯第一號。詳查無訛。乃令其保證人祝光煦。連名作一收條。即付現銀。(全大洋)後隨回覆杭州分行

(十七) 洽順號發出之支票來請保證支付

1 第五百一十一號 二千一百元 (保證號次2)

2 第五百五十二 三千五百五十元 (保證號次3)

(十八) 庶務課報告本月份支付之零用如左

通信費 三十九元八角七分 (另有細賬)

紙墨筆費 十元五角 (另有細賬)

事務零用 十五元八角三分 (另有細賬)

圖書費 二十一元五角 (另有細賬)

水及燈油煤炭費 二十元二角六分 (另有細賬)

消耗品費 十三元三角八分 (另有細賬)

調查及團體費 十八元 (另有細賬)

以上合計一百四十一元三角四分 茲照數墊補其缺以供預備下月份之用 (支付大洋一百二十元小洋十五元銅幣六元三角四分)

(十九) 接到漢口實業銀行之報告如下

五月十七日回單 寄匯上漢一號 已照付訖

(二十) 本日票據匯劃所交換如下

提出之他行票據

1 江蘇銀行應付之寄滙匯票六百二十五元

2 浙江銀行應付之期票八百六十五元

收回之本行票據

- 1 德大號發出支票第百零二號。五千二百元。(中國銀行提出)
- 2 本行應付存款證書第三號四千三百元。(中國銀行提出)
- 3 魏富昌發出支票第五十三號六千四百八十五元八角。(浙江銀行提出)
- (二十一) 本日出納課結算後計算洋市之損益
- (二十二) 開始計算特別往來存款各戶本日爲止之利息

民國三年六月十五日

(參考) 本日洋市 英洋每元一千三百四十文 小洋每角一百二十文

(一) 將已會計算之特別往來存款利息撥入各戶之本金中如左(但撥入之日須作六月一日)

1 李麗川賬目 本行應付

2 祝光熙賬目 本行應付

(二) 願桂文之貸款L三號期滿收納該人發出。本埠交通銀行應付之支票。第十八號二萬元。及現銀(紙幣但元以下用小洋及銅幣)以償清本利 卽曾寄存抵押品照數退還。

(三) 馬補之呈驗直隸銀行發出之匯票天上一號查之無訛

茲匯款之中一千五百元給以存款證書第五號餘付現銀(全紙幣)隨回覆該銀行

(四) 接到蘇州分行之報告如下

1 六月五日知單 洽順號發出本行第三號保證之支票三千五百五十元已照墊付

2 六月十一日知單 來託代收貼現票據(交易號次來貼票蘇上一號)

本埠路以莊。五月十三日發出之期票。第四號八千二百六十五元。係彼地梁小雲來託者。七月五日滿期。
(五) 發出中國銀行應付支票。第九號提取現銀一萬二千元。以備日用營業資金(收紙幣一萬元大洋一千九百元)

小洋及銅幣一百元。

(六) 程邦懷欲寄電匯一千一百元至漢口交與汪若榮查收茲本行給以收條上漢一號。另收寄匯費一千分之五。及電報費二元二角。收納現銀。(收大洋但元以下小洋及銅幣)即發電報於漢口實業銀行(銀行之電報費暫除賬於電報局。俟月末庶務課隨付以爲通信費)

(七) 接到漢口實業銀行之報告如下

1 六月三日回單 承認凌荻洲發出之保證支票

2 六月六日知單 本行應付信大號名下之存款證書第四號已照墊付

3 六月五日知單 發來寄匯

寄款人長俊笙收款人高眉伯 匯票號次漢上一號 額面八千五百元

4 六月十二日回單 寄匯上漢二號 已照付訖

(八) 天津直隸銀行來託之貼現票據天上一號本日滿期。即由魏富昌之往來存款中撥收。而發回單報告之。又通告魏姓使其送來支票乃五十六號以爲提款之證

(九) 源成號攜來左之期票請貼現(交易號次本貼二號)

六月一日元豐號發出第八號萬建生名下者。額面三萬二千五百六十五元。七月三十一日滿期。

但須扣息日利二分六釐。其淨收金之一萬八千元給以存款證書第六號。餘付現銀(付紙幣一萬元其餘大洋但元以下付小洋及銅元)

(十) 蘇州分行來託之貨匯票。蘇上一號本日滿期。即由受貨人德大號之往來存款中撥收。並通知該號使其送來支票第百零三號以爲提款之證。同時交以一切單據。並發回單報告分行。

(十一) 因天候酷熱之故。營業所內部須備以通風裝置。其費用三十五元支付木匠陳榮記(全付大洋)

(十二) 接到天津直隸銀行之報告如下

六月十一日知單 來託代收票據(交易號次來代票天上二號)

五月十五日彼地阮楷生發出之匯票第十九號金額四千八百五十元。

六月三十日滿期。應付人爲本埠徐漱枕。係彼地柳靜波來託者。

(本行直呈驗於徐漱枕而得其承認指定支付處爲洋徑濱營業所)

(十三) 杭州分行來託之押匯杭上一號本日滿期。由受貨人惠利洋行收納。本埠江蘇銀行應付該號發出之支票。第三百四十五號

同時交以一切單據。並發回單報告分行。

(十四) 本日民國三年週息六釐公債票上半年份發息。茲將所有公債票附有之利息票。剪去目爲現銀而交付出納課。此項利息票係中國銀行應付者)

(十五) 股東宋雲生願將其所有之本行股票五百股。悉數轉讓於吳藍田。茲由吳藍田。請求更換名義(賣價每股五十二元)。收納註冊手續費每股一角五分(收大洋)

(十六) 高眉伯呈驗漢口實業銀行發出之匯票。漢上一號查之無訛。故付現銀(全付紙幣隨回覆該行)

(十七) 收德大號往來存款。一萬八千二百三十五元如下C:

1 本埠江蘇銀行應付存款證書第三十九號一萬六千元。

2 本埠殖邊銀行應付劉文園發出之支票第五百六號二千二百三十五元

(十八) 本日票據匯劃所交換如下
提出之他行票據

1 交通銀行應付之支票二萬元

2 江蘇銀行應付之支票五千元

3 中國銀行應付之民國三年公債利息票八百張計二千四百元

第三編 銀行簿記實踐

第三章 商業銀行第一期營業例題

三百八十七

4 江蘇銀行應付之存款證書一萬六千元
5 殖邊銀行應付之支票二千二百三十五元

收回之本行票據

1 洽順號發出支票第一百五十三號二千六百元(浙江銀行提出)

2 元豐號發出支票第四號一百四十八元(江蘇銀行提出)

(十九) 本日出納課結算收計算洋市之損益

(二十) 存款課開始計算往來存款各戶之利息(自開辦起至本日止)告畢後通知各存戶而請求承認

(二十一) 匯兌課開始計算他分行來款元賬之利息告畢後通知各行而請求承認

民國三年六月三十日

(參考) 本日日市洋英洋每元一千三百六十文小洋每角一百二十文

(一) 支本行職員課員等本月份薪水計三百九十元(全付大洋)

(二) 將已經計算而經承認之往來存款利息撥入各戶之本金中如左(但撥入之日須作六月十六日)

1 元豐號賬目 本行應付 元 角 分

2 魏富昌賬目 本行應付 元 角 分

3 德大號賬目 本行應付 元 角 分

4 洽順號賬目 本行應收 元 角 分

本行應收 元 角 分

(三) 他分行來款之利息已經各行承認又對於往款之利息由前途計算本行亦允之故併入各行賬目中如左

1 天津直隸銀行 來款賬目 本行應付 元 角 分

2 漢口實業銀行 來款賬目 無之

3 蘇州分行 來款賬目 本行應收 元 角 分

4 杭州分行 來款賬目 本行應收 元 角 分

(四) 職員陳鳳森以行事旅行支給旅費八十九元(付大洋八十五元小洋及銅幣四元)

(註) 此時旅費確定故無須暫付金之分錄法

(五) 接到天津直隸銀行之報告如下

六月十八日知單本月十六日已經撥入匯兌利息(本行之往款)應付 元 角 分

(本行查核無訛即發回單承認之)

(六) 接到杭州分行之報告如下

1 六月十五日回單 外埠貼現票據。上杭一號。由和祥號收訖

2 六月十八日知單 本月十六日已經撥入匯兌利息(本行之往款)應收 元 角 分

(本行查核無訛即發回單承認之)

3 六月二十四日知單 發來寄匯

寄款人江益齋收款人錢秋芳 匯票號次杭上一號額面八百元

(七) 天津來託之代收票據天上貳號本日滿期然支付人徐漱枕日前已破產。無法索款。茲請公證人桂綬卿會同作

一拒絕證書以退還於直隸銀行

公證費二元付現。直向前途銀行往款賬目暫記借方。

(八) 接到漢口實業銀行之報告如下

1 六月十五日回單 電匯上漢一號 已照付訖

2 六月十八日知單 本月十六日已經撥入匯兌利息(本行之往款)應付 元 角 分

第三編 銀行簿記實錄 第三章 商業銀行第一期營業例題 三百九十

(本行查核無訛即發回單承認之)

(九) 將民國三年週息六釐公債票額面三萬元轉賣與戚延華。售價每額面一百元值九十元九角。收江蘇銀行應付該人發出支票第六百三十七號。

(十) 收德大號往來存款如下 C³

1 沈子衡發出裕寧銀行應付之支票第四十五號六千四百十六元

2 現銀(紙幣三千元大洋五百六十五元)

(十一) 貸與湯澄如二萬四千五百元(交易號次 L⁷)

期限三個月。年利九釐。保證人婁其榮。抵押品漢冶萍煤鐵公司股票額面三萬元時價九十二元。其中一萬八千元給以存款證書第七號餘付現銀(紙幣)

(十二) 接到蘇州分行之報告如下

六月十八日知單本月十六日已經撥入匯兌利息(本行之往款)應收 元 角 分

(本行查核無訛即發回單承認之)

(十三) 接到中國銀行之報告 謂本月十六日已經撥入往來存款利息本行應收 元 角 分及本行應付 元 角 分

(本行查核無訛即發回單承認之)

(十四) 本年上半年期之營業稅貳百七十五元六角四分。交納於國庫。因國庫事務歸中國銀行代理。發出該行之支票第十一號以送交之。

(十五) 本期總分行之課員酬勞由理事會議如左

1 總行諸課員 四百五十元

2 蘇州分行諸課員二百五十元

3 杭州分行諸課員二百元

總行即時分配現銀(全付大洋)並向各分行通知使其發給各員。

(十六) 庶務課報告本月份支付之零用如左

通信費 六十元九角六分 (另有細賬)

紙筆墨費 八元零五分 (另有細賬)

事務零用 十六元九角貳分 (另有細賬)

圖書費 二十元零零六分 (另有細賬)

水及燈油煤炭費十七元三角三分 (另有細賬)

消耗品費 十八元七角 (另有細賬)

調查及團體費 十八元 (另有細賬)

以上合計一百六十元零零二分茲照數兌換補其缺以供預備下月之用(支付大洋一百四十元小洋十五元銅幣五元零二分)

(十七) 本日票據匯割所交換如下

提出之他行票據

1 江蘇銀行應付之支票二萬七千二百七十元

2 裕寧銀行應付之支票六千四百十六元(江蘇銀行代理)

收回之本行票據

無之

(十八) 本日出納課結算後計算洋市之損益

○同日 (第一整理日記)

(一) 本日應行上半年營業第一期之結賬 其預備手續先就現有財產估定價值如下

- 1 民國三年公債票 照買進原價計算 二千五百元
- 2 營業用地基 一萬一千八百元
- 3 營業用房屋 七百六十元
- 4 營業器具 七百六十元

此中對於減耗價值須備各項填補公積

(二) 貸款及貼現票據中將來到期不能償還者難保無人即撥出貸款及貼現票據現有數之一千分之一而作為填補公積

(三) 計算各項浮懸之科目以期會計之正確如左

- 1 往來存款 未付利息 六月十六日起六月三十日止 元 角 分
- 2 特別往來存款 未付利息 六月一日起六月三十日止 元 角 分
- 3 貼現票據 未經過扣息各張票據自七月一日至滿期日之扣息 元 角 分
- 4 貸款 未收利息 各貸款到本日本之利息 元 角 分
- 5 即還同業存出款 未收利息 六月十六日起六月三十日止 元 角 分

其餘零碎科目暫可不算

(四) 結賬總行之一切賬簿而作第一試算表。(此期例題僅實習四五六之三個月份耳。然假定仍為半年之營業。以計算分紅也。)

○民國三年七月五日(第二整理日記)

(一) 接到蘇州分行之報告如下

1 六月二十九日知單 發來寄匯

寄款人向小舟 收款人梅厚存 匯票蘇上二號 額面三百十五元

(註)此項交易暫假定爲六月中接信者總行算入於本期營業之中

2 七月一日知單 第一期純益已經撥入於總行匯兌賬目

3 七月三日知單 第一期營業報告書發送(附有結賬表)

(註)

(二)接到杭州分行之報告如下

1 六月二十九日知單本行應付洽順號發出之保證支票第二號已照整付

(註)此項交易假定爲六月中接信者總行算入於本期營業之中

2 七月一日知單 第一期純益已經撥入於總行匯兌賬目

3 七月三日知單 第一期營業報告書發送(附有結賬表)

(四)將前項報告之1及2挪上記而作第二試算表又結賬表(但例題練習上於第一試算表僅加減之第二試算表省略之亦可)

(五)由理事會議預定處分利益案如下

銀

總行各項利益

銀貳千三百零八元二角三分

蘇州分行各項利益

銀貳千貳百七十六元七角一分

杭州分行各項利益

第三編 銀行簿記實踐

第三章 商業銀行第一期營業例題

三百九十三

計

銀

銀一千貳百五十五元九角

銀一千零貳十八元三角五分

計

扣減淨存銀

處分此利益如左

銀三百五十元

銀壹百二十五元

銀貳百元

銀八百元

銀五千元

銀

本期總利益

總行各項損失

蘇州分行各項損失

杭州分行各項損失

本期總損失

本期純利益

法定公積(對於七千元撥出二十分之一)

有價證券預備公積

創辦費攤年補償

職員酬勞

股東分紅(週年四釐)

餘利滾存

(註)此處分案理應俟股東總會決議而始確定記賬但無暇練習第二例題者暫可選據理事會議而記賬此案以完結全期之會計也

(註)兩處分行之結賬表上結賬損益之科目在借方蓋其意在取消該分行之純益而撥致總行耳本期營業並非損失之故也

蘇州分行結賬表

民國 3 年 4 月 30 日 起
同 年 6 月 30 日 止

第三編

銀行簿記實踐

第三章

商業銀行第一期營業例題

三百九十五

借 方		會 計 科 目		貸 方	
殘	計			計	殘
16,984	502,532	90	(所有物類)	485,548	42
3,000	3,000	—	現款		
425	425	—	營業用地		
			房屋器具		
			存款	22,680	—
	63,707	78	往來存款	112,890	44
	980	—	特別往來存款	14,830	10
	12,300	—	臨時存款	18,800	—
	2,000	—	(放款類)	2,850	—
			貸款	60,000	—
33,500	93,500	—	匯兌	105,800	—
43,750	149,550	—	現票	36,000	—
25,530	71,530	—	押匯	4,815	—
1,497	6,312	67	往來	46,230	—
1,698	47,928	26	應付	7,580	—
			匯兌	16,425	33
	5,280	—	其他	41,198	80
2,501	18,926	48	(股東類)	125	—
	7,800	—	(所有物類)	1,095	95
			積存	1,086	60
			利息	125	68
			手續		
			損失		
151	151	27	(損)		
259	259	18	總分		
35	35	50	存款		
18	18	75	通匯		
50	50	18	請事		
550	550	—	薪紙		
10	10	60	旅費		
45	45	—	雜費		
10	10	42	損耗		
125	125	—	項		
1,052	1,052	33	賬		
131,194	988,081	32	合 計	988,081	32
				131,194	79

第四章 商業銀行第二期營業例題

此爲同一銀行繼續開始第二期之營業。但練習上稍變更其方法。

- 一、第二期仍以銀元爲本位貨幣。但交易上併用銀兩數目。每上海規銀之標準價率定爲七錢四分卽等於本位一元。然其實市價日日變動。須照每日參考之銀市收付現洋。
- 二、本例題位定補助貨幣已經統一。則無須小洋銅元之行市。由第一期接受之補助貨幣先行改算（凡小洋十枚合二元銅元十枚合一角）而依貨幣市價損益科目宜整理之。
- 三、以蘇州杭州兩分行爲直隸分行。用統轄記賬法。
- 四、受上海儲蓄銀行之託。代理其票據匯劃所之交換事務。
- 五、於七月十五日附設往來存款日記賬。七月三十一日附設往來存款及分行之兩種日記賬。但八月十五日及八月三十一日之附設日記賬省略不記。
- 六、本例題中應用之賬簿。可以前期之賬簿接續記入。惟所特別新備者如左。

（另須預備。轉賬傳票六十張。收款傳票二十張。付款傳票三十張。）

司理人之所管 借用欸原賬（一頁）

貸款課之所管 先還貸款之暫收原賬（一頁）

貼現課之所管 再貼現往託原賬(一頁)

出納課之所管 收納賬及支付賬用普通樣式(參照第二編第三章補助賬簿

樣式之四十一及四十二)各四頁

銀兩兌換賬(參照第二編第八章雜種貨幣統一法)

銀元兌換賬(同前)各一頁

生金銀原賬(二頁)

計算課之所管 各種附設日記賬(三頁)

上海商業銀行第二期營業日誌

民國三年七月十五日

(參考)本日銀市英洋七錢三分

(一)昨日開第一次尋常股東會。所確定利益處分法。仍照已揭理事之原案(第三整理日記)。

(二)德大號來行。將其往來存款變成規兩數計算。即照本日行市。而改算往來存款元賬之數目。及換給往來存款簿。(但銀行主要簿上毫無更動)

(三)日升號攜來元豐號發出之支票第五號一千五百八十元五角。即照付現銀。

(四)第一期所分紅利。付於股東袁聯清

(五) 接到蘇州分行之報告如下

1 七月五日回單 行員酬勞金已照付訖

2 同 九日知單 發來寄匯

寄款人戴兆良。收款人楊菊生。匯票蘇上三號五千四百元。

3 同十二日知單 直往杭州分行去託代收貼現票據

交易號次蘇杭一號 金殿甫六月五日發出之匯票第三號三千五百元係鄒燕山來託杭州和祥

號應付者七月二十六日滿期

(六) 第一期分紅付於股東吳藍田

(七) 股東洪念祖及馮侶夏現住於蘇州。仍通知該地分行。使其發給第一期分紅。

(八) 德大號攜來自己發出之支票第一百六號規銀一千二百兩即照行市付現洋。

(九) 收洽順號往來存款如下(存款簿號次C 4)

1 蘇州分行發出匯票蘇上二號

2 現幣二千六百元

3 郵政局匯票四張共計二百二十五元

(十) 南洋電燈公司之貸款L 4 號期滿。收納本利如左

1 貼現關雲軒六月十七日發出劉杏林應付之期票第三號。二萬七千六百元。八月十五日滿期。扣息日利二

角八分。交易號次本貼三號。

2 魏富昌發出之支票第五十七號六千九百二十五元

3 其餘款項係該電燈公司發出之江蘇銀行支票第八十二號

(十一) 新利貿易公司攜來左之匯票及提單等一切單據請押匯至杭州。

交易號次上杭二號。貨物爪哇精糖一千六百包市價每包十一元六角匯票第十六號係本日來託人之發出。額面一萬八千元。受貨人彼地致和號。七月二十六日滿期保證人元豐號。保險單價值一萬八千元。但須扣息日利二角七分及代收費額面一萬分之二。然後處置淨收金如下。

1 五千元作爲存款證書第八號

2 寄匯一千一百二十五元至漢口交與長俊笙

(本行無寄匯費而給以匯票上漢三號。遂即通知漢口實業銀行)

3 其餘付現

然後將提單滙票等類直寄至杭州分行依託代收。

(十二) 收祝光照二百十元特別往來存款P²

(十三) 魏富昌欲寄匯如下

1 五百元至天津交與田文吾(本行給以匯票上天二號)

2 六百五十元至杭州交與趙敬軒(本行給以匯票上杭一號)

均無寄匯費。收該人發出之支票第五十八號。遂即通知各地匯兌處。

(十四) 接到天津直隸銀行之報告如下

1 七月二日回單 接受已被拒絕之匯票天上二號。而承諾公證費二元。

2 同 十日回單 貼現票據上天一號由支付人黃延生已照收訖

(十五) 德大號攜來左之匯票請貼現(交易號次本貼四號)

六月十六日源成號發出第念六號孫立市應付額面規銀三萬五千六百兩。八月三十一日滿期。

扣息日利三錢一分其淨收金撥入於來託人之往來存款中(C³號)

(十六) 收魏富昌往來存款如下(C²號)

1 林蓮生發出交通銀行應付之支票第六十八號三千四百元

2 現銀三百六十元

(十七) 蘇州分行來託之貼現票據蘇上一號本日滿期。由支付人路以莊收現。並發回單報告分行。

(十八) 上海儲蓄銀行欲託本行代理票據匯劃所之事務。本行允之。條件如下。

1 儲蓄銀行必須對於本行。常有往來存款一萬元以上。以充匯劃之擔保。

2 此項存款不發利息。但匯劃之手續費不另收之。

現已報明匯劃所允許。因此收現銀一萬五千元為該儲蓄銀行之往來存款(存款簿號次號C5)

(十九) 接到杭州分行之報告如下

1 七月七日回單 第一期行員酬勞已照付訖

2 同十三日知單 託來代收隨貨匯票(交易號次來押匯杭上二號)

貨物蠶繭發貨單價格七千五百元。匯票係七月十二日彼地森康號之發出者。額面五千六百二十

五元第三十三號受貨人本埠恆泰號見票後十六日滿期。

(本行直向恆泰號呈驗之而得承認。指定其十六鋪營業所為支付處。)

(二十) 本日票據匯劃所交換如下

提出之他行票據

1 江蘇銀行支票第八十二號

2 交通銀行支票第六十八號

3 郵政局匯票四張

收回之本行票據

1 德大號發出支票第一百四號規銀六千三百兩(中國銀行提出)

第三編 銀行簿記實踐

第四章 商業銀行第二期營業例題

四百一

2 又 第一百五號規銀九千二百五十五兩五錢(江蘇銀行提出)

3 本行發出存款證書第七號一萬八千元(同前)

4 元豐號發出支票第七號一千六百六十七元(殖邊銀行提出)

5 上海儲蓄銀行應付姚玉書發出之支票第一號一百二十元(同前)

(對於代理交換之款項匯劃告畢後直向上海儲蓄銀行之往來存款賬目加存或減扣其差數即將回收票據
送交該行)

民國三年七月三十一日

(參考)本日銀市七錢二分五釐

(一)支本行職員課員等本月份薪俸計三百九十元

(二)陳步雲攜來洽順號發出之支票第百五十五號二百七十五元三角八分。即照付現銀。

(三)接到杭州分行之報告如下

1 七月十八日回單 寄匯上杭一號 已照付訖

2 七月十九日知單 直往蘇州分行寄匯

寄款人奚星樑 收款人袁保生 匯票杭蘇一號八千二百元

3 七月二十三日知單 同上

寄款人張憲臣 收款人謝焯雲 匯票杭蘇二號二千二百十五元

4 七月二十六日回單 押匯上杭二號。由受貨人致和號已照收訖。

5 同日回單 蘇州分行託去之代收貼現票據蘇杭一號由支付人和祥號已照收訖

(四)錢秋芳呈驗杭州分行發出之匯票杭上一號查之無訛故付現銀。即回知該行

(五) 計算課添聘嚴價人一員。照本行規則收其押櫃二百五十元。但照定期存款之全年利率而起利。

(六) 李廉川携來洽順號發出之支票第五百四號三百二十元為特別往來存款P 1號

(七) 第一期分紅付於股東陳鳳森張和笙翁靜波三名

(八) 接到漢口實業銀行之報告如下

1 七月十七日知單 蘇州分行發出之存款證書第七號九百五十元二角八分已照墊付

2 同 二十日知單 發來寄匯

寄款人華山陽 收款人濮槐南 匯票漢上二號三千九百六十五元

3 同二十六日知單 直往蘇州分行託去代收之貼現票據

交易號次漢蘇一號。六月十五日蘇州莫蕃山發出之期票第五號額面一千六百元。係漢口易仁

齋之來託者。八月十一日滿期。

(九) 收元豐號往來存款如下(C 1號)

1 正大號發出天津直隸銀行保證之支票第十六號一萬六千九百五十元

2 蘇州分行發出之寄匯匯票蘇上三號

3 盛雨耕發出殖邊銀行應付之支票第十二號二萬三千元

對於直隸銀行及蘇州分行隨時報告

(十) 上海儲蓄銀行交納左之票據請託代理交換即撥入於如常往來存款中(C 5)

1 本埠浙江銀行應付之支票第二百六十號三百五十元

2 本埠協源儲蓄銀行之存款證書第二百三十一號一千五百元

(十一) 德大號發出之支票來請保證支付

1 第一百七號 規銀四千二百三十三兩(保證號次4)

2 第百八號 規銀二千二百六十七兩(保證號次5)

(十二)接到蘇州分行之報告如下

1 七月十八日回單 第一期分紅付訖於股東馮侶夏洪念祖兩名

2 同 二十日知單 直往天津直隸銀行押匯

交易號次蘇天一號。貨物綢緞。發貨單價額七千元。匯票第三號係七月二十日蘇州義昌織廠之發出額面四千九百元。受貨人天津永泰綢緞莊八月四日滿期。保證人戴兆良。保險單價額六千元。

3 同二十一日回單 承認漢口實業銀行墊付之存款證書第七號

4 同二十二日知單 來託代收票據

交易號次蘇上一號。六月十六日上海胡文園發出之期票第六號額面一萬三千二百元。係蘇州厲淑予之來託者。八月十五日滿期。

5 同二十七日知單 直往漢口實業銀行寄匯

寄款人孫陶庵 收款人蔣春畝 匯票蘇漢一號一千五百元

(十三)將本埠貼現票據第三號額面二萬七千六百元。持向中國銀行請再貼現。除扣息日利二角二分其淨收金即撥入於往來存款中。

(十四)接到蘇州分行電報。因有急需請解款。即發電託天津直隸銀行電匯二萬元至蘇州分行。及發電託杭州分行電匯二萬五千元至蘇州分行。

(十五)收滄順號往來存款三千元(4號)

(十六)施道衡攜來左之票據請託代收(約定代收費每張五角)

1 五月三十一日 漢口殷侍我發出之期票第八號額面二千五百元交易號次上漢一號 八月十三日滿期

2 七月十三日上海穆榮之發出天津瑞大號應付之匯票第十三號額面二千三百五十四元三角六分交易號次上天一號八月五日滿期

(十七) 祝光熙遷移於杭州。本行計算其特別往來存款至本日之利息。已將本利一併轉寄該地分行。

(十八) 本埠貼現票據第二號本日滿期。即由支付人元豐號之往來存款中撥收。並通知該號使其送來支票第七號以爲提款之證。

(十九) 貸與信大號十三萬五千元(交易號次L8號)

保證人元豐號。抵押品南京軍需公債票額面二十萬元。額面每百元之時價七十四元。日利二角八分。期限爲八月三十一日。

1 此中將三萬五千元充爲同人應付本日滿期之貸款第五號償還金。

2 將三萬五千元作爲本行存款證書第九號

3 發出中國銀行應付支票第十二號五萬元

4 其餘付現

(二十) 接到天津直隸銀行之報告如下

1 七月十八日匯單 寄匯上天二號 已照付訖

2 同二十五日知單 來託代收貼現票據(交易號次天上二號)

七月七日上海顧桂文發出之期票第三十三號額面二萬四千三百元。係天津黃延生之託來八月十五日滿期。

(二十一) 杭州分行來託之押匯(交易號次杭上二號)本日滿期。由支付人恆泰號收現。並發回票報告該分行。

(二十二) 庶務課報告本月份支付之零用如左
通信費 四十四元七角七分 (另有細賬)

紙墨筆費	九元二角	(另有細賬)
事務零用	十六元二角三分	(另有細賬)
圖書費	十八元三角三分	(另有細賬)
水及燈油煤炭費	十五元一角四分	(另有細賬)
消耗品費	十四元八角六分	(另有細賬)
調查及團體費	十八元	(另有細賬)

以上合計百三十六元五角三分 茲照數墊補其缺以供預備下月份之用
(二十三) 本日票據匯劃所交換如下

提出之他行票據

- 1 殖邊銀行應付之支票二萬三千元
 - 2 浙江銀行應付之支票三百五十元
 - 3 協源儲蓄銀行應付之存款證書一千五百元(江蘇銀行代理)
- 收回之本行票據

- 1 魏富昌發出支票第五十九號五千八百元(中國銀行提出)
 - 2 漢口實業銀行發出本行應付之寄匯票漢上二號三千九百六十五元(同上)
 - 3 洽順號發出支票第五百五十六號八千三百十三元(浙江銀行提出)
 - 4 元豐號發出期票(已到期而指定本行為支付處)第十六號六千七百八十元(江蘇銀行提出)
- 對於漢口匯票即報該行又對於元豐號之期票亦即報該號使其送來支票第八號以為提款之證

民國三年八月十五日

(參考)本日銀市 七錢二分二釐半

(一)元豐號攜來左之票據請貼現

1 七月十二日杭州和祥號發出之期票第八號額面一萬六千四百元九月十二日滿期。 扣息日利二角八分。

交易號次杭²

2 七月七日永康號發出本埠源成號應付之匯票第六十三號額面貳萬貳千元九月十五日滿期。 扣息日利二角七分。 交易號次本貼五號

此淨收金如數撥入於該號之往來存款01號

(二)由捷利經紀之手向交通銀行借入即還貸款五萬元。以其一千分之二為票據經紀費而其餘收現。

(三)接到蘇州分行之報告如下

1 七月三十一日 同單 電匯從杭州分行貳萬五千元及從天津直隸銀行貳萬元均已收訖

2 八月三日知單 直往天津電匯 交易號次蘇天1號

寄款人曹從龍 收款人唐幼元 款數八千元

3 同十一日同單 漢口實業銀行來託代收之貼現票據漢蘇一號由支付人莫蕃山已照收訖

4 同 日同單 杭州分行發來寄匯杭蘇一號已照付訖

5 同十二日知單 德大號發出本行應付之保證支票第五號已照墊付

6 同 日回單 杭州分行託來寄匯杭蘇二號已照付訖

(四)蘇州分行託來之代收票據蘇上一號本日滿期由支付人胡文園收納如左

1 洽順號發出支票第百五十七號壹萬元

2 二八元寶 每曹平五十二兩 拾隻

二八元寶 每曹平五十一兩 叁隻

二七元寶 每曹平五十三兩 五隻

3 其餘收現

(五)接到漢口實業銀行之報告如下

1 八月一日回單 寄匯上漢三號已照付訖

2 同 二日回單 蘇州分行發來寄匯蘇漢一號已照付訖

3 同十二日知單 德大號發出本行應付之保證支票第四號已照墊付

4 同十三日回單 代收票據上漢一號由支付人殷待我已照收訖

(本行將該票款撥入於來託人施道衡名下臨時存款中且轉告之)

(六)周堯峯請求提取定期存款第一號此項存款本係十月十五日爲限特別允之卽照往來存款之利率計算利息將本利一併付現

(七)接到天津直隸銀行之報告如下

1 七月三十一日知單 直往蘇州分行已寄電匯貳萬元

2 八月 三日回單 蘇州分行發來電匯第一號已照付訖

3 同 日回單 承認正大號發出之保證支票

4 同 日回單 代收票據上天一號因被拒絕支付退還

(此票據本係免除作成拒絕證書之條件。故無須公證人之費用等。本行卽通知來託人而還付之。)

(八)湯澄如交納現銀六千元以充貸款第七號之一部分償還。本行允之。乃退還已存抵押品中之漢冶萍煤鐵公司股票額面八千元

(九)顧桂文欲借款本行令其發出左之期票用貼現方法以代借據(交易號次L9)

該號本日發出第十號本行應收額面四萬八千元十月十五日滿期。抵押上海貨棧公司棧單。(第一千二百五

號貨物豆餅價額六萬四千元)

減除扣息日利三角之後由淨收金中先以貳百四十三百元充爲本日該號應付之期票款項(除天津直隸銀行轉託代收票據天上二號)其餘付現同時同知直隸銀行此項票據已代收訖

(十)施道衡攜來本行已收票據之通知乃如數支付由臨時存款中。

(十一)本年下半年之營業稅三百二十八元五角六分。交納於國庫。因國庫事務歸中國銀行代理。發出該行之支票第十二號以送交之。

(十二)接到杭州分行之報告如下

1 七月三十一日知單 直往蘇州分行已寄電匯貳萬五千元

2 八月 五日 同單 祝光煦之特別往來存款已如數轉訖

3 同 十二日 知單 發來寄匯(交易號次杭上二號

寄款人柳文瀾 收款人姚海門 匯票額面一千二百元

(十三)收德大號往來存款如下(C3號)

1 石惠吉發出江蘇銀行應付支票第二十二號規銀六千三百十八兩

2 魏富昌發出本行應付支票第六十一號一千四百五十元

3 現銀三百二十六元

(十四)本日收納之英洋中有賈造一元因全無價值即令出納課員賠償一元

(十五)第一期分紅支付股東秦佐庭王錫山二名

(十六)本日匯劃員因遲去致誤交換時間。故提出之票據一概不許交換。而收回本行之票據如下。

1 魏富昌發出本行應付之支票第六十號四千二百三十五元(江蘇銀行提出)

2 元豐號發出本行應付之支票第九號六千六百十八元(同上)

3 鄭朗卿發出上海儲蓄銀行支票第五號四百八十二元(同上)

(十七) 存款課開始計算往來存款及特別往來存款各戶之利息(自六月十六日起至本日止)告畢後通知各存戶以請求承認

(十八) 匯兌課開始計算他分行來款元賬之利息。告畢後通知各行而請求承認

民國三年八月三十一日

(參考)本日銀市 七錢二分

(一) 支本行職員課員等本月份薪俸計四百二十元

(二) 將已經計算而經承認之往來存款利息撥入各戶之本金中如左。(但撥入之中須作八月十六日)

1 元豐號賬目	本行應付	元	角	分	
2 魏富昌賬目	本行應付	元	角	分	
3 德大號賬目	本行應付	元	角	分	
4 洽順號賬目	本行應收	元	角	分	
5 特別往來存款李廉川賬目	本行應付	元	角	分	
(三) 他分行來款之利息已經各行承認又對於往款之利息由前途計算本行亦允之故併入各行賬目中如左					
1 天津直隸銀行	來款賬目	本行應付收	元	角	分
2 漢口實業銀行	來款賬目	本行應付收	元	角	分
3 蘇州分行	來款賬目	本行應付收	元	角	分
4 杭州分行	來款賬目	本行應付收	元	角	分

(四) 將無用器具及破損物品等賣于舊貨店宣德號收現八元五角二分

(五) 濮槐南欲寄匯四千六百元至蘇州交與袁保生查收茲本行給以匯票上蘇一號另收寄匯費一千分之五收納現銀後即通知蘇州分行

(六) 姚海門呈驗杭州分行發出之匯票杭上二號查之無訛故付現銀即回覆該分行

(七) 本埠貼現票據第五號本日滿期由支付人收納如下
1 奚星槎發出杭州分行應付之保證支票第十三號貳萬二千六百元
2 其餘孫立甫發出交通銀行應付之支票第七百七十號

(八) 接到各地他行及分行之報告如下

- | | | | | | | |
|-----------------|---------------|---------------|----|---|---|---|
| 1 七月十六日天津直隸銀行知單 | 撥入匯兌利息(本行之往款) | 應收 | 元 | 角 | 分 | |
| 2 同 | 日漢口實業銀行知單 | 撥入匯兌利息(本行之往款) | 應收 | 元 | 角 | 分 |
| 3 同 | 日蘇州分行知單 | 撥入匯兌利息(本行之往款) | 應收 | 元 | 角 | 分 |
| 4 同 | 日杭州分行知單 | 撥入匯兌利益(本行之往款) | 應收 | 元 | 角 | 分 |

(九) 上海儲蓄銀行交納左之票據請託代理交換即撥入于往來存款中(C5)

- | | | | | | |
|----------------------------------|---|---|---|---------------|--|
| 1 本埠殖邊銀行應付之存款證書第三百一號一千八百元 | | | | | |
| 2 本埠江蘇銀行應付之支票第二百六十八號六百二十五元 | | | | | |
| (十) 接到中國銀行之報告謂本月十六日已撥入往來存款利息本行應收 | 元 | 角 | 分 | 本行查該無訛即發回單承認之 | |

(十二) 本期總分行之課員酬勞由理事會議如左

- | |
|----------------|
| 1 總行諸課員四百五十元 |
| 2 蘇州分行諸課員二百五十元 |
| 3 杭州分行諸課員二百元 |

(十三) 庶務課報告本月份支付之零用如左

通信費	六十八元七角五分	(另有細賬)
紙筆墨費	九元零四分	(另有細賬)
事務零用	十七元八角二分	(另有細賬)
圖書費	十六元零三分	(另有細賬)
水及燈油煤炭費	十二元二角二分	(另有細賬)
消耗品費	十七元六角三分	(另有細賬)
調查及團體費	十八元	(另有細賬)

以上合計百五十七元四角九分茲照數墊補其缺以供預備下月之用

(十一) 本日票據匯劃所交換如下

提出之他行票據

- 1 江蘇銀行應付支票第二十二號規銀六千三百十八兩
- 2 交通銀行應付支票第七百七十號
- 3 殖邊銀行應付存款證書第三百一號一千八百元
- 4 江蘇銀行應付支票第二百六十八號六百二十五元

收回之本行票據

- 1 元豐號發出支票第九號七千七百元(中國銀行提出)
- 2 魏富昌發出期票(已到期而指定本行爲支付處)第三十號八千二百元(交通銀行提出)
- 3 上海儲蓄銀行應付王顯伯發出之支票第五十三號三百八十八元五角(同前)
- 4 同銀行應付存款證書第八號五百元(江蘇銀行提出)

同 日(第一整理日記)

(一) 本日應行下半年營業第二期之結賬 其預備手續先就現存財產估定價值如下

- | | |
|-----------|-------------|
| 1 民國三年公債票 | 照買進原價計算 |
| 2 生銀(元寶) | 每元合上海規銀七錢三分 |
| 3 營業用地基 | 二千五百元 |
| 4 營業用房屋 | 一萬一千六百元 |
| 5 營業器具 | 七百二十元 |

此中對於減耗價值須備各項填補公積

(二) 貸款及貼現票據中將來到期不能償還者難保無人即撥出貸款及貼現票據現有數之一千分之一而作為填補公積

(三) 計算各項浮懸之科目以期會計之正確如左

- | | | | |
|-----------|-----------------------|---------------|-------|
| 1 往來存款 | 未付利息 | 八月十六日起八月三十一日止 | 元 角 分 |
| 2 特別往來存款 | 未付利息 | 八月十六日起八月三十一日止 | 元 角 分 |
| 3 貼現票據 | 未經過扣息各張票據自九月一日至滿期日之扣息 | | 元 角 分 |
| 4 貸款 | 未收利息 | 各項貸款到本日本息 | 元 角 分 |
| 5 即還同業存出款 | 未收利息 | 八月十六日起八月三十一日止 | 元 角 分 |
| 6 借用款 | 未付利息 | 各項借款到本日本息 | 元 角 分 |
- 其餘零碎科目暫不算入

(四) 結束總行之一切賬簿而作第一試算表(此期例題僅實習八九兩月份耳然假定仍為半年之營業以計算分

紅也)

民國三年九月五日(第二整理日記)

(一)接到蘇州分行之報告如下

1 八月三十一日知單 發來寄匯

寄款人謝焯雲 收款人胡文園 匯票蘇上四號千四百五十元

2 九月一日 知單

第一期純益已經撥入於總行匯兌賬目

3 九月三日 知單 第二期營業報告書發送(附有結賬表)

(二)接到杭州分行之報告如下

1 九月一日 知單

第一期純益已經撥入於總行匯兌賬目

2 九月三日 知單 發送第二期營業報告書(附有結賬表)

(三)將前項報告之寄匯及純益撥入挪上記賬於本期中而作第二試算表又結賬表(但例題練習上於第一試算表僅加減之第二試算表省略之亦可)

(四)將兩處分行報告書整理合算而作第三試算表或全銀行第二期結賬報告書

(五)由理事會議預定之處分利益案如下

銀 總行各項利益

銀 蘇州分行各項利益

銀 杭州分行各項利益

計	本期總利益
銀	總行各項損失
銀	蘇州分行各項損失
銀	杭州分行各項損失
計	本期總損失
扣減淨存	本期純利益
處分此利益如左	
銀	法定公積
銀	有價證券預備公積
銀	創辦費攤年補償
銀	職員酬勞
銀	股東分紅(年釐)
銀	餘利滾存

(註)此種處分案理應俟股東總會決議而始克確定記賬

民國三年九月十五日(第三整理日記)

第三編 銀行簿記實踐 第四章 商業銀行第二期營業例題

(一)本日開第二次尋常股東會所確定利益處分案仍照已揭理事之原案

(二)第二期分紅支付于股東如左

- 1 吳藍田
- 2 袁聯清
- 3 陳鳳森
- 4 張和笙
- 5 洪念祖
- 6 馮侶夏
- 7 秦佐庭
- 8 翁靜波
- 9 王錫山

(註)附揭兩處分行之結賬中總行及總分行匯兌利息之科目。宜照學者自己之賬簿而填鈔。然後計算結賬損益。填寫之。其次將各科目之貸方殘額合算。以爲現銀科目之借方。又將各科目之借方殘額合算。以爲現銀之貸方。最後合計全體。其借貸必須對校相等爲要。

附錄一 銀行簿記試驗問題

以下數項係著者曾在各地學堂所課之試驗問題。揭以供學者之自習參考。

第一 (繳卷一小時半爲限)

- (一)說明銀行簿記中押匯應付來匯現銀三科目之性質
- (二)銀行簿記之日記賬上借方貸方之各科目何故與普通分錄反對。試詳述之。

第二 (繳卷二小時爲限)

- (一)貸借表 Balance sheet 其形式雖完全作成。然未必表示會計之真相。可就銀行簿記上。列舉實例說明其理由。
- (二)何爲

a 浮懸科目 Outstanding accounts

b 暫付暫存金科目 Suspense accounts

c 偶生債務(又潛伏債務) Contingent liability

d 整理日記 Adjustment entry

e 開賬日記 Opening balance a/c

可就銀行簿記上各各說明。

第三 (繳卷一小時半爲限)

- (一)他分行間往來須用暫記元賬試說明其理由
- (二)說明隸屬分行之性質及其簿記法大要

附錄一 銀行簿記試驗問題

第四 (繳卷三小時爲限)

民國三年十二月十七日上海神州銀行之交易如左。試逐次作傳票並記入於日記賬。

前日有現銀滾存一萬二千三百四十五元六角七分

(一) 收元豐號往來存款如下(存款簿C1號)

a 漢口銀行之保證支票第五號額面一千三百元

b 本埠江蘇銀行應付之支票第四十八號額面二百五十元零五分

(二) 袁景齋欲寄匯五千元至天津交與羅越青查收茲本行另收寄匯費一千分之四而給以匯票(上天)字六號均收現銀即通知天津直隸銀行

(三) 周堯峯之定期存款第二號本日滿期茲照付本利

原本六千二百元期限六個月年利六厘五毛

但此中五千元因存戶欲寄電匯到廣東交與志大號另收電報費三元三角及寄匯費一千分之五即刻電知粵東銀行(電上廣)字五號

(四) 接到杭州分行之報告如下

a 十二月七日知單 本行應付之存款證書第十號三千五百元已照墊付

b 十二月八日知單 來託寄匯

寄款人沈一亭 收款人高佑徵 匯票(杭上)字九號額面八千五百元

c 十二月九日回單 寄匯(上杭)字三號金額一千七百元已照付訖與關雲軒

(五) 德大號攜來左之匯票及提單等一切單據請押匯至漢口(上漢)字三號

貨物爲綿紗發貨單面價額二萬元裝載岳陽輪船 保險單面價額一萬九千元 匯票係十二月十五日來託

人發出者。額面一萬八千元 第二十五號受貨人爲彼地仁大號明年三月三日滿期

但須扣息日利二角八分及代收費(額面一千分之一)其淨收金之中以五千六百元給以存款證書第十五號又
以六千元撥入其往來存款中(存款簿C'3號)

其餘卽付現銀

(六)源成號攜來左之匯票請代收

十一月二十日上海協成號發出第二十一號額面二千三百四十九元十二月二十日滿期。 杭州隆成染織公司
應付

(七)接到漢口銀行報告如下

a 十二月六日知單 來託代收左之貼現票據(來貼票漢上字四號)

十二月五日董士駿發出之匯票第六號額面六千元應付人爲本埠魏富昌係漢口邵兼三來託者
b 十二月七日回單 代收票據(上漢)字一號額面一萬三千四百八十元四角九分已由應付人馬楠之處收訖

(但此係本埠洽順號來託者該商賬目C2號現有往來過付五千六百四十五元六角八分)

(八)高眉伯呈驗蘇州分行發出之匯票蘇上字十號三百零七元零四分查之無訛故付現銀卽回報該行

(注意)

一三種傳票各十張及日記賬一頁須使學生各自豫備

二、學生可攜帶入室者爲紅藍墨水洋筆簿記棍及算盤等

三、各張傳票上須註明應該經手之銀行分課及各課應用之賬簿名目

四、計算利息扣息時須在各傳票背面行之以供驗閱運算法

第五 (繳卷二小時半爲限)

民國二年十二月十一日南京股份有限公司江南商業銀行營業如左。試逐次作傳票並記入於日記賬。前日有現銀滾存十萬六千五百二十二元四角五分。

(一)前於股東總會贊成決定股份有限公司金陵銀行合併於本行之事本日已於商會註冊并承繼下開該行之資產負債

資產之部

銀四萬五千元

銀八千五百六十五元七角八分

銀二萬八千七百元

銀六千元

銀五千五百元

銀二千七百元

銀一千二百元

銀四百六十六元一角七分

銀一萬三千九百零五元六角八分

計銀十一萬二千零三十七元六角三分

負債之部

銀一萬九千六百八十七元

銀三萬六千二百三十二元九角四分

銀二千四百元

銀六百八十五元五角

貸款

往來過付

貼現票據

押匯

公債票

營業用房屋

營業用地基

營業用器具

現銀

定期存款

往來存款

臨時存款

應付來匯

銀三千零三十二元一角九分

他行往來匯兌

計銀六萬二千零八十七元六角三分

對於右開現有財產增加本行股銀五萬元發行新股票一千張（每股五十元作為全額繳訖）而交付金陵銀行股東

(二) 源成號攜來左之匯票及提單等一切單據請押匯至上海（南上）字一號

貨物為綢緞發貨單面價額八千元裝載滬甯鐵路 保險單面價額九千元匯票係本日來託人發出者額面六千五百元第九號 受貨人為上海河南路大綸號本月三十一日滿期

但須扣息日利二角八分及代收費（額面一百分之二）其淨收金之中二千元因源成號欲寄匯到無錫交與趙鳳儀撥收匯款及寄匯費一百分之四給以匯票（南無）字十一號即通知該地分行其餘即付現

(三) 林蓮生攜來左之支票撥存於特別往來存款（存款簿 P 8）

a 本行應付洽順號發出之支票第八十二號額面五百五十元

b 本埠江甯商業銀行應付劉文園發出之支票第九號額面三百元

(四) 順昌號之破產本日清算了結對於本行之貸款二千五百元而按照一百分之七十五之分配率由破產清理人嚴梅生收訖現銀

(五) 接到鎮江分行之報告如下

十二月七日回單 代收票據（南鎮）字二號額面三千六百二十七元二角八分已由應付人談苕勸收訖（但此

係本埠有往來存款之永慶號來託者）

(六) 祝慕韓之貸款十二號本日滿期（原本六千元本年十月十五日貸付日利三角） 收納本利如左

a 陳馥村發出上海通商銀行保證應付之支票第二十號額面四千五百五十元

b 其餘現銀

附錄一 銀行簿記試驗問題

(注意) 四項 參照前揭問題第四

四百二十四

附錄二 參考書目 Bibliography

- (1) English Bank Book-keeping, by H. T. Easton. 1910.
published by Ethingham Wilson, London. 199 pp. Price 5s.
- (11) Bank Organization, Management and Accounts, by J. F. Davis.
published by Isaac Pitman and Sons, London. 157 pp. Price 5s.
- (111) Accounting and Banking, by A. Nixon and J. H. Stagg. 1907.
published by Longmans, Green & Co., London. (p. 226—p. 292) 10s. 6d.
- (1111) Bank Balance Sheets & How to Prepare Them, by J. F. G. Bagshaw.
published by Isaac Pitman & Sons, London, Price 6d.
- (11111) Cyclopedia of Commerce, Accountancy, Business Administration, Vol. VII (pp. 134).
by American School of Correspondence, Chicago.
- (111111) Modern Banking Methods & Practical Bank Book-keeping.
by A. R. Barrett. pp. 325. Price 16s.
- (1111111) Modern Banking & Bank Accounting, by V. Neel. 1899. pp. 227, Price 9s.
- (11111111) 日本大藏省銀行課編。
銀行簿記例題 全二册 定價四十五錢
- (111111111) 同上銀行課編
銀行簿記例題解式 全四册 定價二圓二十五錢
- (1111111111) 大谷登喜雄著

附錄二 參考書目

四百二十六

銀行簿記

全一册 定價七十錢

(十一) 同銀行簿記例題解式

全一册 定價二圓五十錢

(十二) 窪川眞澄著

東京博文館發行

通俗銀行簿記

全一册 定價二十五錢

(十三) 米田喜作著

實踐銀行簿記法

全一册 定價八十錢

(十四) 森川鑑太郎著

銀行簿記教科書

全一册 定價八十錢

(十五) 池本純吉及西川正次共著

東京同文館發行

實踐銀行簿記

全一册 定價六十五錢

(十六) 吉田良三著

東京同文館發行

最新銀行簿記

全一册 定價九十錢

(十七) 茂木英雄著

東京松邑三松堂發行

銀行簿記教科書

全一册 定價九十錢

(十八) 泉屋清次郎及早藤石太郎共著

最新銀行簿記法

全一册 定價一圓十三錢

(十九) 奥田操著

東京經濟雜誌社發行

銀行會社記簿證書例式(銀行之部) 全一册 定價一圓

(二十) 大場多市著

實用銀行簿記例題

全二册 定價七十錢

- (二十一) 水島鐵也及原口亮平共著 東京同文館發行
銀行簿記例題 全一冊 定價七十錢
- (二十二) 江蘇孟森及謝霖合編 商業編輯社發行(光緒三十三年四月)
銀行簿記學 全一冊 一百七十頁附賬簿樣式
- (二十三) 直隸王俊臣著 商務印書館代印(民國元年八月)
最新銀行學指南附簿記及貼現術 全一冊七十頁 定價三角半
- (二十四) 江蘇謝霖李徵合著 中國圖書公司發行(宣統二年五月)
銀行簿記法 一冊三百十八頁 定價一元二角

最詳
銀行簿記
終



正誤表

〔本書補遺誤刊之處均詳載於後並標明標記以便對勘如誤字應刪者標以△增入者標以○修正者標以○補漏者標以<閱者請先注意上列標記各點爲要〕

頁數	行數	誤	正
一	八	巴比倫 [△] Babylon	巴比羅尼亞 [○] Babylonia
四	一	及利益之增減<同時發生	及利益之增減必有同時發生
六	一	增加<同時負債減少	增加而同時負債減少
同	同	增加<同時利益減少	增加而同時利益減少等之現象
同	十二	資產<元來借入之(負債減少)利益爲負債	資產之變態(元來借入之負債減少)利益爲負債之變態也
七	四	單式簿記 [△] (personal accounts 人名科目)	單式簿記上 personal accounts (人名科目)
八	五	今<現銀收納	今一方現銀收納
同	六	<貸款減少	一方貸款減少
同	八	原因結果<以區別之	原因結果設定適當之會計科目以區別之
三六	七	年度<名稱	年度內所用科目名稱
五九	八	<分紅	股東分紅
六〇	四	<分紅	股東分紅
六一	一	<分紅	股東分紅
六八	六	<以上各種存款	一名暫時存款 Temporary deposits 以上各種存款
七七	十二	銀行之廣告	銀行之報告
七八	六	餘數<送還	餘數及此目由外間所收納之本行紙幣一併送還

正誤表

一

頁數	行數	誤	正
七八	七	紙幣課謂之回收	紙幣課即行收回之手續
同	十	現銀 5,000 - 流通兌換券 5,000 -	現銀 350,000 - 流通兌換券 350,000 -
七九	八	有時索手數料亦	有時索寄匯費又匯水 (Remittance fee 為替料) 亦
同	十二	手數料	匯水
八十	一	(手數料價定為	(匯水假定為
八一	四	州變差	空爾塔
八七	七	照日息二分五釐(每百元每日之利率)	照日付二角五分(每千元每日之標準)
同	八	$0.025 \times \frac{10000}{100}$	$0.25 \times \frac{10000}{1000}$
八八	七	日利二分(日利者每日每百元)	日利二角(日利者每日每千元)
同	九	$0.02 \times \frac{25000}{100}$	$0.2 \times \frac{25000}{1000}$
同	十四	偶生債務	潛伏債務
八九	四	偶生債務	潛伏債務
九十	二	手數料則例用	手數料可仿用
九三	五	前條懸空科目	上述兩種之浮懸科目
同	同	而與賬簿上記錄不相符合時適用之者也	而賬簿上其交易尚未發生記錄時依此修補者也
同	七	科目又有	科目反之
同	八	收入現銀	收入定銀

頁數	行數	誤	正
九三	九	則暫時編入於此科目中較覺便利	則必須編入於臨時存款科目中截然有別
同	十四	十二元旅費	十二元外支旅費
九四	六	(全行脫落)	(註)臨時存款即其性質明白者暫收金即其未明白而不能確定者也
九六	八	抵當流込ノ動産	抵當流込不動産
九七	八	{現銀 9,700 - 營業雜費 300 - 倒置公積 1,100 -	{現銀 9,700 - 倒置公積 1,400 -
一〇一	三	Shares certificates	Share-certificates
一〇二	五	以較小之數ノ表示	較之用小數而表示
一〇七	八	故ノ以足銀	故如果以足銀
同	同	成色ノ如左	成色理應如左
一一四	九	此等區別乃所以	此等區別非所以
一一五	五	日利二分五釐(每百元)	日利二角五分(每千元)
同	七	$0.025 \times \frac{3500}{100}$	$0.25 \times \frac{3500}{1000}$
同	十四	日本勸業銀行(一)年賦	日本勸業銀行所用科目分爲(一)年賦
一一六	十一	二分五釐(每百元)	二角五分(每千元)
一一八	一〇	(參照十六頁)	(參照八十八頁)
一二四	一	此種匯票本當	(凡外國匯兌本當

正誤表

三

正誤表

頁數	行數	誤	正
一三四	二	有息票據今經外國銀行	有息票據今以此爲例。既經外國銀行
同	十	對於顧客收現	對於顧客索取期票之款項
一三一	五	預金之名目下	預金之名目下
一三三	五	利息	利息
同	七	利息	利息
一三四	十	其原存之金額	以補充其原存之金額
一三八	十一	其原存之金額	以補充其原存之金額
一三九	二	其營業之虧趨向者因此而定營業之方針	其營業之虧。由來原因者。若欲研究銀行成蹟之佳
一四二	七	其營業之虧趨向者因此而定營業之方針	其營業之虧。由來原因者。若欲研究銀行成蹟之佳
同	八	分類之當否影響其大是爲	否而定營業之方針
同	八	分類之當否影響其大是爲	則損益科目之設定尤要明確。確實爲
同	同	簿記上輕視之設繁雜之科目頗	擔任簿記者不察其重大關係。動輒輕視之。恣設亂雜
同	九	爲不當今就	之科目頗
一四七	三	預金存款	失簿記本來之效用。洵可痛嘆者矣。今就
一四九	十二	Salary	預金利息
一五二	一	參觀一三三頁	參觀一三四頁
一五四	九	參觀一三八頁參照	參觀一三七頁參照
一五八	一	決算	結算

頁數	行數	誤	正
一五九	十散票式		散頁式
一六一	二第<十二號		第百十二號
一六八	六對簿<十二號		對簿五十二號
一七〇	五理管		管
一七四	二分錄日記賬也<上述		分錄日記賬 Journalising day-book 也。其內容即上述
一七四	三兩課經營		兩課經營
一七四	九告單後		告單後
同	十四其全部<目		其全部科目
一七八	十一各記其有直接關係者姓名於會計科目例如		將該會計科目有直接關係之姓名揭之。耳。例如
一七九	二不知票據		然票據
同	三當初無妨記		當初不如記
一八〇	十一合假定		今假定
二〇一	四貸款期日賬		貸款滿期賬 (以下各處所見期日賬三字均改爲滿期賬)
一一三	十二來託方		來託方 應付方
一一一	三鑑查結局		鑑查結果
同	五(發行上有剩餘者或由外國收入者)		(發行後有剩餘者及由外間收納者)
二二三	七法通		流通

正誤表

五

頁數	行數	誤	正
二二四	九	(兌換銀行券製造信文賬) [△]	(兌換銀行券註文賬) [◎]
二二六	七	準備貨幣……準備貨幣○廢證書	準備貨幣……準備貨幣拂渡證書
二二七	十一	制限<發行稅	制限內發行稅
二二七	十三	Walks book	
二二九	一	Short bills ledger	
二四三	九	(全行脫落)	(註)日計表上會計科目配列之次序唯按總目元賬上各科目之賬位而隨手錄之可也
二四七	六	其結果令合現銀科目	其結果且命現銀科目
二五〇	十三	(全行脫落)	(註)由總行送至分行營業資金時又分行結賬之損益轉撥于總行時均為總行賬簿上往款至於總分行間匯兌往來之利息乃對於往款者即歸往款而對於來款者即歸來款也
二五一	十三	然實在付 [△]	然實在 [◎]
同	十四	款人(本埠銀行)尙未	本埠應付之銀行尙未
二六三	四	其確定<債權者及未確定者之貸借	其確定之債權及未確定之貸借
同	七	改<其起利日之次序(此他賬名謂	改爲其起利日之次序(此賬名謂
二七二	六	中國銀行之制交 [△]	中國銀行之制度
二七九	十三	其對於杭<之	其對於杭行之
三一四	一	最後結果 [△]	最後結束 [◎]

頁數	行數	誤	正
三一九	八	在第五十<頁>	在第五十一頁及五十六頁
同	十二	制度也<	制度也(參照六十二頁)
同	十三	(見分錄法第五十八頁)	(見分錄法第六十一頁)
三七〇	八	司理人<	司理人
三九七	五	本例題位定	本例題假定
四一九		偶生債務 Contingent accounts △△	潛伏債務 Contingent liabilities

正誤表

七

民國四年十月一日印刷
同年十月五日發行

(定價金一圓八十錢
銀一元八角)

版權所有
不許複製改作

著者 兼 發行者
紫卿 守田 藤之助
日本東京日本橋區本町三丁目三番地

通信處 日本東京市小石川區表町十六番地
富國堂藥房

印刷者 中國上海棋盤街
商務印書館

中國上海東亞公司及大書坊

經售處

日本東京神田區
表神保町 東京堂書肆
日本東京神田區
一橋通 町 有斐閣書肆